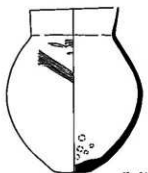
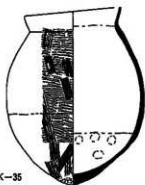


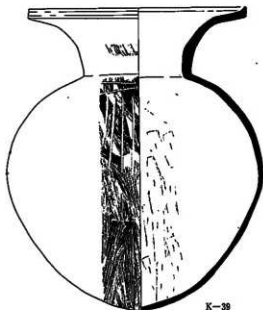
第71图 3号基上層地横出土土器



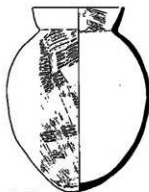
K-34



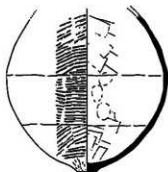
K-35



K-39



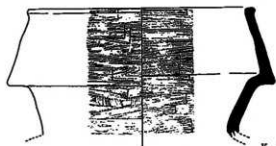
K-36



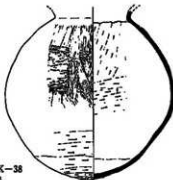
K-37



K-40

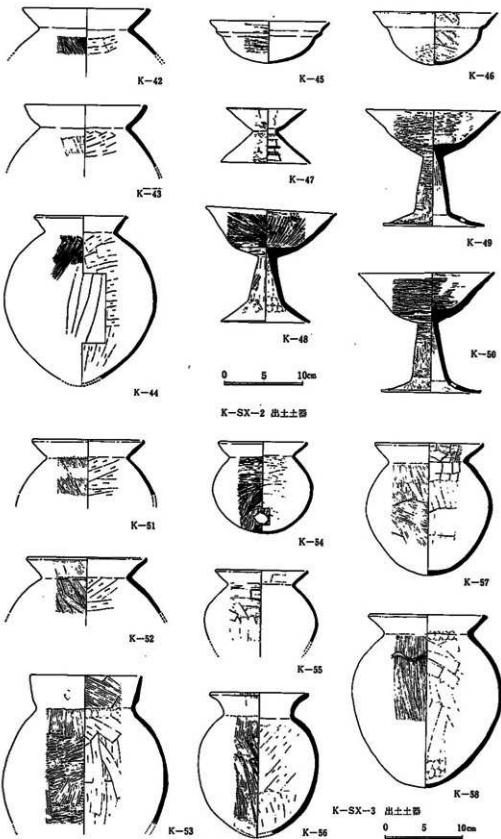


K-41

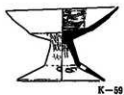


K-38

第72图 3号墓上层堆筑出土陶器



第73图 3号墓周外土器集積出土土器



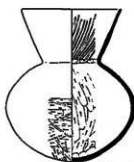
K-59



K-63



K-67



K-60



K-64



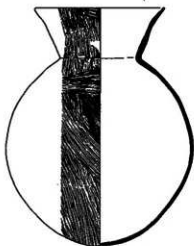
K-68



K-65



K-69



K-61



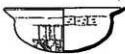
K-66



K-70



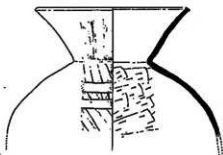
K-71



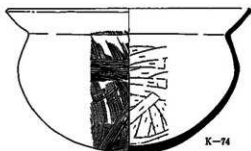
K-72



K-73



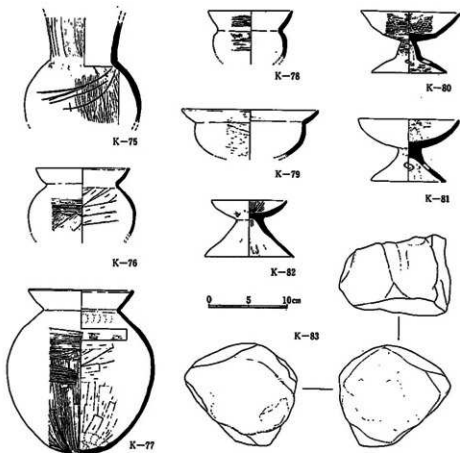
K-62



K-74

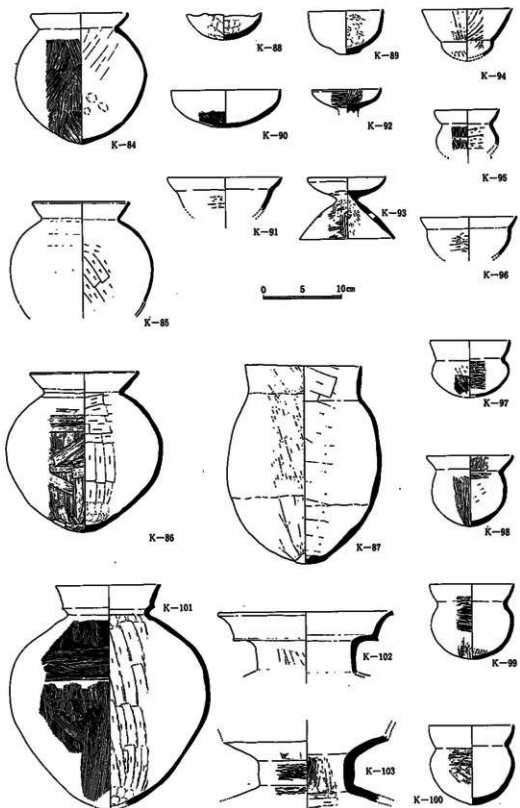
0 5 10cm

第74图 3号墓周葬外土器集撰出土土器 (K-SX-3)

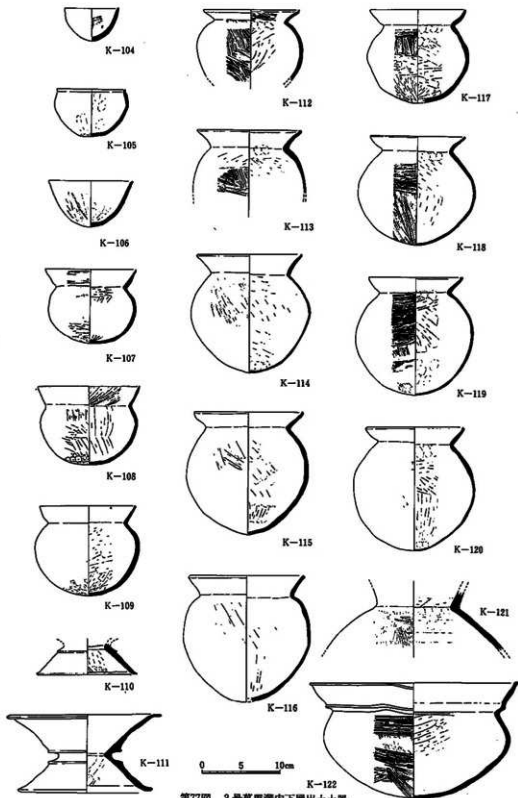


第75図 3号墓周溝外土器集積出土土器 (K-SX-4)

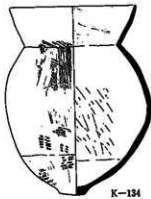
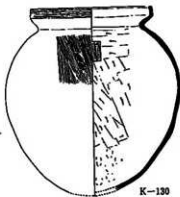
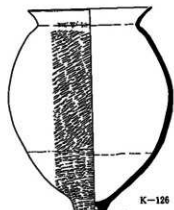
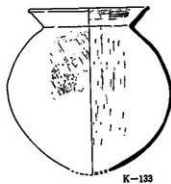
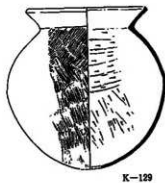
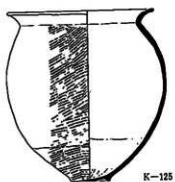
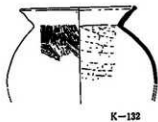
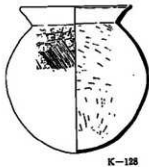
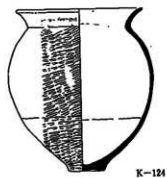
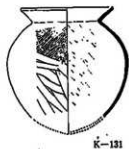
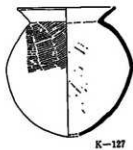
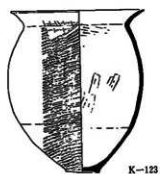
たと考えている。K-111とK-164はセット関係と考えられK-122も含めて接してあった。こうした関係は、その他の土器のかなりのものについても、その出土位置から推察できる状態である。また、前述したように土層の堆積状況から周溝外土器集積との時間的關係は判断できないが、土器の形式的見地からはほぼ平行するものと考えている。以上が3号墓関連の土器の出土状況及びその理解である。周溝内下層及び、K-SX-3・4・6出土の土器について時間的には、1号墓とほぼ平行するものかやや後出するものと考えている。K-SX-2出土の土器は、明確に布留式と分類しうる一群である。上層堆積出土土器については、明らかに層的にこれらの土器よりも後出するものである。4号墓から出土したK-176~180の土器であるが、本報では時期を示せる最小限の個体数しか図化しておらず、ほとんど未整理のため、資料として非常に不十分なものである。K-176~178は壺の口縁部片であるが、その端部の特徴において庄内式から布留式への特徴を示しており、1号墓及び、3号墓の周溝内下層と土器集積 (K-SX-3・4・6) などとほぼ併行するか、やや後出する時期を考えている。K-179・180は周溝内より検出した3



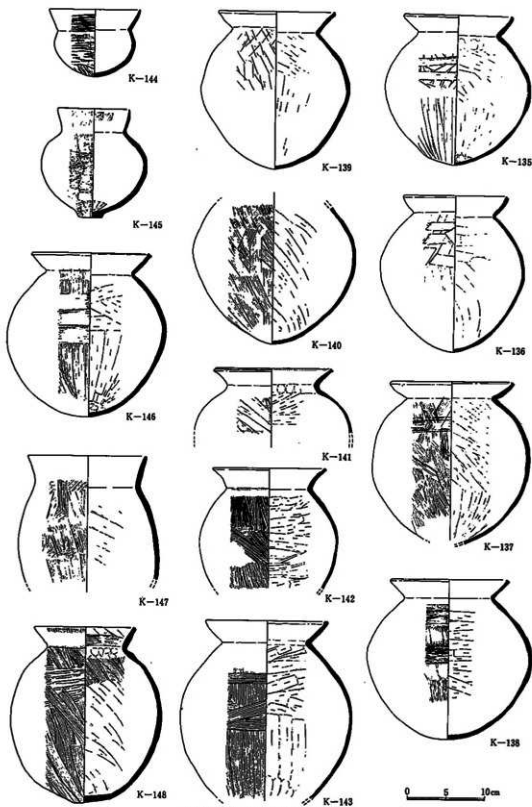
第76图 3号墓周外土器集積出土土器 (K-SX-6)



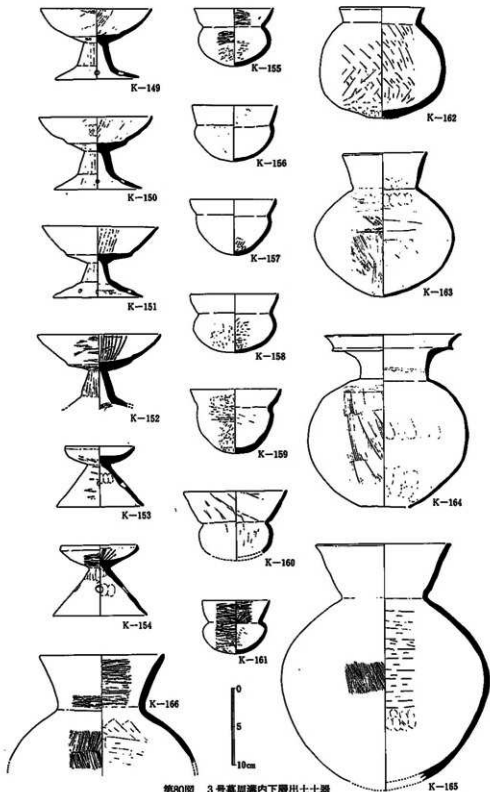
第77图 3号墓周葬内下层出土土器



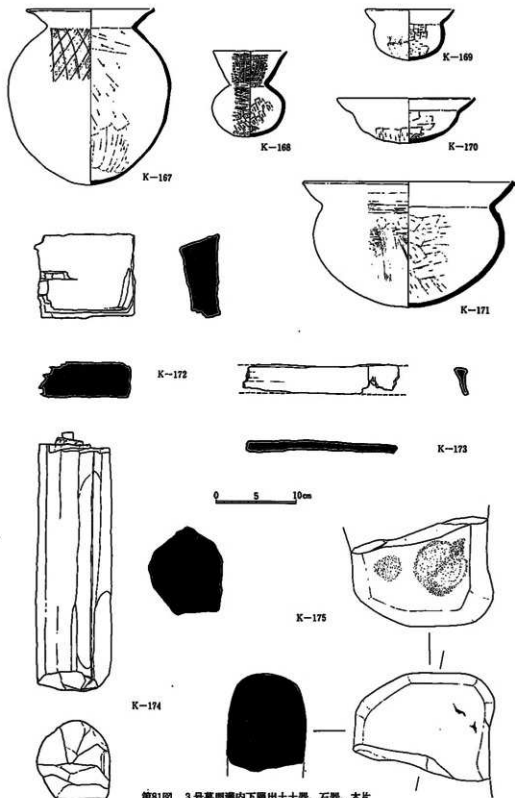
第78图 3号基周葬内下层出土土器



第79图 3号墓周溝内下層出土土器



第80图 3号墓周湾内下層出土土器

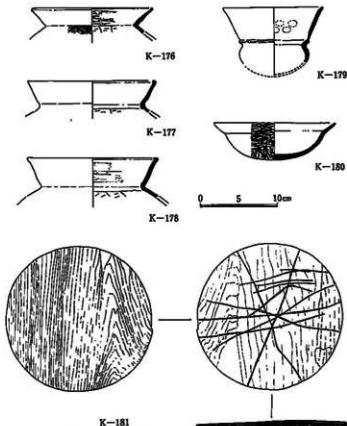


第81图 3号墓内下层出土土器、石器、木片

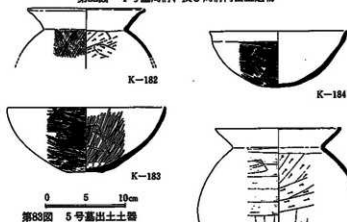
箇所の土壌の一つ（K-SK-3）から出土したもので、K-179の小型壺は山陰系の土器であり周溝内の土器とは同時期と考えている。時間の関係上図化して報告できなかったが、K-SX-5とした土器集積はこの4号墓に伴うものであり、3号墓の同じく土器集積（K-SX-2）とほぼ同形式の土器群で構成されている。5号墓から出土したK-182・183の土器である。甕（K-182）は、口縁から屑にかけての破片で1号墓との併行関係が考えられる。6号墓から出土したK-184・185の土器は、甕・鉢共に明らかに5号墓のそれよりも後出で、3号墓の土器集積（K-SX-2）や、4号墓周溝内出土の甕（K-42・43・177・178）などとの類似が指摘でき同形式と考えている。

その他の遺物

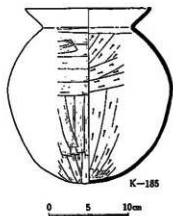
土器以外の遺物はあまり出土しておらず、3・4号墓の周溝や土壌から木製品、及び加工痕のある木片が検出されている他は、3号墓の土器集積や周溝内から使用痕跡が認められる川原石が出土しているだけである。K-172などは、その木取りや形状から木棺との関連なども考えられるが、いずれにしても3号墓出土のものは全てが製品ではなく、制作過程の産物と考えている。K-181の木製円板は唯一の製品である。形状は両面共に平面ではなく凸面と



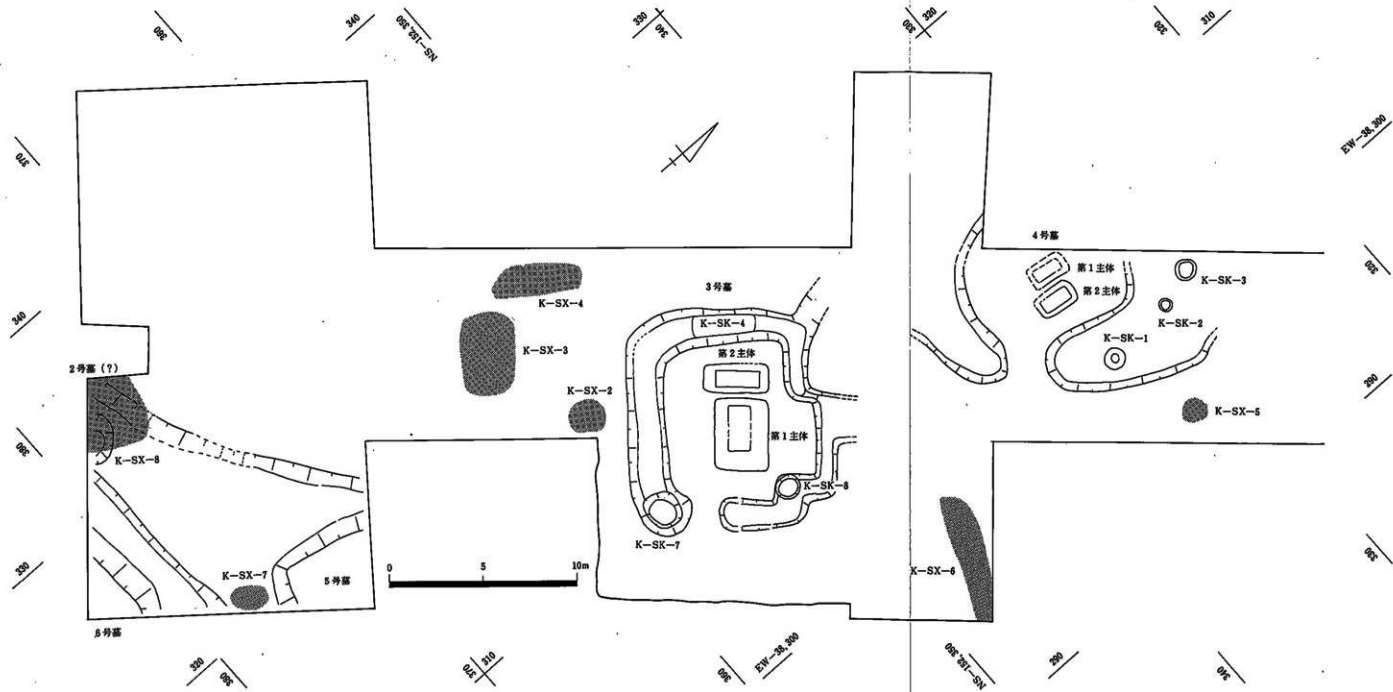
第82図 4号墓周溝、及び周溝内出土遺物



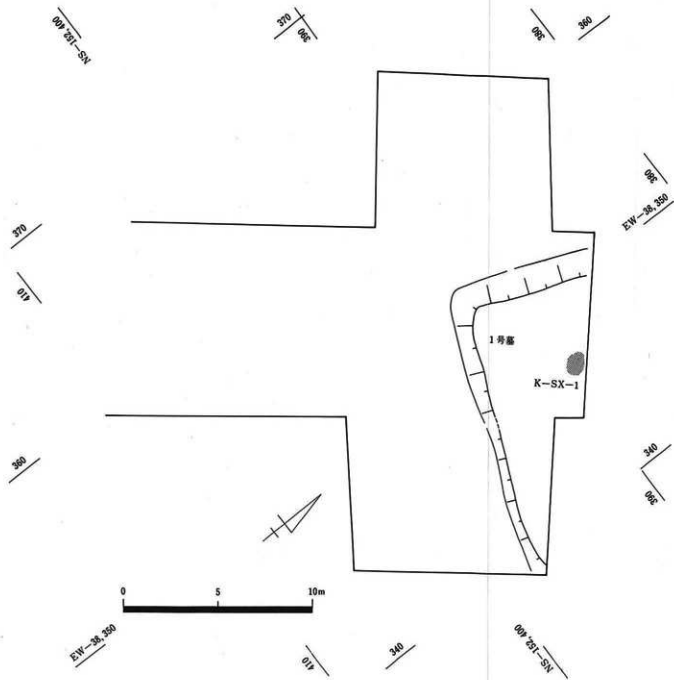
第83図 5号墓出土土器



第84図 6号墓出土土器



第85図 古墳時代第3遺構面(1)



第86圖 古墳時代第3遺構面(2)

凹面で、凸面側に弦状に線刻（陰刻）を施し、さらに赤色顔料を塗っている。円周の縁取り部分の一箇所に段状の削り込みを作りだしており、4箇所に留め釘様の竹節が遺存している。遺物の性格としては、器の一部とも考えられるが他の構成部分が出土しておらず、形状が平面でないなどの理由から何等かの祭器の可能性もある。川原石であるが、K-83としたものは花崗岩で一部に熱を受けた変色が認められる。小片に割れた土器の下から出土しており、土器を壊す時に使用したものであろう。K-SX-4からはもう1点、K-SX-6からも1点出土しているが土器との関係が今一つ明確でないため図化して報告していない。K-175は西側周溝内から土器と共に出土した砂岩の川原石である。中央部で割れたと思われる半分で、平面の片側と割れた面に打痕と擦痕らしきものが認められる。

c. 小結

この遺構面は、C調査区の北端からB調査区の中央部、古墳時代前・中期の自然河川跡（K-SR-1）までの区域でしか検出していない。しかし、時を併行して調査していた南-2地区及び大阪市の加美遺跡での調査成果や、このあたりの微地形の変化などから推定すると、B調査区側はほぼその分布範囲の東端にあると考えてよさそうである。C調査区側は、やや沼地状の地形が存在するものの、さらに数十メートル南になると微高地状の安定した地形でもあり、現に数基検出されているため、さらに分布範囲は拡がるものと考えられる。このように分布範囲を想定した場合、南北1.5km、東西0.5km以上にもなる大墓域が復原でき、その墓域のほぼ東北端に位置するのがB、C調査区であると現段階では理解している。時期的には、1号墓・3号墓周溝内下層・5号墓などが古く、2号墓・4号墓・6号墓等が後出と考えられ、庄内式から布留式への過渡期から布留式の段階を考えている。

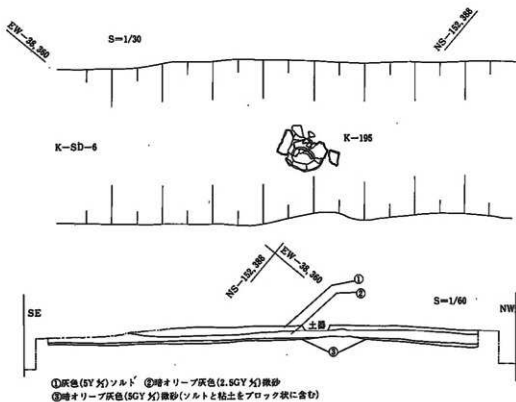
D. 古墳時代第4遺構面（第89、90図）

基本層序Ⅶ層の上部堆積であるオリープ灰色粘質微砂上面がこれにあたる。この遺構面はベースが北から南にかけて砂層からシルト層に変化しており、堆積土も同様の変化を示す。また地形はB調査区の北から南にかけて穏やかに高くなっていき、B調査区の南端では比高差0.1mと最も高位となり、そこから南側、C調査区へ向かってまた穏やかに低くなっていく。そしてC調査区の中央から南側では、遺構面のベースとなるシルト層がみられず、かわりに灰色粘土層が存在し、沼地状地形を呈している。主な遺構としては畑状遺構・溝状遺構・竪穴住居址1棟・貯蔵穴がある。

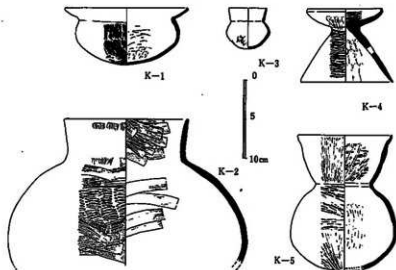
a. 遺構

畑状遺構

Bトレンチの古墳時代・自然河川（K-SR-1）の流路となって流失している地域以外のほぼ全域とCトレンチでは、多数の交錯する溝が検出されている。これらは北側では黒色粘質微砂、南側では黒色粘質土によって埋没しており同一の遺構と考えられ、上面埋没土全体にわたって灰が混在していることから、畑である可能性を持つ。B-5拡張区での検出例からみて、比較的太い溝が南北に走り、それらの間を東西に走る細い溝が結ぶという形態である。これは大溝に水を



第87図 畑状遺構内土器出土状況図（縦断）



第88図 煙状遺構出土土器

集め、小溝を通じて各畝の給排水を行ったためと考えられる。また各畝における盛土の存在についてはわずかにC-1 拡張区の断面でその遺存することを確認しただけで平面的には検出されなかった。しかし、K-S D-6の溝内堆積土に畝の崩壊土と思われるものがあり、また、遺構面において畝の構築・耕作に伴うと考えられるブロック状の堆積がみられないことから、検出したのは畝の基底部と思われ、煙状遺構はかなり削平を受けていると理解するのが妥当と思われる。そして、検出面の北側にみられるような小溝間の切り合いは、畑が何度も作り直された結果を示すものと思われる。南北に走る大溝としては北からK-S D-2・3・5・6が挙げられる。K-S D-2はK-S R-2によって削られているためB-4 拡張区では明確に確認できなかったが、Bトレンチ・B-3 拡張区での検出状況から見て煙状遺構に伴うものであろう。K-S D-3はB-3 拡張区でのみ検出されたが、これも畑が何度も作り直された結果として理解したい。K-S D-5はBトレンチのみ検出されており、K-S D-3と同様のことが考えられる。K-S D-6は埋没土中より壺1点が口縁部を真上に向け、胴部下半を周溝構築造時の削平によって失った状態で出土しており、これが煙状遺構の時期を推定しうる出土状態を示す唯一の遺物である。煙状遺構上面ではK-S D-3のものも含め多数の土器が出土しているが、これらは遺構が埋没した直後に遺棄されたものと考えられる。

その他の遺構

溝状遺構 (K-S D-4)

Bトレンチ及びB-5 拡張区において煙状遺構に切られた状態で検出された。堆積土も煙状遺構とは異なった黒色粘土である。したがって畑開作以前のものであり、B-5 拡張区から南に、Bトレンチから東に延びるものと考えられるが、その性格については不明である。

竪穴式住居 (K-S H-1)

Bトレンチの南端で検出された円形プランの竪穴式住居である。一連のものと考えられる土墳(K-SK-6)が東側に接しており、内部にはピットの他外周にそって円弧状にのびる溝が検出されている。ピットのうち6ヶ所(K-SP-1~6)は柱穴と考えられるが、残りの1ヶ所(K-SP-7)については不明である。遺物としてはSK-6から若干の土器小片が出土しているが、いずれも時期を推定しうるものではないが、切り合い関係から畑状遺構よりも後世のものである。

不定形土墳

B-3・5拡張区で畑状遺構を切った状態で検出され、土器が多数出土している。B-3拡張区のもは2m×3mの隅丸方形を呈し、B-5拡張区のもは長さ3.5m、幅0.5~2mの不定形である。

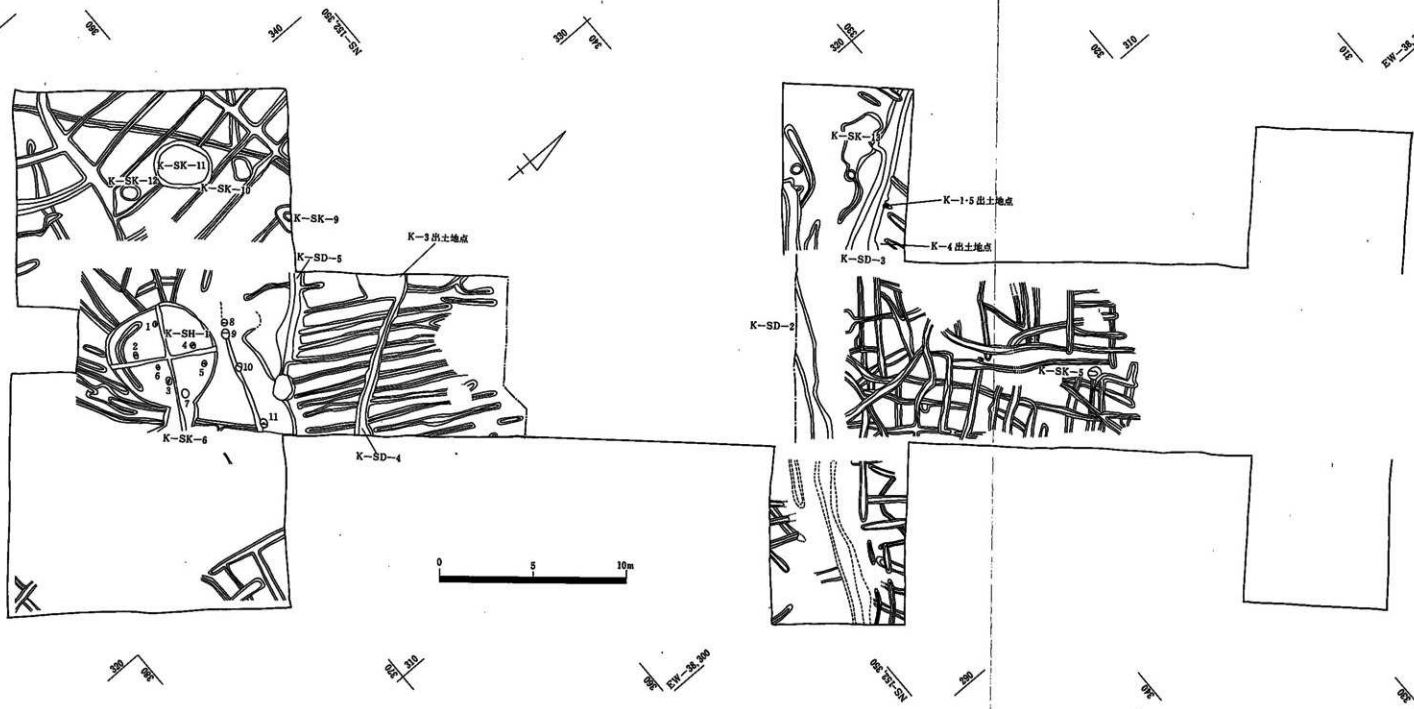
K-SH-1と不定形土墳は畑状遺構より後世であり、また古墳時代第3遺構面の周溝墓群検出の際には確認されなかったことから、周溝墓築造時の施設であった可能性が考えられる。

貯蔵穴(K-SK-5)

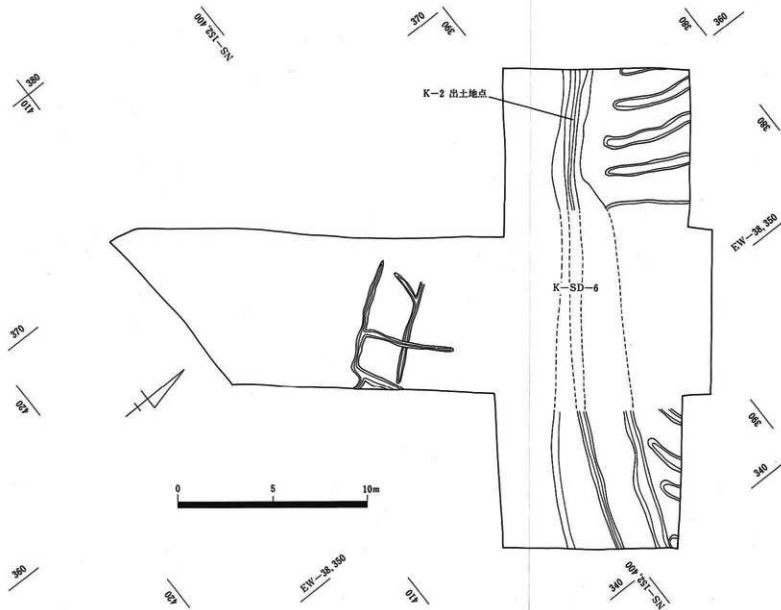
畑状遺構検出面北端のBトレンチ中央付近で検出された。底から用途不用木製品が1点出している。畑状遺構との切り合い関係が明確でないため、畑状遺構・周溝墓群のいずれに伴うものかは不明である。

b. 小結

この遺構面で検出したのは、畑状遺構と考えている中小の溝群、及びこれら溝群を切り込んで造られている土墳群や、竪穴式住居である。まず前者は、古墳時代前期の畑としては、非常にその形状がよく判る例として貴重なものである。また、本来ならば水田一辺倒に考えられがちな古墳時代の生業が、決してそうではないと改めて認識される資料でもある。こうした小溝群の分布は、加美・久宝寺遺跡の随所で認められ、その分布範囲が想像を絶して広大であることも推定でき、この遺跡を特徴づけている古墳時代前期の方形周溝墓群形成を理解する一つのメルクマールになるかもしれない。後者は、少なくとも畑より後出であるのは間違いないが、その性格を推定するのは現状では困難であり、畑か上層の周溝墓との関連、或いは、どちらとも直接関係のない遺構のそれぞれの可能性を理解して、将来の新しい知見にその判断を委ねたい。



第39圖 古墳時代第4 遺構面 (1)



第90図 古墳時代第4遺構面(2)

表5 古墳時代遺物観察表

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色割	備考
K-1	鉢	B-3区 畑状遺構	口径 15.8 胴部径13.3 器高 7.2	胴円で浅い輪状を呈する胴部と内肩先端に大きく開く口縁部を持つ。口縁端部は胴部と併せて折れる。	底部外面は、一方内へ平行なハケ、胴部外面はタテ方向のハケ、内面はヘラケズリ、口縁部内外面はヨコナデで胴部外周上部にかけてハケをナゲ削す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 ぶい黄褐色 ・内面 ぶい褐色	
K-2	短頸甕	C-1区 畑状遺構 K-5a-6	口径 15.4 胴部径30.0 残存高19.4	球形の胴部とやや外反気味に直立した短い口縁を持ち、口縁端部は丸く折れる。	外面は胴部にタタキの後ヨコ方向のハケ、口縁から胴部にタテ方向のハケの後板状工具による回転ナゲ、内面は胴部に横ナゲ、口縁から胴部にヨコ方向のハケを削す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 灰白色	
K-3	小甕	B区 畑状遺構	口径 4.8 胴部径 5.1 器高 5.3	胴中央の縁を体部で口縁はほぼ直立し口縁端部は尖る。	外面は胴部下半にハケの後全縁にナゲ、内面は胴部にヘラケズリ、胴部に横ナゲ、口縁内面にヨコナゲを削す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-4	高台	B-3区 畑状遺構	口径 9.55 裾径 11.85 器高 9.4	杯部は深い皿状で口縁は緩をもってまっすぐ立ち上がり、肩部は丸く折れる。胴部は内肩先端にラッパ状に伸び、肩部は外反して尖る。	杯部内面は丁軍なヘラミガキ、外面は杯底部にタテ方向のヘラケズリ、肩部内外面はヨコナゲ、胴部外面は丁軍なヘラミガキ、内面はほとんど無調整で、肩部にヨコナゲを削す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-5	甕	B-3区 畑状遺構	口径 12.0 胴部径 7.4 胴部径13.2 器高 17.6	胴部下方に最大径を有する。頸部から口縁は内肩先端に外へ広がって伸び、口縁端部はわずかに内面に肥厚して丸くおさめる。	外面は底部にタテ方向のヘラミガキ、胴部にヨコ、ナメミ方向のヘラミガキ、頸部にヨコナゲ、内面は胴部ヘラケズリの後ナゲ、頸部にヘラケズリ、口縁外面にタテ方向のヘラミガキ、内面はヨコ方向のヘラミガキの後放射状の増大、口縁端部にヨコナゲを削す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 ぶい黄褐色 ・内面 ぶい黄褐色	
K-6	甕	C区 第1号墓 K-5a-1	口径 14.0 胴部径18.6 器高 21.8	九段でやや最長の胴部上半に最大径を有する。ゆるやかに外反する口縁を持ち、肩部は内面に折り曲げて面を持って折れる。	胴部外面はハケ目調整を施した後、頸部にかけてヨコナゲを施している。内面は底部から頸部にかけてヘラケズリを施し口縁部はヨコナゲを施している。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 ぶい黄褐色 ・内面 ぶい褐色	
K-7	甕	C-2区 第1号墓 K-5a-1	口径 13.2 胴部径18.5 器高 19.5	九段で胴部上半に最大径を有する。口縁は外反して伸び、肩部は内肩先端に斜め上方につきまみ上げて折れる。	外面は底部にナゲ、胴部上半にタテ方向のハケの後、ヨコ方向に回転するハケ。胴部内面はヘラケズリ、口縁部内面はヨコ方向のハケ後、肩部はヨコナゲを削す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-8	甕	B-6区 第2号墓上層	口径 16.4 残存高 6.4	口縁は頸部から「く」の字形に外反し伸び、肩部のあたりで少し内に屈曲し肩部は上方につきまみ上げている。	胴部内面は斜め方向にケズリを頸部まで削す。外面は、肩端では、タタキ後のハケの後ナゲしている。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色～灰褐色	口縁部から肩にかけての破片。
K-9	甕	B-6区 第2号墓上層	口径 14.4 残存高 4.7	口縁部は頸部から「く」の字形に外反し、肩部は上方に6～9mmほど二重口縁部に上げ、面を持って折れる。	胴部内面はヨコ方向のケズリが頸部まで及ぶ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰黄色～灰褐色	口縁部から肩にかけての破片。

土器番号	器形	出土地点・遺跡	数量 (ca)	形態の特徴	成形・調査	胎土・色調	備考
K-10	壺	B-6区 第3号墓上層	残存高31.6 胴部径27.0	やや尖り気味の丸底で、球形の体部から外へ真直ぐに伸びる口縁を持つ。肩部は欠損のため不明。	胴部外面は肩付近では不定方向のハケ。他は、胴部上方より底部にかけてタテ方向のハケ。胴部上方の内面はヨコ方向のケズリで肩付近に屈折点。胴部中央はナメ方向のケズリ。胴部下方はタテ方向のケズリ。底部内面は屈折点。	・外面 淡黄色 ・内面 濃い黄褐色	口縁肩部のみ欠損。 胴下部に黒底を有する。
K-11	光瑠璃	B-6区 第2号墓上層	口径 13.1 残存高23.2	内側気味に直立する頸部、胴部最下位と胴部中央にタガ状突起をめぐらす。肩部は水平に面を持つ。	外面は全体にナメ。内面は下半にハケの後、上半にナメ。口縁端部内外面にヨコナデを施す。タガ状突起は上がつまみ出し、下が貼り付けにより成形する。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 淡黄色	頸部のみ欠損、胴部以下は復元困難。
K-12	壺	B-6区 第2号墓上層	口径 10.8 胴部径10.0 残存高 6.0	やや楕円の胴部。口縁はやや外寄気味に外上方に伸び、肩部はやや薄く尖る。	胴部外面は放射状のハケ、口縁外面から口縁内面にかけてヨコ方向のナメ。胴部内面はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微砂粒を少し含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	口縁から肩部中央まで遺存。
K-13	壺	B-6区 第2号墓上層	口径 10.5 胴部径10.0 高 7.3	丸底で球形の体部、口縁は内寄して外上方に伸び、肩部は直立して丸い。	外面は胴部中央より下部にかけてタテ方向のケズリ。外面胴部中央より内面下部にかけてヨコナデ。内面底部ケズリ。	・胎土 1-2mm程度の微砂粒を含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 濃い黄褐色	完形

3号墓上層

K-14	壺	B区 第3号墓上層	口径 19.4 胴部径16.9 高 16.5	尖り気味の丸底で胴の中央部の狭る体部と外反する口縁で、肩部をつまみ上げて終わる。	外面はタテキのみと胴部上半にタテ方向のハケ下半に不定方向のハケ。内面は底部微サエの板状工具によるナメ。肩部に直ナメ、口縁下に屈折点がある。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 赤。 ・外面 灰白色 ・内面 褐色	
K-15	壺	B区 第3号墓上層	口径 14.1 胴部径18.5 高 18.8	胴の狭る体部に近い体部から、内寄して外上方へ伸びる口縁部。肩部は外方に肥厚し水平に面をつくる。	外部外面は、下半部がタテ方向の細かいハケ、胴部から上はタテ方向のハケ。不定方向の細かいハケ。内面は下からタテ方向ナメ方向の三段のハケケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 赤。 ・外面 灰白色 ・内面 灰オリーブ色	
K-16	壺	B区 第3号墓上層	口径 13.7 胴部径19.1 高 21.0	丸底でやや縦長の体部。口縁は内寄気味に伸びる。肩部は面を持つ。	外面は底部にナメ、体部に不定方向のハケ。内面は胴部以下にハケケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 濃い黄褐色落付着 ・内面 濃い黄褐色	ほぼ完形
K-17	壺	B区 第3号墓上層	口径 15.7 残存高10.7	胴の狭らない体部から大きく外反する口縁部。肩部は丸くおさめる。	外部外面はタテキによる成形の後不定方向の微いハケ。内面はヨコ方向のヘラケズリ。口縁部外面はタテ方向のハケの後ヨコナデ。内面は板状工具によるヨコナデ。	・胎土 微少な砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 淡黄褐色	胴部以下欠損
K-18	壺	B区 第3号墓上層	口径 18.4 胴部径26.2 残存高18.0	胴部最大径を上方に持つ体部。口縁は外反して伸び、肩部をつまみ上げ尖り気味におさめる。	外面は不定方向のハケ、内面は不定方向のヘラケズリ。口縁内外面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (個)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-19	甕	B区 第3号墓上層	口径 8.7 胴部径 8.5 器高 7.0	平底で扁平球形の体部。口縁は内弯気味に伸び、肩部はやや中央気味に丸くおさめらる。	外面は体部にタテ方向のハケ。胴部に指ナデ。内面は底部にタテ、胴部にヨコ方向のヘラケズリ。胴部下に指ナデ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 浅黄褐色	
K-20	甕	B区 第3号墓上層堆積	口径 8.8 胴部径 7.9 器高 7.5	丸底でやや扁平球形の体部。口縁は内弯気味に伸び、肩部は内側に面をつくり、中央気味に丸む。	体部外面はヨコ方向のヘラミガキ、内面は底部に指ナデが残り、体部にヨコ方向のヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	突形
K-21	甕	B区 第3号墓上層	口径 9.7 胴部径10.0 器高 7.8	やや扁平な体部から内弯して伸びる口縁部。肩部はやや中央気味に丸む。	体部外面は下半部はタテ方向、上半部はヨコ方向の横かいヘラミガキ。内面はヘラケズリの痕指ナデ。口縁部から胴部外面は指ナデ。口縁部から胴部内面はヨコ方向の横かいヘラミガキ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 ぶい褐色	
K-22	甕	B区 第3号墓上層堆積	口径 6.25 胴部径 9.1 器高 11.3	扁平な球形の胴部から内弯気味に伸びる口縁で端は少し尖る。	内面は底をヘラケズリ。体部に不定方向のハケ。口縁外面にナメ方向のハケ。内面は底部に横い板ナデ。体部にナデ。口縁にハケを施した後、口縁内面上半から胴部外面にかけて指ナデを行う。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 ぶい褐色	突形
K-23	高杯	B区 第3号墓上層堆積	口径 15.2 残存高 7.7	平底な杯底部から斜上方にまっすぐ伸びる口縁。肩部は尖り気味に丸くおさめらる。脚部は中空で細りラップ状に下方に開く。	内面は杯部にヨコ方向の丁寧なヘラミガキ。脚部はタテ方向のヘラケズリの後ヨコ方向のヘラミガキ。内面は杯部でヘラミガキの後、胴部外面までヨコナデ。脚部は指ナデを施す。	・胎土 微少な砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 ぶい黄褐色	脚部欠損
K-24	高杯	B区 第3号墓上層	口径 22.0 残存高11.5	平底な杯底部から斜上方に直線的に伸びる口縁で、肩部は内弯し尖り気味に丸くおさめらる。脚部は脚部状態は細りラップ状に広がる。	外面は脚部状態にタテ方向のヘラケズリ後タテ方向のハケ。杯部にヨコ方向のヘラミガキ。最終的に全体にナデ。内面は杯底部に回転ハケ。口縁にナデを施している。	・胎土 密。 ・外面 ぶい褐色 ・内面 褐色	脚部状下半以下欠損
K-25	鉢台	B区 第3号墓上層	口径 9.3 筒径 10.4 器高 8.0	深い皿状受部で口縁は短く直立し、肩部は尖る。脚部は大きくラップ状に広がる。器底部は内弯気味でやや中央。脚部三方向穿孔。	外面はヨコ方向の横かいヘラミガキ。口縁部及び受部内面はナデで、放射状筋を施す。脚部内面はヘラケズリで、胴部にヨコナデ。	・胎土 微少な砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-26	甕	B区 第3号墓上層	口径 12.3 胴部径12.7 器高 12.0	体部は半球状から内弯して胴部となり、内弯して尖く伸びる口縁部。肩部は尖り気味に丸む。	底部外面ヘラケズリ。外部外面はタテ方向のハケの後ヨコ方向のヘラミガキ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面にも指ナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 明黄褐色 ・内面 ぶい黄褐色	突形 底部中央穿孔(焼成後)
K-27	杯	B区 第3号墓上層堆積	口径 5.5 器高 5.5	尖り気味の丸底からゆるやかに立ち上がる体部。器部の直線は直く口縁は外反して肩部を丸くおさめらる。	内外面とも指オウエ、指ナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 黒灰を有す。 ・内面 灰白色	口縁の一部を欠く。
K-28	杯	B区 第3号墓上層	口径 10.4 器高 4.8	丸底で半球状の体部。口縁部は直立気味に丸くおさめらる。	胴部が厚しいが口縁内面にヘラミガキを施した後、内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 ぶい褐色 ・内面 浅黄褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-29	杯	B区 第3号基土層	口径 13.8 器高 6.0	九底で内湾して立ち上る体部。口縁部はやや外反気味で尖る。	外面全体にヘラケズリの状、底部に指圧痕。内面は底部をヘラケズリ、口縁にナゲを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色。 ・内面 灰黄色	
K-30	鉢	B区 第3号基土層	口径 17.0 残存高 6.0	扁平な筒状を呈す体部から外反した気味曲して立ち、さらに外反する口縁部。端部はやや尖り気味に終わる。	体部外側はヘラケズリで全体に粗粒。内面は細かいヨココ方向のヘラミガキ。口縁内外面はヨコナゲ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色。 ・内面 洗黄褐色	底部欠損
K-31	鉢	B区 第3号基土層	口径 22.4 胴部径19.1 器高 11.8	平底から内湾気味に伸びた後はほぼ直立する体部から外上方へ伸び反した後に内湾気味に丸く終わる口縁部。	体部下手及び底部外面は伏けた状態で時計廻りのハケ。上半はナメ方向のハケ。口縁部外面はハケをヨコナゲで滑す。体部内面は弱いヘラケズリ。底部内面に指圧痕が残る。口縁部内面は板状工具によるヨコナゲ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色。 ・内面 洗黄褐色	
K-32	鉢	B区 第3号基土層年表	口径 24.0 胴部径21.8 器高 16.0	平底気味でやや中扁平な球形の体部から「く」の字形に屈曲し、そのあと直線的に伸びる口縁で端部は面をもつ。	外面は不定方向のハケ、内面は胴部付近までヘラケズリ、口縁部はヨコナゲを施す。	・胎土 曹 ・外面 オリーブ黄色 ・内面 灰白色	完形
K-33	鉢	B区 K-33 K-3 第3号基土層	口径 29.8 胴部径29.8 器高 16.7	九底で扁平な球形の体部で、頸部は「く」の字形を呈する。口縁は内湾気味に伸び、端部は凹線状に押さえる。	外面は頸部以下に強いハケ、その伏定部に板状工具によるナゲ。内面はヘラケズリ、口縁部はヨコナゲ。	・胎土 曹 ・外面 洗黄褐色 ・内面 灰白色	完形
K-34	甕	B区 第3号基土層	口径 11.7 胴部径17.6 底径 4.6 器高 21.1	厚い平底で、やや胴の狭る縦長の楕円形の体部。ほぼ直立する口縁部で端部はわずかに面を持つ。底部に径5.8mmの焼成前の小円孔を穿つ。	体部下手外面にタタ方向、上手外面にヨコ方向の板状工具によるナゲを施した後、頸部下方に強いタタキ。さらにハケを施す。内面は下半部に指圧痕が残る、上半部は板状工具によるナゲ。口縁部内外面は板状工具によるナゲ。	・胎土 曹 ・外面 砂粒を含む。 ・外面 洗黄褐色 ・内面 灰白色	底部穿孔
K-35	甕	B区 第3号基土層	口径 12.4 胴部径17.7 器高 22.9	尖った底部と縦長の楕円形の体部。やや内湾気味に外上方へ伸びる口縁部。	底部をヘラ刷りで尖り気味にする。底部から体部下方はハケ。体部外面はタタキで成形後脱脂方向のハケを部分的に施す。内面はナゲ。底部に指圧痕が残る。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 洗黄褐色 ・内面 灰白色 黒底を有す。	
K-36	甕	B区 第3号基土層	口径 12.2 胴部径19.2 器高 24.3	ほぼ平底で縦長の楕円形に近い体部と内湾して外上方へ伸びる口縁部。端部は面かに面を作る。	体部外面はタタキで成形後、タタ方向のハケを行う。底部はタタキで平直にし、ヘラケズリを行い最終的にハケを施す。内面はナゲ。口縁内面は板状工具で成形後強いハケ、外面は指ナゲ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 濃い灰黄色	
K-37	甕	B区 第3号基土層	口径 不明 胴部径21.0 残存高20.5	平底で球状の体部を呈す。	外面は底部をヘラケズリ後、正誤におかれたタタキ。内面は産を板状工具によるナゲ、体部中央を指押さえて、体部上半に板状工具によるナゲを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 明黄褐色 ・内面 灰白色	口縁部及び頸部欠損
K-38	甕	B区 第3号基土層	胴部径21.5	九底で最大径が中央より下にある内湾気味の球形の体部。	外面上部は不定方向のハケ。外面下部はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	口縁部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (α)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-39	甕	B区 第3号墓上層	口径 28.0 胴部径13.1 胴部高38.7	やや尖り丸味の丸底で最大径が胴部上方にある体部。大きく三段階に外反する口縁部で口縁は短く直立し、端部は丸く終わる。	体部外面はナメメ及びタテ方向のハケ。口縁部はハケをココナゲで滑す。胴部直下はココナゲ方向の縮文。胴部直下から体部中央付近まで放射状の縮文。内面は全体にヘラケズリ、指圧痕がわずかに残る。口縁部内面から口縁部内外面はココナゲ。口縁外面に3条の凹縮文	・胎土 赤 ・外面 赤色 ・内面 赤褐色	
K-40	甕	B区 第3号墓上層	口径 28.8 胴部径13.6	直立する胴部から水平気味に外へ伸び、段をもって屈曲して立ち上らばり外反し胴部上方に伸びる口縁で、端部は外側に肥厚する。	外面は胴部にタテ方向のハケ、2度目の屈曲点と口縁端部を滑す。内面は口縁の立ち上がり部を滑す。内面から外側全体に板状工具によるナゲを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 褐色	口縁部のみ遺存 二重口縁
K-41	甕	B区 第3号墓上層	口径 28.6 残存高16.5	外縁する胴部から短く水平に伸び、直立して内縁気味に伸びる口縁端部が外側に肥厚し、水平に面を持つ。	内外面とも丁寧なココナゲのハケを施す。	・胎土 微砂粒を少量含む ・外面 赤褐色 ・内面 褐色	胴部欠損 二重口縁

3号墓周溝外土器集積

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (α)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-42	甕	B区 K-S X-2	口径 16.4 残存高 6.9	「く」の字状に思わせる胴部から直線的に伸びる口縁で端部は内側に肥厚する。	体部外面にハケ。内面はヘラケズリ。口縁内外面はココナゲを施す。	・胎土 赤 ・外面 赤褐色 ・内面 淡黄色	体部下半欠損
K-43	甕	B区 K-S X-2	口径 16.0 残存高 7.8	口縁は内気味に伸びる端部はわずかに肥厚し上方に面を作る。	外面はハケ。内面はヘラケズリ。口縁内外面はココナゲを施す。	・胎土 赤 ・外面 淡黄色 ・内面 赤褐色	体部下半欠損
K-44	甕	B区 K-S X-2	口径 16.3 胴部径20.0 残存高20.5	胴下方の張る体部から「く」の字状に思わせる胴部。口縁は外反して伸びる端部は面を持つ。	外面は胴部以下のハケ。後、踵より下にナゲ。内面は底部にタテ、胴部にナメメ方向のヘラケズリ。口縁内外面はココナゲを施す。	・胎土 微砂粒を多量に含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 赤褐色	底部欠損 胴部にタテ方向の縮縮文 横4条有す。
K-45	鉢	B区 K-S X-2	口径 14.8 器高 5.4	丸底の深い皿状の体部。二重口縁風に立ち上がる口縁で、端部は丸く終わる。	底面はヘラケズリ、外面はココナゲ方向の縮かいヘラミダキ。口縁部及び内面は丁寧なナゲ。	・胎土 微小砂粒を多く含む ・外面 赤褐色 ・内面 赤褐色	ほぼ完形
K-46	鉢	B区 K-S X-2	口径 16.1 胴部径11.8 器高 6.9	丸底で杯状の体部。一旦外反しそこから上へ屈曲してさらに広がる口縁で端部は丸くおさめる	底面にヘラケズリ後、内面はナゲ。底内面にハケ。体部内面はヘラケズリ。口縁内面にハケ後、口縁内外にナゲを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-47	鉢台	B区 K-S X-2上層	口径 10.4 器部 11.8 器高 7.2	受胎は内側の張外反し、端部は尖り気味に終わる。胴部は外下方へ伸びる口縁は内気味に丸く終わる。中空である。	受胎内外面及び脚部外面はココナゲ方向の縮かいヘラミダキ。胴部内面はココナゲ方向のハケで端部にココナゲを施す。	・胎土 微小砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺跡	数量 (個)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-48	高杯	B区 K-S X-2	口径 10.5 口径 11.3 口径 14.3	平坦な杯底部から屈曲し外上方に内彎気味に伸び、肩部は外反気味に尖って終わる。長い脚柱状部から広がる頸部で肩部は丸く終わる。	杯部外面はナナメ方向の後ヨコ方向のハケ、杯底部内面は放射状ヘラミガキ、内面はヨコ方向のハケの上から放射状味。脚柱部及び頸部外面はヘラズリの後不定方向のハケ。脚柱状部と頸部の接合目に屈正痕が残り、頸部内面は細いハケ、口縁及び頸部にヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 淡灰褐色 ・内面 淡黄褐色	
K-49	高杯	B区 K-S X-2	口径 19.2 口径 12.6 口径 15.0	杯底部から短く外上方へ伸びた伏屈曲して長く伸びる口縁。肩部は尖り気味に終わる。長い脚柱状部から大きく広がる頸部で、三方内に円孔を穿つ。頸部は半円型気味で面を穿つ。	杯部は内外面ともヨコ方向のヘラミガキ。脚柱状部外面はタテ方向の後ヨコ方向のヘラミガキ。頸部はタテ方向の後ヨコ方向のヘラミガキ、口縁及び頸部にヨコナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	脚柱状部に意図的に一周するヘラミガキが数處認められる。
K-50	高杯	B区 K-S X-2	口径 17.0 口径 12.4 口径 15.7	杯底部から内彎気味に伸びゆるく上方へ屈曲した後、外反して長く伸びる口縁で、肩部は丸く終わる。長い脚柱状部から大きく広がる頸部で肩部はほぼ水平に伸び面をもつ。頸部三方内に穿孔。	杯底部外面はハケの後ヨコ方向のヘラミガキ。杯部外面はヨコ方向のヘラミガキ。杯底部内面は同心円状のヘラミガキ。杯部内面はヨコ方向のヘラミガキ。頸部外面はタテ方向のハケ、内面は屈正痕が残る。口縁及び頸部にヨコナデ。	・胎土 微少な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-51	壺	B区 K-S X-3	口径 15.1 口径 7.3	口縁は頸部より長く屈曲し肩部は内傾してつまみ上げている。	胴部外面はハケを施した後ヨコ方向のナデ。口縁外面はヨコ方向のナデ。口縁内面は板状工具によるナデ。胴部内面はケズリ。	・胎土 青 ・外面 灰白色 ・内面 濃い褐色	口縁から肩部のみ残存
K-52	壺	B区 K-S X-3	口径 16.0 口径 7.3	口縁は頸部より長く屈曲し肩部はつまみ上げている。	外面はハケを施した伏屈部にヨコナデ。胴部内面はケズリ。口縁内面は板状工具によるナデ。	・胎土 青 ・外面 地灰黄色 ・内面 濃い黄褐色	
K-53	壺	B区 K-S X-3	胴部径21.3 口径 14.4 口径高19.1	縦長の胴部からはほぼ直立するように伸びる口縁で肩部は尖り気味に終わる。	外面は胴部に左下りのタテキの儀、胴部下にタテ方向のハケ。内面は頸部に屈正痕が残り、胴部にヘラズリ、口縁部外面は指オサユの後ナデ、内面はナナメ方向のハケを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 黄灰色	底部欠損
K-54	壺	B区 K-S X-3	口径 10.8 胴部径12.8 口径高 11.6	やや扁平な球形に近い胴部と内開して立ち上がる口縁。肩部はややつまみ上げる。	杯部外面は不定方向のハケ。内面はヨコ方向のヘラズリ。口縁内外面は丁寧ナデ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 淡灰褐色 ・内面 黄褐色	底部下方穿孔。
K-55	壺	B区 K-S X-3	口径 11.6 胴部径14.4 口径高 9.0	やや扁平な球形の胴部で口縁は直線的に伸び、肩部はわずかに肥厚して面をもつ。	胴部外面に不定方向のハケ、胴部から口縁内面にヨコ方向のハケを施す。内面は刷割が著しく不明。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 黄褐色 ・内面 濃い褐色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺跡	方量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-56	壺	B区 K-S X-3	口径 12.6 胴径18.7 残存高18.7	底長の卵形をした体部。 直立気味に外反して伸 びる口縁で、肩部は丸 くおさめる。	外面全体と口縁内面にハケ。 外面内面にヘラケズリ。 内外面にヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 暗灰色 ・内面 黒色	
K-57	壺	B区 K-S X-3	口径14.1 胴径16.9 器高 16.9	九底で胴の張る体部。 口縁は外反気味で肩部 は直立気味につまみ上 げる。	外面は胴部上半にタテ、下半 に不方向のハケ類部に磨ナ デ。内面は胴部下にヨコ、胴 部ニテケ方向のヘラケズリ。 口縁内面にハケ。肩部から口 縁外面にかけてヨコナデを施 す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 灰黄褐色	
K-58	壺	B区 K-S X-3	口径 14.6 胴径19.5 器高 22.2	内り気味の九底で底長 の体部。口縁は内寄気 味に伴い、肩部は内側 に肥厚し平直気味にお さめる。	外面は体部下半にナデ、上半 にタテ方向のハケ。内面は底 部と胴部に指圧痕が残り体部 は板状工具によるナデ。口縁 内外面に板状工具による磨ナ デを施す。肩部に板状工具 のハケ。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 淡黄褐色	ほぼ定形
K-59	高杯	B区 K-S X-3	口径 14.1 杯部 8.3 器高 11.5	杯底部から外上方に伸 びる唇をして内寄気味に 広がる口縁。器部で三 方向に孔を穿つ。	杯外面はナデ。杯内面はヨコ 方向のハケ。脚柱状部から杯 底部にかけてケズリ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡黄色 ・内面 灰白色	
K-60	壺	B区 K-S X-3	口径 12.6 胴径16.6 器高 19.5	やや扁平な球状の胴部 とまっすぐラバ状に 広がる口縁で、肩部は 外反気味に丸くおさめ る。	外面は胴部から底部にかけて ヘラケズリの後ヘラミギキ、 内面は底部に指圧痕が残り、 胴部に磨ナデ、頸部に板状工 具によるケズリを施し、唇を 作る。口縁内外面はヨコナデ、 口縁内面にヘラによる放射状 の味文を施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい褐色 ・内面 褐色	
K-61	壺	B区 K-S X-3	口径 17.0 胴径10.5 胴部径24.4 器高 30.7	九底でやや縦長の球形 の胴部。口縁は外反し 肩部付近でさらに外反し して上方に面をもつ。	外面は不方向のハケ。胴部 内面は板状工具によるナデ、 頸部は磨ナデ、口縁にハケ、 最終的に口縁内外面をナデ、 口縁端部外面にヨコナデを施 す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-62	壺	B区 K-S X-3	口径 19.8 胴径10.0 残存高16.5	球形の胴部から外反気 味に開く口縁で、肩部 は内側にわずかに肥厚 する。	胴部外面はタテ方向のハケの 後ヨコ方向のハケ。胴部内面 はヘラケズリ、口縁外面にタ テ方向のハケの後、口縁内外 面にヨコナデを施す。	・胎土 小礫を多く含 む。 ・外面 褐色 ・内面 褐灰色	胴部下半を欠 損。
K-63	壺	B区 K-S X-3	口径 11.0 胴部径 8.1 器高 7.0	碗状の胴部から斜め上 方に直線的に開く口縁 で肩部は外反気味に少 し尖る。	胴部外面にハケ、胴部内面に ヨコ方向のヘラケズリ、口縁 部内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 淡黄褐色 ・内面 淡黄褐色	
K-64	壺	B区 K-S X-3	口径 12.9 胴部径 8.7 器高 7.6	九底で碗状の胴部から 内寄して長く伸びる口 縁で肩部は丸く鈍む。	外面は底部にタテ方向のヘラ ミギキ、胴部から口縁外面に ヨコ方向のヘラミギキ、内面 は胴部にタテ、口縁内面はヨ コ方向のハケ。口縁内面に放 射状増文を施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-65	高台	B区 K-S X-3	口径 11.0 器高 5.6 胴部 9.8	杯部は、中胴部から後 をつくり内寄気味に外 上方へ伸びる肩部は水平 近くなる。胴部は、中 胴部の後から内寄して 外下方へ伸びる肩部は、 わずかに水平に伸びる	外面全体にヘラケズリの後ナ デ。内面は杯部にヘラケズリ の後ナデ、中胴部、脚部にヘ ラケズリ。脚端部にナデを施 す。	・胎土 石英を多量に 含む。 ・外面 淡赤褐色 ・内面 淡赤褐色	特殊器台

土器番号	器形	出土地点・遺跡	数量 (cc)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-66	甗	B区 K-S X-3	口径 15.2 中口径 3.9 輪径 12.8 器高 6.6	杯部は中胴部から内湾 突縁に外反し肩部は外 側に水平に伸びる。脚 部は杯部よりやや小さ く筒形である。	杯部内外面、胴部外面はヨコ ナデ、中胴部内面はヘラ ズリで面を滑り内面はヘ ラズリの後端部付近にヨ コナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	紋形甗台
K-67	甗	B区 K-S X-3	口径 10.1 胴部径 9.3 器高 7.6	九角で筒状の体部から 其っ直ぐに外上方へ伸 びる口縁で肩部は内湾 突縁に突く。	外面は肩部ヘラズリ、胴部 にハケを施し、その上にヘ ラミガキ。口縁内はヨコナ デ、内面は煎状工具によるナ デを施す。	・胎土 赤 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-68	甗	B区 K-S X-3	口径 10.2 胴部径 8.9	底部より内湾突縁の体 部。 頸部より口縁は内湾。	杯部外面はタテ方向のハケ、 体部上方に、回転するヨコ 方向のナデ。口縁は外面内 面とも回転するヨコ方向の ナデ、体部内面はヨコ方向 のナデ。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 赤褐色～ 黄褐色 ・内面 赤褐色～ 黄褐色 ・断面 赤褐色	破片のみ遺存
K-69	甗	B区 K-S X-3	口径 10.7 胴部径 9.4 器高 9.4	九角で筒状の体部から 内湾突縁に外上方へ伸 びる口縁で肩部は突く。	外面は胴部下手にヨコ方向 のヘラズリの後タテ方向の ヘラミガキ。頸部から口縁 外面にヨコ方向のヘラミガ キ。内面は肩部にヘラズリ、 体部上半から口縁にかけて ナデ、口縁内面にヘラによ る放射状の噴文を施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	完形
K-70	甗	B区 K-S X-3	口径 11.25 胴部径 6.3 器高 11.0	九角で筒状の体部から 外反突、内湾して上方 へ伸びる口縁で、肩部 は尖り突縁に丸くおさ める。	外面は体部下手にヘラズリ、 上半にハケの役口縁から 肩部までヘラミガキ。内 面は体部にナデ、口縁内 面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	
K-71	甗	B区 K-S X-3	口径 11.5 器高 6.0	九角で筒状の体部。口 縁肩部は内湾し内面に 筋をもつ。	内外面とも底部から体部 をヘラズリ、口縁部にヨ コナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰褐色 ・内面 にぶい黄褐色	肩部に文字を 有す。 完形
K-72	甗	B区 K-S X-3	口径 15.2 胴部径 12.7 器高 5.8	九角で内湾して伸びる 体部。口縁は大きく開 く縁部は筋をもつ。	外面は肩部に不定方向、体 部にタテ方向のハケ。内 面は口縁下にヨコ方向の ヘラズリ、胴部に煎状工 具によるナデ、口縁内 面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 褐色	完形
K-73	甗	B区 K-S X-3	口径 15.9 胴部径 13.5 器高 6.9	九角で筒状の体部で口 縁は外反せずすに内 湾し、肩部はつまみ上 げ突縁におさめる。	杯部外面にハケ、内面はヨ コ方向のヘラズリ、口縁 内外面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-74	甗	B区 K-S X-3	口径 31.8 胴部径 28.6 器高 13.8	平底突縁の底部と扁平 な球状の体部。口縁は 内湾し、肩部は内面に つまみ上げ肥厚する。	外面はタテ方向のハケの後 一部にヨコ方向のハケ。内 面は不定方向のヘラズリ。 口縁内外面にヨコナデを 施す。	・胎土 赤 ・外面 にぶい褐色 ・内面 灰褐色	胴部に煎状 の後刻三条を 有す。

4号基

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (a)	形 態 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-75	長頸甕	B区 K-SX-4	頸部径 6.4 胴部径13.6	球形の胴部と直立尖珠の頸部を有す。胴部にヘラ造きの輪痕(赤?)を有する。	外面は胴部にタテ方向のハケの後丁寧なヘラミゴキ、胴部にタテ方向のハケ、胴部は胴部に内面は胴部の後ナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 淡黄色 ・内面 灰白色	口縁部及び胴部下部に欠損 赤色顔料の痕跡
K-76	甕	B区 K-SX-4	口径 12.2 胴部径14.6 残高 7.8	胴の張る体部。口縁は内湾して伸びる。底部はわずかに内面に肥厚して丸くおさむ。	外部外面はヨコ方向のハケの後タテ方向のハケ。内部内面はヘラズリ。口縁内面から胴部外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 砂粒を多量に含む。 ・内面 灰白色 ・内面 明褐色	底部欠損
K-77	甕	B区 K-SX-4	口径 13.7 胴部径19.0 残高 21.2	胴上部の張る体部と「く」の字形に屈曲した頸部から内湾尖珠に伸びる口縁で、胴部は内面に肥厚する。表面に米粒状の割痕が4ヶ所ある。	外面は胴部以下にハケ、内面は底部と口縁下部にヘラズリ、胴部はヘラズリ。口縁内面から胴部外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 赤褐色 ・内面 黄灰色	
K-78	甕	B区 K-SX-4	口径 10.8 胴部径 9.4 残高 8.4	碗状の体部からゆるやかに外反し、内湾尖珠に立ち上がる口縁で端部は少し外反し丸くおさむ。	外面は体部にハケの後ヨコ方向のヘラミゴキ、口縁にヘラミゴキの後、胴部にナデ。内面は口縁にハケの後体部から口縁端部にナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 砂粒を含む。 ・内面 ぶい黄色	底部欠損
K-79	鉢	B区 K-SX-4	口径 17.6 残高 9.9	体部は直立尖珠に内湾し、口縁は内湾尖珠に伸び端部は丸くおさむ。	外面はヘラズリの後、胴部から口縁部外面及び内面にハケを施した後、体部内面から胴部外面にかけてヨコナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 ぶい黄色 ・内面 明褐色	底部欠損
K-80	高杯	B区 K-SX-4	口径 13.0 胴径 9.8 残高 8.0	平坦な杯底部から斜め上方に伸びる杯部で、口縁端部は外反し尖り尖珠に終わる。杯状部は短く、胴は内湾尖珠に屈曲、端部はやや尖る。	外面は杯部にナメ方向のハケの後ヨコ方向の丁寧なミゴキ、杯状部に横ハケの後ヨコ方向の丁寧なヘラミゴキ、胴部はナデ。内面は杯部にヨコ方向のハケの後後計状のヘラミゴキ、最終的に口縁端部にヨコナデ、胴部にナデを施す。	・胎土 赤 ・外面 砂粒を少量含む。 ・内面 褐色	
K-81	高杯	B区 K-SX-4	口径 12.9 胴径 9.6 残高 8.0	杯底部からゆるやかに伸びる杯部で端部は丸く終わる。短い頸状部から内湾尖珠に広がる杯部に二対の円孔を穿つ。	杯部内面に平行方向の丁寧なヘラミゴキの後口縁付近にヨコ方向のヘラミゴキ。杯部外面下から胴部にかけて、指圧痕が残るが、外面全体にヨコナデ、胴部内面は横ハケを施す。	・胎土 赤 ・外面 ぶい黄色 ・内面 ぶい黄色	ほぼ完形
K-82	野台	B区 K-SX-4	口径 9.55 胴径 11.35 残高 7.4	皿状の杯部で口縁は直立尖珠で端部は尖る。胴部は外反して伸びた内湾尖珠になり端部は丸くおさむ。	外面は杯部胴部ともにハケの後ナデ。杯部内面にナデの後後計状の施文を施す。胴部はハケの後ナデ。	・胎土 赤 ・外面 砂粒を少量含む。 ・内面 灰白色 ・内面 灰白色	

6号基

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (a)	形 態 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-84	甕	B区 K-SX-6	口径 12.8 胴部径17.9 残高 16.7	尖り尖珠の丸座で球形に近い胴部。内湾尖珠に立ち上がりわずかにつまみ上げる口縁端部。	胴部内面はタテ方向のハケ、底部は斜縁が著しい。内面は、下半部は指圧痕が残る。上半部はヘラズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 赤 ・外面 ぶい黄色 ・内面 ぶい黄褐色 風流を有す。	

土器号	器形	出土地点・遺跡	数量 (n)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-85	甕	B-4区 K-SX-6	口径 12.4 胴部径18.1 残存高12.8	口縁「く」字状に外上方向へ伸び、肩部を内側につまみ上げている。胴部は球形。	口縁部は外面内面ともヨコ方向のナズ。表面割離のため調整不明。胴部外面はケズリ。	・胎土 密、黒小な砂粒を少量に含む。 ・外面 淡黄褐色 ・内面 淡赤褐色	口縁部より胴部中央まで遺存
K-86	甕	B-4区 K-SX-6	口径 13.8 胴部径20.0 残高 20.5	やや尖り丸味の丸底と胴の中央が割った体部。胴部は「く」字状に屈曲し口縁部は内寄丸味に伸びる。口縁部は内側に肥厚して尖り気味に終わる。	外面は胴部下半にタテ方向のハケの後不定方向のハケ。胴部付近にヨコ方向のハケ。内面は底部に横直線が残り、胴部下半にタテ、上半にヨコ方向のヘラケズリ、胴部から口縁内外面にヨコナズを施す。	・胎土 密。 ・外面 灰色 ・内面 灰色	
K-87	甕	B-4区 K-SX-6	口径 15.0 胴部径19.8 残高 25.4	口縁は側門形。口縁はほぼ直線で口縁部が少し反へ返っている。平底ではあるが少し高。縦長の別な側門形。	外面はヘラミゴキのような調整が見られる箇所もあるがほとんど縦ナズが上から下の方向に放射状に施されている。内面は縦ナズがうすまき状に下から上へと施されている。	・胎土 0.5mm~1mm程度の砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-88	杯	B-4区 K-SX-6	口径 8.6 胴高 3.4	丸底でゆるやかに内寄して立ち上がり、口縁は直立つ。口縁部は直立気味で尖る。	内外面とも指圧による成形	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 淡黄褐色 ・内面 淡黄褐色	手摺ね
K-89	杯	B-4区 K-SX-6	口径 9.7 胴高 6.7	突出した平底、胴部は内寄して外上方向へ伸びた後直立気味に立ち上がる。	外面は無調整。内面は粗いハケ。口縁はつまみだしただけの無調整。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-90	鉢	B-4区 K-SX-6	口径 14.0 胴高 4.8	平底気味で胴部はゆるやかに立ち上がり口縁付近で内寄し口縁部は内寄気味に丸くおさめる。	外面はハケの良くガキ。内面はナズ。口縁内外面にヨコナズを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 淡黄褐色 ・内面 褐色	完形
K-91	鉢	B-4区 K-SX-6	口径 14.4 残存高 4.1	口縁部は胴部から外反した内寄して伸び、肩部は丸くおさめる。	外部外面はヘラケズリ。口縁部内外面にヨコナズを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 ぶい黄褐色 ・内面 ぶい黄褐色	胴部下半欠損
K-92	甕台	B-4区 K-SX-6	口径 9.0 残存高 2.5	やや平坦な底の浅い杯部で、口縁部は直立気味に内寄し肩部は丸くおさめる。口縁部は下に一條の縁線のものめぐらす。	内外面ともヨコ方向のヘラミゴキで内面に放射状の暗文を施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-93	甕台	B-4区 K-SX-6	口径 10.1 胴径 12.3 胴高 8.0	広く平坦な底部をもつ杯部。口縁部は直立気味に尖る。胴は杯部下半から内寄して大きく開き、肩部はさらに内寄して下方に開く。	外面は杯部にヘラミゴキ。胴部はタテ方向のヘラケズリの後不定方向のヘラミゴキ。最終的にナズ。内面は杯部にヨコナズ。胴部にヘラケズリの後ナズを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-94	壺	B-4区 K-SX-6	口径 11.8 胴部径 6.8	杯状の体部で口縁部は「く」字状に屈曲し外上方向へ内寄気味に長く伸びる。	胴部外面はナメタテ方向のケズリ。口縁下部の外面にケズリを施した後口縁全体にタテ方向のハケ。内面全体に放射状のハケ。	・胎土 はとんど砂粒を含まない。 ・外面 黄褐色 ・内面 黄褐色 ・断面 褐色	破片のみ遺存

土器番号	器形	出土地点・遺構	数量 (a)	形 態 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-95	甕	B-4区 K-SX-6	口径 8.2 胴部径 8.0 残存高 8.0	胴の異なる扁平な底部から内弯して伸びる口縁で肩部は丸くおさめる。	外部外面に下直方向のハケ、内部にヨコ方向のヘラケズリ、口縁内外面にヨコナゲを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 灰黄褐色	
K-96	鉢	B-4区 K-SX-6	口径 12.3 胴部径 10.9	輪状の底部から「く」字状にゆるく屈曲し、内湾状態に近く外上方に伸びる口縁。	外部外面はヨコ方向のケズリ、胴部より上部外面と内面はナゲ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 にぶい黄褐色	破片のみ遺存
K-97	甕	B-4区 K-SX-6	口径 9.9 胴部径 9.9 残高 7.4	やや扁平な胴部から内弯して立ち上がる口縁部。肩部は尖る。	胴部外面はヘラケズリ。内面は胴部にヘラケズリ。胴部内面はヨコ方向のヘラミガキを施す。口縁端部内外面は丁寧なヨコナゲ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 灰白色	
K-98	甕	B-4区 K-SX-6	口径 10.9 胴部径 9.6 残高 9.0	やや尖り突状の丸底から内弯した後屈曲して内側に入る肩部。内弯して外上方へ伸びる口縁部。肩部は尖る。	胴部外面はタテ方向のヘラミガキ。内面もやや狭ながらヘラミガキを施す。口縁端部外面から胴部にかけて丁寧なヨコナゲ。内面はナゲの状、タテ方向のヘラミガキ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 にぶい黄褐色 ・内面 褐色	
K-99	甕	B-4区 K-SX-6	口径 10.6 胴部径 10.6 残高 9.7	胴上部に最大径のある底部から内弯して立ち上がる口縁部。口縁端部は尖り突状に終わる。	胴部外面は細かいヨコ方向のヘラミガキ。底部はタテ方向のヘラミガキ。口縁端部は油中までヨコ方向のヘラミガキ。内面は指ナゲで造形に強い板状工具によるナゲ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 黄褐色 ・内面 褐色を有す	
K-100	甕	B-4区 K-SX-6	口径 10.8 胴部径 10.8 残高 10.2	やや尖り突状の丸底から内弯して伸びた後短く内側に入る肩部から内弯して立ち上がる口縁部。肩部は尖り突状。	胴部外面は板状工具によるナゲの後上半部にヨコ方向のヘラミガキ。内面は板状工具によるナゲ。口縁端部外面にヨコ方向のハケ、後に内外面にヨコナゲ。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄褐色 ・内面 にぶい褐色	
K-101	甕	B-4区	口径 13.5 胴部径 25.8 残存高 26.6	尖り突状の丸底部と上部が異なる胴部。口縁端部は外反し後成形状、再び直立状に外反し、口縁端部は水平に面を伸つ。	外面は底部に不定方向のハケの後胴部指圧痕。内面は底部と胴部に指圧痕が残り他はタテ方向のヘラケズリ、口縁端部内外面はヨコナゲ後、内面屈曲部に指圧痕が残る。	・胎土 赤。 ・外面 灰黄褐色 ・内面 灰白色	二重口縁
K-102	甕	B-4区 K-SX-6	口径 22.6 残存高 1.7	直立する頸部から水平に伸び、さらに外反して立ち上がる口縁で肩部はやや肥厚外方に面を持って終わる。	胴部外面にタテ方向のハケの後内面ともヨコナゲを施す。	・胎土 赤。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	胴部欠損 二重口縁
K-103	甕	B-4区 K-SX-6	胴部径 12.0 残存高 8.5	胴部から直立する頸部より外反して伸びる狭口縁になっている。	外面は狭口縁にタテ方向のハケ、頸部と肩部にヨコ方向にヘラミガキ後全体にナゲ。内面は肩部にヘラケズリ、頸部にタテ方向のハケ、胴部から狭口縁にかけてナゲを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 灰黄褐色	口縁部及び底部を欠損。 二重口縁。

B区 第3号基 周溝内下層

土層番号	部 形	出土地点・建 構	出土量 (kg)	形 態 の 特 徴	成 形 ・ 製 法	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-104	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 7.0 胴径 4.2 器高 4.2	丸底でゆるやかに内周する底部で口縁はわずかに外反し、肩部は尖り気味に終わる。	底部内面にハケの痕内外面にナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰黄褐色 ・内面 灰白色	
K-105	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 9.0 胴径 9.7 器高 6.1	やや平壇な丸底で底部は内周して立ち上がり、後上部で内傾して伸びる口縁で、肩部は外反して尖る。	外面は底部ヘラケズリ。底部は、下方を指押さえる後ナデ、内面は、指押さえる後ナデ、口縁部は内外面共にナデ。	・胎土 灰砂粒を含む ・外面 灰黄褐色 ・内面 灰黄褐色	
K-106	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 10.8 胴径 6.0	平底で底部は内周気味に伸びた後わずかに外反し、口縁部は尖り気味に終わる。	外面は底部上方と口縁部までの2段のハケ、内面はヘラケズリの後全体にナデ。最終的に口縁内外面に丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-107	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 11.3 胴径 10.6 器高 14.7	丸底でやや扁平な球形の底部と内周気味に伸びる口縁で、肩部は尖る。	底部外面はヘラケズリ、底部から口縁部内面はハケで部分的にヨコナデ。底部内面はヘラケズリの後ナデ。口縁部内面はヨコナデ。	・胎土 青 ・外面 灰褐色 ・内面 黒鉛黒色 ・内面 灰白黄褐色	
K-108	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 13.0 胴径 12.4 器高 10.2	やや扁平な球形の底部と内周して立ち上がる口縁で、肩部は尖り気味に終わる。	底部外面はヘラケズリで後底部と外部上方にハケを施し、最終的にナデ。内面はヘラケズリ、底部に指押成が残る。口縁部内外面はヨコナデ、内面に放射状喰文。	・胎土 青 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-109	鉢	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.4 胴径 13.4 器高 12.7	丸底で底部は内周気味に伸び、口縁部は内傾にわずかに反響する。	外面はナデの後底部にヘラケズリ。内面は底部にケラ方向のヘラケズリ、胴部にヨコナデ、口縁部内外面に板状工具による回転ナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	成形
K-110	砂台	B区 第3号基周溝内下層	直径 13.0 残存高 3.9	胴は上部に段をつくり、内周気味に下方へ伸び、肩部は外反して家器に面を待つ。	外面は回転ヨコナデ、中胴部にオサエを行い段をつくる。内面は中胴部にナデ、胴部にヘラケズリ後、肩部にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 黒灰を有す ・内面 灰白色	砂の一部残存
K-111	砂台	B区 第3号基周溝内下層	口径 18.7 中胴径 7.2 胴径 17.1 器高 10.0	受部は中胴部上で段を作り外反気味に伸びる口縁部は水平に伸び面を待つ。胴部は中胴部から外反し、段を作り内周気味に伸びる口縁部はわずかに水平に伸びて丸くおさめる。	外面は受部、胴部とも丁寧なヨコナデ。受部内面はヘラケズリの後ヨコナデ。中胴部内面はヘラケズリによる面を有す。胴部内面はヘラケズリで、肩部にヨコナデを施す。	・胎土 青 ・外面 灰白色 ・内面 黒灰を有す ・内面 灰白色	残存砂台 二重口縁 径(16-19)と セット関係 成形
K-112	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.1 胴径 13.6 残存高 11.6	やや扁平気味の球形に近い底部で外反する口縁部、肩部はつまみ上げている。	底部外面はケラ方向の後ナメ方向のハケ、内面はヘラケズリ。口縁部内面にハケ、外面はヨコナデ。胴部内面に成形の際の指押成が残る。	・胎土 青 ・外面 灰黄褐色 ・内面 暗黄褐色	底部欠損
K-113	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 13.1 残存高 8.0	胴の狭く狭らない底部から外反する口縁部。肩部は肥厚し丸くおさめる。	底部外面は板状工具によるナデの後不定方向のハケ。内面はヘラケズリで下部にナデがみられる。胴部内面に指押成が残り、外面は回転ナデ、口縁部内外面とも回転ナデ。	・胎土 青 ・外面 灰白色 ・内面 灰黄褐色	底部下半部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺 積	径量 (m)	形 態 の 特 徴	底 形 ・ 調 量	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-114	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 13.3 胴径15.9 器高 15.2	最大胴径を中部やや上方に有す。口縁部は、「く」の字形に外反する。胴部はつまみ上げる。	外部外面はハケで、下半部は後にナデ。内面はナメ方向のヘラケズリ、上方はヨコ方向のヘラケズリ、胴部は板状工具によるナデを施し、後に口縁部内外面ともヨコナデ。底部に曲圧痕が残る。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-115	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.0 胴径16.0 器高 15.8	やや底部が尖り気味の丸い外部と外反した内面が特徴に短く立つ口縁で胴部は丸くおさめる。	外部外面は割離が著しく不明瞭であるが、ハケと思われる。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-116	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 14.4 胴径16.0 器高16.4	最大胴径を中部中央やや上方に有し、底部はやや尖り気味。口縁は外反し、胴部は面をなす。	外部外面は不定方向のハケ、内面は上半部がナメ、下半部がテタ方向のヘラケズリで、底部に成形の際の曲圧痕が残る。口縁部内面は、板状工具によるナデ。胴部外面はハケが一掃する。最終的に胴部内面から口縁部外面にかけてヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	底部欠損
K-117	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.4 胴径13.1 器高 12.1	扁平な丸底で球形の胴部。口縁は内湾して伸び、胴部は丸く終わる。	外面は外部下半部にヘラケズリの後上半部にテタ方向のハケ。内面は指押さの後のヘラケズリで一部にナデ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 暗褐色 ・内面 黒褐色を有す。 大分黄褐色を有す。	
K-118	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.0 胴径15.2 器高 14.1	丸底で胴の張る外部と外反した内面を併せて立つ口縁部。胴部はわずかにつまみ上げる。	外部外面は全体にテタ方向のハケ、上半部は後にヨコ方向のハケ。内面はヘラケズリで、胴部に成形の際の曲圧痕が残る。口縁部内外面ともヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 黄褐色 ・内面 大部分灰白色	
K-119	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.2 胴径15.6 器高 15.3	球形に近い外部で口縁は内湾して伸びる。胴部はややつまみ上げる。	外部外面はテタ方向のハケの後ヨコ方向のハケを全面に施す。内面下半は成形時の曲圧痕が残るナデ。上半がヘラケズリ。胴部内面は曲圧痕が残る。口縁部内外面は割離ナデ。	・胎土 密 ・外面 灰褐色 ・内面 灰白色	
K-120	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 12.4 胴径15.7 器高 15.8	丸底で球形に近い外部から底面して内湾気味に立ち上がる口縁部。胴部はわずかに内方に肥する。	外部外面はハケの後ナデ。内面は下半がテタ方向、上半がヨコ方向のヘラケズリ。口縁部内外面は割離のヨコナデ。胴部内面と底部内面に成形の際の曲圧痕が残る。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	ほぼ完形
K-121	甕	B区 第3号基周溝内下層	胴径10.4	大きく胴の張る外部からやや外方へ開く口縁で底部は水平な面を持つと想定できる。	外面はテタ方向のヘラミギキで胴部に丁寧なヨコナデ、口縁部はヨコナデ。内面は指圧痕で、成形後ヘラケズリ、口縁部はさらにナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰褐色 ・内面 灰白色	口縁部及び外部下半部欠損
K-122	甕	B区 第3号基周溝内下層	口径 20.4 胴径23.0 器高 15.0	丸底で外部はやや内湾気味に伸びた後胴部で大きく屈曲し内側に短く入る胴部から一先外反し壁を作って直立した後内湾気味に外上方へ立ち上がる口縁部。胴部は外方にわずかに肥厚し、上に水平な面を持つ。	外部外面はテタ方向のハケの後下半部に不定方向のヨコナデ。胴部下方に二条のヨコナデ。内面下半部はナデ、上半部はヘラケズリ。胴部内面はヨコ方向のヘラケズリで面をつくる。口縁内外面は丁寧なヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 灰褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形 片口を有する

土器番号	器形	出土地点・遺構	測量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-123	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 17.2 胴部径17.4 底径 4.5 器高 20.6	わずかに中央を上げた 平底で甕長の体部と外 反する短い口縁部。端 部はわずかに重をつく る。	体部をタタキで成形し、胎土 ひもを加えて底部をつくり、 タタキで成形の後、口縁部外 面はタタキ方向のハケ。底部内 外面はヘラケズリの後状工具 によるナダ。	・胎土 微小な砂粒を 含む。 ・外面 灰白色 黒褐色を有す。 ・内面 灰白色	
K-124	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 16.2 胴部径16.3 器高 20.4	丸底に胎土ひもを加え た平底で、最大胴径を 体部上方に有す。外反 する口縁で端部は丸く 終わる。	外面は底部にヨコ、体部に右 上りのタタキを施す。内面 は底部にヘラケズリが残るが 体部は指ナダ。口縁部外面は タテ、内面はヨコ方向のハケ で、端部に丁寧な指ナダを 施す。	・胎土 砂粒を多く含 む。 ・外面 褐色 煤付着 ・内面 灰褐色	
K-125	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 18.9 胴部径20.6 底径 5.0 器高 21.9	丸底に胎土ひもを加え た平底で最大胴径を上 方に有す体部と短く外 反する口縁部。端部は 丸くおさめる。底部に 穿孔。	底部をタタキで成形後体部及 び口縁部を作る。タタキは底 ・体部とも右上がり、器ぎ 目をナダ指ナダ。底部内面は ヘラケズリ及びハケで、体部内 面は板状工具によるナダ。口 縁部外面はタタキ方向のハケ、 後、内外面ともヨコナダ。	・胎土 砂粒を多く含 む。 ・外面 にぶい褐色 黒褐色を有す。 ・内面 黄褐色	底部穿孔 (焼痕)
K-126	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 16.1 胴部径21.8 器高 25.6	径の小さい丸底に胎土 ひもを加えた平底で胴 のあまり張らない形状 に近い体部。外反し、 やや尖り気味に終わる 口縁部。	底面はヨコ、体部は右上がり のタタキで、底部内面はナダ。 内面は底部にヘラケズリ、体 部はナダ。口縁内外面はハケ の後ヨコナダ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-127	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 12.3 胴部径16.7 残存高16.2	胴の張る体部と短く「 く」の字形に外反する 口縁部で、端部はやや つまみ上げ気味に終わ る。	体部上半部に細い平行のタタ キを施し、下半部はナダ。内 面はヘラケズリで底部内面部 分にハケが透る。口縁内外面 はヨコナダ。	・胎土 曹 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 黄褐色	
K-128	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 14.3 胴部径18.0 器高 18.7	丸底でほぼ球形の体部 と外反する口縁部で、 端部はつまみ上げる。	体部は細かいタタキの後、タ タキ方向のハケを施し、下半は さらにナダ。内面はヘラケズ リ。口縁部内外面はヨコナダ。	・胎土 曹 ・外面 灰白色 煤付着 ・内面 黒褐色	体部下方に一 + 所穿孔
K-129	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 15.0 胴部径20.2 残存高20.6	扁平気味で胴の張る体 部。口縁は外反し端部 はつまみ上げてやや尖 り気味に終わる。	外面は金糸にナメ方角の細 かいタタキの後部下半部は不 定方向のハケ。内面は右下下 部にタテ、上半部にヨコ方向 のヘラケズリ、口縁内外面は 板状工具によるヨコナダを施 す。	・胎土 砂粒を少量含 む。 ・外面 灰褐色 煤付着 ・内面 にぶい黄褐色	底部欠損
K-130	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 15.5 胴部径22.4 残存高24.5	最大胴径をやや上方に 有す甕長気味の体部か らやや内傾気味に外上 方へ伸び、更に立ち上 がる二重口縁で、端部 は水平に重を持つ。端 部内面は丸く肥厚して いる。	体部外面は不定方向のハケで 下半はナダ指ナダ。内面はタテ 及びヨコ方向のヘラケズリ。 底部内面に、指ナダが残る。 口縁部内外面ともヨコナダ。 口縁部に目の細かい指ナダを 施す。	・胎土 曹 ・外面 黒色 ・内面 にぶい黄褐色 底部に黒痕	底部欠損 二重口縁
K-131	甕	B区 第3号基壇内下層	口径 12.0 胴部径15.6 残存高14.3	胴の張る体部で「く」 の字形に外反した後、 つまみ上げて丸く終わ る口縁部。	体部外面は右上りのタタキ を施し、上半は後に右下がり のハケ。下半は不定方向の粗 いハケ。内面はヘラケズリで、 口縁部内外面にハケを施した 後、上半から顔部外面までヨ コナダを施す。	・胎土 曹 ・外面 にぶい褐色 煤付着 ・内面 灰褐色	底部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺 跡	数量 (個)	形 質 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-132	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 14.5 胴部径19.5 残存高15.3	球形の体部から肥厚して外反する口縁。胴部は内側に丸く肥厚する。	外側は体部に直下りのタテキの後ハケを施す。内面はヨコ方向のヘラケズリ。口縁内面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む、褐色 ・外面 全体に煤付着 ・内面 灰白色	底部欠損
K-133	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 15.0 胴部径21.4 残存高21.3	胴の大きく歪る球形に近い体部と鋭く外反する口縁部。胴部はつまみ上げる。	体部外面は右上りのタテキの後ハケを施す。下半部はさらにナデ。内面はタテ方向のヘラケズリ。口縁内面にヨコハケを施し、内外面にヨコナデ。胴部外面に板状工具によるナデ。	・胎土 密 ・外面 明褐色煤付着 ・内面 灰白色	底部欠損
K-134	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 16.4 胴部径19.0 底径 3.3 器高 23.8	平底で、歪なやや延長の体部。口縁部は、内寄気味に伸びる。胴部は丸くおさめる。	底面をヨコ方向のタテキで成形後、体部をナメ方向のタテキで成形、最後に口縁部をつくる。タテキの後に全体にタテ方向のハケ。内面は底部がハケの痕ナデ。体部下段がヘラケズリ、上段が板状工具によるナデ。口縁部内外面に最終的に丁寧なヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 灰白色煤付着 ・内面 淡黄褐色	
K-135	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 13.6 胴部径18.6 器高 19.2	胴の歪る体部で底部はやや尖り気味。口縁部は外反した後内寄気味に伸び、胴部はつまみ上げる。	体部外面はタテ方向のハケの後上半部に不定方向のハケを施す。二色のヨコ方向のハケを上方に直線状に施し、最大胴径にヨコナデ。内面は胴部と底部に成形の胴の指圧痕が残り、体部はヘラケズリ。口縁部内外面と頸部にヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 褐色煤付着 ・内面 褐色	完形
K-136	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 13.3 胴部径18.6 器高 20.1	やや尖り気味の底部で胴の歪る体部。内寄して立つ口縁部。胴部は面を持つ。	体部外面下半はタテ方向、上半は不定方向のハケを施し、上からナデ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面はハケの後ヨコナデ。	・胎土 密 ・外面 淡黄褐色煤付着 ・内面 淡黄褐色	ほぼ完形
K-137	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 16.2 胴部径20.4 残存高20.6	球形に近い体部で、口縁は内寄気味に伸びる。胴部は内側上方につまみ上げ、外上方に面を持つ。	体部外面下方はタテ方向、体部上半に不定方向のハケを施す。胴部下方は直線状のヨコ方向のハケを施し、内面はヘラケズリ。口縁部内外面に、板状工具によるナデを施し、最終的に丁寧なヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色煤付着 ・内面 褐色	底部欠損
K-138	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 14.8 胴部径21.3 器高 20.6	丸座で胴の歪るやや扁平球形の体部。口縁は内寄気味に伸び胴部は内側に肥厚する。	外側はタテの後ヨコ方向のハケ、内面はヘラケズリ、胴部と口縁部の内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 淡褐色煤付着 ・内面 淡黄褐色	
K-139	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 14.6 胴部径19.1 器高 20.2	やや尖り気味の底部で胴の歪る体部。鋭く「く」の字形に外反する口縁で胴部はつまみ上げる。	体部外面は不定方向のハケの後下半はナデナデ。内面はヘラケズリ。口縁部内面にハケで面取りをし、内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色ほぼ全面に煤付着	
K-140	甕	B区 第3号基壇内下層	口徑 14.6 胴部径21.3 残存高17.7	尖り気味の底部で胴の歪る体部。	体部外面は上段が格子状のハケ、中段が不定方向、下段がタテ方向のハケで、底部はナデナデ。内面はヘラケズリで底部に指圧痕が残る。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 濃い赤褐色煤付着 ・内面 灰褐色	口縁部欠損

土器番号	器形	出土地点・遺 積	口径 (cm)	形 態 の 特 徴	底 形 ・ 装 飾	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-141	甕	B区 第3号基河内下層	口径 14.9 残存高 8.3	やや扁平な丸味の胴部から一旦直く直立した後外反する口縁で、胴部一糸の凹線を施す。	外部外面はタテ方向の後、不定方向のハケを胴部まで差し、さらに胴部にヨコナデを施す。内面はヘラケズリ。胴部の頸内縁部分に成形時の指圧痕が明確に残る。口縁部内外面はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	外部下半部欠損
K-142	甕	B区 第3号基河内下層	口径 14.2 胴部径18.0 残存高15.0	縦長の体部と外反する口縁部で胴部は内面に肥厚し丸くおさめる。	外部外面はヨコ方向のハケの後、ナメ方向のハケを差し、胴部から胴部にかけてさらにタテ方向の丁寧なハケを施す。胴部及び口縁内外面はヨコナデ。胴部内面に指圧痕が残る。体部内面はヘラケズリ。	・胎土 最小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ・内面 洗黄褐色	外部下半部欠損
K-143	甕	B区 第3号基河内下層	口径 15.7 胴部径22.3 残存高22.4	胴の張る変形に近い体部で口縁は内彎して伸び胴部は内面に肥厚する。胴部内面はヘラケズリによる面を持つ。	外部外面はタテ方向のハケの後上平部にヨコ方向のハケを差し、上方はナゲテ。内面はヘラケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 洗黄褐色 ・内面 灰褐色	底部欠損
K-144	甕	B-4区 K-S K-7下層	口径 11.6 胴部径10.6 器高 8.5	丸底で腕状の体部から内弯気味に外上方へ伸びる口縁。胴部は尖る。	外面は丁寧なヘラミガキ、体部内面に板ナデ、口縁内面から外面胴部にかけてヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む ・外面 洗黄褐色 ・内面 洗黄褐色	
K-145	甕	B-4区 第3号基河内下層	口径 9.05 胴部径13.4 器高 14.0	平底でやや扁平な球状の体部で口縁は内弯気味に立ち、胴部は丸く終わる。	外面は底面から不定方向のタテ方向の後、胴部上半にタテ方向のハケ、胴部にヨコ方向の板状工具によるナゲテ。内面は底面に板状工具によるナゲテ、胴部をナゲテ、口縁内面にタテ方向のハケ内面はヨコ方向のハケの後ナゲテを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	完形
K-146	甕	B区 K-S K-7	口径 14.7 胴部径30.3 器高 21.1	丸底で球形の体部。口縁は胴部から「く」字状に内彎しながら外上方へ伸びる。胴部は肥厚し、わずかにつまみ上げる。	外面はタテ方向のハケの後体部中央にヨコ方向のハケ。内面は底面に指圧痕が残る。体部下半部にタテ、上半部に不定方向のヘラケズリ。口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 洗黄褐色 ・内面 灰白色 ・内面 洗黄褐色 ・口縁部・胴部 黒褐色(赤銅)	外面全体に板ナゲテ
K-147	甕	B区 第3号基河内下層	口径 15.3 胴部径18.2 残存高16.0	縦長の器な筒筒形の体部からやや外弯気味に立つ口縁部で胴部は丸くおさめる。	外部外面はナメ方向のタテ方向の後タテ方向のハケを差し、内面はヘラケズリの後ナゲテ。口縁部は内外面とも丁寧なナゲテ。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色 ・内面 灰白色	底部欠損
K-148	甕	B区 第3号基河内下層	口径 15.9 胴部径19.2 器高 22.3	やや縦長の筒筒形の体部と外反する口縁で、胴部は型を持つ。	外部外面は右上がりのタテ方向で成形後、胴部下方と、体部下半部にタテ方向のハケを施す。内面は、胴部に成形時の指圧痕が残る。胴部下方にハケ、体部大部分はヘラケズリ。口縁部外面はタテ方向、内面はヨコ方向のハケの後、ヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 洗黄褐色 ・内面 黄褐色	完形
K-149	高杯	B区 第3号基河内下層	口径 14.4 胴径 10.5 器高 9.2	杯部は底面から斜上方に伸びわずかに段をももたせ内弯気味に伸びる口縁で胴部は丸く終わる。胴部径が小さく広がる杯部。杯部四方内彎孔。	杯部内外面ともヘラミガキ後ナゲテ。内面には放射状線文。胴部径部はヘラケズリ後ナゲテ。杯部外面はヘラミガキの後ナゲテ。内面はナゲテ。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺跡	法量 (m)	形制の特長	成形・調査	胎土・色調	備考
K-150	高杯	B区 第3号基層内下層	口径 14.6 腹径 11.3 器高 9.4	杯部は底部から斜上方に伸び一旦屈曲した後さらに屈曲し、内穹気味に斜上方に伸びる口縁で、肩部は立ち気味に丸く終わる。短く太い脚柱状部。大きく広がる底部で四方内穿孔。	杯部内外面ともヘラミガキ状ナデ。内面に放射状増文。肩部はヘラケズリ後ナデ。底部外面はハケ、内面はナデ割蓋。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形
K-151	高杯	B区 第3号基層内下層	口径 14.9 腹径 11.8 器高 9.1	杯部は底部からほぼ水平に伸び、屈曲して長く伸びる口縁部。短い脚柱状部から大きく広がる底部。底部四方内穿孔。	杯部外面はヘラミガキの後ナデ。脚柱状部から杯部外面はヘラケズリで成形の後、最終的にナデ。蓋部はナメ方向のハケ。杯部内面はハケの後放射状増文。底部内面はハケ、肩部はナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 褐色 ・内面 濃い黄褐色	ほぼ完形
K-152	高杯	B区 第3号基層内下層	口径 15.5 腹径 9.6	杯部からゆるやかに内凹し、一旦屈曲した後さらに内穹気味に斜上方に伸びる口縁で肩部は尖る。短い脚柱状部で底部四方内穿孔。	杯部外面はヨコ方向のヘラミガキ後ナデ、内面はハケ放射状増文。脚柱状部はヘラケズリで成形後ナデ。底部内面にハケ目筋。	・胎土 砂粒を含む ・外面 濃い褐色 ・内面 濃い褐色	底部欠損
K-153	鉢台	B区 第3号基層内下層	口径 8.7 腹径 11.0 器高 7.9	浅い碗状の受部で口縁は内傾気味に直立し、肩部は大きく広がる円形で、四方内穿孔。	受部内外面ともヘラミガキの後ナデ。脚部外面はヘラミガキの後ナデ、内面はナデ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 淡褐色 ・内面 褐色を有す	完形
K-154	鉢台	B区 第3号基層内下層	口径 9.8 腹径 12.2 器高 9.3	浅い碗状の受部で口縁は内傾気味に直立し、肩部は大きく広がる円形で、肩部は尖り気味に丸くおさめる。三方に透しを有す。	受部外面はヨコ方向の細かいヘラミガキ、内面はナデの後、放射線状に増文。肩部はナデ。脚部内面上方を短いヘラケズリで成形後全体にナデ、内面は線状で成形後ナデ。	・胎土 密 ・外面 濃い褐色 ・内面 濃い褐色	完形
K-155	甕	B区 第3号基層内下層	口径 10.1 胴径 9.2 器高 7.5	丸座で扁平な球形の体部と内筒して立ち上がる口縁で肩部は尖る。	肩部から体部下平部まではヘラケズリ。体部上半及び口縁内面はヨコ方向のヘラミガキで、口縁部は後にナデ。体部内面はヘラケズリ、胎土層目付透しはナデ。口縁内面はヨコ方向のヘラミガキ。	・胎土 密 ・外面 濃い黄褐色 ・内面 濃い黄褐色	
K-156	甕	B区 第3号基層内下層	口径 11.0 胴径 10.2 器高 7.2	丸座で碗状の体部で体部上方で内筒する。口縁部はわずかに内筒して立ち上がり、肩部は尖る。	体部外面及び口縁部内面はハケ。体部内面及び口縁内面はナデ。	・胎土 砂粒を多く含む ・外面 灰白色 ・内面 淡黄褐色	完形
K-157	甕	B区 第3号基層内下層	口径 11.1 器高 6.4	やや尖り気味の丸座で碗状の体部から内穹気味に伸びる口縁部で、肩部は丸く終わる。	外面は割蓋が著しいが、ハケと思われる。体部外面はヘラケズリの後ナデ。口縁内面は丁寧なヨコナデ。底部内面に線状増文が残る。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 淡褐色	
K-158	甕	B区 第3号基層内下層	口径 11.3 胴径 7.7 器高 10.8	丸座で碗状の体部。胴部のくびりは弱く、口縁はゆるやかに立ち上がり、肩部はわずかに内筒し、尖り気味に終わる。	外面は体部下平にタテ方向のヘラケズリ。内面は底部にタテ、胴部にヨコ方向のヘラケズリ。底部内面から口縁内面、胴部下まで密ナデを施す。	・胎土 砂粒を少量含む ・外面 濃い黄褐色 ・内面 淡黄色	
K-159	甕	B区 第3号基層内下層	口径 10.0 胴径 9.4 器高 7.3	やや尖り気味の丸座で碗状の体部から内穹気味に伸びる口縁で肩部はわずかに内筒をもつ。	外面は口縁下平までヘラケズリ、内面はナデ。口縁内面はヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を多く含む ・外面 明黄褐色 ・内面 明黄褐色	

土師番号	器形	出土地点・遺構	数量 (α)	形 態 の 特 徴	成 形 ・ 調 整	胎 土 ・ 色 調	備 考
K-100	甕	B区 第3号基河内下層	口径 13.2 残存高 8.1	扁平半球形の体部から内筒気味に長く伸びる口縁部で、肩部は丸くおさまる。	体部内外面はヘラケズリ、口縁内外面はハケを施し、最終的にナゲ。肩部は成形工具によるナゲ。	・胎土 青 ・外面 淡褐色 ・内面 淡褐色	
K-101	甕	B区 第3号基マウンド上	口径 8.7 胴部径 8.3 器高 7.0	丸底で筒状の体部。大きく内湾した肩部から内筒気味に外方へ伸びる口縁で肩部はやや尖り気味に丸い。	外壁および口縁内面はヨコナダのぼんやりなヘラミガキ。体部内面はヘラケズリを施す。	・胎土 黄砂粒を少量含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 灰白色	
K-102	甕	B区 第3号基河内下層	口径 10.9 胴部径 15.5 器高 21.9	筒長の樽形に近い体部から削り出した直筒程度の肩部を有す。口縁部はわずかに外反して立ち上がり肩部は丸くおさまる。	胴部外面はヘラによるオヤエが残る。体部外面はヘラケズリ。体部上手に運気状の成形工具によるナゲを施す。口縁部はヘラケズリ。口縁部内面はヨコナダ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
K-103	甕	B区 第3号基河内下層	口径 9.6 胴部径 7.2 胴部径 17.1 器高 30.0	底がやや尖り、胴中央が張る体部とわずかに外反して長く伸びる口縁部。肩部は丸くおさまる。	体部外面はヨコ方向のハケの後下部にタテ方向のハケを施す。内面は上半がヨコ方向下半がタテ方向のヘラケズリ。底部と頸部の成形の際の直圧痕が残る。口縁部内外面から体部上方までヨコナダ。	・胎土 微小な砂粒を少量含む。 ・外面 淡褐色 ・内面 淡褐色	
K-104	甕	B区 第3号基河内下層	口径 17.3 胴部径 8.9 胴部径 20.8 器高 22.4	やや筒長の樽形形の体部から孤立した頸部を有し、外反して水平に伸びる口縁から外反して伸びる短い口縁部。肩部は丸くおさまる。底部に直径的に径約6.0cmの孔を穿つ。	体部外面は全体にタテ方向のハケ。内面は全体に、成形時の直圧痕が残る。上方のみヨコナダを施す。内面はヨコハケ、最終的に内外面ともヨコナダを施す。	・胎土 青 ・外面 褐色 ～淡褐色 ・内面 にぶい褐色	二重口縁部 底部穿孔 (施成痕)
K-105	甕	B区 第3号基河内下層	口径 17.4 胴部径 11.0 胴部径 27.1 残存高 30.4	球形に近い体部とわずかに内筒気味に伸びたやや外反する口縁部。肩部はほぼ水平に削を穿つ。	体部内面はハケの成ナゲ出し、胴部にハゲが残る。内面は下半部に直圧痕が残るが、全体にヨコ方向のヘラケズリ。口縁部内外面は丁寧なヨコナダ。	・胎土 砂粒を含む ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	肩部欠損
K-106	甕	B区 第3号基河内下層	口径 16.2 残存高 14.0	外反気味に長く伸びる口縁で、肩部は内筒気味に丸くおさまる。	外面は体部にタテ方向のハケ、口縁部付近はタテ方向のハケ、下半部はヨコ方向のヘラミガキ。胴部にナゲナダ。内面は体部にヘラケズリ、口縁にヨコ方向のヘラミガキ、胴部にナゲ、口縁部はヨコナダを施す。	・胎土 砂粒を少量に含む。 ・外面 灰白色 ・内面 明オレンジ色	体部下半欠損
K-107	甕	B区 第3号基河内下層	口径 16.4 器高 22.6	体部は丸底球形で最大径を胴部中央よりやや上方に有し長胴化の傾向を示す。肩部は薄く仕上げ上る。口縁はやや外反気味に上方へ「く」の字形に伸び、肩部は上方に短く上がって終わる。	外面は胴部から胴部にかけて一見タテ方向の左下り方向と右下り方向のハケ調整。胴部から底部にかけてはタテ方向のハケを施した成ナゲ出ししている。口縁部はヨコナダ。胴部内面はヘラケズリで口縁部内面はヨコナダ。	・胎土 密で雲母・石英を含む。 ・外面 茶褐色 ・内面 茶褐色	
K-108	甕	B区 第3号基河内下層	口径 9.5 胴部径 5.0 胴部径 9.5 器高 11.3	やや扁平半球形の体部から内筒気味にラップ状に長く伸びる口縁で肩部はさらに外反し尖り気味に終わる。	口縁外面はヨコ後タテ方向のヘラミガキ、内面はヨコ方向ヘラミガキ後放射状織文。体部外面上手はヘラミガキ、下手はヘラケズリ。内面は下半にヘラケズリ。胴部内面はヨコ方向のケズリ。	・胎土 微小な砂粒を含む。 ・外面 灰白色 ～淡褐色 ・内面 にぶい褐色	

土器番号	形状	出土地点・遺構	測量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-168	碗	B区 第3号墓周溝内下層	口径 11.4 胴径 9.1 器高 6.6	丸底で筒状の体部から内可気味に大きくひろく口縁で端部は丸くおさめる。	外面は全体にハケ、内面は体部にヨコ方向のヘラケズリ、その他口縁部内面にヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 ぶいい褐色 ・内面 ぶいい褐色	
K-170	碗	B区 第3号墓周溝内下層	口径 17.7 胴径 14.0 器高 5.7	丸底で深い凹状からゆるやかに立ち上がる体部で口縁は内可気味に外へ伸び端部はむかひに内側に肥厚し丸く終わる。	外面は胴部下平をヘラケズリ、内面は板状工具によるナデ、口縁内外面から胴部上半にかけヨコナデを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 ぶいい褐色 ・内面 浅黄褐色	ほぼ完形
K-171	鉢	B区 第3号墓周溝内下層	口径 26.6 胴径 24.2 器高 16.3	やや扁平な半球状から内側に屈曲する体部で、内可気味に伸びる口縁部。端部は面を待つ。	体部外面は上方はヨコ方向、下半はナデ及びナメ方向のハケの後ナデ。内面はヘラケズリで面部に指圧痕が残る。口縁内外面はヨコナデ、胴部は丁寧ナデ、胴部に指ナデ。	・胎土 砂粒を多く含む。 ・外面 浅黄褐色 ・内面 灰白色	

4号墓周溝及び周溝内土境

K-176	甕	B区 第4号墓上層	口径 15.0 残存高 3.2	口縁は胴部から鋭く外反し口縁端部をつまみ上げている。	外面胴部は骨子状ハケ、外反口縁はヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコナデ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 赤褐色 黒褐色 ・内面 ぶいい褐色	口縁部のみ遺存
K-177	甕	B区 第4号墓上層	口径 16.1 残存高 4.0	口縁は胴部から内可しなが外上へ伸びる。口縁端部は肥厚し、上に面をもつ。	外面胴部は指ナデ。口縁部は板状工具によるヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコナデ。	・胎土 薄小な砂粒を含む。 ・外面 ぶいい褐色黒褐色 ・内面 ぶいい褐色	口縁部のみ遺存
K-178	甕	B区 第4号墓上層	口径 16.4 残存高 4.8	口縁は胴部から内可しなが外上へ伸びる。口縁端部は肥厚し、上に面をもつ。	外面胴部は指ナデ。口縁部は板状工具によるヨコナデ。内面胴部はヘラケズリ。内面口縁はヨコハケの後ヨコナデで滑している。	・胎土 薄小な砂粒を多く含む。 ・外面 オリーブ黒色黒褐色 ・内面 ぶいい褐色	口縁部のみ遺存。
K-179	甕	B区 第4号墓上層	口径 15.8 残存高 9.2	胴部は外反して壁をつくり、そこから直立気味に外反し長く伸びる。口縁端部はさらに外反して丸くおさめる。	口縁内面に指圧痕が残る、その上から内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰白色 ・内面 オリーブ黒色	体部欠損 保存者
K-180	碗	B区 第4号墓周溝内土境	口径 15.6 器高 4.8	やや平坦な丸底で筒状の胴部。口縁は内可気味に伸び端部は丸くおさめる。	外面全体にヘラミガキ。内面はヘラケズリの後ナデ、口縁にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 ぶいい黄褐色 ・内面 灰黄色	

5号墓出土土器

K-182	甕	B-6区 第5号墓マウンド周部	口径 14.8 残存高 6.1	口縁は胴部から鋭く外反して伸び端部はまっすぐつまみ上げている。	胴部外面は骨子状にハケ。胴部内面は不定方向のケズリ。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 黒褐色 ・内面 褐色	口縁部のみ遺存
K-183	鉢	B区 第5号墓マウンド内	口径 20.2 器高 8.2	高台状の平底で胴部はゆるやかに内可して立ち上がる。口縁端部は直立し丸く終わる。	外面は底面にヘラによる骨子状が残る、全体に丁寧なヘラミガキ。内面は、底部に指圧痕が残る、全体に丁寧なヘラミガキの後、口縁内外面にヨコナデを施す。内面に確文を施す。	・胎土 砂粒を少量含む。 ・外面 ぶいい褐色 ・内面 ぶいい褐色	完形 外面全体に底付着

6号墓

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-184	鉢	B-6区 第6号周溝外	口径 17.8 器高 7.2	丸底で扁平な半球形の 体部。口縁はわずかに 外反し、頸部は丸くお さまれる。	外面はヨコ方向のハケ。内面 はナデ。口縁内外面にヨコナ デを施す。	・胎土 微砂粒を少量 含む。 ・外面 灰白色 高灰を有す。 ・内面 灰白色	ほぼ完形 内外面に少量 の鉄分の沈着 がみられる。
K-185	甕	B-6区 第6号墓	口径 15.8 胴部径 20.6 器高 22.2	底部から内彎する球形 の体部。口縁は胴部より 厚直し、頸部は水平に 面をもつ。黒灰が体部 と底部の2ヶ所ある。 全体に鉄分が付着。	体部外側は全面灰ナデ。体部 中央はヨコ方向、底部は不定 方向、その他はタテ方向、体 部内側は全面にケズリ。	・胎土 色、1mm程度の 砂粒を少し 含む。 ・外面 褐灰白色 ・内面 黒褐色 ・断面 灰色	

水田及び畦畔

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-186	高杯	B区 水田	口径 21.0 胴部径 15.6 器高 17.2	杯部は、底部から外上 方に伸びる口縁。頸部 は鋭い。脚状部は長く 脚部は小さい。	脚状部内面はヨコ方向のケ ズリ。杯部外側はナデ。あ とは割離のため不明。	・胎土 色、微小な砂 粒を少量に含 む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰褐色	
K-187	甕	B区 大池下	口径 12.9 胴部径 17.0 器高 16.5	丸底でやや扁平な球形 の体部。口縁は外反気 味に伸びさらに外反し た後短く直立し、頸部 は丸い。	外面は体部上半にハケ、下半 に刷付工具によるナデ。内面 は底縁が指圧面。体部にヘラ ケズリ。頸部はナデで面を作る。 口縁内面にヨコ方向のハ ケ、後内外面にヨコナデを施 す。	・胎土 砂粒を少量に 含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	完形 外面全体に鉄 分付着

河川1

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
K-188	甕	B区 K-S R-1	口径 8.4 胴部径 8.7 器高 6.2	碗状の体部でやや内彎 気味に伸びる口縁。頸 部は丸くおさまれる。	外面は体部下半にヘラケズリ。 内面から体部上半にナゲナデ を施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	
K-189	甕	B区 K-S R-1	口径 8.0 胴部径 7.7 器高 7.5	平底丸底でやや扁平な 球形の体部。口縁は上 方に直線的に伸び、 頸部は丸くおさまれる。胴 部に片側の短き沈線 文を有する。	外面は胴部にハケの痕ナデ。 内面はヘラケズリのと口縁 下に指圧面が認められる。口縁内面 はハケのあとと内外面にヨコナ デを施す。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 褐色 ・内面 褐色	ほぼ完形
K-190	甕	B区 K-S R-1	口径 10.6 胴部径 10.8 器高 10.0	やや尖り気味の丸底で 球形の体部を持つ。口 縁は外反して伸び、頸 部はつまみ上げ気味に 直立してやや尖る。	外面は胴部付近にタテ方向の ハケ。それ以外はヨコ方向の ハケ。底部付近は放射状のハ ケ。内面は底部に指圧面と指 ナゲ、胴部以下にヘラケズリ、 口縁内外面にヨコナデを施す。	・胎土 密 ・外面 灰色 ・内面 灰白色	完形
K-191	高杯	B区 K-S R-1	口径 20.0 胴部径 12.7 器高 13.5	杯部部は扁平な杯底部 から斜め上方に直線的 に伸びる口縁で頸部は 丸くおさまれる。脚状 部は内彎気味に広がり、 頸部は外反気味に開く。 頸部は尖り気味におさ まれる。	外面は杯部にヘラミガキ、杯 底部から脚状部にかけてタ テ方向のケズリの後脚状部 の下半から頸部にタテ方向 のハケ。頸部上半にヨコ方向 のハケ。内面は杯部に丁寧な ヘラミガキの後ナゲ、頸部 にナゲ。脚状部に指ナゲ、杯部 内面に放射状の沈線文を施す。	・胎土 密 ・外面 に深い褐色 ・内面 に深い黄褐色	

土器番号	器形	出土地点・遺 跡	数量 (個)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備 考
K-192	底面磨 蓋	B区 K-S R-1	口径 13.3 器高 4.0	上縁が平らで中央部が 窪むつまみを有し縁部 は全体として扁平であ る。天弁部はかなり偏 平で口縁部との境りに かなり明瞭な段を有す。 口縁部は短く、まっす ぐ下方に伸び、端部は やや内傾しながら面を 持つて終わる。	外面は刷毛によるナデを施し た後、天弁部に縁による刺突 文帯を二条、その間に縦線を 一条施す。内面は磨いたナデ。	・胎土 砂粒を若干含 む。 ・外面 暗灰色 (1/3くらい白 く灰をかぶる) ・内面 暗灰色 堅緻	
K-193	高杯	B区 K-S R-1	口径 15.2 残存高 4.7	平坦な杯底部。碗状の 杯部で内傾して伸びる 口縁で端部は内傾無味 に丸くおさめる。	外面は一部にハケ目が残る。 内外面ともヨコナデを施して いる。	・胎土 砂粒を含む。 ・外面 灰黄色 ・内面 暗灰色	杯部のみ遺存
K-194	高杯	B区 K-S R-1	口径14.8 器部 10.2 器高 12.0	やや平坦な底部を持つ 碗状の杯部。端部は丸 くおさめる。脚柱状部 は外反し、さらに外反 する頸部。端は反り無 味に丸くおさめる。	頸部はヘラミガキ。内面は杯 部底に刷状工具による調整痕 が残る。頸部にハケ、最終的 に杯部及び頸部にヨコナデを 施す。	・胎土 密 ・外面 褐色 ・内面 褐色	

4. 歴史時代

A. 歴史時代第1遺構面

基本層序I層下位の褐色粘質土、及び灰褐色粘質土の上面がそれにあたる。

この遺構面は、ほとんどが後者の土層面で、水田跡と考えており、整然とした地割を検出している。ただB調査区中央部では、こうした水田区画に混じって比高差0.3m~0.5mほどの水田とは考え難い高まり部分も検出している。遺存状況は、現表土からの埋没が浅いため、中央環状線建設工事等の土木工事による土層攪乱の影響を受けやすく、あまり良好であるとは言えないが、一応その原状を推定できる状態ではある。

a. 遺構

水田跡

B調査区中央で検出した高まり部分を除けば、この遺構面で検出される遺構のすべてがこの水田、及び水利に関するものである。

検出状況は第91、92図でも分かるように方形地割が施行されており、時代性は別として条里制遺構として理解できるものと考えられる。まず、南北方向の地割として、B調査区で検出した大型畦畔(R-畦-1)が指摘できる。他にC調査区の小型畦畔(R-畦-5、8)がある。この前者と後者の間には規模や構造において明確な差異が認められ、前者は坪を画する可能性が非常に高く、後者は坪区画の中をさらに一段単位以上に細分する畦畔であろうと考えられる。次に東西方向の地割として、小中型畦畔(R-畦-2~4、6、7)や溝(R-SD-1、2)がある。現在地図、及び航空写真などで坪区画を復元した場合、R-SD-2が溝ではあるが坪として認識できる。しかし、第1遺構面においても、この溝を坪境と認識するのは早計で、畦畔(R-畦-6、7)と溝(R-SD-1)の1組を成す遺構群が他の東西方向の地割を示すものとは趣を異にしており、坪を画する可能性も考えられ、いずれが坪を画するものであるかの結論は、さらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

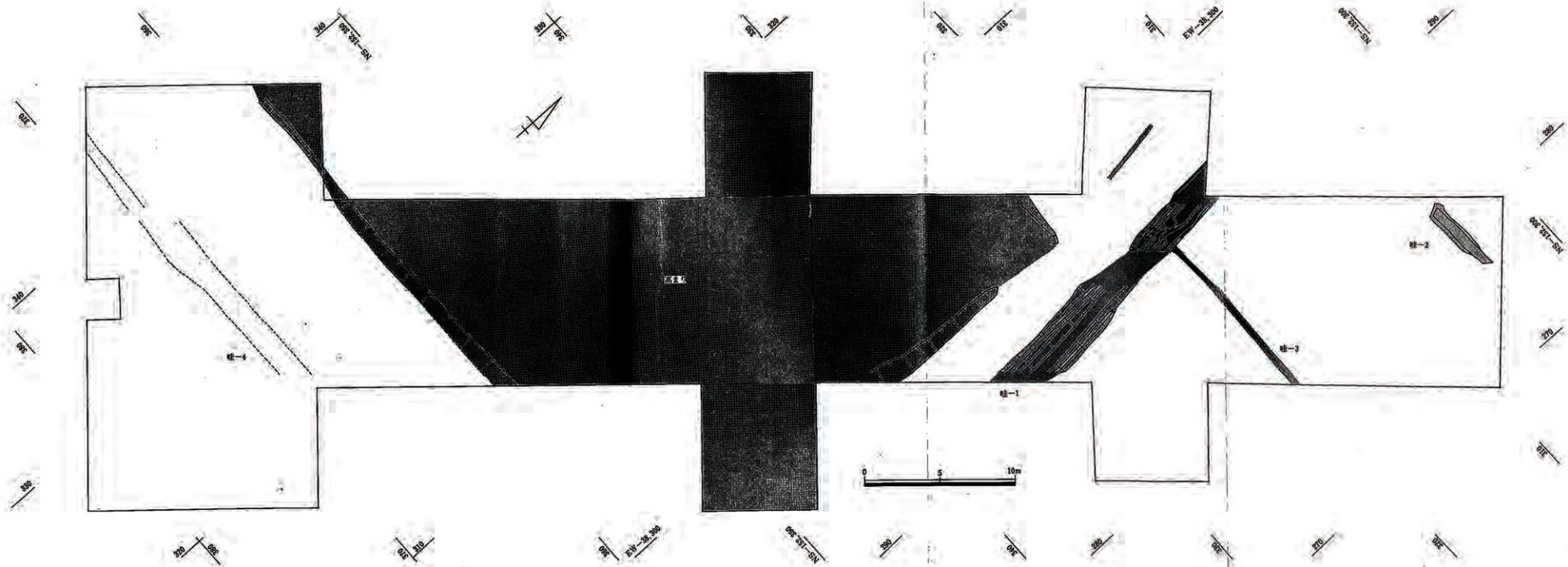
B. 歴史時代第2遺構面

基本層序II層上位の黄灰褐色粘質土層の上面がそれにあたる。この遺構面では生産遺構である畑、及び水田を検出している。遺構の遺存状態は歴史時代第1遺構面に比べて攪乱の影響も少なく、比較的良好である。

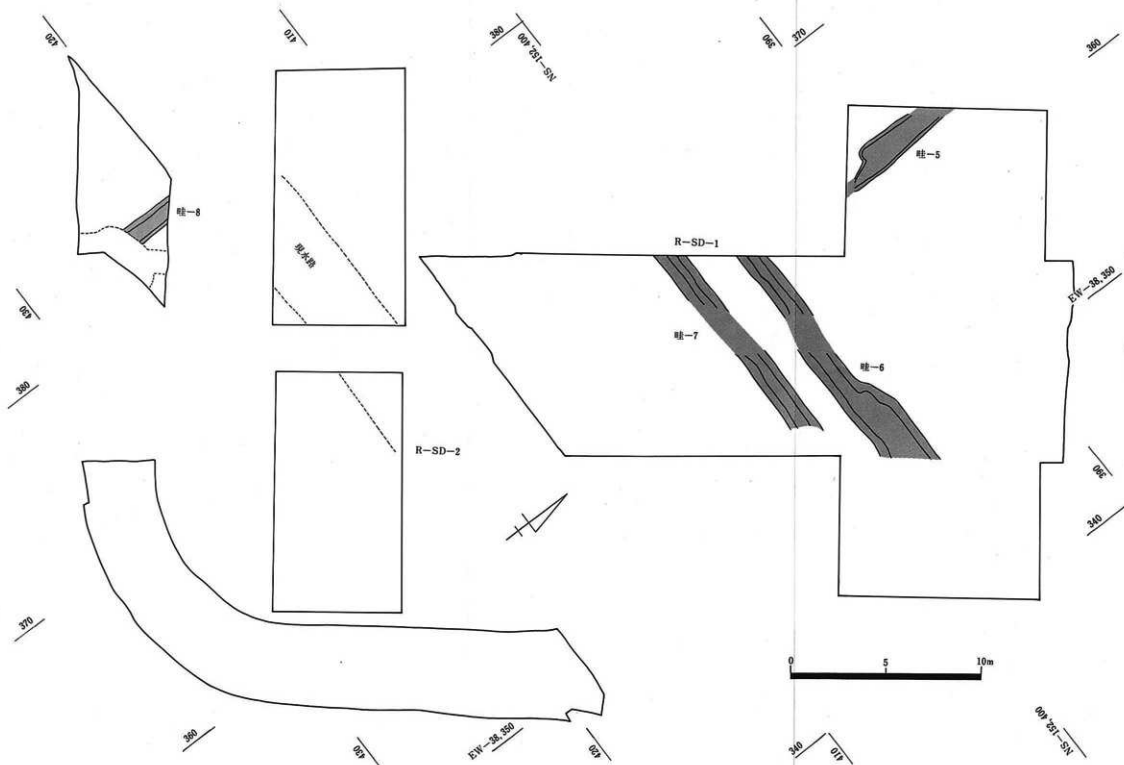
a. 遺構

畑、及び水田

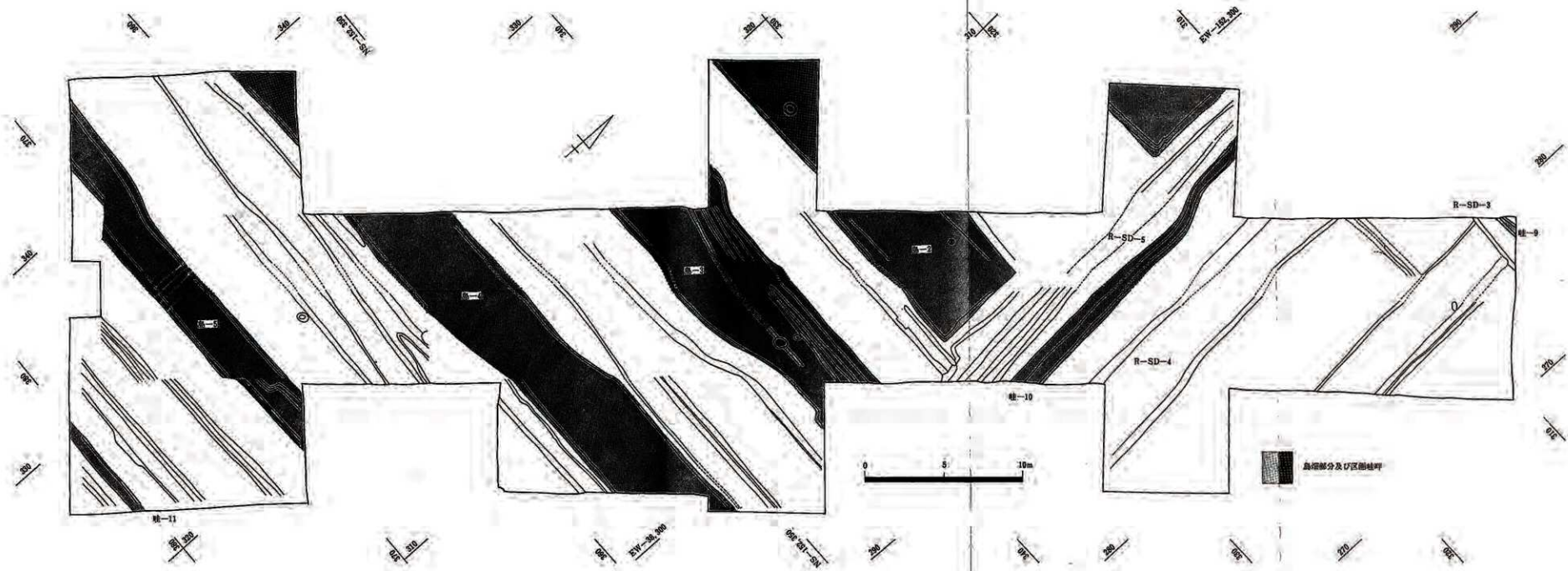
検出状況は第93、94図でも分かるように歴史時代第1遺構面と同様方形地割が施行されており、広義の条里地割として理解できる。南北方向の坪を画するような地割として、B調査区で検出した中型畦畔(R-畦-10)が指摘できる。これは歴史時代第1遺構面で検出した坪を画すると推定した大型畦畔(R-畦-1)の下層に位置する。2条の溝(R-SD-4、5)が並行しており、他の畦畔(R-畦-15~19)とは趣を異にしていることから坪を画する可能性があると考え



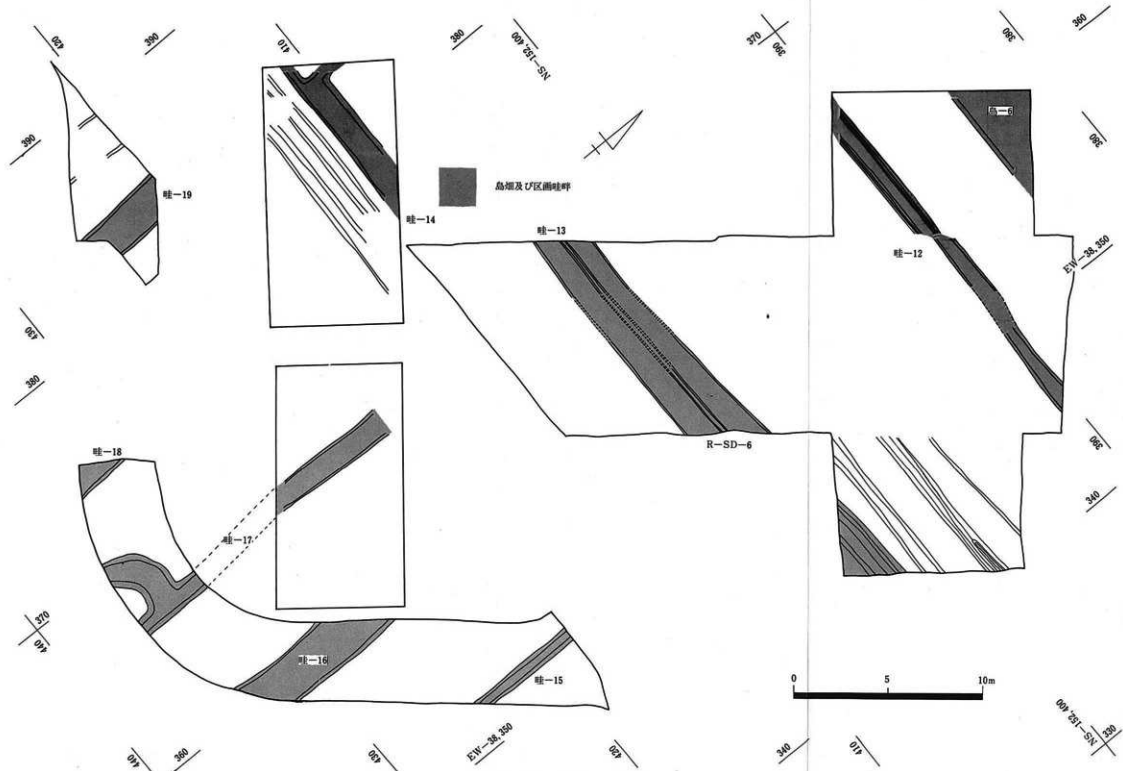
第91圖 歷史時代第1遺構面 (Y)



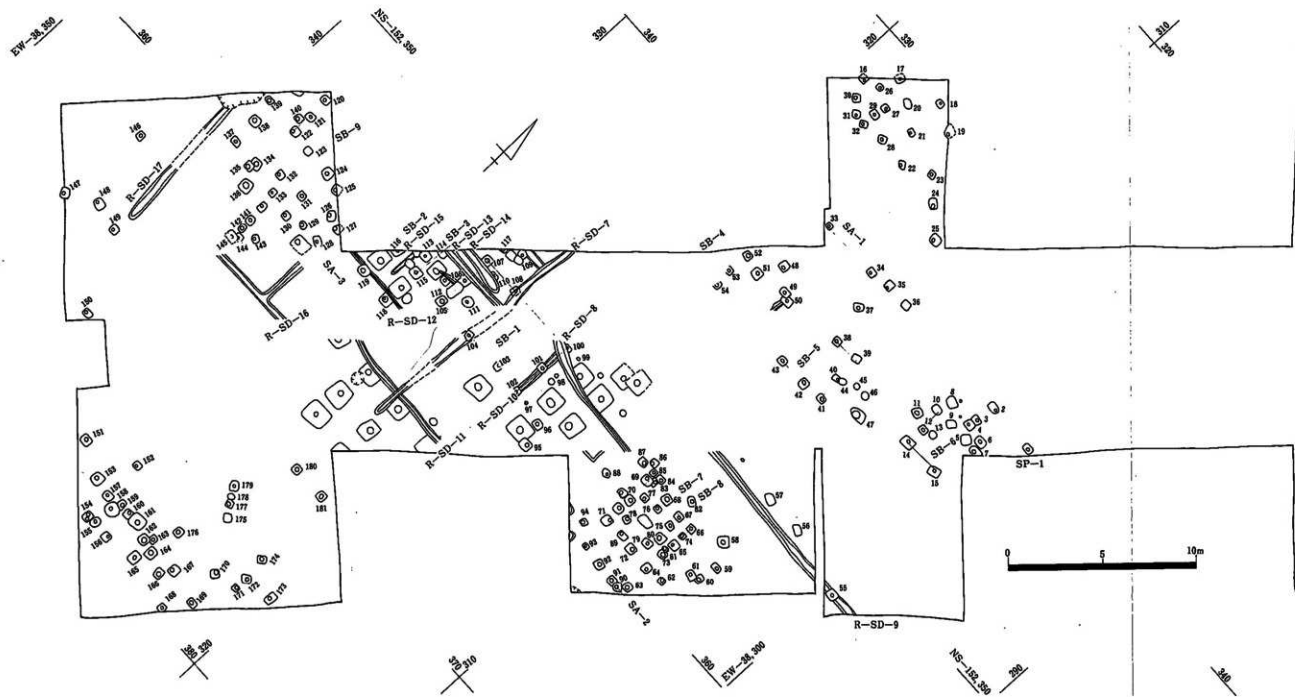
第92図 歴史時代第1遺構面(2)



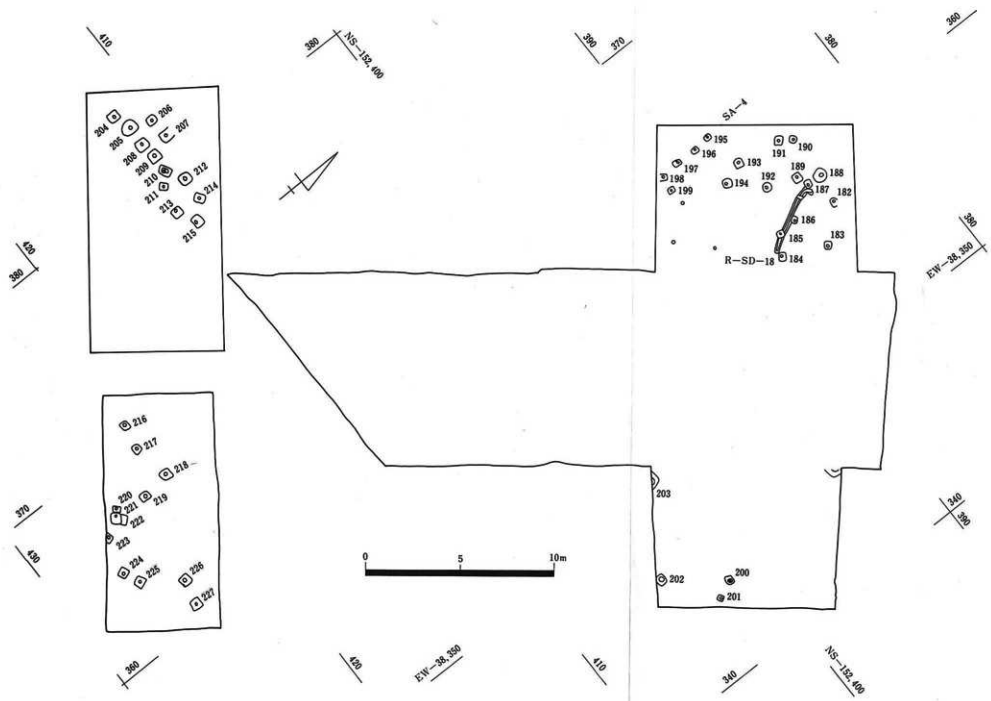
第93図 歴史時代第2遺構面(1)



第94圖 歷史時代第2遺構面(2)



第95図 歴史時代第4遺構面(1)



第96圖 歷史時代第4遺構面(2)

ている。次に東西方向の同様な地割としては、B調査区の北隅で検出した中型畦畔（R-畦-9）がある。歴史時代第1遺構面で検出した畦畔（R-畦-2）の下層に位置し、溝（R-SD-3）に並行しているなど、南北方向の坪境と推定した畦畔と溝の組み合わせが酷似している。この畦畔から南へ112mの距離にR-SD-1があり、この溝は河川改修の際に土層が古墳時代の層まで掘削されていた。

ここに坪を画するような遺構が存在したかどうかは分からないが、近接する大型畦畔（R-畦-13）は中央に溝が走り、他の畦畔と趣を異にしており、これも坪を画する可能性が考えられる。ただ、R-畦-9とR-畦-13との距離は1町に充たず、いずれが坪境を示すものか、結論を出すには今回の調査面積では不十分で、さらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

坪区画の中をさらに段単位に細分する畦畔と考えられるのは、B調査区の小中型畦畔（R-畦-11、12）、大型畦畔遺構（R-島-1～6）やC調査区の中小畦畔（R-畦15～19）がある。検出状況から各畦の位置、畦間の距離などから推定すると坪区画の中の地割は長地型が予想されるが、結論はさらに広範囲の検出遺構の検討を待たねばならない。

この遺構面はB調査区で検出したR-島-4を境として北側と南側では様相を異にしている。北側3/4の範囲で検出した大型畦畔状遺構は島畑と呼ばれる独特の形状を持つ畑と非常に酷似した遺構である。南側で検出されるそれは幅が狭く高さも低くなっており、畑よりむしろ水田に重きを置く経営状態が復元できる。

第91図より、大型畦畔状遺構間の窪地部分の土層堆積は3層に分層され、最低2～3回の削平を受けており、畑部分を徐々に削り、そこを水田として利用していたと考えられる。

C. 歴史時代第3遺構面

基本層序Ⅱ層下位の黄褐色粘質土層上面が、それにあたる。この堆積層は、Bトレンチ付近でのみ遺存しており、他は第2遺構面で検出された島畑により大半が削平されている。検出される遺構は、東西、及び南北方向に延びる小溝群で、畑の様相を呈しているが、その遺存状態は非常に断片的で、かろうじて一つの面として考えられる程度のものである。

D. 歴史時代第4遺構面

基本層序Ⅲ層上位の黄褐色粘質土の上面がそれにあたる。この遺構面では遺構の存在は島（畝）畑の畝部分に限られ、窪地部分では削平の影響で遺構はほとんど残存しない。畝部分での遺構の遺存状況は、あまり良いとはいえないが、それでも小溝や多数の柱穴を検出しており、かろうじて数棟の掘立柱建物と柵を推定復元できる状況である。

a. 遺構

検出状況は第95・96図でも分かる様に、B調査区南側半分からC調査区にかけて多数の柱跡と小溝を検出している。

(1) 掘立柱建物

1号掘立柱建物 (R-S B-1)

B調査区の南で検出しており、R-S P-97~108より成る。2間東側に庇を有する2間×3間の東西棟建物で、柱間寸法は桁行が、R-S P-102と103間が1.7m、他は2.3mの等間隔、梁行が1.7mの等間隔で、庇までの距離は0.8mである。柱の掘り方は0.4~0.5m、柱穴の直径が0.2~0.3mである。庇部分は掘り方を残さず柱穴のみを検出している。

2号掘立柱建物 (R-S B-2)

R-S P-109~113より成る。R-S B-1の西側B調査区の隅で2間×2間を検出しているが、部分的な検出のため全体の間数・棟方向は不明である。柱間寸法は、東西が1.7m、南北が1.9mの等間隔で、柱の掘り方は0.5~0.6m、柱穴の直径は0.1~0.2mである。

3号掘立柱建物 (R-S B-3)

R-S P-114~116より成る。R-S B-2と同様B調査区隅で1間×1間を検出するのみで、全体の間数・棟方向などは不明である。柱間寸法は東西が1.5m、南北が1.75m、柱の掘り方は0.8mで、柱穴の直径は0.2mである。

4号掘立柱建物 (R-S B-4)

R-S P-52~54より成る。南北方向に3個の柱穴を検出しているだけである。柱間寸法は1~1.3m、柱の掘り方は0.4mで、柱穴の直径は0.1~0.2mである。

5号掘立柱建物 (R-S B-5)

R-S P-38~43より成る。R-S B-4の東側で、2間×2間を検出している。柱間寸法は東西が1.3m~1.6m、南北が1.4m、柱の掘り方は0.4~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

6号掘立柱建物 (R-S B-6)

R-S P-10、14、15より成る。R-S B-5の東側で1間×1間を検出している。柱間寸法は東西が2.1m、南北が1~1.2m、柱の掘り方はR-S P-14と15が0.5×0.7m他は0.4×0.5m、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

7号掘立柱建物 (R-S B-7)

R-S P-73~79より成る。R-S B-5の南側とB-4拡張区で検出しており、1間×3間の東西棟建物であると推定される。柱間寸法は桁行が0.8~1m、梁行が西側は1.5m、柱の掘り方は0.3~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

8号掘立柱建物 (R-S B-8)

R-S B-7の周囲を取り巻く状態で検出しており、R-S P-64~72より成る。2間×3間の東西棟建物と推定される。柱間寸法は桁行が0.9~1.5m、梁行が西側は1.5mの等間隔、東側はR-S P-64と65の間が1.9m、R-S P-65と66の間が1.4mである。柱の掘り方は0.5~0.6mで、柱穴の直径は0.15~0.2mである。

(2) 掘跡

1号掘 (R-S A-1)

R-S P-33~36より成る。R-S B-4・5の北側、東西方向の掘で長さ約6mを検出している。全体の間数は不明であるが、更に西へ伸びる可能性がある。柱間寸法は1.4~3.3m、柱の掘り方はR-S P-33が0.35m他は0.5mで、柱穴の直径は0.1~0.15mである。

2号掘 (R-S A-2)

R-S P-90~93より成る。東西方向の掘で、検出長は約3mである。調査区隅での検出のため全体の間数は不明である。柱間寸法は1.2mで、R-S P-90が91を切り込んでいる。柱の掘り方は0.35~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.35mである。

3号掘 (R-S A-3)

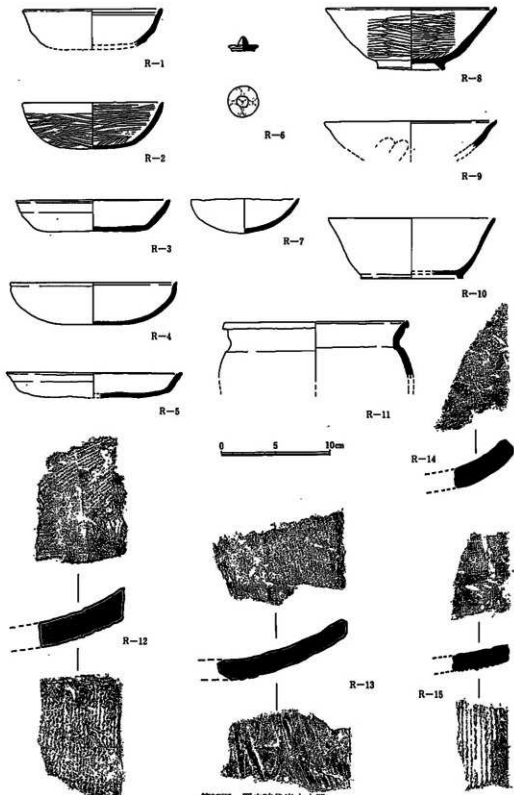
R-S P-128・129・130・133・135より成る。東西方向の掘で、検出長は約5.5mである。柱間寸法はR-S P-133と135の間が1.9m、他は1.1m~1.4mである。柱の掘り方は0.35~0.5mで、柱穴の直径は0.15~0.25mである。

4号掘 (R-S A-4)

C-1拡張区の西隅で検出しており、R-S P-196~198より成る。南北方向の掘で、検出長は約3.3mである。柱間寸法は0.9~1.1m、柱の掘り方は0.35mで、柱穴の直径は0.1mである。

b. 小結

建物群の分布は、B調査区中央付近より南にその範囲が推定でき、北側へ拡がることは遺物の出土状況から考えても、あまりないものと推定される。むしろこの地域では水田や或いは荒地等、他の土地状況が考えられる。建物群は、B・C調査区の更に南へ分布を拡げるものと考えられ、その範囲の南限は、久宝寺南遺跡その2の調査区に求めることができるであろう。遺構内からは、土師器・須恵器などが出土しており、これらの出土遺物からB・C調査区においては、その時期を平安時代全般と考えている。



第97图 历史时代出土土器

表6 歴史時代遺物観察表

土器番号	器形	出土地点・遺構	法量 (cm)	形態の特徴	成形・調整	胎土・色調	備考
R-1	土師器杯	B区 R-S D-8	口径 13.0 器高 3.4	平底で、体部は内周しながら外上方に伸び、口縁部は丸みを持って終わる。	外面は板状工具による回転ヨコナデ。底部にかけては指押さえて成形後、ナデを施す。内面は口縁部底部とも回転のヨコナデ。	・胎土 白色砂粒を少量含む。 ・外面 褐色 ・内面 灰黄色	破片
R-2	黒色土師器杯	B区 R-S D-8	口径 13.1 器高 4.3	平らな底部をもち、体部は口縁にかけて内周しながら立ち上がり、口縁部は丸く終わる。	外面はヘラケズリを全体に施した後、ヨコ方内のヘラミガキを丁寧に施す。口縁部はナデを施す。	・胎土 白色砂粒を少量含む。 ・外面 茶褐色 ・内面 黒色	破片
R-3	土師器杯	B-4' 区 R-S P-34	口径 14.4 器高 3.0	平底で、体部は内周しながら立ち上がり、口縁部は丸みを持つ。	内外面とも口縁部は、ヨコナデを施し、底部は指押さえを施す。	・胎土 青褐色 ・外面 褐色 ・内面 褐色	口縁部と外面に施された比喩(4条)
R-4	土師器杯	B区 R-S D-8	口径 15.6 器高 3.9	平底で、体部は丸みを持ちながら内周し、口縁部は丸く終わる。	内外面とも指押さえた後ナデを施す。	・胎土 白色砂粒及び白色小石を少量含む ・外面 灰黄色 ・内面 灰黄色	口縁部内面に施された比喩(1条)
R-5	土師器杯	B-2区	口径 16.4 器高 2.4	平底で、体部は口縁に向け直線的に伸び、口縁部は、やや外反し丸く終わる。	底部は、内外面とも指押さえた後、ナデを施す。口縁部は、ナデを施す。	・胎土 青褐色 ・外面 淡黄褐色 ・内面 黄灰色	口縁部内面に施された比喩
R-6	土師黄二重器	C区 P-b層	口径 2.8 器高 1.3	平らな外面の上に断面が三角形に近い意味がある。底部は外面より径が小さくなっている。	外面に指押さえが施される。	・胎土 青黄色 ・外面 黄褐色	二重陶器で胎土と黄褐色が2層ずつ交互にある。
R-7	土師器蓋	B-4区	口径 10.0 器高 3.2	丸底で体部は扁平で、丸く、口縁は、丸く自然に終わっている。	内外面とも指押さえによって成形する。	・胎土 青 ・外面 ぶい褐色 ・内面 ぶい褐色	
R-8	黒色土師器	B区	口径 16.0 底部径 5.2 器高 5.7	平らな底部から上方外方に伸びる体部。口縁部は立ち気味で、丸みを持って終わる。底部に断面台形の高台を持つ。	外面は、全体にヘラミガキを施す。内面はヘラミガキのあとナデを施す。	・胎土 砂粒を多量に含む。 ・外面 灰色 ・内面 黒色	外面の跡は4単位
R-9	土師器杯	B-4' 区 R-S P-20	口径 16.0 残存高 2.4	口縁部は、体部から一段内周し傾部に近くと外反し、口縁部は丸く終わる。	体部は指押さえを施し、傾部内面は、施された比喩(1条)を施す。	・胎土 青褐色 ・外面 褐色 ・内面 ぶい褐色	
R-10	須恵器杯	B区 R-S P-5	口径 15.6 底部径 9.6 器高 5.7	体部は一段内周し口縁に近くにつれてゆるやかに外反する。傾部は丸く終わる。底部は板状工具により面が出されている。	内面と口縁外面は、ナデを施し、底部外面は、ヘラケズリの後、ナデを施す。	・胎土 青白色砂粒少量含む。 ・外面 灰白色 ・内面 灰白色	
R-11	土師器蓋	B-4' 区	口径 17.4 残存高 5.3	「く」の字形に外反する口縁部を持ち、口縁部は口縁部よりさらに外反し面を持つ。	口縁部に施された比喩(1条)を施す。刺痕が著しく調整は不明。	・胎土 微小の砂粒多量に含む。 ・外面 ぶい赤褐色 ・内面 淡黄褐色	
R-12	瓦	B区	厚さ 2.5		上面は布目を施し、反復いハケを施す。下面は全面に糸のタタキを施す。	・胎土 青 ・外面 淡黄色 ・内面 褐色	
R-13	瓦	B区	厚さ 1.8	傾部は一段傾め後、垂直に2段になっている。	上面は全体に布目を施し、下面は太いたたきを施す。	・胎土 青 ・外面 黄褐色 ・内面 灰黄色	
R-14	瓦	B-4' 区	厚さ 1.6	内面を取りした形になっている。	上面は全体に布目を施す。	・胎土 青白色砂粒を多量に含む。 ・上面 灰白色 ・下面 灰黄色	
R-15	瓦	C-3区	厚さ 1.4	傾部は、垂直に面を持つ。	上面は、布目を施す。下面は太いたたきを施す。	・胎土 青 ・上面 灰色 ・下面 灰色	

第IV章 A. D地区の調査

第1節 A地区の調査

1. A地区の層序

A地区は、総延長約147mあり、地表面は南端でT.P.+6.5m、北端でT.P.+7.0mを測り、比高差が約0.5mある。調査によって確認した遺構面は7枚であるが、地区全体に及ぶ遺構面は近・現代の第1遺構面と弥生時代中期後半の第4・5遺構面のみで、他の遺構面は密度も希薄で面的な広がりもさほど広くはない。

以下、基本層序の概略を上層から順に述べる。

第I層・・・地区全域を被覆する山砂の盛土層である。中にはコンクリート塊、巨石、廃材を含む箇所もある。

第II層・・・灰黄2.5Y6/2粘土層で、昭和40年代まで存在していた田畑の旧耕土層である。

第III層・・・近・現代まで存在していた、いわゆる振き揚げ田のテラス状部分の盛土と溝状部分の埋土からなる。テラス状部分は灰オリーブ5Y4/2、オリーブ褐2.5Y4/4等の粘土が主な層をなし、溝状部分は灰5Y4/1、オリーブ灰10Y4/2の粘質土である。これらの層は部分的に幾度か削平を繰り返されている。この上面が第1遺構面である。

第IV層・・・褐灰10YR5/1粘質土が主な層である。調査区北部にある古墳時代前期～後期の遺物包含層で、この下面が第2遺構面である。中央部から南部にかけてはこの層がみられず、後世の削平を受けたと考えられる。

第V層・・・褐灰10YR5/1、黄褐10YR4/2～4/4粘質土が主な層である。T.P.+5.9～6.3m付近に堆積した。層の厚さ0.4～0.6mを測り、地区中央を流れる河川-2を境に南北で様相が異なる。北半は粘質土がほぼ水平堆積しているが、中央から南側は河川-1と河川-2に挟まれているため、層の変化が著しい。この下面が第3遺構面で、水田の畦畔と足跡を検出した。

第VI層・・・浅黄5Y7/4粗砂、暗オリーブ灰2.5Y4/1シルト、オリーブ黒5Y3/1粘土、暗緑灰10G4/1シルトおよび砂の互層である。T.P.+5.4m～5.6m付近に堆積した厚さ0.8～1.0mの粘土・砂・シルト層等の層群で、時期不明の土器細片をわずかに検出した。

第VII層・・・緑灰5G5/1粘土、暗青灰5BG4/1シルト層である。T.P.+4.8m～5.0m付近に堆積した厚さ約0.2mの層である。

第VIII層・・・灰7.5Y4/1粘土、暗オリーブ灰2.5GY4/1粘土、浅黄5Y7/3粗砂が主な層である。T.P.+4.6m付近に堆積し、厚さ0.2～0.6mで粘土層は薄く幾層にも細分される。遺物はT.P.+4.5m付近の灰7.5Y4/1粘土層より弥生時代中期後半の土器が数点出土している。この上面が第4遺構面で、水田の可能性が指摘できよう。

第IX層・・・緑黒10G2/1粗砂、オリブ黒5GY2/1粘質土および粘土が主な層である。T.P.+3.6~4.4m付近に堆積した厚さ0.2~0.5mの層で、上面からは弥生時代中期の土器が数点出土している。この黒色系の層を除去すると遺構が検出でき（第5遺構面）、溝、小ピット、落込等がある。調査地区北半の70mは暗緑灰10G4/1、オリブ黒7.5Y3/1のシルト~粘土に連続し、非常に湧水の多い層である。

第X層・・・緑灰10GY6/1粘土、暗緑灰5G4/1粘土層である。T.P.+3.5~4.2m付近に堆積した厚さ0~0.4mほどの層である。

第XI~XIII層・・・T.P.+3.8~1.5m付近までには、さらに多くの土層が分層できるが、概ね青灰色粘土と黒色粘土の互層からなる。黒色粘土は3~4層あり、黒色粘土3の下面から鹿の足跡を検出した。黒色粘土2・3の間から河川-3を検出した。

2. 縄文時代晩期—第6~8遺構面〔付図-2、図版94~96・112〕

A地区の南端、中央、北端部の3ヶ所で3本の自然河川と、4条の溝状落込を検出した。

第6遺構面 河川-1〔付図-2(4)、図版96下〕

A地区北端部を西から東へ流れる河川である。河川の幅は北岸部が調査区外へ伸びるため、不明であるが、深さ1.3mを測る。第5遺構面を最終切り込み面とし、最下部の灰褐色有機質粘土層以外は、大半が青灰色粗砂層である。粗砂層内からは非常に磨滅した縄文土器片だけが出土している。縄文時代晩期から弥生時代中期以前のある一時期に流れていた河川と考えられる。

なお、河床の粘土上面には、鹿、人間の足跡（図版96下）が入り乱れて印されていた。これらの足跡の多くは、河川と直交する南北方向を示しており、A-1トレンチでは河川と平行するものも見られた。

第7遺構面 河川-2〔付図-2(3)、第111図、図版94・96・112〕

A地区中央部を南から北へ流れる縄文時代晩期の河川で、最大幅約30m、深さ約4mを測る。埋土は砂が厚く堆積し、中央部が盛り上がり、両岸近くではシルトから粘土へ漸次変化していた。河川-2は、黒色粘土1・2上面からと、第XI層上面から切り込まれており、さらに土層断面から少なくとも4時期以上にわたって流れていたようである。

河川-2から出土した縄文土器は、バスケットに約1杯とわずかなものであるが、その所属時期は幅広く、前期から晩期のものまで含まれている。上流から流されてきたものと思われ、土器片の角も丸く磨滅している。弥生土器や石器等は出土していない。

第111図1・2・6・10は、前期北白川下層式のもので、2はL-R、R-Lの具原体による羽状縄文が施され、10は波状口縁をもつ深鉢でC字形3型爪形文を施している。9は中期末~後期の深鉢、5は晩期遊里Ⅱ式の浅鉢、3・4・7・8は遊里Ⅲ式の深鉢、11は長原式の深鉢である。他に、北白川上層式や宮滝式の土器片も出土している。

第8遺構面 河川-3〔付図-2(4)、第111図、図版95下〕

A地区南端のj-3区にあり、南から北へ流れる河川とそれに連なる落込の一部を含む。A地区では最も古い河川である。黒色粘土2と黒色粘土3の間層の青灰色粘土層から切り込み、幅約4m、深さ約0.4mを測る。埋土は、下層に濁青灰色粗砂、上層に青緑灰色粘土まじり粗砂が堆積していた。この河川は、A地区よりさらに南にある本流の一支流とみられる。

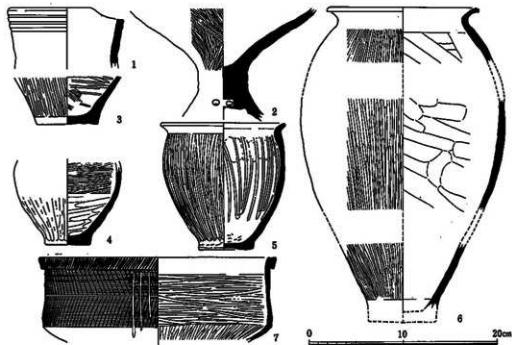
出土遺物は、第111図12、13で縄文時代晩期濫竇里Ⅲ式に比定されるものである。いずれも、土器表面の保存は良く磨滅はしていない。河川-1・2出土の磨滅した土器とは様相が異なる。

溝状落込〔付図-2(2)、図版97下〕

A地区南半、河川-2の南側で黒色粘土2の下面から4条検出した。南東から北西方向に伸び、幅0.3~0.6m、深さ0.1~0.2mを測り。埋土は上層と同一の黒色粘土が堆積していた。遺物は出土していない。

3. 弥生時代中期-第5遺構面〔付図-3(1)~(7)、第98図、図版97~100〕

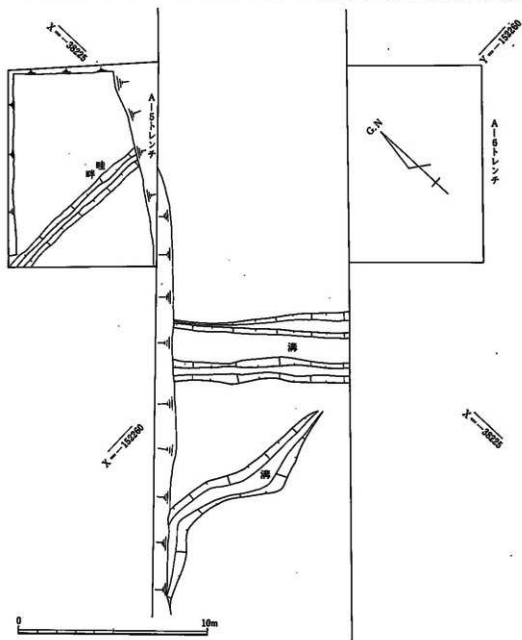
本遺構面は、黒色~暗灰色粘土および砂層の遺物包含層下、黄褐色砂~青灰色土層上面で検出された。小溝、ピット、小土壇等が主な遺構である。遺物は第98図2・6が包含層から出土した主要な土器で、出土量は極めて少ない。



第98図 第5・4遺構面出土土器実測図

溝〔付図-3(1)~(4)・(6)・(7)、第98図〕

溝はA地区全域で10数条を検出した。溝の規模は大小様々で、大半のものは幅約50cm、深さ約20cm前後で、長さも10m以下のものが多い。幅の広い溝はf、g-8、9区とi、j-4区の2ヶ所に集中し10条ほど検出されている。埋土は主に黒色土・暗灰色粘土層である。他に、溝-5(図版98上)、10(図版97上)~14には一部黒色粘土がレンズ状に堆積していた。主な出土遺物は、溝-3から第98図7の鉢が、溝-4から第98図1の水差しが出土しているが、量的には極めて少な



第99図 第3遺構面畦畔・溝実測図

い。

南半では、ピットの多い所にも溝が多く認められるが、A地区北部に行くにつれ、遺構も希薄になる。

小ピット群〔付図-3 (1)・(2)、図版100上〕

直径20~30cm、深さ5~20cmを測り、埋土は黒灰色粘質土や暗灰色粘土である。ピットの集中している地区は、e-8 とj-6 区の2ヶ所とその付近であるが、建物等には復元できなかった。また、他の地区からもピットを散発的に検出している。

ピットから遺物は出土していない。

その他、A地区で検出した遺構は、h-6区を中心に、一辺60~100cm、深さ5~10cmの浅い不定形な土壇(図版100下)を10数基検出している。埋土は、黒灰色粘土である。遺物は出土していない。

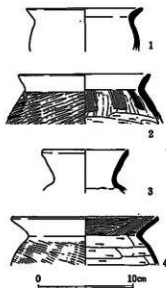
4. 弥生時代中期-第4遺構面〔付図-4、第98図、図版99・101・102〕

本遺構面は、T.P.+3.6m~4.5mと起伏に富む灰色系の軟弱な粘質土上面に認められた。主な遺構は、溝9条、畦畔4条で、畦畔-3を除いては南半部に集中している。

畦畔-1~4〔付図-4 (1)~(3)、図版102〕

畦畔-1(図版102下)は、A-6トレンチで検出し、幅約1m、高さ20~30cm、検出長4mを測り、南北方向に伸びる。畦畔-2(図版102上)は、A-5トレンチで検出し、幅1.3m、高さ25cm、検出長4.5mを測り、畦畔-1と平行する。畦畔-3は、Aトレンチ北端部、およびA-2トレンチで検出し、幅1~1.3m、高さ30cm、検出長5mを測り、北西-南東方向に伸びる。畦畔-4は、Aトレンチg.h-6.7区で検出し、幅約2m、高さ20cm、検出長9.5mを測り、畦畔-3と平行する。

以上の畦畔からは、遺物はほとんど出土せず、A-2トレンチの本田の耕土と思われる暗青灰色粘土からは、瓦(第98図4・5)が出土している。

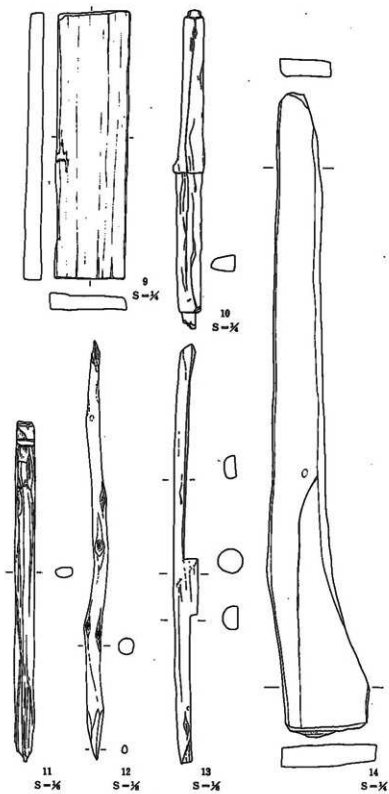


第100図 第3・2遺構面
出土土器実測図

溝-1〔付図-4 (2)・(5)〕

Aトレンチ南端およびA-10トレンチで検出し、幅30~80cm、深さ20cm、検出長16mで、北北西-南南東へゆるやかに弧を描いている。埋土は、暗灰色粘土である。遺物は出土していない。

溝-2〔付図-4 (2)、図版99下・101上〕



第101图 第3・2遺跡面出土木器尖測図

Aトレンチg-6区およびA-7トレンチで検出し、幅30~50ca、深さ約15ca、長さ18mを測り、北西-南東に伸びる。遺物は出土していない。

溝-3〔付図-4(2)・(4)、図版99下・101上〕

Aトレンチg.h-6.7区およびA-7、A-8トレンチで検出し、畦畔-4に平行する。幅0.8~1.0m、深さ0.4~0.6m、検出長23.5mを測る。溝の西側には一部堤状の箇所があり、溝底は南東部分が高くなる。遺物は、第98図3の底部が出土し、他に体部破片がある。

溝-4〔付図-4(2)、図版99下・101上〕

Aトレンチg-6区で検出し、幅30~40ca、深さ15ca、長さ1.2mを測る。この溝は溝-3とh.i-6区の小な窪地を連結する機能を有していたのかもしれない。

以上の溝の埋土は、主に暗灰色粘土である。

溝-5〔付図-4(2)、図版99下〕

A-7トレンチで検出し、幅1.3~1.5m、深さ30~50ca、検出長10mを測り、西北西-東南東に伸び、断面浅いU字形の溝である。埋土は暗灰色系の粘土である。遺物は出土していない。

溝-6〔付図-4(2)、図版99下〕

A-7トレンチで検出し、幅30~40ca、深さ30ca、長さ8mを測り、溝-5の北側にあり、埋土も同様の暗灰色系の粘土である。遺物は出土していない。

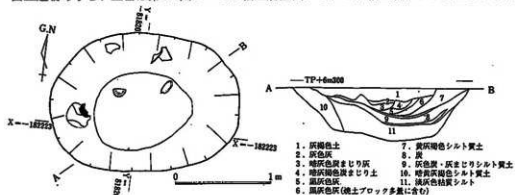
溝-7〔付図-4(2)〕

A-5トレンチで検出し、黒灰色粘土上面に掘り込まれている。幅約20ca、深さ10ca、長さ1.8mの断面U字形の東西方向に伸びる小溝である。他に小溝が2条認められた。

5. 古墳時代前期-第3遺構面〔付図-5(2)・(3)、第100・101図〕

A-3トレンチ部中央の粘土層上面(T.P.+5.5m)に残された人間の足跡とA-5トレンチで検出した幅1m、高さ4ca、検出長8mの南北方向の1条の畦畔およびAトレンチf.g-6.7区の溝2条がある。

出土遺物のうち、土器は第100図1・2が粘土層上面から、3が粘土層中から出土し、木器に



第102図 第2遺構面落込-3(伊跡-1)平面・土層断面図

は第101図9～11、13、14の柱等の建築部材が粘土層上面から出土している。

6. 古墳時代後期一第2遺構面〔付図-5(1)・(4)、図版103～110〕

A地区北端部と中央部の、T.P.+5.8～6.1mから検出した遺構は、主に近世～現代に削平を受けたため浅いものが多い。そのため遺構を検出できなかった地区は後世の削平を受け消滅したとも考えられる。検出した遺構は、溝数条、ピット数10基、炉跡1基等である。

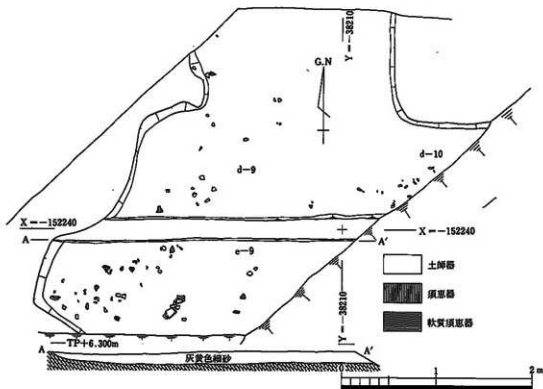
なお、第2遺構面～第3遺構面の間に河川-1、2、3が認められ、河川-2にはシガラミ、河川-1の埋土および埋没後の落込から多量の遺物が出土している。

溝-1〔第119図、図版106下・125〕

Aトレンチ部北端で検出し、幅1.0～1.5m、深さ約25cm、長さ15m以上のゆるく弧を描く東西溝で、東部の溝底が低くなる。断面は皿状で、埋土は灰色系の粘土や砂混じり土がレンズ状に堆積していた。出土遺物は、第119図1・5・8(図版125-1)の須恵器等がある。

溝-2

Aトレンチb.c-2.3区で検出し、幅1.3m、深さ20cm、検出長9mで、ゆるく弧を描き、北東-南東に伸びる。断面は逆台形で、埋土は褐色粘質シルト層である。



第103図 第2遺構面 落込-2 遺物出土状況平面・土層断面実測図

出土遺物には、須恵器の蓋杯がある。

落込-3 (炉跡-1) [付図-5 (4)、第102・119図、図版105下、124・125]

Aトレンチb-3区で検出し、長さ2.0m、幅1.5m、深さ60cmの落込である。炉跡はこの落込の中に設けられている。炉跡は、長さ1.3m、幅1.0m、深さ20cmのほぼ長方形の堀形に1段のステップをもうけ、下半部は断面U字形に深くなる。埋土は、灰色系土、砂質土と灰層、焼土ブロックで炭を多量に含んでいる。

出土遺物は、ステップから土師器高杯、甕片が、他から第119図2・7・12 (図版125-2・7)の須恵器、第119図13 (図版124-13)の土師器等が出土している。

なお、短辺の西側に1個の浅いピットがあるが、炉跡に伴うのかどうか不明である。

落込-2 [付図-5 (4)、第103・113・114図、図版107上・114・117]

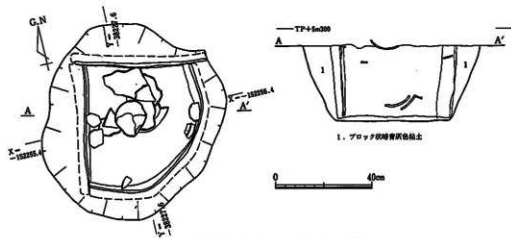
Aトレンチc.d-9区で検出し、東西3m、南北3mを測り、深さ10cm足らずの不定形の落込である。埋土は灰黄色細砂である。

出土遺物は、土師器甕、高杯、須恵器杯身等が出土している。落込内の遺物は細~小片が多く、完形品に復元しうるものはなかった。

なお、落込-2付近からA-5トレンチにかけて、第113図1・2・4・6・9・11~18・20・21 (図版114-1・2・4・6・16・17・20・21、図版117-9・11~15・18)の土器が出土しており、第113図4 (図版114-4)は瓦質の杯蓋で、第113図20・21は回転ロクロを使用した土師器である。

ピット群 [第119図、図版124・125]

直径数10cmのピットが数個~10数個集まった小ブロックが5ヶ所程散在している。埋土は主に灰褐色土~同色の砂質土で、出土遺物には土師器、須恵器片がある。ピット-6からは石製有孔



第104図 第2遺構面 井戸-1平面・断面実測図

円板も出土している。その他には、第119図3（図版125-3）・9（図版124-9）等の須恵器・土師器も出土しており、周辺からは第119図-14・15等の土師器も出土している。

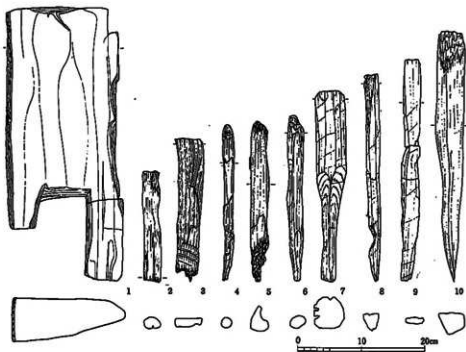
井戸-1〔第104・119図、図版105上・125〕

Aトレンチf-8区で検出した。一辺70cmの不定形の掘形内に、2枚の板材を直角に合わせて2側辺を作り、残る側は、くり抜いた丸木の割材を1/3程用いている。各部材の寸法は、板材が長さ45cm、厚さ数mm、高さ30cm足らず、割材は外側を大きく面取しているが、厚さ最大数mm、高さ4cm程しか残存していなかった。埴内からは、須恵器甕、土師器甕、小型甕（第119図10・11（図版125-11））等が出土した。掘形内の埋土はブロック状暗青灰色粘土層が一様に裏込めされ、埴内は濁黒褐色粘土層が堆積していた。

河川-1及び落込-1〔付図-5（1）、第101・105・106・114~118図、図版104・108下・109・110・115・116・120・121・127〕

A地区南端で検出し、B地区にまで拡がる幅の広い河川で、深さ約3mを測る。東西に伸びる河川の河床の中央部には数10cmの起伏が認められ、流れの激しかったことが窺われる。なお、A-10トレンチでは、下層の包含層の大半が1.2m程1段深く抉られ、流失していた。

埋土は、明黄褐10YR6/8粗砂、黄褐2.5Y5/6微砂、オリブ褐2.5Y4/3細砂が主に堆積し、間

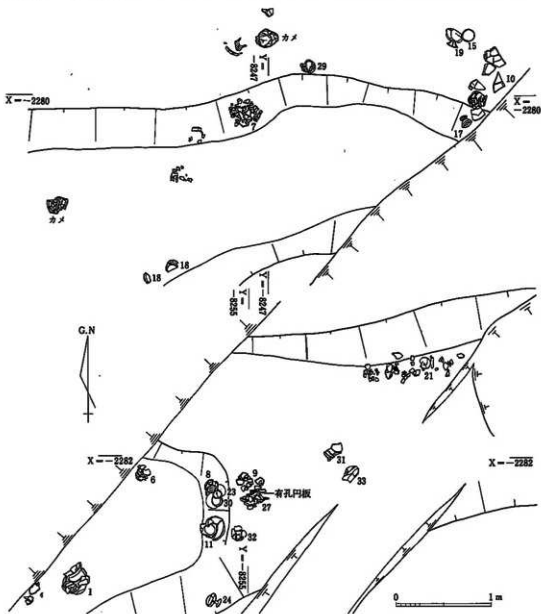


第106図 第2遺構河川-1出土木器実測図

層に薄い粘土が数層挟まれていた。断面観察では、数層の地積の違いが見られ、古墳時代前期～後期に流れていたものであろう。その初源は古墳時代前期にさかのぼる可能性もある。しかし、最終面は、河川-3よりも新しく、河川-2よりも後出のものである。

出土遺物には、第114図1（図版115-1）・2・3、第115図4～32（図版116-2・7、図版122-9・10・16～21・30）、第116図33・34（図版127-33）等の須恵器、土師器がある。

なお、河川-1の最終時の落込-1からは、完形に近い土器第116図1～5、第117図1～11、118図12～23、（図版119-1～4、7・8、図版120-10・21～24・28・29、図版121-12～18・



第106図 第2 遺溝面落込-1（河川-1 堰没後）土器出土状況実測図

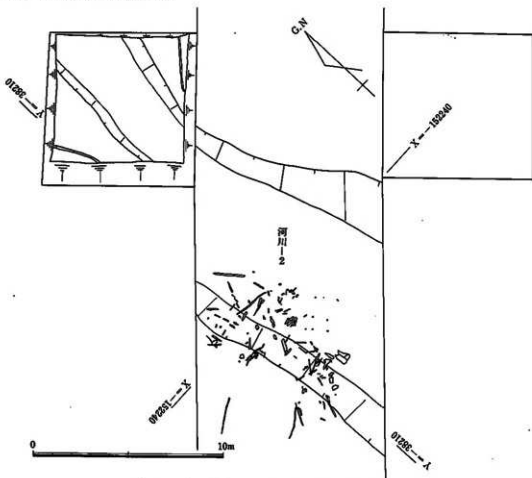
20・21) が出土し、なかには、赤色顔料を塗布したものもある。木器では、第101図-12の杭、第105図等の柱(1)、杭(2~10)が出土している。その他には、土製の有孔円板や土鏝等も出土している。第116図-1のように平底のものもあり、注意をひく。

河川-2〔第107~110・112図、図版103・110・113〕

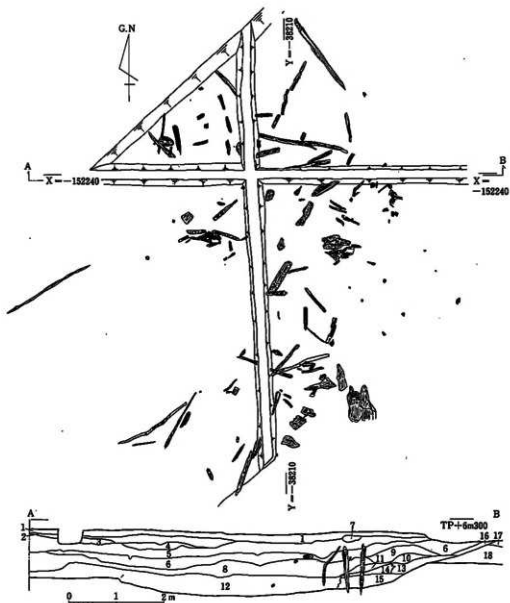
本河川は、Aトレンチ中央部を南北方向に走り、幅約10m、深さ約1mを測る。西側肩部には、無数に割材を打ち込んだ杭群がある。それらは、欠損したり、浮き上がり横倒しになったものが多く、2mを超えるものが3本ある。他は1m内外のものが大半を占める。また、この流路の一部が、A-3トレンチの砂層の堆積の一部に連なるものと思われる。

出土した主な土器は、第112図5~9(図版110-7、図版113-9)の土師器等があり、須恵器は出土していない。木器には、第109・110図のうち、河川内からは、樋の子、わづみ返し等(2・5・6)が出土し、周辺の青灰色粘土層中や上面からは、容器、建築部材等(1・3・4・7・8)が出土している。

河川-3〔第112図、図版113〕



第107図 第2遺構面河川-2と杭群平面実測図(1)



- | | |
|---|---------------------------------|
| 1. 黄褐色 7.5YR 粘砂 | 11. 明黄褐色黄灰色
10YRと10BG 互層砂の互層 |
| 2. 黄褐色 7.5YR シルト～微砂 | 12. 暗灰色 N 3 粘黄微砂～シルト層 |
| 3. 暗緑灰色 10GY シルト | 13. 暗青灰色 5BG シルト層 (粘土に近い) |
| 4. 灰白色 10Y 微砂 | 14. 明黄褐色 10Y 粗～中砂 |
| 5. 暗灰色 10Y シルト層 | 15. 暗灰黄色 2.5Y 粗～中砂 |
| 6. 暗灰色 10Y 上層シルトと(黄褐色)10YR 互層砂の互層 植物遺体層 | 16. 褐色 10Y 微砂(泥炭あり) |
| 7. 灰色 7.5YR 微砂 | 17. 濃い黄褐色
10YR 粘砂(砂礫) |
| 8. 灰色 N 4 シルト層(明黄褐色2.5Y の細砂少量含む) | 18. 明黄褐色 10YR 粗砂～中砂 |
| 9. 灰白色 7.5YR 微砂 | |
| 10. 灰白色 10YR 13のブロック含む | |

第108図 第2遺構面河川—2と枕群平面・断面実測図(2)

河川-1と河川-2の間で検出し、幅2.6m、深さ80cm余りである。北西-南東方向に伸び、断面は逆台形を呈する。埋土の粗砂中からは、土師器片、第112図1~3、(図版113-1・2)が出土し、粘土中からは同図-4が出土している。

7. 近世～現代-第1遺構面〔付図-6(1)・(2)、第120図、図版111〕

現地表下40cm付近にあり、A地区北半部の標高はT.P.+6.5m、同南半部の標高はT.P.+6.0mを測り、南へやや低くなる。盛土、旧耕土を除去すると、東西に伸びる幅20~40cmの小溝数条と6~8mの大規模な畝と一段深く掘り下げた面が交互に連続している。地区に点在する井戸はいずれも新しく、コンクリート枠、木製枠、瓦枠等の井戸で、井戸内には種々雑多なゴミが投げ棄てられていた。おおよそ、第1遺構面の主な遺構は以上のようなもので、近世～現代の農耕地に関するものであった。

出土遺物は、陶磁器と整地の際に紛れこんだ下層(第2遺構面)の遺物、第120図-16・18・20・22・23・26・28・29・36等である。

<坪境溝>〔付図-6(1)・(2)、図版111〕

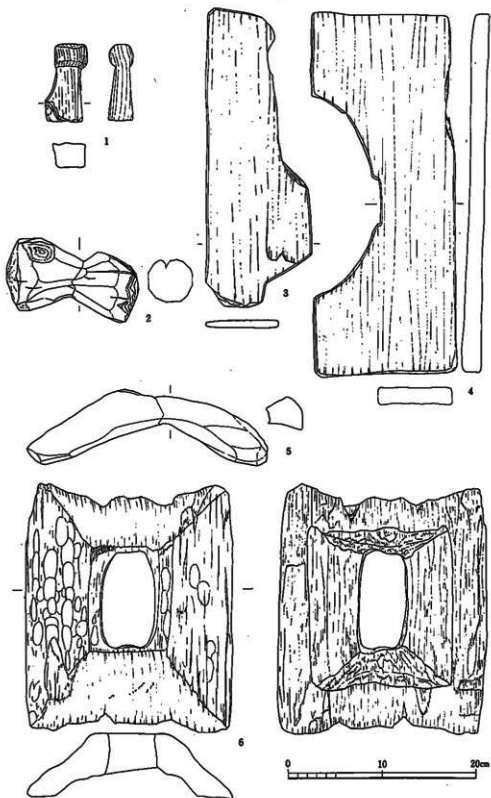
A地区南端で現在の水路と重複して東西方向に流れる幅2.2m、深さ80cmを測る溝である。現在の水路より南へ4mの所にも古い水路がある。土層断面からは、現在の水路を含めて4条の水路が観察されたが、現水路の規模と大差はなく、深さも最大50cm程度のものである。

水路の埋土からは、若干の近世陶磁器片が出土している。

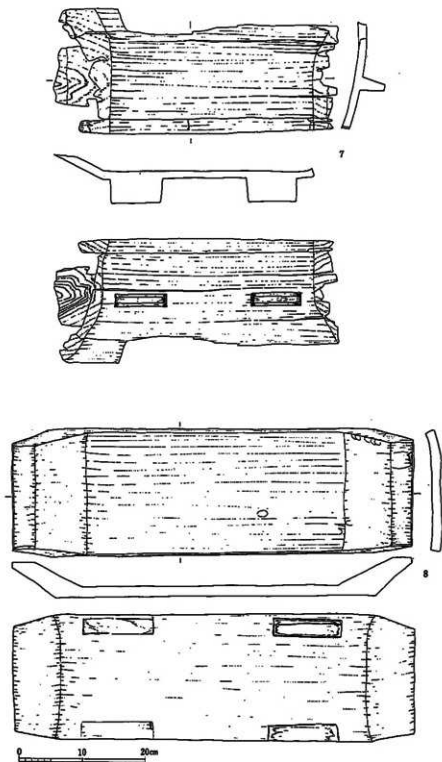
<畝状遺構>〔付図-6(1)・(2)〕

A地区全域で、東西方向に幅6~8mのテラス状遺構と溝状遺構が連続して交互に検出された。畝は20cm前後の盛土を幾度となく繰り返し、徐々に高くなったことが窺われる。畝の両側部には幅20~40cm、深さ10~30cmの小溝が数条ずつ検出された。畝の拡張、自然流失、溝を掘り下げた、時点等には、再度前述の小溝を掘り直し、田畑に利用したものであろう。

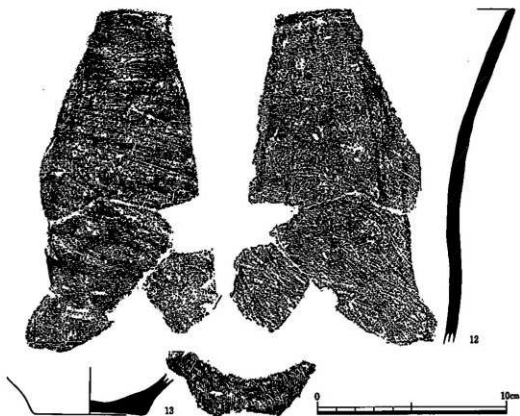
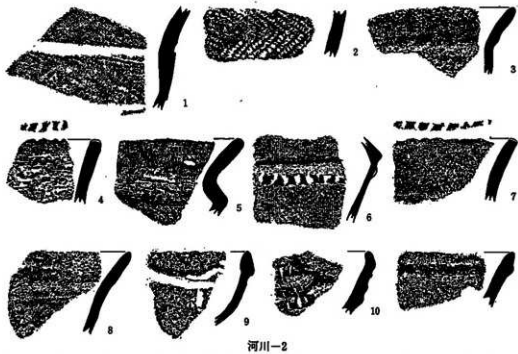
出土遺物は、A-4トレンチの東西溝内から出土した伊万里焼の草花文の小皿の他、近世、近代の陶磁器、瓦類等がA地区全域から出土している。



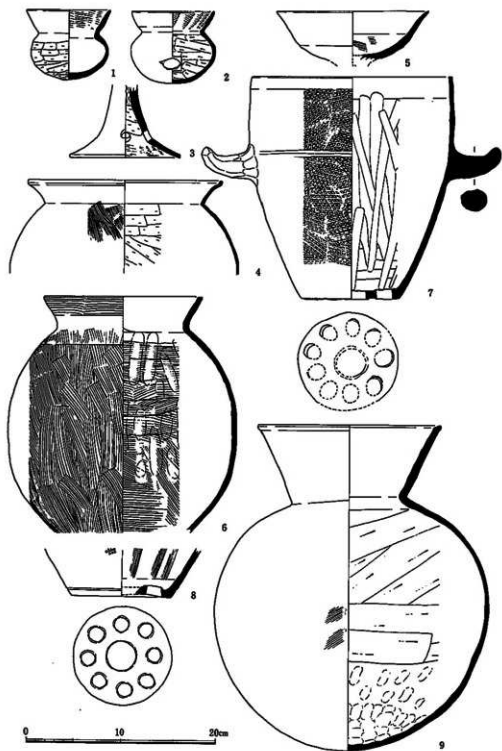
第109图 第2遺構面河川-2出土木器夹面图



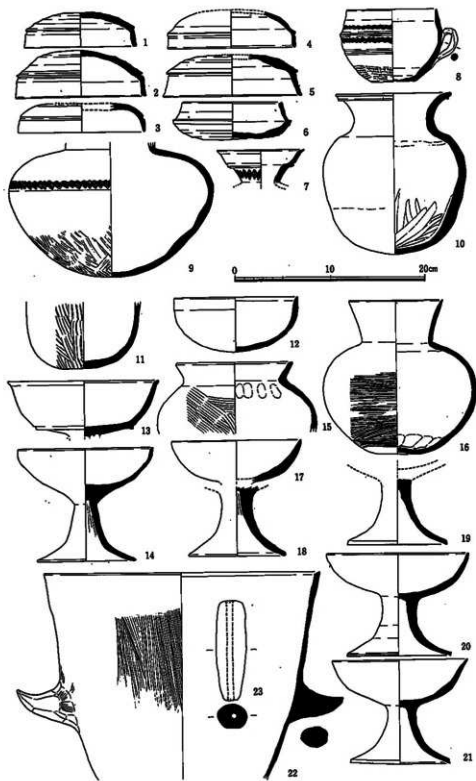
第110图 第2遺構面河川-2出土木器実測図



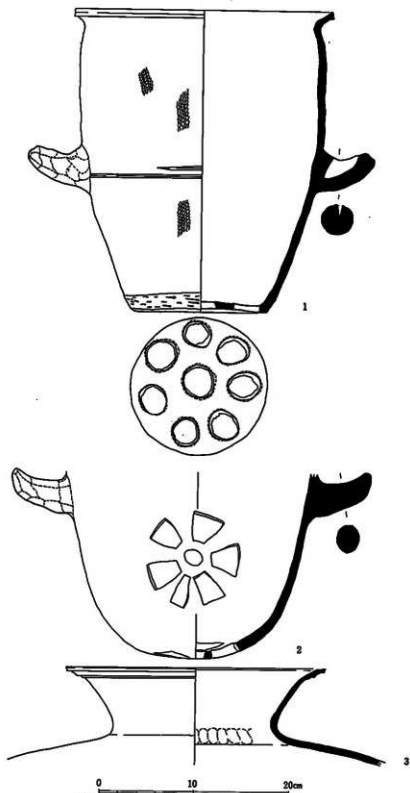
第1111図 弥生時代中期以前の遺構面河川-2・3 出土土器実測図



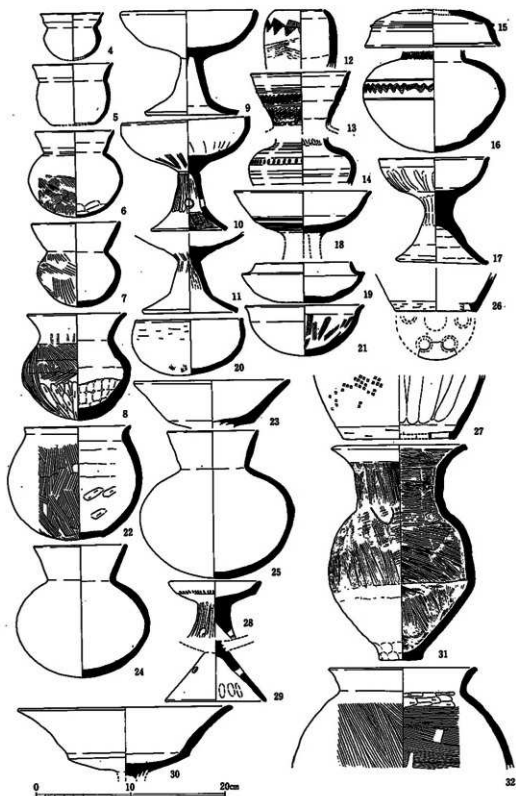
第112圖 古墳時代第2 遠樹面粘土層・河川-2・3出土土器実測図



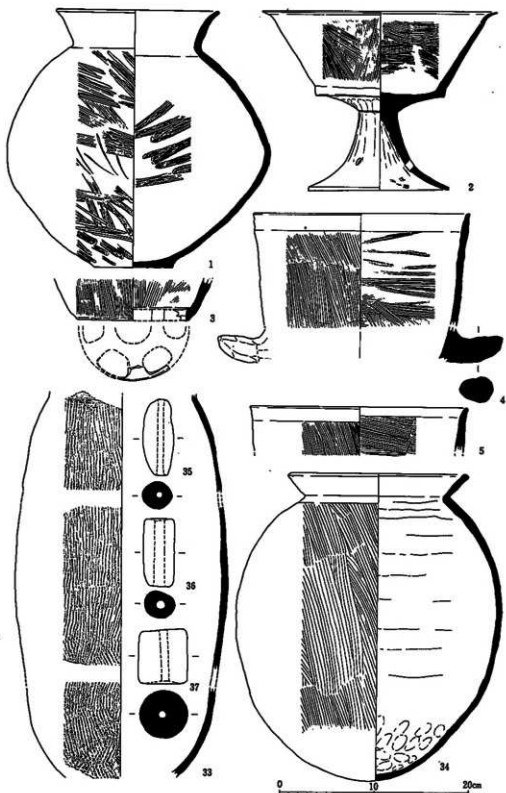
第118図 Aトレンチ・A-5トレンチ第2遺構面出土土器実測図



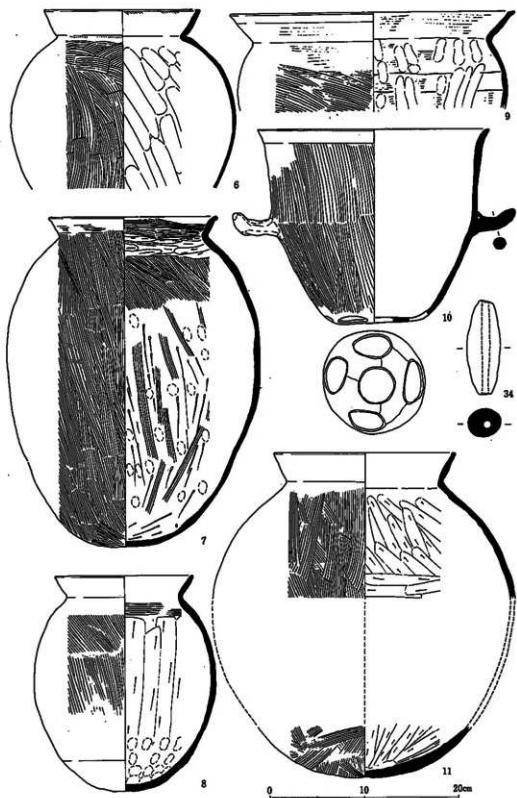
第114图 第2遺跡面河川-1出土土器実測图-(1)



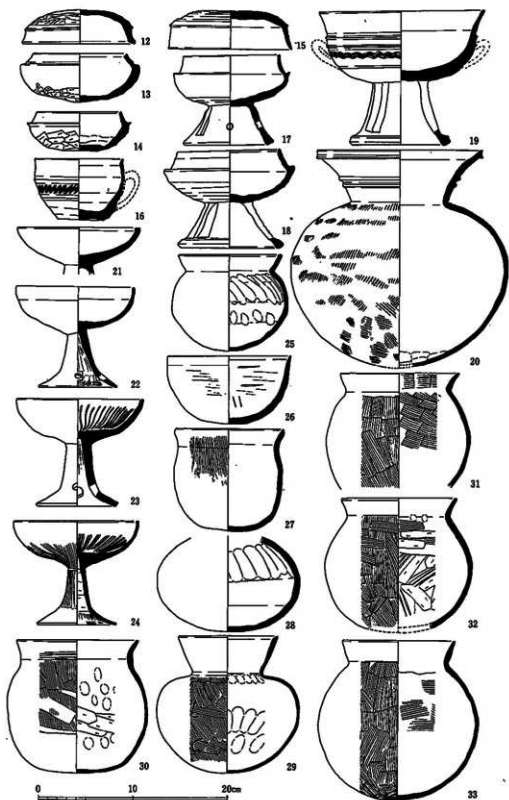
第115圖 第2遺構面河川-1出土土器実測図-(2)



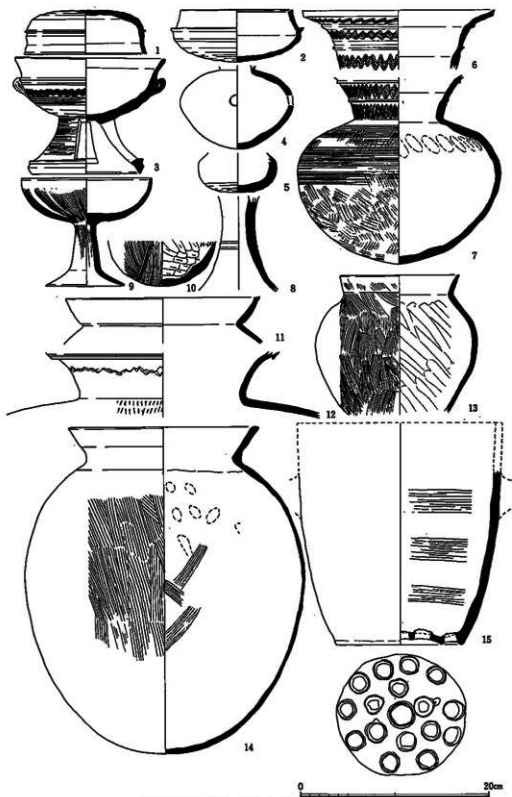
第1168图 第2遺構面河川-1・落込-1出土土器実測図



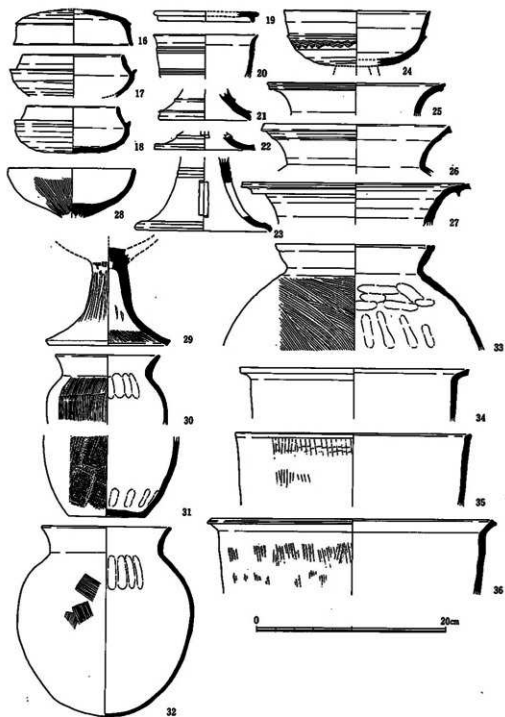
第117图 第2透模面落込-1出土土器実測图-(1)



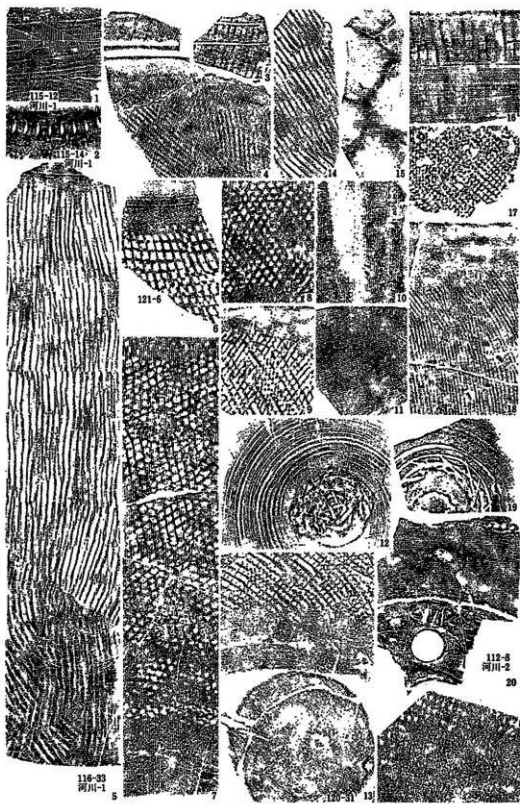
第118图 第2 透栉而落达-1 出土土器实测图-(2)



第119图 第2 遺跡面遺構・包含層出土土器実測図



第120图 第2 透模面・第1 透模面出土土器实测图



第121图 出土器局部拓影

7表 A地区土器観察表(その2)

図号	遺物 番号	種類	高さ	口径	口径	底径	容量・形状の特徴	色	胎土	土質	備考	
11	11	鉢	132				体部外面に一部黒いハナメが混る。内面ナツ。 内外面ともに割線している。	2.57D/4	肌0.5~2.5 mの砂粒小石 非常に多く含む。	硬	良好	土器
12	117 15	鉢	130				口縁部外面ヨコナツ。内面不明。 体部内外面不明。	107B/3 ~2/4	肌0.1~0.5 m位の砂粒を 多く含む。	硬	良好	土器
13	117 13	高杯の 杯部	161 60				口縁部内面ヨコナツ。 杯部内面ヨコナツ。内面ナツ。	57B/4	肌。1m位の 砂粒が多量に 多い。	硬	良好	土器
14	117 11	高杯	143 120	104			杯部、脚部外縁割線のため不明。 口縁部内面磨り丸えのあとヨコナツ。杯部内面割線のため不明。	2.57D/4	肌0.2~2.5 mの砂粒、小 石を少し含む。	やや 軟	良好	土器
15	114 21	高杯	130 108				口縁部外面ヨコナツ。内面ナツ。 体部上半部外面一部黒いハナメ。内面ナツ。	107B/2	肌0.5~3m の砂粒小石を 非常に多く含む。	硬 やや 軟	良好	土器
16	114 21	高杯	100 163				外口縁部から体部上半部、内面ヨコナツ。 外口縁部中央部ヨコナツ方向のハナメ割線。下半部ナツ。内面体部中央部 ヨコナツ方向のナツ。下半部磨り丸えのナツ。底部は大きく凹む。	2.57B/3	肌。磨り較多 を含む。	硬	良好	土器
17	114 19	高杯の 杯部	196				杯部外縁割線のため不明。一部にナツ。内面割線のため不明	107B/2	肌。0.5 m以 下の砂粒を中 量含む。	硬	良好	全面磨り丸 土器
18	117 10	高杯の 脚部	106 60	102			脚部外縁割線のため不明。内面上半部縦目。中央部不明。下半部ヨコ ナツ。	107B/3	肌。0.5~0.3 mの砂粒を 中量含む。	硬	良好	土器
19	117 10	高杯の 杯部	106 60				脚部内面上半部、中央部、表面割線激しい。脚部底ヨコナツ。内面上 半部ヨコナツ。下半部割線激しい。	57B/4	肌。1 m位の 砂粒、タマリ 较多し。	硬	良好	土器
20	114 23	高杯	152 110	108 111			杯部、脚部外面、内面ともワタロ使用?のヨコナツ。 杯部底面内面同心円状に波線がゆるぎ(工具の痕跡)。	2.57B/2	肌。砂粒含む	やや 軟	良好	土器
21	114 24	高杯	148 111	106 106			杯部外面ヨコナツ。内面ヨコナツ。脚部外面上半部ヨコナツ。下半部 ヨコナツ。内面上半部磨り丸えのあとナツ。下半部ヨコナツ。ワタロ 使用?	2.57D/2	肌0.1~0.4 mの砂粒、タ マリ较多し。	硬 不良	良好	土器
22	117 15	高杯	202				体部下半部外面ヨコナツ。内面ヨコナツのあとハナメ、ヨコハナ。 底部内面黒いハナメ。	2.57D/2	肌。砂粒を多 量に含む。	不良 やや 軟	不良	土器
114	1	瓶	273 200				口縁部内面表面ハナメのため調査不明。先端部黒いヨコナツ。各部 内面磨り丸。内面ナツ。体部中央部外縁割線。把手部へラ状工具により 穿孔。底面穿孔1+7。	灰褐色	肌。1~2 mの砂 粒を含む。	硬	良好	土器
115	2	瓶	275 200				体部外縁下半部タナ方向のヘラケズリを激しいナツ(全体に磨滅著しく 調査不明) 下半部不定方向のナツ 内面中央部把手部ナツナツのナツ。 磨り丸え。下半部タナ方向のヘラケ。把手部磨り丸え。	2.57B/4	肌。砂粒多く 含む。	硬	良好	土器
116	3	瓶	275 103				口縁部内面ヨコナツ。 杯部外面ヨコナツ。内面上半部磨り丸えのあとヨコナツ。下半部ヨコナ ツ。	可塑性	肌。1~3 m の砂粒、小石 を少量含む。	硬	良好	土器
117	4	小瓶 丸底	66 100	60			内面ヨコナツ。	57B/8	肌。0.5 m以 下の砂粒を多 く含む。	硬 不良	不良	土器
118	5	小瓶 丸底	64 66	707			外面から内面口縁部にかけてヨコナツ。 内面体部タナ方向にナツあける。	2.57B/6	肌。1 m前後 の砂粒を中 量含む。	硬	良	土器
119	6	小瓶 丸底	64 92	100			口縁部外面から内面中央部にかけてヨコナツ。 体部外面下半部ハナメ割線(上半部はナメ方向、下半部不定方向)。 内面下半部不定方向の黒いナツ。	107B/4	肌。砂粒を多 く含む。	やや 軟	不良	土器
120	7	小瓶 丸底	60 60	60			口縁部外面ヨコナツ。体部外面黒いハナメ。 内面ハナメのナツ。	乳白色	肌。0.5 m以 下の砂粒を多 く含む。	やや 軟	不良	土器

7表 A地区土器観察表(その4)

群	定	遺	陶	注	口	体	厚	色	胎	土	質	製	備
名	号	器	器	口	径	高	径	調	土	質	成	考	
1	1	27	125	瓶の底		底径		5700/6	黄0.5~2.5	硬	良好	土器類	
			27			118							
川			28	盃台	57			7.5107/6	黄. 1~2 m	軟	良好	土器類	
					60								
川			29	盃台	106			5707/3	黄. 1 m以下	中	良好	土器類	
					64								
川			30	高杯の杯底	226			黄褐色	黄.	中	不良	土器類	
			30										
川			31	113	146	154		7.5106/3	黄0.1~0.3	良	良好	中央部中央部	
			31	331	328			~8/4	位の砂粒を	軟		コゲ付。衛生土器	
川			32		158			5706/3	黄. 1~2 m	良	土器類		
					107								
川			1	119	178	200		7.5106/2	黄. 0.2~0.5	良	土器類		
			1	1	273			~8/4	位の砂粒を	軟			
川			2	119	248	260		5706/6	黄. 砂粒を多	軟	良好	穿孔は側部、脚	
			2	2	185	140						部。杯底の部に	
川			3		200	188		2.5105/2	黄. 0.2~0.5	良	5と同様体か		
					188			~8/3	位の砂粒を	軟	土器類		
川			4		200			10710/3	黄. 0.2~1.0	良	土器類		
								~8/4	位の砂粒を	軟			
川			5		200	105		2.5105/2	黄. 0.2~0.5	良	3と同様体か		
								~8/3	位の砂粒を	軟	土器類		
川			33					7.5107/6	0.5~4 m	中	土器類		
			33										
川			34	118	130	200		黄褐色	1~2 mの砂	軟	良好	土器類	
			34	34	308								
川			6	118	160	230		30705/3	黄. 0.2~0.5	中	土器類		
			6	6							土器類		
川			7	118	180	208		10707/3	黄. 1 m以下	良	土器類		
			7	7	351						土器類		
川			8	119	144	195		7.5106/4	黄. 1~3 m	良	土器類		
			8	8	220								
川			9		300			7.5107/3	黄. 0.2~0.5	良	土器類		
								~8/4			土器類		
川			10	120	264			黄褐色	1 m以下の砂	良	土器類		
			10	30	306						土器類		
川			11		180			10706/2	黄. 1~2 m	良	土器類		
											土器類		

7表 A地区土器観察表(その5)

器名	通称	図版	図号	法	口徑	底徑	作部	形質・手法の特徴	色	胎	土	頁	焼成	備考
118	器	121	121	130	130	134	裝飾	天弁部外縁平直もヘラケズリのものもナダ。内面ヨコナダ及び下方のナダ。口縁部外面ヨコナダ、内面胎ナダ。	灰白色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
119	器	121	121	90	90	130	裝飾	底面外縁平直もヘラケズリのものもコナダ、内面ヨコナダ。たもあがり内面胎ナダ、内面胎ナダ。	灰白色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
120	器	121	121	90	90	130	裝飾	底面外縁平直もヘラケズリ、磨きナダ、内面胎ナダ。たもあがり内面胎ナダ、内面胎ナダ。	灰白色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
121	器	121	121	130	130	134	裝飾	天弁部外縁平直もヘラケズリ、内面胎ナダ。口縁部外面ヨコナダ、内面胎ナダ。	灰白色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
122	器	121	121	114	64	130	裝飾	外面胎ヘラケズリのものもコナダ。内面胎ナダ。外縁部胎文(10條)あり。	青灰色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
123	器	121	121	121	94	130	裝飾	外縁胎上半部から口縁内面にかけて胎ナダ。外縁胎下半部ヘラケズリ。外縁胎ヨコナダ、内面胎胎線平直のものもナダ。	灰褐色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
124	器	121	121	112	100	130	裝飾	外縁口縁部から内面にかけて胎ナダ。外縁胎下半部胎ヘラケズリ、杯胎胎線胎心部ナダ。内面胎ヨコナダ。	灰褐色～赤灰色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
125	器	121	121	174	142	130	裝飾	外縁胎上半部胎ナダ、下半部胎ヘラケズリ。内面胎胎ナダ。胎線胎線平直のものも胎ナダ。	灰白色	胎	硬	良	灰胎	
			122											
126	器	121	121	170	230	130	裝飾	外縁口縁部平直もヘラケズリ。外縁口縁部から内面にかけてヨコナダ、内面胎胎ナダ(胎、又は工具)。	灰	胎	硬	良	灰胎	
			122											
127	器	121	121	130		130	裝飾	杯胎内外面胎線割離のため胎線不明。口縁部内面ヨコナダ。	乳白色	胎	中	軟	土胎	
			122											
128	器	121	121	130		130	裝飾	胎線外縁胎線が強く不明、上半部ハケ一部胎。内面上半部胎目、下半部ハケ、胎線平直。杯胎内外面胎線が強く不明、外縁上半部ハケ一部胎。口縁部外縁ヨコナダ。	7.5YR/3	胎	硬	良	土胎	
			122											
129	器	121	121	132	114	130	裝飾	胎線外縁上半部ヘラケズリ工具による胎線、下半部ナダ。内面上半部胎目、下半部胎線胎目。杯胎外縁ヨコナダ、内面胎線ヨコナダのものも胎線胎目ナダ。	白色	胎	中	軟	土胎	
			122											
130	器	121	121	130	84	130	裝飾	胎線外縁上半部胎ナダのヘラミガキ、下半部胎ナダ。内面上半部ヘラケズリ、中央部胎線工具による胎線、下部ハケ目の上から胎線平直杯胎下半部外縁下から上方へのハケ目、内面胎線方向の胎線ヘラミガキ。	乳白色	胎	中	軟	土胎	→口縁部内面胎ヨコナダ。土胎
			122											
131	器	121	121	100	102	131	裝飾	杯胎外縁ナダ、内面胎線ナダ。口縁部外内面ヨコナダ。	暗灰褐色	胎	不	良	土胎	
			122											
132	器	121	121	130	73	130	裝飾	杯胎内外面ナダ、胎線のため不明。口縁部内面ヨコナダ。	7.5YR/3 ~ 4	胎	中	軟	土胎	
			122											
133	器	121	121	115	110	130	裝飾	杯胎外縁下半部胎線が強く不明、上半部胎ナダの強いヘラミガキ調杯胎内外縁胎線が強く不明。口縁部胎線胎線が強く不明。口縁部胎線胎線が強く不明。	2.5YR/3	胎	硬	良	土胎	
			122											
134	器	121	121	130	130	130	裝飾	杯胎外縁胎線割離のため不明。内面上半部胎ナダ(不明)杯胎中央部胎線割離ナダ(不明)、下半部胎線のため不明。	10YR/4 ~ 7/8	胎	良	良	土胎	
			122											
135	器	121	121	104	130	130	裝飾	杯胎外縁中央部ハケ目、下半部胎ナダ、内面胎線(胎ナダ)。口縁部外内面ヨコナダ。	2.5YR/4	胎	硬	良	土胎	
			122											
136	器	121	121	130	141	130	裝飾	外縁胎上半部ハケ目、下半部胎線によるハケ。内面胎線ナダ、中央上部胎線平直、中央下部ヘラケズリ。外縁口縁部ヨコナダ、内面口縁部ヨコナダ。	5YR/4 ~ 2.5YR/2	胎	良	良	土胎	
			122											

7表 A地区土器観察表(その6)

遺跡名	遺物番号	図面番号	品名	口径	口径比	体高	体高比	特徴・寸法の特徴	色	胎土	質	試料	備考										
118	21	21	210	136		136		外周縁部ハケ目。外周内面口縁部コナダ、内周縁部上半部ハケ目、下半部ナダ。	3720/6	肌。0.1~1.0cmの砂粒。クワリ層を多く含む。	肌	良好	土器部										
														210	132	136	外周縁部ハケ目。外周内面口縁部コナダ、内周縁部上半部ハケ目、下半部ナダ。	7.5720/3	肌。0.3~0.5cmの砂粒を中や多く含む。クワリ層を含む。	肌	良好	土器部	
	210	130	130	170	外周縁部ハケ目。外周内面口縁部コナダ、内周縁部上半部ハケ目、下半部ナダ。	7.5720/3	肌。0.3~1.0cmの砂粒を多く含む。クワリ層を含む。	肌	良好	土器部													
118	1	1	125	136	136	136	136	天舟部外周縁部ハケ目(4/6)以上、内周縁部ナダ、そのもの不定方向のナダ。 口縁部外周縁部ナダ、内周縁部ナダ。	7716/6	肌。0.5cm以下の砂粒を少し含む。	肌	良好	土器部										
														125	117	117	130	外周縁部ハケ目ナダ、内周縁部ナダのもの丁寧な磨上ナダ。たちあがり部外周縁部ナダ、内周縁部ナダのもの丁寧な磨上ナダ。	7716/6	肌。0.5cm以下の砂粒を少し含む。	肌	良好	土器部
118	3	3	125	134	134	134	外周縁部上半部磨上ナダ、下半部磨上ナダ、内周縁部上半部磨上ナダ、下半部磨上ナダ。	暗青灰色	肌。	肌。	良好	土器部											
													125	134	134	外周縁部コナダ。外周縁部ハケ目ナダ、内周縁部コナダ。	7716/6	肌。0.5cm以下の砂粒を少し含む。	肌	良好	土器部		
118	6	6	127	134	134	134	外周コナダ。内周コナダ。3本の放射状、3本の尖角あり。	10776/1~4/2	肌。0.1~0.5mmの砂粒を多く含む。	肌。	良好	土器部											
													125	134	134	外周口縁部から内面口縁部にかけて磨上ナダ。外周縁部上半部平打ナダのもの磨上ナダ目調。外周下半部平打ナダ。内周縁部上半部磨上ナダのものナダ、下半部磨上ナダ。	7716/6	肌。	肌。	良好	土器部		
118	8	8	125	134	134	134	外周コナダ。内周コナダ。放射状あり。	10776/1	肌。0.5cm以下の砂粒を少し含む。	肌。	良好	土器部											
													124	134	134	外周口縁部丁寧なコナダ。杯部から磨上にかけてハケ。外周縁部、磨上、磨上磨上磨上。内周縁部コナダ。磨上下半部取り扱え。	8.5720/3	肌。砂粒を多く含む。	中や肌	良好	土器部		
118	10	10	125	134	134	134	外周ハケ。内周ハケナダ。	6776/4	肌。0.5~2mmの砂粒小石を中や多く含む。	肌。	不良	土器部	全体に砂や石										
														125	134	134	不明ながらも外周口縁部から内面口縁部にかけてコナダ。その他表面磨上磨上し磨上不明。	8776/6	肌。0.5~0.8mmの砂粒をかなり多く含む。	肌。	不良	土器部	
118	12	12	125	134	134	134	外周口縁部コナダ。外周上半部ナダ。内周ナダ。1本の放射状あり。	6776/1	肌。0.5~2mmの砂粒。小石を少し含む。4mmの小石を含む。	肌。	良好	土器部											
													124	134	134	外周口縁部から内面口縁部にかけてハケコナダ。外周縁部ハケ目。内周縁部ハケ目ナダの上にナダ。	8776/3	肌。0.3~0.8mmの砂粒を中や多く含む。	肌	良好	土器部		
118	14	14	124	134	134	134	外周口縁部から内面口縁部にかけてコナダ。外周上半部磨上磨上不明。外周中央部ハケ目。外周下半部磨上磨上不明。内周中央部ハケ。	8776/3	肌。砂粒を多く含む。小石を含む。	中や肌	良好	土器部											
													124	134	134	外周口縁部から内面口縁部にかけてコナダ。外周縁部タテ方向のハケ。外周縁部ハケのものナダ。内周縁部磨上不明。内周縁部磨上。17mmの尖角あり。	8.5776/3	肌。砂粒を多く含む。小石を含む。	肌	良好	土器部		
120	16	16	125	134	134	134	天舟部外周縁部 内周縁部ハケ目(4/6)以上、内周縁部ナダ、口縁部外周縁部ナダ、内周縁部ナダ。	7716/6	肌。0.5cm以下の砂粒を含む。	中や肌	良好	土器部											

7表 A地区土器観察表(その7)

調査 区 名	遺物 番号	調査 番号	器 種	口 径 高	体 高 寸	厚 薄・平 底の特 徴	色 調	胎 土	質 地	備 考	
1 2 0 区	17		杯舎	100	受胎 区 120	底部内面ヘラズリ、内面コナダ。 たもとがり部外面コナダ、内面コナダ。	灰/白	質。中や多く 砂粒を含む。	硬	灰磁器	
				110	受胎 区 122	底面内面ヘラズリ(外面数ヶ所に火津状の痕跡)、内面コナダ。 たもとがり部外面コナダ、内面コナダ。	7.5YR/1	質。砂粒を含む。	良好	灰磁器	
	18	18	杯舎	90	受胎 区 120	底面内面ヘラズリ(外面数ヶ所に火津状の痕跡)、内面コナダ。 たもとがり部外面コナダ、内面コナダ。	7.5YR/1	質。砂粒を含む。	良好	灰磁器	
				100	受胎 区 122	底面内面ヘラズリ(外面数ヶ所に火津状の痕跡)、内面コナダ。 たもとがり部外面コナダ、内面コナダ。	7.5YR/1	質。1mm以下 の砂粒を極めて 少量含む。→	中 軟	良好	灰磁器 →ナマリ硬を含む。
	19		蓋	115		内外面ともコナダ。	7.5YR/1	質。0.1~0.2mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	灰磁器
				120		口縁部外側面コナダ。 内面凹削ナダ。 口縁外面、中央部、下平部凹削。	7.5YR/1 ~4/1	質。0.1~0.2mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	灰磁器
	20		杯の口 縁	130		口縁部外側面コナダ。 内面凹削ナダ。 口縁外面、中央部、下平部凹削。	7.5YR/1 ~4/1	質。0.1~0.2mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	灰磁器
				135		口縁部外側面コナダ。 内面凹削ナダ。 口縁外面、中央部、下平部凹削。	7.5YR/1	質。0.5mm以下 の砂粒を極めて 少量含む。	硬	良好	灰磁器
	21	21	高杯の 胴部	130	胴部 凹削 90	胴部内・外面コナダ。	7.5YR/1	質。0.5mm以下 の砂粒を極めて 少量含む。	硬	良好	灰磁器
				135	胴部 凹削 90	胴部内・外面コナダ。	7.5YR/1	質。0.5mm以下 の砂粒を極めて 少量含む。	硬	良好	灰磁器
	22		高杯の 胴部	130	胴部 凹削 100	胴部内・外面コナダ。 上方部のスクリ穴か?	7.5YR/1	質。1mm以下 の砂粒を少し 含む。	硬	良好	灰磁器
				135	胴部 凹削 100	胴部内・外面コナダ。 上方部のスクリ穴か?	7.5YR/1	質。0.5~1.0mm位の砂粒を やや多く含む。	硬	良好	灰磁器
	23		高杯の 胴部	130	胴部 凹削 140	胴部内・外面コナダ。 胴部外周、上平部凹削。スクリ穴4個。	7.5YR/1	質。0.5~1.0mm位の砂粒を やや多く含む。	硬	良好	灰磁器
				135	胴部 凹削 140	胴部内・外面コナダ。 胴部外周、上平部凹削。スクリ穴4個。	7.5YR/1	質。0.5~1.0mm位の砂粒を やや多く含む。	硬	良好	灰磁器
	24		高杯の 杯部	154		杯部内面下平部ヘラズリの後コナダ、中央部ヘラズリ、上平部 コナダ。内面コナダ。 杯部内面中央部凹削。	7.5YR/0	質。砂粒を多 く含む。	硬	灰磁器	
155					杯部内面下平部ヘラズリの後コナダ、中央部ヘラズリ、上平部 コナダ。内面コナダ。 杯部内面中央部凹削。	7.5YR/0	質。砂粒を多 く含む。	硬	灰磁器		
25		蓋	130		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/1	質。砂粒を中 や多く含む。	硬	灰磁器		
			135		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	質。中や多く 砂粒を含む。	硬	灰磁器		
26		蓋	130		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	質。中や多く 砂粒を含む。	硬	灰磁器		
			135		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	質。0.1~0.4mm位の砂粒を 少し含む。	硬	不良	灰磁器	
27		蓋	130		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	質。0.1~0.4mm位の砂粒を 少し含む。	硬	不良	灰磁器	
			135		口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	質。0.1~0.4mm位の砂粒を 少し含む。	硬	不良	灰磁器	
28		高杯の 杯部	134		杯部内面下平部約1cm位のハケ目、上平部割面の欠損部不明。 内面割面の欠損部不明。	7.5YR/0	質。0.5mm位の砂粒を少し 含む。ナマリ硬を多く含む。砂っぽい。	軟	良好	土器類	
			135		杯部内面下平部約1cm位のハケ目、上平部割面の欠損部不明。 内面割面の欠損部不明。	7.5YR/0	質。0.5mm位の砂粒を少し 含む。ナマリ硬を多く含む。砂っぽい。	軟	良好	土器類	
29		高杯の 胴部	132		胴部内面中央部割の広いハケミガキ、上平部ハケ目。 内面下平部ハケ目、中央部ヘラミガキ。	7.5YR/0	質。 砂粒を多く含 む。	中 軟	良好	土器類	
			135		胴部内面中央部割の広いハケミガキ、上平部ハケ目。 内面下平部ハケ目、中央部ヘラミガキ。	7.5YR/0	質。 砂粒を多く含 む。	中 軟	良好	土器類	
30	30	蓋	130	130	体部内面上平部ハケ目(約3mmの間に10本位の凹線があるハケ目)。 内面中央部コナダ、上平部凹削。 口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	中や軟。0.1 ~0.5mm位の 砂粒を多く含 む。	中 軟	良好	土器類 →ナマリ硬を含む。	
			135	130	体部内面上平部ハケ目(約3mmの間に10本位の凹線があるハケ目)。 内面中央部コナダ、上平部凹削。 口縁部内・外面コナダ。	7.5YR/0	中や軟。0.1 ~0.5mm位の 砂粒を多く含 む。	中 軟	良好	土器類 →ナマリ硬を含む。	
31	31	小豆鉢 の体部	134		体部内面下平部格子ナダ(割の方向)。最下平部凹削及50位のナダ ナダ。内面下平部コナダ、最下平部凹削のものコナダ。底面外面 凹削。内面コナダ。	7.5YR/4	質。砂粒を中 や多く含む。	中 軟	良好	土器類	
			135		体部内面下平部格子ナダ(割の方向)。最下平部凹削及50位のナダ ナダ。内面下平部コナダ、最下平部凹削のものコナダ。底面外面 凹削。内面コナダ。	7.5YR/4	質。砂粒を中 や多く含む。	中 軟	良好	土器類	
32	32	蓋	130	137	口縁部内外面コナダ。体部内面上平部ハケ目、内面中央部割削 削してハケ目が付かずに残る。上平部凹削。内面下平部割削削 削して不明。体部外面中央部から下平部、口縁部に凹削。	7.5YR/0	質。0.5~0.8mm 位の砂粒を含 む。	硬	良好	土器類	
			135	137	口縁部内外面コナダ。体部内面上平部ハケ目、内面中央部割削 削してハケ目が付かずに残る。上平部凹削。内面下平部割削削 削して不明。体部外面中央部から下平部、口縁部に凹削。	7.5YR/0	質。0.5~0.8mm 位の砂粒を含 む。	硬	良好	土器類	
33	33	蓋	130		口縁部内外面コナダ。体部内面上平部ハケ目、内面中央部割削 削してハケ目が付かずに残る。上平部凹削。内面下平部割削削 削して不明。体部外面中央部から下平部、口縁部に凹削。	7.5YR/4	質。1~2mm 位の砂粒を多 く含む。	硬	良好	土器類 体部内面にス リ目	
			135		口縁部内外面コナダ。体部内面上平部ハケ目、内面中央部割削 削してハケ目が付かずに残る。上平部凹削。内面下平部割削削 削して不明。体部外面中央部から下平部、口縁部に凹削。	7.5YR/4	質。1~2mm 位の砂粒を多 く含む。	硬	良好	土器類 体部内面にス リ目	
34	34	蓋	130		口縁部外面コナダ。その他割削面の欠損部不明。	7.5YR/0	0.5~0.8mm 位の砂粒を中 や多く含む。→	硬	良好	土器類 →3×3mmのナ マリ硬を多く含む	
			135		口縁部外面コナダ。その他割削面の欠損部不明。	7.5YR/0	0.5~0.8mm 位の砂粒を中 や多く含む。→	硬	良好	土器類 →3×3mmのナ マリ硬を多く含む	
35		蓋	130		外周ナダのものコナダ。 内面コナダ。	7.5YR/0	質。	硬	良好	灰磁器	
			135		外周ナダのものコナダ。 内面コナダ。	7.5YR/0	質。	硬	良好	灰磁器	

表7 A地区土器調査表(ひの8)

浮 取 地 名	遺 物 番 号	同 層 番 号	器 具 類	口 径 基 準	体 積 基 準	特徴・下位の特徴	色 質	土 質	器 質	備 考
1 2 0	第 1 号	第 1 号	瓶	200		口縁部外面から内面にかけて凹みナシ。 外面外面平行なアタキの凹みナシ。	黄白灰色	純	純	調査地

第2節 D地区の調査

1. D地区の層序

本調査区は延長123m余の南北に長いトレンチである。深さG.L. -4.5m~-6.5mまでの主な遺構は、弥生時代~縄文時代の4条の自然河川と河川の安定期に作られた微高地上の集落跡や水稲耕作に利用された粘土層~シルト層の畦畔である。Dトレンチの土層は、縄文時代と弥生時代後期に流れた大規模な4本の自然河川のうち、調査地南端の弥生時代後期前半の河川と北端の縄文時代の2本の河川が形成した粗砂層の微高地が集落跡の居住地域に利用され、砂層から粘土層に土層が変化した低地部は水田に利用されている。大略して、粗砂層上に集落跡が営まれ、粘土、粘質土層上では水稲耕作されていたのであろう。さらに、近世の頃には大規模な整地が行われて、本調査地の南端から中央部まで削平されたらしく、本トレンチの南に隣接する第2調査区のEトレンチの土層や遺構面に比して本調査区の遺構、遺物量は、はるかに少ない。

第I層 主要な土層 ぶい黄褐10YR5/4山砂層(盛土)。

現地盤はT.P.+6.4m~+6.9mで調査区の中央部~北部が低い。昭和40年代に開通した中央環状線建設工事に伴って水田に入れられた山砂の盛土層になり、層内には岩石、コンクリート片等種々雑多な廃棄物も含まれる。

第II層 主要な土層 灰オリブ7.5Y6/2、(灰10Y4/1、暗オリブ灰2.5GY4/1)粘質土層。

T.P.+6.1m~6.3mに堆積した厚さ50~60cmの粘質土層である。これらの土層には、陶磁器、瓦、土器類が含まれ、近世~現代まで水田に利用されていた畦畔、小溝を検出した。

第III層 主要な土層 黒褐10YR3/1、褐灰5YR4/1粘質土層。

T.P.+5.4m~5.7mに堆積した厚さ10~20cmの粘質土層で、調査地区中央から北にかけてみられる。砂層がおおう北側では保存状態の悪い畦畔を検出しているが、中央から南半部では確認できなかった。弥生時代後期の河川の微高地にかかる周辺は削平されたのか奈良時代~弥生時代後期の遺構を同一遺構面で検出している。第2・3遺構面がある。

第IV層 主要な土層 褐灰10YR4/1粘質土層。暗緑灰10G4/1粘土層。灰黄褐10YR4/2粗砂~微砂層。

T.P.+5.2m~5.4mにかけて堆積した厚さ20~40cmの粗砂~粘土層である。北へ行くにしたがって粘土層が厚くなり、その中に細砂層を一部含むようになる。調査区中央付近では、小溝やピットを若干検出しており、北端の一部の土層は第III層に漸次移行する。第4遺構面(1)(2)(3)がある。

第V層 主要な土層 暗オリーブ7.5Y4/3～灰オリーブ7.5Y5/3細砂層。オリーブ灰10Y5/2粗砂層。暗緑灰10GY4/1シルト層。

T.P.+4.8m～5.3mにかけて堆積した厚さ10～30cmの砂層である。この砂層からは弥生時代後期の土器が出土している。一部は第III層に漸次移行する。

第VI層 主要な土層 暗緑灰10GY4/1、暗オリーブ灰5GY4/1粘土層。暗緑灰7.5Y4/1粘質土層。

T.P.+4.6m～5.0mにかけて堆積した厚さ15～29cmの粘土層～粘質土層である。この土層上面からは、弥生時代後期の水田、水路、畦畔を検出している。第5遺構面がある。一部は第III層に漸次移行する。

第VII層 主要な土層 オリーブ黄5Y6/3、灰オリーブ5Y5/2、5/3、オリーブ5Y5/4粗砂～細砂層。

T.P.+4.6m～4.7mにかけて堆積し、南端の自然河川が運搬してきた砂層である。砂層の下の粘土層上面の一部には人間の足跡がついている。北部ではみられない。

第VIII層 主要な土層 オリーブ5Y5/4粘土層、粗砂層。

T.P.+4.6mにある厚さ0～20cmの粘土層と粗砂層で、黒色土層上面から掘り込まれた遺構の埋土層および包含層である。第6遺構面がある。

第IX層 主要な土層 黒2.5Y2/1粘質土層、粘土層。

T.P.+4.6m～3.6mにかけて堆積し、厚さ20cmほどの土層中には多くの土器片が含まれている。調査地の北部約35mにはピット、溝、建物等の遺構が濃密にある。一方、中央～南部には3条の溝の他に小ピットが若干認められるにすぎない。第7・8遺構面がある。

第X層 主要な土層 黒5Y2/1粘質土層。黒10YR2/1粘土層。黒7.5Y2/1粘土層。

T.P.+4.4m～3.4mにかけて調査地の北半部には約20cmの厚さがあるが、南へ向かって下降し、中央部付近で途切れている。

第XI層 主要な土層 青灰10BG6/1、灰N4 細砂層。オリーブ黒5Y2/2、オリーブ黒10Y3/1粘土層。

T.P.+4.4m～3.9mにかけて堆積し、おおよそ南から北へ向けて流れる河川堆積の粗砂層と細砂層である。河川の肩部には鹿の足跡が認められ、砂層中からは縄文時代後・晩期の土器が出土している。第9遺構面がある。

第Ⅻ層 主要な土層 灰10Y5/1粘土層（灰オリーブ5Y4/2粘質土層、灰オリーブ7.5Y6/2～灰白7.5Y7/2細砂層）。灰白5Y8/2粗砂層。

T.P.+3.3m～2.8mにかけて堆積した厚さ70cm近い粗砂層～粘土層である。これらの土層は幅約10m、深さ2.0m以上の河川による土砂の堆積である。河川内の粗砂層から出土した遺物は縄文土器である。

第ⅩⅢ層 主要な土層 黒N2粘土層。

T.P.+3.2m～2.6m付近にあり、土層の厚さ10～20cmで、北から南へゆるく傾斜し、南端部は第12層によってえぐられ流出している。

第ⅩⅣ層 主要な土層 暗緑灰7.5GY4/1粘土層～微砂層。

T.P.+3.0m～3.1mにある厚さ40～70cmの土層である。

第ⅩⅤ層 主要な土層 灰オリーブ7.5Y6/2粗砂層。オリーブ灰5GY5/1微砂層。

T.P.+2.6m付近にある南西から北東に流れる河川の砂層で、この砂層からは縄文式土器が出土し、河岸近くの斜面から、人間と鹿の足跡を検出している。

第ⅩⅥ層 主要な土層 黒N2粘土層。

T.P.+2.7m～2.5mにあり、南端のT.P.+1.7m～2.0mにあるオリーブ黒7.5Y3/1粘質土層に対応する土層であるかもしれない。

第ⅩⅦ層 主要な土層 暗緑灰10G4/1シルト層。暗オリーブ灰5GY4/1粘土層。

T.P.+2.3m～1.8m付近にある40～100cmの厚さの土層である。ごく一部の粘土層上面には鹿の足跡が残されている。

第ⅩⅧ層 主要な土層 オリーブ黒10Y3/1、灰10Y4/1粘土混じり粗砂層（植物遺体多し）。

T.P.+1.4m～1.5m付近にある土層である。上の土層になるほど植物遺体を多く含む。

また、鹿の足跡も認められる。

2. 第10遺構面～第9遺構面（付図-8・9・10）

T.P. ±0～+4 mまで堆積している粘土層～砂層中には3本の自然河川と1ヶ所の河川状窪みがある。河川の砂層中からは縄文土器片が多く出土している。また、河川内と砂層下の粘土層上面には相当数の人と鹿の足跡が残されていた。このほか、Aトレンチと同様に自然河川内から予期しない土器が出土し、中には完形品に近い土器もある。また人間が活動した痕跡を示すものとして河岸に残された足跡がある。層的には、河川-3→2→1と新しくなる。

河川-1〔付図-10、第150図1～7、図版134上〕

この河川は、南から北西へ弧を描いて走る。推定川幅約10m、深さ約1mを測る。河川内には粗砂～小礫が堆積し、河床底付近から縄文土器片を採集している。土器片の多くは多少の程度はあるが磨滅している。また、この河床底は川水によってえぐられた部分が激しい起伏状態を残しており、水勢の激しかったことを示している。D-2トレンチの河床底ではT.P.+3m付近の黒色粘土層の大半が流失している。遺構は、西岸部に人間の足跡が認められた。

出土遺物は第150図-1～7で縄文時代中期（4）、後期北白川上層式、晩期滋賀里II～III式（1～3・5・7）とその他（6）の土器が出土している。

河川-2〔付図-9、第150図8～13、図版133・134下・185-8～13〕

河川2は、南西から北西方向へ弧を描いて走る。幅は約10m、深さは2.5m以上を測り、肩は鋭く落ち込む。河岸のレベルは、南のD-7トレンチ付近でT.P.+3.0m、北のD-3トレンチ付近でT.P.+3.4mを示し、北方が少し高い数値を示す。出土遺物は砂層中から出土した縄文土器（第150図1～13）で、中期の土器8、9、後期の北白川上層式10、11、晩期の滋賀里II～IV式12、13である。砂層上の粘土や河岸から遺物は出土していない。足跡、杭等の遺構は認められなかったが、ここでは河川-1、3から足跡が検出されていることもあり、河川-2の出土遺物が多いことから一応遺構面に順じておく。

河川-3〔付図-8、第151図14・15、図版131・132・184-15・185-14〕

本河川は、トレンチ西側北寄りからD-2トレンチにかけて南北約50mの範囲で検出した。この河川で検出した箇所は、西岸約40m、東岸約4mの他にD-3、5両トレンチで検出した西岸と見られる個所の延長が17.6mである。東岸部分は、河川-2によって削られている。遺構は西岸、河床底から検出した人間の足跡がある。その他、沢山の鹿の足跡を岸辺、河床底から検出している。遺物は縄文土器が出土している。

出土遺物は第151図-14～15である。

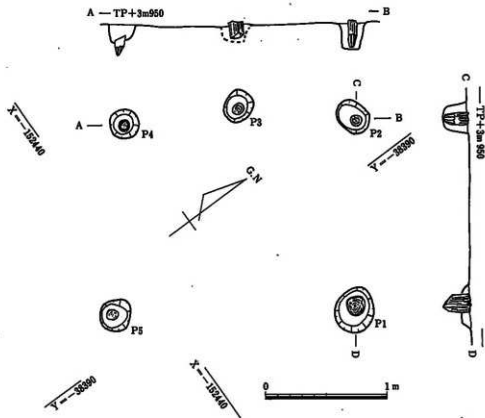
14の深鉢は、突起外面に縄文（ヘナタリ貝）と鏝型に納める沈線を入れる。腹部に沈線4条をひき、上、下段の条間には縄文（LR）を入れ、中段の条間は無文帯にする。内外面の調整は

幅の広い(ヘラ)ミガキが施される。元住吉山Ⅱ式(あるいは一乗寺K式)に比定される。

15は、角張った素文の口縁と、腹部には粗いLRの縄文の上に直線の沈線4条を描き変形ノ字形、S字形で接続する。内外面は幅広い(ヘラ)ミガキが施され、底は拓本に示すような網代底である。なお、この土器の胎土には緑色片岩の円礫(径1~5mm)が多量に含まれている。元住吉山Ⅱ式に比定される。

3. 弥生時代中期後半~後期初頭の遺構と遺物

弥生時代中期~後期の遺構は、縄文時代の河川1~3が多量の土砂を運搬、堆積した結果生じた微高地上に造られている。第6~8遺構面は、これらの中でも最後の河川-1の旧河道の流心部分にあたり、周辺より約40cm程高くなった極微高地を利用した集落跡、とりわけ居住域に該当するのであろう。検出した建物、井戸、土壇、溝等の遺構は、旧河道部分の微高地を巧みに利用し、遺構密度も高いが、河道部分から距離を隔てると遺構密度も減少する。このような極微地形を利用して造られた遺構のうち、第6~8遺構面がトレンチ全体の、黄色粗砂~青灰色シルト層上面に形成され、第7・6遺構面は、トレンチ北部の約35m間に部分的に堆積した黒色シ



第123図 第8遺構面建物-1平面実測図・見透し図

ルト層上面に第7遺構面、さらに上層に堆積した黒色粗砂混じり粘土層上面に第6遺構面が認められる。

遺物は10~35cm程堆積した黒色砂混じり土層、シルト層から土器片、石器、サヌカイト片、獣骨片等が少量に出土している。

A. 第8遺構面〔付図-11、図版136・139・140・142・145~147・149・151・153〕

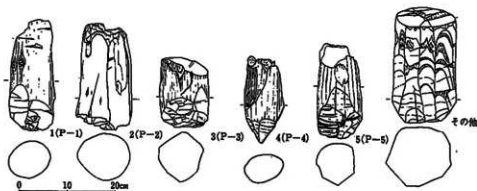
本遺構面は、トレンチ北部と中央以南の2地区で遺構の様相が大きく異なる。北部約35mの地区には、建物、井戸、柱根、小溝、土壇等が検出されたが、中央以南の地区は、小溝、小ピット、3条の大溝が散発的に見られたにすぎない。また、遺構面の比高差もかなり大きく、高い北部と低い南部では1mの差が認められ、土質も砂層から粘土層に移行している。このように、土質の差もあって、集落内の遺構の性格も北の居住域から南の非居住域へと変化している。

次に主要な遺構を記述する。

建物-1〔付図-11(1)、第123・124図、図版139上・140上〕

D、D-1トレンチ、d-1の3、4区から検出した掘立柱建物である。建物は桁行推定2間、柱間寸法140cm、梁行2間、柱間寸法185cmで、東西棟の建物である(第123・124図)。検出した5個の柱穴掘方は径20~30cmの不整形な円形を呈し、深さは5~20cmである。柱根の保存状態はかなり良く、土中に埋もれていた端部の加工痕は明瞭に残り、端部を平坦にしたものと尖鋭にしたものの2者がある。柱根端部の加工に対応して柱の掘方、掘え方にも差異があり、端部を平坦にした柱は掘方内に埋める(P-2・3)が、尖鋭にした柱根端部は掘方よりもさらに15~20cmほど深く達している(P-1、4、5)。建物の柱を埋め込む際、打ち込んだためと考えられる。方位はN-53°-Wである。推定1×2間の建物かと思われる。

ピット群〔付図-11(1)、第124図、図版139上〕



第124図 第8遺構面建物-1他柱根実測図

D、D-1、D-2 トレンチの第8～第6遺構面から数百ヶ所のピットを検出したが、第8遺構面で検出したものが過半数を占める。また、多くのピットはDトレンチ北部～D-2トレンチに集中しており、地区では、c-2の3・4、d-2の1～4区、e-2の1～4区、e-1の3・4区、f-2の2区の11区が多い。また、ピット数の少ない地区はc-2の3、c-3の3・4、d-1の2・4区、e-1の2区、e.d-10区、f-1の2・4区、f-2の1・3区等である。ピットの大きさは、径10～30cm、深さ5～20cmのものが多く、埋土は黒色粘土層（有機物多し）である。これらの他に径50～100cm、深さ数cm～20cmの土墳も散見される。

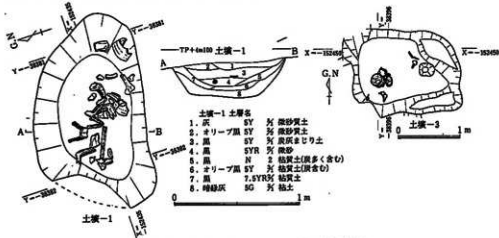
これらの中で、ピット内に柱根を残していたものもある（第124図の6）。e-2の1区の4ヶ所のピットは径10cm前後の柱根が残り、柱先端は平坦なものや尖鋭なもの2者に分けられ、柱の据え方に建物-1と共通した方法が見られる。他に柱根を残していたピットは、d-1の4区から1ヶ所検出している。

溝-1、5、9、10、11、13、14、16～19〔付図-11（1）、図版145上〕

調査区内を縦横に走る幅20～60cm、深さ10～30cm、長さ1～6m余、断面形状が、U字形の狭小な溝である。溝内埋土は黒灰化砂質土～粘土層に炭化物、土器等の細片が含まれている。これらの溝はいずれも直線的に走る溝で、屈曲の度合も少ない。その中で、溝16～19は幅60cm、深さ30cmとやや大きい。なお、小溝群は周囲のピットや土墳との時期に前後関係があり、小溝群の方がやや新しくなる。

溝-21～40〔第130図〕

D-2 トレンチで数多く検出された小溝群である。溝の規模は、幅が50cmにも満たないものが多く、深さも10cm前後のものが多いが、溝29、30は大きくカーブし、長さも10mを超える。断面形状は、先の小溝群と同じく断面U字形である。D-2 トレンチでは、溝群の後にピットや土墳



第125図 第8遺構面土層-1・3平面・断面実測図

が造られ、第7遺構面との間に中間の遺構面（第8面の2）を形成している。

溝-2~4、6~8、20〔付図-11（1）、第129図、図版151上〕

これらの溝は、幅1m前後、深さ10~30cmで断面形状は皿形やV字形で一定していない。特に溝-3、6~8はゆるく弧を描いて連結しており、長さ3~5mの溝の配置が鏡形やコ字形を呈する。溝の埋土中からは、炭、灰、土器片、獣骨片焼成等いわゆる日常生活に伴うゴミが大量に出土している。

溝-12、15〔付図-11（1）、第127図〕

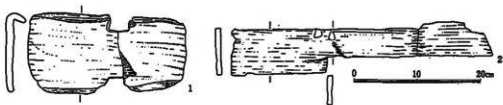
これらの2条の溝は、幅50cm前後、深さ10~20cm、長さ3.7と13m以上を測り、それぞれ土壌に連続する。断面形状は鈍いV字形を呈する。溝の埋土は黒色土層である。溝-12は南北方向の溝で、南端部が西へ強く曲がり、土壌-2に連なる。溝-15は東西方向の小溝で、井戸-1に連なる。この溝は井戸との接続地点に半円形の切込を施した加工板材を横架しており、小溝あるいは井戸からの水を引落とすか引入れる導水関連の施設を設置している。溝-12、15の溝底のレベル差は小さく2~3cmで、井戸、土壌の方が若干低くなる。出土遺物は溝-15からは土器細片が少量出土しているのみである。

土壌-1〔付図-11（1）、第125図、図版147・146下〕

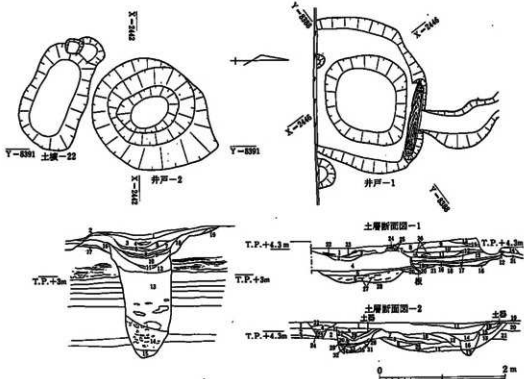
d-2の1区に位置し、長軸170cm、短軸100cm、深さ40cmの不定形な土壌（第125図）で、境内には獣骨（鹿）と灰・有機物が散乱していた。特に鹿の上下顎骨は左右に2分割されており、四肢骨も完形のものではなく、打割られ長さ10~30cm前後になったものが廃棄されていた。その他、数点の土器片が骨片と一緒に出土した。なお、骨に対する加工痕と加熱（焼）痕は認められず、食用に供したものの残滓であろうと思われる。

土壌-2〔付図-11（1）・（2）、第126図〕

e-2の2区にあり、長軸1.8m、短軸1.6m、深さ約50cmで、平面形が円形、断面が楕円状を呈する。境内の埋土は黒色土層で、土器片数点が出土している。なお、この土壌は、北方に延びる溝-12と関連するものと考えられる。土壌内からは木器1点と加工木（第126図1・2）が出土



第126図 第8遺構面土壌-2出土木器実測図



＜井戸-1 土層断面-1＞

- | | | |
|------------------------------------|------------------------|-------------|
| 1. 黒 10YR ㊦ 粘質土 | 11. 黒 2.5Y ㊦ 粘土ブロックと土の | 24. 粘土ブロック |
| 2. 黒 7.5Y ㊦ 粘質土(粘土層かい)+粗砂 | 12. 黒 2.5Y ㊦ 砂質土 | 25. 粗砂 |
| 3. 黒 5Y ㊦ 粘質土(多量に中砂含む) | 13. 粘土より硬質化 | 26. ブロック状粘土 |
| 4. 灰オリーブ 5Y ㊦ 中砂と黒10YR ㊦粘質土の互層ライター | 14. 黒 7.5YR ㊦ 粗砂粘土 | 27. 灰黒色砂 |
| 5. オリーブ 5Y ㊦ 砂質土(粘土あり) | 15. 黒 7.5YR ㊦ シルト質土 | 28. 砂 |
| 6. 灰オリーブ 5Y ㊦ 中砂 | 16. 黒 2.5Y ㊦ 灰まじり砂 | 29. 粗砂 |
| 7. 黒 5Y ㊦ 粘土ブロックと灰黄色砂 | 17. 黒 10YR ㊦ 灰まじり土 | |
| 8. 黒 5Y ㊦ 粘質土(粘土、珪含む) | 18. 黒 2.5Y ㊦ 粘土まじり砂 | |
| 9. オリーブ 5Y ㊦ 粘質土(粗砂多量に含む) | 19. 暗灰 2.5Y ㊦ 砂(土少々含む) | |
| 10. オリーブ 5Y ㊦ 粘質土(粗砂多量に含む) | 20. 暗灰 2.5Y ㊦ 粗砂 | |
| 小ブロック粘土含む | 21. 黒 7.5YR ㊦ 粘土まじり粗砂 | |
| 小ブロック粘土含む | 22. におい質 2.5Y ㊦ 灰 | |
| | 23. 中々硬い | |

＜井戸-1 土層断面-2＞

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 1. 黒 7.5YR ㊦ 砂質土(粗砂) | 13. 黄灰 2.5Y ㊦ 中砂 | 25. 黒 10YR ㊦ 中砂質土 |
| 2. 赤黒 2.5YR ㊦ 砂質土 | 14. 黒 10YR ㊦ 砂質土(中砂) | 26. 黒 7.5YR ㊦ 砂質土(粗砂少量) |
| 3. オリーブ 5Y ㊦ 砂質土 | 15. 灰黄 2.5Y ㊦ 砂質土(中砂) | 27. 黒 10YR ㊦ 砂質土 |
| 4. におい質 10YR ㊦ 中砂 | 16. 黒 2.5Y ㊦ 砂質土(中砂) | 28. 黒 10YR ㊦ 粘質土(灰含む) |
| 5. 黒 10YR ㊦ 砂質土 | 17. におい質 2.5Y ㊦ 中砂 | 29. 黄灰 5BG ㊦ 粘土 |
| 6. におい質 10YR ㊦ 粘質土 | 18. 黒 5YR ㊦ 砂質土(粗砂少量含む) | 30. 灰 7.5Y ㊦ 灰 |
| 7. 黒 10YR ㊦ 粘質土(粗砂含む) | 19. 黒 10YR ㊦ 砂質土(粗砂少量) | 31. 黒 N 1.5 ㊦ (中灰多量含む) |
| 8. 灰黄 10YR ㊦ 中砂(粗砂少量含む) | 20. 黒 10YR ㊦ 砂質土(粗砂少量) | 32. 黄灰 5BG ㊦ 灰、灰まじり土 |
| 9. におい質 2.5YR ㊦ 中砂 | 21. 暗灰 2.5Y ㊦ 砂質土 | 33. 暗灰 N 3 ㊦ 灰まじり粘質土 |
| 10. 黒 2.5Y ㊦ 砂質土(中砂) | 22. 赤黒 2.5YR ㊦ 砂質土(粗砂含む) | 34. 明オリーブ 1.5GY ㊦ 砂質土 |
| 11. オリーブ 5Y ㊦ 粘土(中砂少量含む) | 23. 黒 5YR ㊦ 砂質土(粗砂多量含む) | 35. オリーブ 2.5GY ㊦ 粗砂質土 |
| 12. 黒 7.5YR ㊦ 砂質土(中砂) | 24. 暗灰 10YR ㊦ 砂質土 | |

井戸-2 土層名

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. オリーブ 7.5Y ㊦ 粘土(シルト質) | 11. 黒 5Y ㊦ 粘土 |
| 2. 灰黄 10YR ㊦ 中砂 | 12. 黒 10YR ㊦ 粘土(粗砂混雑含む) |
| 3. 黒 5Y ㊦ 粘土(粗砂混雑含む) | 13. 黒 7.5Y ㊦ 粘土(粗砂混雑10G㊦ブロック状に含む)有黄層 |
| 4. 黒 5Y ㊦ 砂質粘土(黄砂含む) | 14. 黒 2.5GY ㊦ 粘土(オリーブ灰土 1.5GY ㊦ 粗砂混雑含む、上層より多い)粗砂混雑層 |
| 5. 5Y ㊦ 黄化物(粘土層かい) (粘土) | 15. 暗灰 7.5GY ㊦ 粘質土(粘土含む) |
| 6. 5Y ㊦ 黄化物(粘土) | 16. 黒 2.5Y ㊦ 粘土(粗砂混雑) |
| 7. 黒 5Y ㊦ 粘土(粗砂混雑含む) | 17. 暗灰 7.5GY ㊦ 黄緑灰色粗砂 |
| 8. 黒 N 2 ㊦ 粘土(灰化物層) | 18. 黒 5Y ㊦ 粘土(粗砂混雑) |
| 9. 黒 5Y ㊦ 粘土 | 19. 黒 2.5Y ㊦ 粘土 |
| 10. 黒 2.5Y ㊦ 粘土(8より黒っぽい) | |

第127図 第8・6 遺構面井戸-1・2平面・断面図



第128图 第8遺構面井戸—1出土板材実測圖

している。

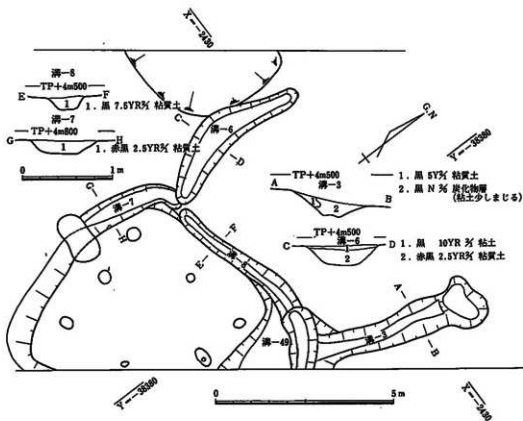
土壌-3 [付図-11 (1), 第125図・156図、図版149下]

e-1の4区にある。長さ1.8m、幅1.3m、深さ約50cmの方形プランに断面逆台形の土壌(第125図)である。土壌内のオリブ黒色粘土には、壺等の土器片(第156図129~132、図版131・186)と共に獣骨片(鹿)、灰、炭化物等がかなり多く含まれていた。また、逆立ちして出土した壺の底部は、往時溝-50の掘削時に欠き取られたのであろう。

土壌-4・他 [付図-11 (1)]

D-2トレンチ、f-2の2区から検出した長軸1.2m、短軸65cm、深さ10cmの不整形な土壌である。この他黒色シルト層の上面には第130図に示すような小溝(21~40)と土壌(7~12)に小ピットが多い。遺構の埋土は炭、灰を多く含む。特に土壌7、9~11は炭・灰を多く含む。

井戸-1 [付図-11 (1), 第127・128・157図、図版151・153下]



第129図 第8遺構面溝平面・断面実測図

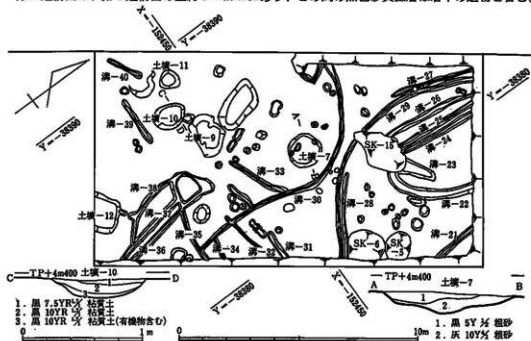
井戸-2の南東約5m、e-2の4区にあり、径約2.2~2.3m、深さ約30~40cm、西側に長さ約115cmの加工板を横にあてた特異なものである。土層断面(第127図)を見ると、2段掘りした土層の下半部を一旦埋め、西側に横板を入れるために溝を掘り、そこに板材を架している。溝内の土層は砂や砂質土が水平堆積となる。井戸内は4の砂層が一括して埋まっている。その上の1~3の土層はブロック状の埋土である。出土遺物は、弧状の板材の両端に小さい角形のホゾ穴と細い溝を切り込んだもの(第128図)と土器(第157図133~147、図版151~135)が出土している。

土層-7~12〔第130図、図版142、145〕

D-2トレンチにある第8遺構面と第7遺構面の中間の遺構面にある。土層-7(図版45下)はe-2の3区にある径1.4m、深さ約10cmの浅い落込で、埋土は黒色粘質土である。土層-8はf-2の1区にあり、深さ、埋土は土層-7と同様である。土層-9~11(図版141)はf-2の2区にそれぞれ数10cm~1m余りの距離間にある。土層-9は1.8×1.2m、深さ40cmの不整形プランで、断面は逆台形状をなす。土層内には黒色炭や灰層(第3層)、黒色粘土の部厚い層がある。遺物は獣骨片(鹿)、土器片が出土している。土層-10・11は、径0.8~1.4m、深さ約20cm、堆積土は黒色炭層、粘質土で断面形は皿状を呈する。遺物は土器片が出土している。土層-12は、長さ1m以上、幅約1.5mで、断面形は逆台形を呈し、黒色粘土層の埋土である。

B. 第7遺構面

第7遺構面は、第8遺構面の約5~15cmにあり、この間の黒色砂質土層は若干の遺物を含む。



第130図 D-2トレンチ第8遺構面の2 溝・土層平面実測図

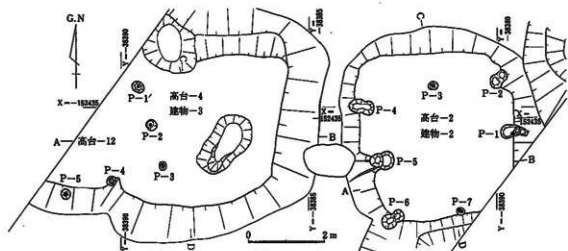
この上には黒色有機質粘土層が薄く堆積している。遺構はこの黒色有機質粘土層の下、黒色砂質土層の上面に形成され、遺物は粘土層と砂質土層の境目から出土したものが多く、主要な遺構は、特異な高台にある建物、土壇、溝、井戸等である。出土遺物は、土器、石器、種子核、獣骨片、サヌカイト片等で、それらの量は非常に多い。

溝-42~44〔付図-12(1)、図版154上〕

トレンチ中央部のg-9・10、h-9・10の4区によく見られる不定方向の小溝群で、この他にも7~8条の小溝がある。溝の形状は、幅広の浅いものや弧を描くもの、狭く直線的なもの等様々である。埋土は黒灰色シルト層のものが多く、いずれの溝からも遺物は出土していない。

溝-45~47〔付図-12(1)~(4)、図版154・156~158〕

溝-45、g-9からh-10区へ南東からゆるく南へ弧を描き、北西方向に走る。長さ20m以上、幅3~3.5m、深さ1m、フラットな溝底のレベルは全域でT.P.+2.7mに達し、断面形は逆台形を呈する。埋土下半部は、5~15caの大きさの粘土塊を含む黒灰色粘土層で、上半部は植物遺体を含む黒色粘土層である。下半部の土層の堆積状況から、この溝は埋め戻された形跡をとどめている。溝内から遺物は出土していない。溝-46(図版156下)は、h-9区を南東から北西へ上記の溝の南約8mを平行に走る。規模は、長さ10m以上、幅2m、深さ60ca、平らな溝底はT.P.+3.0mである。埋土は黒色~灰色粘土層である。遺物は、中期後半と思われる土器体部片が数点出土している。溝-47(図版158)は、トレンチ南端近く、m-6・7区に位置し、ゆるく南に弧を描く東西方向の溝である。溝の規模は、長さ20m以上、幅約4.2m、深さ30~60ca前後で、断面は逆台形を呈する。埋土は黒灰色粘土層で、溝底付近に径10ca前後の青灰色粘土塊が若干認められた。溝内のレベルは西がT.P.+2.8m前後、東がT.P.+3.0mと東側が高い。西端より3.0m付近に幅1.5m、高さ40ca余の盛土をし、溝内に土堤を造っている。ブリッジか水位調節機能



第131図 第7遺構面建物-2(右)・3(左)平面実測図

のための施設であろうか。遺物は溝内埋土上部から中期後半の土器片が数点出土している。

溝-49〔付図-12(1)、第129図、図版163上〕

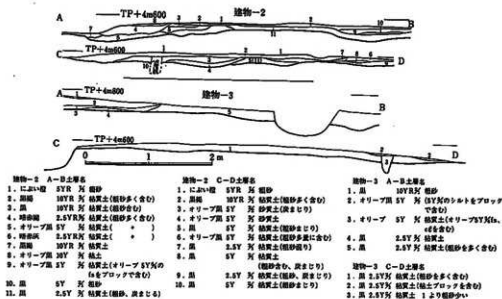
ここに溝-49とした遺構は、d-3の2区、建物-2の北側～東側に位置し、第8遺構面の溝-3・8の埋没後に掘り直された溝で、幅0.8m、検出長2.0m、深さ20～60cmで、西方の落込に接続する小溝である。出土遺物は土器片が大半である。なお、この溝は建物-2とほぼ同時期である。

溝-50〔付図-12(1)、第135図〕

Dトレンチのe-1の3・4区、S B-4の南側に接し、第8遺構面の土壌-3を切り込んでいる。溝は長さ4.2m、幅1.0m、深さ30cmである。溝内の堆積土は黒色粘土、砂質土、粘質土である。出土遺物は少量の土器片である。

建物-2〔付図-12(1)、第131～134・142・152図、図版146・148・149上・168上・中〕

Dトレンチ、d-2の1・3区とd-3区に位置し、盛土で方形に一段高くなった箇所建物(2間×2間)がある。周辺には、土壌、溝、建物-3がある。建物は、桁行2間、柱間寸法各180cm、梁行2間、柱間寸法各160cmの値を示す。方位は南北棟でN-11°15'-Wの方向を示す。低平な高まりを示す範囲は東西5m、南北6m、高さ10～20cm足らずで微高地になっている。このように平面形が方形プランになる微高地(高台)はD・D-1・D-2の3トレンチで14ヶ所観察された。このような箇所を高台と呼称して調査を進め、6ヶ所の高台では、ピット、盛土、

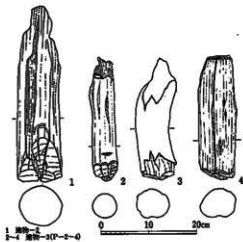


第132図 第7遺構面建物-2・3土層断面図

溝、土墳等のいづれかを確認した。建物-2に伴うピットは7ヶ所検出したが、その内の3ヶ所にピット上部に青灰色粘土層が大きく落ち込み、他の2ヶ所のピット上にも青灰色粘土層が量は少ないものの落ち込んでいた。また、ピット1・3内には2本の柱根が残り、それらの端部の径は約10cmである。その他、南側桁の中央のピット内には長さ約15cmの角礫を掘っていた。次に建物-2の範囲を明示するかのようP1~P7の内側に厚さ1cmにも満たない粗砂が撒かれていた。北西部には炭や灰が粗砂の上に堆積し、同様に土器片も北西部に散乱していた。またサヌカイト片もその中から少量ながら採集できた。表面の粗砂・炭等は調査中数回冠水したため、相当流出したが、砂質土上面に張りつくようにしていくらか残すことができた。このように建物部分に限って粗砂を散布したと思われる箇所は、D-2トレンチの建物-5にも見られる。粗砂の下には黒褐色~黒色粗砂混じり粘質土、粗砂等(第132図上A-Bの1~3層)を10~20cm盛っている。また、盛土の下には1~2cmの炭化物の層が薄く堆積しているのが認められた。出土遺物は表面と盛土内から第152図18~30の土器が出土した。

建物-3 [付図-12(1)、第131~134・142・153図]

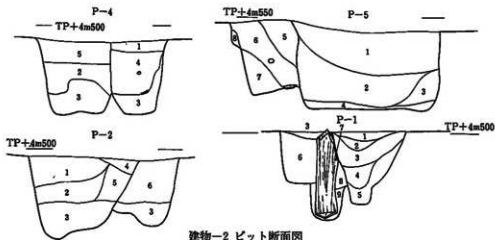
Dトレンチ、d-1の3・2の4区の周囲より約15cm(第132図建物-3 A-B断面の土層1・2)ほど盛り上がった高台4上にある。先述の建物-2は東約6mにある。検出した遺構は、桁、梁行の柱列に伴う5ヶ所のピットと10~20cmの盛土である。建物は黒色粗砂混じり粘質土の上に同じ黒色の粘質土、ブロック状青灰色粘土、黒色粗砂を厚い所では20cmも積み上げている。この小さく盛り上がった範囲は、北西辺の一部を欠くが、東西、南北約4mの方形のプランを示す。また、この箇所と建物-2との間は、東西4m、南北6mの方形の範囲でやや小高くなり、土墳-6の北端部より1本の柱根を検出している。この箇所にも建物が存在していた可能性がある。建物-3の5ヶ所のピットの掘方は、径20~30cm、深さ5~10cmで、その中には相当腐植の進んだ柱根5本が残り、腐植した部分には黒色粘土層が堆積していた。検出した建物の南側桁行の柱間寸法が128、138cm、東側梁行の柱間寸法が108、112cmで各2間分を検出している。北側桁行、西側梁行は不明だが、ここでは少し小高い地形の範囲内に東西棟でN-74°15'-Eの方位の2間×2間以上の建物が存在していたことが十分考えられる。建物2・3の柱根は第133図のとおりで、端部は1・2が尖り、3・4は平坦である。出土遺物は第153図31~39である。



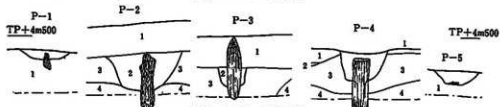
第133図 第7遺構面建物-2・3柱根突測図

だ柱根5本が残り、腐植した部分には黒色粘土層が堆積していた。検出した建物の南側桁行の柱間寸法が128、138cm、東側梁行の柱間寸法が108、112cmで各2間分を検出している。北側桁行、西側梁行は不明だが、ここでは少し小高い地形の範囲内に東西棟でN-74°15'-Eの方位の2間×2間以上の建物が存在していたことが十分考えられる。建物2・3の柱根は第133図のとおりで、端部は1・2が尖り、3・4は平坦である。出土遺物は第153図31~39である。

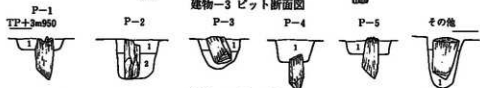
次に、高台-4の西の一面を高台口として調査を進めた。



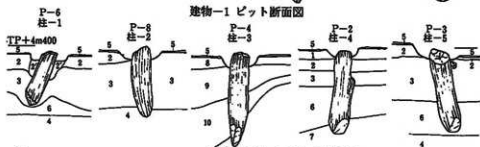
建物-2 ビット断面図



建物-3 ビット断面図



建物-1 ビット断面図



建物-5 ビット断面図

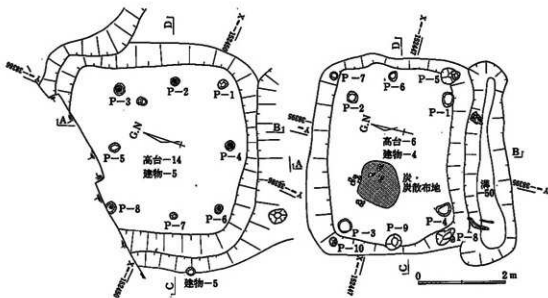
- 0 1m 7
- | | | |
|---|--|---|
| <p>○建物-2</p> <p>1. 土 7.5V 灰 粘質土</p> <p>2. 土 10V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>3. 土 10V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>4. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>5. 土 2.5V 灰 粘質土</p> <p>6. 土 2.5V 灰 粘質土(セリア質SV灰粗砂混入)</p> <p>7. 土 5V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>8. 土 5V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>○建物-3</p> <p>1. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>2. セリア質 5V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>3. セリア質 7.5V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>4. 土 3.5V 灰 粘質土</p> <p>5. セリア質 5V 灰 粘質土</p> <p>○建物-4</p> <p>1. セリア質 5V 灰 粘質土(灰質灰色細砂、灰、灰まじり)</p> <p>2. 土 2.5V 灰 粘質土</p> <p>3. 土 7.5V 灰 粘質土(赤褐色粘土)</p> <p>4. セリア質 7.5V 灰 粘質土(粗砂まじり)</p> <p>5. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>6. セリア質 10V 灰 粘質土</p> | <p>7. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>8. 土 10V 灰 粘質土(4まじり)粗砂</p> <p>9. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>○建物-5</p> <p>1. 土 7.5V 灰 粘質土(粗砂混入)</p> <p>2. セリア質 5V 灰 粘質土</p> <p>3. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>4. 土 2.5V 灰 粘質土(灰まじり)</p> <p>5. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>○建物-6</p> <p>1. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>2. セリア質 10V 灰 粘質土</p> <p>3. 土 2.5V 灰 粘質土</p> <p>4. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>○建物-7</p> <p>1. 土 7.5V 灰 粘質土(粗砂多量含む)</p> <p>2. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>3. セリア質 5V 灰 粘質土</p> <p>4. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>5. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>6. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>7. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>8. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>9. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>10. 土 10V 灰 粘質土</p> | <p>○建物-8</p> <p>1. セリア質 7.5V 灰 粘質土(粗砂多量含む)</p> <p>2. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>3. 土 2.5V 灰 粘質土</p> <p>4. セリア質 5V 灰 粘質土</p> <p>○建物-9</p> <p>1. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>2. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>3. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>4. セリア質 5V 灰 粘質土</p> <p>5. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>6. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>7. セリア質 7.5V 灰 粘質土</p> <p>8. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>9. 土 10V 灰 粘質土</p> <p>10. 土 10V 灰 粘質土</p> |
|---|--|---|

第134図 第8・7遺構面建物1-1~3・5他ビット断面図

建物-4 [付図-12 (1)、第135・136・142・158図、図版166・187上]

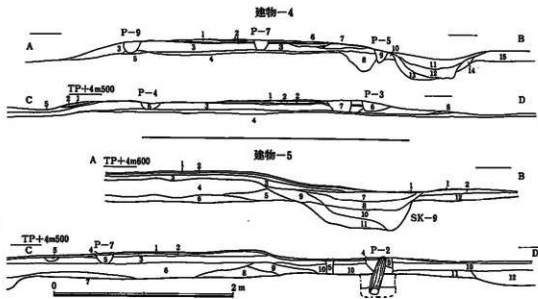
この遺構はDトレンチ、1-1の3・4区にあり、東西約4.5m、南北約3.5m、約10cm盛土した少し小高い方形の高台6の上にある。ピットは四隅や縁辺部から10ヶ所検出しているが、P-1～P-4には黒色粘土層、P-5～P-10には青灰色粘土層、黒色粘土層が堆積し、埋土から新旧の時期差があると考えられる。小高くなった箇所の土層は、建物-2、3などと同様に若干の土を盛り上げて粗砂(第136図1・2層)を表面に散布している。東、北側でその量は最も多く1.5cmの厚さを計り、黒色粘質土の上に黄褐色粗砂層を薄く敷きならしたものである。特に黄褐色粗砂層は建物の範囲を超え、東の方へ薄く延びているのが注目される。その他、盛土表面には北西部に土器片が10点あまり散乱し、炭、灰等が1～2cm堆積していた。埋土の差から古いと考えられる建物-4(旧)P1～P4は、桁行、梁行とも各1間で、桁行の柱間寸法は、230～290cm、梁行の柱間寸法は、215～230cmの間隔がある。本調査で検出した建物の柱間の中でも異様に広い。建物-4(新)P5～P10は、桁行は1間で柱間は375、395cm、南北の梁行は2間で柱間寸法は130、135、142cmである。両建物の柱間は、新しい方の建物の梁行を除いて非常に柱間が広い。これらの建物のピットがさほど深くなく、10cmにも満たないものがあることから、盛土部に掘られた浅いピットが流出し、その痕跡すらとどめていないのか、束柱的なものがあつたのかもしれない。東西棟の建物の方位は、旧の方がN-76°15'-E、新しい方がN-75°20'-Eの方向を指し示す。遺物は第153図42～59・図版187-53・188-42、43に示すような壺、甕の破片が出土している。

建物-5 [付図-12、第134～137・142・159図、図版141・144]



第135図 第7遺構面建物-4(右)・5(左)平面実測図

D-2 トレンチ、1-2の3・4区とf-2の1・2区にある。調査区内には北西コーナーを除く大半が含まれる。検出した遺構は、盛土を伴う5m四方の方形の区画(高台14)と、この上に建つ2間×2間の東西棟の建物である。周囲4~6mの範囲には土壌-5、6、15、井戸-2、建物-4等がある。盛土(第136図1~3層)は下層の土壌-9、10、11(埋土は黒色炭屑・粘質土)の上に黒色粗砂混じり粘質土や粘土を5~15cm盛り上げ、さらに中央の高い箇所には黄褐色粗砂を薄く散布、敷き均らししている。粗砂の散布、敷き均らし方の遺存状態は、本例が最も良好



○建物-4

○A-B

1. 層 2.5Y 灰 粘質土(砂質性あり)
2. 層~突端 2.5Y(灰) 粗砂
3. 層 2.5Y 灰 粘質土(時オリープ5Yの粗砂が階段状に入る)
4. 層 2.5Y 灰 粘質土(粘土に近い)よりやや黄色が暗色
5. 層 7.5YR(灰) 粘土
6. 層端 2.5Y 灰 粘質土(砂質性あり)
7. 層端 2.5Y 灰 砂質土層(雑粒子)
8. 層 5Y 灰 粘質土(粗砂少々含む)
9. 層 7.5YR(灰) 粘土
10. 層 2.5Y 灰 粘質土(粗砂混じる)
11. オリープ面 5Y 灰 粘土
12. 層 5Y 灰 粘質土(灰まじり)
13. 層 オリープ面 5Y 灰 粗砂質土(粘質あり、シルト混入)
14. 層 5Y 灰 粘質土
15. 層 5Y 灰 粘質土

○C-D

1. 層 2.5Y 灰 粘質土(砂質性あり)
2. 層~突端 2.5Y 灰 粗砂
3. 層 2.5Y 灰 粘質土(時オリープ5Yの粗砂が階段状に入る)
4. 層 2.5Y 灰 粘質土(粘土に近い)よりやや黄色が暗色
5. 層 2.5Y 灰 粘質土
6. 層 7.5YR(灰) 粘土
7. 灰オリープ面 7.5Y 灰 粘土
8. オリープ面 2.5Y 灰 粗砂

○建物-5

○A-B

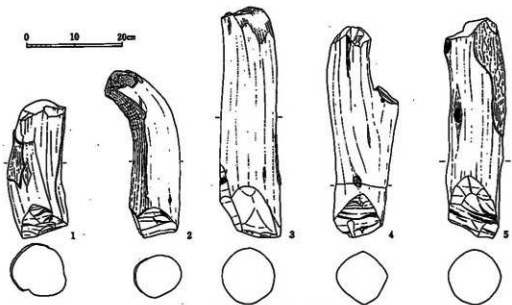
1. 灰オリープ 5Y 灰 粗砂
2. 層 5Y 灰 粗砂混じり粘質土
3. 層 10YR 灰 粘土(砂少々混じる)
4. 層 5Y 灰 粗砂質土
5. 層 5Y 灰 粘質土
6. オリープ面 5Y 灰 粗砂
7. 灰 7.5Y 灰 粘土(右側埋土)
8. 層 10YR 灰 粘土(灰混じり)
9. オリープ面 5Y 灰 粘質土(灰混じり)
10. 層 10YR 灰 質
11. オリープ面 7.5Y 灰 粗砂+粘土

12. 3+2

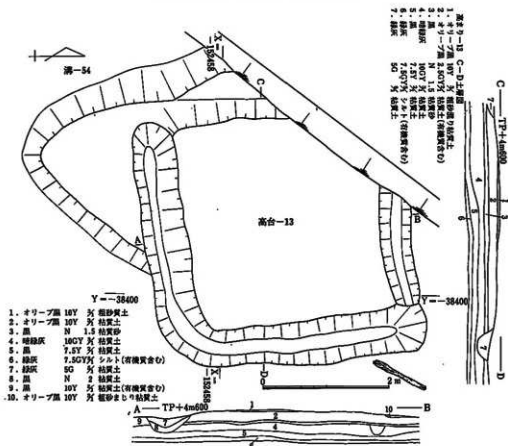
○C-D

1. 灰オリープ 5Y 灰 粗砂
2. 層 5Y 灰 粗砂混じり粘質土
3. 層 10YR 灰 粘土(砂少々混じる)
4. 灰 5Y 灰 粗砂
5. 層 5Y 灰 粗砂
6. 層 5Y 灰 粘質土
7. オリープ面 5Y 灰 粗砂
8. 層 5Y 灰 粘質土
9. 灰オリープ面 2.5Y 灰 粗砂
10. 層 5Y 灰 粗砂質
11. オリープ面 5Y 灰 粘土
12. 層 2.5GY 灰 シルト+粗砂

第136図 第8遺構面建物-4・5土層断面図

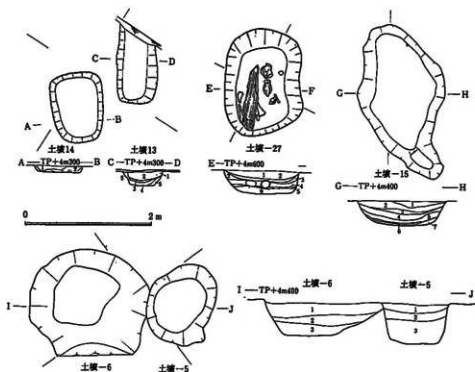


第137図 第7遺構面建物-5柱根実測図



第138図 第7遺構面高台-13平面・断面実測図

である(図版-137)。ピットは径15~20cm、深さ5~15cm(第136図)を測り、その中に広葉樹の不揃いな柱根が傾いたり、曲がって残存していた。残存している柱根の周囲には黒色粘土が薄く取り巻き、柱根のない3ヶ所のピットには、極めて軟弱な黒色粘土層、青灰色粘土層が堆積している。柱根(第137図)の加工の仕方には2通りあり、その一つは径10cm内外の広葉樹の先端を鋭く円錐状に加工したもの、もう一つは2方向からカットした径20cm位の広葉樹を用いている。ピットの掘形はさほど明瞭ではない。一部の柱根の根元の軟弱な土は、柱根を折り曲げたり抜き取り時等に生じた隙間の埋土の可能性もある。次に、ピット掘形と柱根の端部の加工の関係は、柱根端部が平坦なものにはピットに掘形が認められ、尖鋭なものには掘形が不明瞭である。後者の柱根は打ち込むものであったかもしれない。出土遺物は黒色有機質粘土中と黒色粘質土上面から若干の土器片(第159図16~23・153図31~39)が出土している。建物の方向はN-67°-Eの東



○土壌-15

1. 黒 2.5Y ㄹ 粘土(粗砂多量に含む)
2. 黒 10YR ㄹ 粘質土(植物遺体多く含む)
3. 暗オリーブ褐 2.5Y ㄹ 砂質土
4. 黒 N 1.5 砂質土と有機質包含のラミネー(粗多し)
5. 黒 7.5YR ㄹ 砂質土
6. 暗灰黄 2.5Y ㄹ 砂質土
7. 黒 N 1.5 砂質土

○土壌-27

1. 暗緑灰 7.5GY ㄹ 粘土
2. 灰オリーブ 7.5Y ㄹ 細砂
3. 暗オリーブ灰 5GY ㄹ 粘土
4. 黒 10YR ㄹ 粘土
5. 褐色植物遺体(粘土ブロック混じる)
6. 緑灰 7.5GY ㄹ シルト(粘土ブロック混じる)

○土壌-13

1. 黒 10YR ㄹ 粘質土(粗砂含む)
2. 黒 10YR ㄹ 粘質土(灰まじり)
3. 黒褐 5YR ㄹ 粘質土(炭灰混じり、灰層)
4. 黒褐 5YR ㄹ 粘質土
5. 黒 2.5Y ㄹ 粘質土(粗砂混じり)

○土壌-14

1. 黒 10YR ㄹ 粘質土(粗砂含む)
2. 黒 10YR ㄹ 粘質土(炭灰混じり)

○土壌-5・6

1. 黒 10YR ㄹ 粘土(植物遺体混、粗砂少量含む)
2. 黒褐 2.5Y ㄹ 粘土(炭+粗砂含む)
3. オリーブ黒 5Y ㄹ 粘土

第139図 第7遺構面土壌-5・6・13-15・27平面・断面実測図

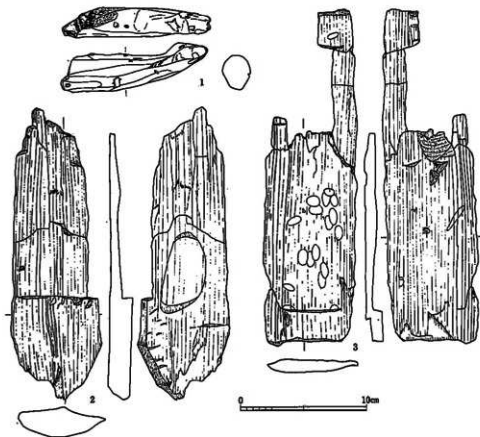
西棟である。

高台-13〔付図-12(1)、第138・142図〕

D-1トレンチ、d-10の3区、d-1の4区にあり、北西コーナーは調査区外へ続く。東と南の溝は幅50~80cm、長さ3.5~4.0m、北には幅50cm、深さ1.5m以上の溝がコの字形に廻り、西側は溝-54に落ち込む(第138図)。プランは東西がやや長く、方位は $N-8^{\circ}20'-W$ である。表面は1~2cmの黒色粗砂質土、その下に粘質土の2層の盛土が薄く認められた。この少し小高い高台上には、土壇やピット等の遺構はなく、また遺物も出土していない。溝内も同様である。ただ、東溝のすぐ横からは、竪杵1本が出土し、2m程隔てた南東からは廃棄されたサヌカイトのチップ、フレック等が1ヶ所(資料-4)に集中していたが、数度の冠水で一部流出した。

土壇-13、14〔付図-12(1)、第139図〕

Dトレンチ、c-3の3区にある方形の土壇(第139図)である。方位は、土壇13が $N-33^{\circ}45'$



第140図 第7遺構面土壇-27出土木器実測図

—W、土壌14がN-38° 10′—Wである。土壌の規模は若干の大小があるが、長さ約110~130cm、幅約60~80cm、深さ10cm、炭、灰等がレンズ状に堆積した中に獣骨片、土器片も見られる。

土壌-27〔付図-12(1)、第139・140・158図〕

D-1 トレンチ、d-1の1区にある隅丸方形のプランの土壌(第139図)である。土壌の規模は、長さ170cm、幅120cm、深さ35cm、長軸の方位はN-58° 30′—Eである。土壌内には粘土層が堆積している。その一部墳底から10cm程上に厚さ4~5cmの草木類の茎や葉等の植物遺体層があり、さらに10cm上の10YR1.7/1の粘土層中に焼け焦げて破損した木器〔1.(鳥型か) 2・3.(板材)〕、木片(第140図)や土器(第158図1~12、図版189-5・10)が含まれていた。

土壌-5、6〔付図-12(1)、第139図〕

D-2 トレンチ、e-3の4区にある不整形の土壌(第139図)で、建物-5の東約5mの位置にある。土壌-5は径約1.2m、深さ約40cm; 土壌-6は径約1.8m、深さ約50cmの土壌である。

土壌-15〔付図-12(1)、第127・139・159図、図版143〕

D-2 トレンチ、e-2の3区にある。不整形なプランを呈し、規模は長さ約260cm、幅約140cm、深さ約30cm、底の平坦な断面台形の土壌(第139図)である。墳内には粘土・粘質土・砂質土が堆積している。このうち、第2、4層は特に植物遺体が多く、4層からは大量の稲穂が出土し、第3層からは第159図24~36、図版189-30・34に示したような土器と銅戈(図版130下)の破片が出土している。土器はこの他の土層からも出土しているが、小さな破片が多く、接合、復元は不可能である。

銅戈の破片は基部と見られ、3辺のうち2辺の縁辺部が研磨されて鋭い刃部を作りだしている。現存寸法は、横32mm、縦24.5mm、厚さ2mm、重さ3.5g、2ヶ所に紐掛孔があけられている。中央には銅戈の柄や複合鋸歯文が見られる。2辺は研磨され、鋭く研ぎだされていることから利器として使用されたことをうかがわせる。

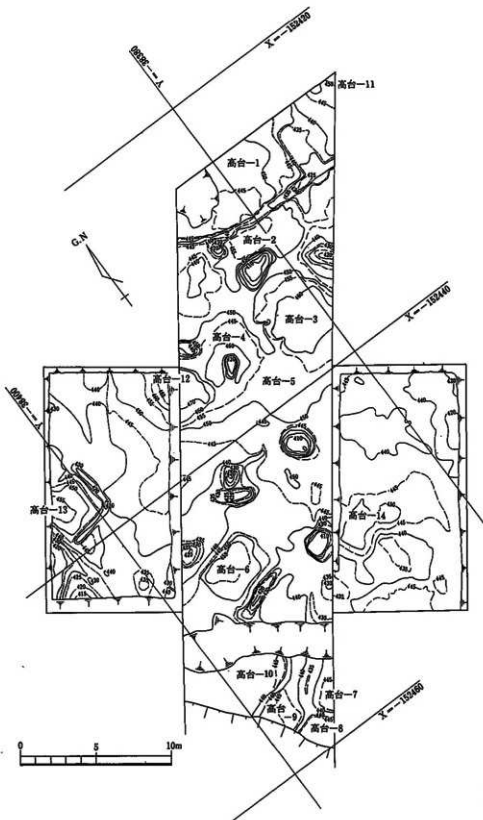
Cトレンチからも銅利器片が1点出土している。その大きさは上辺5.1mm、下辺17.6mm、縦25.6mm、厚さ1.4mmである。この銅片は先に説明した遺物のように意図的な加工はない。



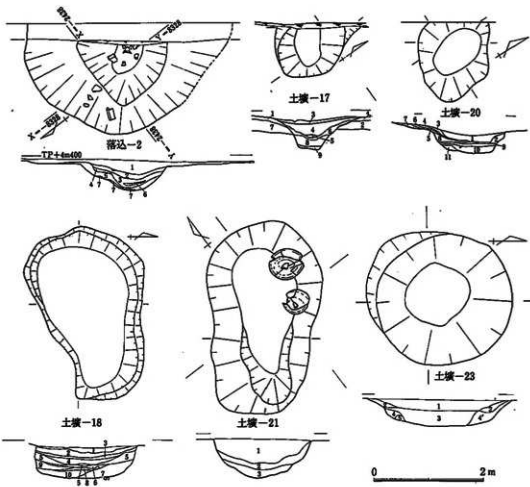
第141図 第7遺構面サヌカイト集積ピット位置図

サヌカイト集積ピット〔付図-12(1)、第141図、図版152上・155〕

調査地区の各所からサヌカイトフレークや石器が出土している中で、特に密集している地点・土層は、e-2の4区の井



第142図 黑色粘土上層上面コンター図



○土塚-18

1. 埴輪灰 10GY 瓦 粘土(有機質)
2. 面焼 2.5Y 瓦 粘土
3. 周焼 2.5Y 瓦 粘土
4. 周焼 2.5Y 瓦 粘土(粗砂混じる)
5. オリブ灰 5Y 瓦 粘土
6. 瓦 2.5Y 瓦 粘土(埴輪灰10GY瓦粘土混じる)
7. 瓦 2.5Y 瓦 粘土(粘質大、粗砂混じり)
8. 瓦 2.5Y 瓦 粘土
9. 瓦 2.5Y 瓦 粘土(雑砂含む)
10. 瓦 10YR 瓦 粘土
11. 瓦 10YR 瓦 粘土、緑灰7.5GY瓦雑砂

○土塚-17

1. 瓦 5Y 瓦 粘土(粗砂混じる)
2. 瓦 2.5Y 瓦 シルト質粘土
3. 瓦 5Y 瓦 粘土
4. 瓦 5Y 瓦 粘土(粗砂、微砂混じる)
5. 瓦 7.5Y 瓦 粘土(炭化物層)
6. 瓦 2.5Y 瓦 シルト
7. 瓦 2.5Y 瓦 粘土(シルト、小石混じり)
8. 埴輪灰 7.5GY 瓦 微砂(周の5Y瓦粘土ブロック混じる)
9. 瓦 2.5Y 瓦 粘土(有機物層)

○落込-2

1. 埴オリブ灰 SGY 瓦 粘土(炭層にも埋積している)
2. 青瓦 10NG 瓦 粘土
3. 青瓦 5BG 瓦 粘土(小石混じり)
4. 埴輪灰 N 2 粘土(炭混じり)
5. 埴輪灰 7.5GY 瓦 粘土(中砂含む)
6. 瓦 N 1.5 有機質粘土(植物遺体、小石混じり)
7. 埴輪灰 7.5GY 瓦 細砂(粘土ブロック混じり)

○土塚-23

1. 埴オリブ灰 SGY 瓦 粘土
2. 埴瓦 10GY 瓦 中砂(粘土、土含む)
3. 埴輪灰 7.5GY 瓦 粘土
4. 埴輪灰 7.5GY 瓦 粘土と中砂の互層
(互は中砂が均等に散っている)
5. オリブ灰 SGY 瓦 粘土(中砂混入)

○土塚-21

1. 埴輪灰 10GY 瓦 粘土
2. 瓦 7.5Y 瓦 粘土(粗砂混入)
3. 瓦 7.5Y 瓦 粗砂(上層粘土混入)

○土塚-20

1. 瓦 5Y 瓦 粘砂質土(粘土ブロック層)
2. 埴オリブ灰 5GY 瓦 粘土
3. 周焼 10YR 瓦 粘土
4. 埴灰 N 3 粘土
5. 瓦 2.5GY 瓦 粗砂質土
6. 2と9の互層、泥砂(粘土質)9砂混じる
7. 瓦 2.5GY 瓦 粘土(粗砂混入)
8. 植物遺体層
9. 瓦 2.5GY 瓦 砂質土(中や粘土土)
10. 灰オリブ 7.5Y 瓦 粗砂

第143図 第6遺構面土塚-17・18・20・21・23・落込-2平面・断面実測図

戸-1の埋土中、f-1の2区のピット内、d-1の4区の径30cmの範囲に廃棄、集積している。この他、フレーク、チップ等は割合と限定された地点から出土している。第141図の中央の2ヶ所のピット内からは、無数のフレーク、チップと共に廃棄された石錘や石鏃等の石器が出土している例である。

C. 第6遺構面〔付図-13、第142・143図、図版135・159〕

第6遺構面の遺構は、不整形な土塊、井戸、溝等で、第7遺構面の遺構と重複するものや切り合うものが多い。遺構の埋土は柔らかい黒色有機質粘土層、青灰色粘土層、青灰色粗砂層等が大半で、出土遺物は、黒色有機質粘土層上部から出土したものが多い。

井戸-2〔付図-13(1)、第127・157図、図版150・160下・165下〕

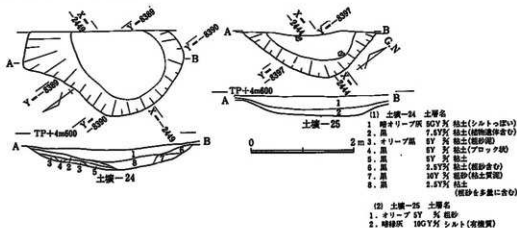
この遺構はe-1の1区にあり、平面形は不整な円形で、口径は1.5~1.7m、深さ2.0mの断面U字形を呈し、最深部は粘土層を掘り抜き、粗砂層に達している。埋土は、大半が有機質の黒色~灰黒色粘土層で、最上部に青灰色粘土層が堆積していた。出土遺物は第157図148~150の土器と獣骨片、桃の核、多量の有機物である。

土塊-16〔付図-13(1)・(2)、第154図、図版161上〕

c-2の3区にあり、不整な長方形のプランを示す。長さ1.4m、幅1.0m、深さ0.3~0.4mの不整形な土塊(付図-13)である。埋土は青灰色粘土層と極めて軟らかい黒色有機質粘土層が堆積していた。出土遺物は第154図81と少量の土器片である。

落込-2上層(土塊-17)〔付図-13(1)、第131・154図、図版161下〕

c-2の4区にあり、落込-2上層の一部である。壁際にあるため、平面形等の全容は知りえないが、長さ0.9m以上、幅1.3m、深さ0.6m以上の不明瞭な形状を示す。出土遺物は第154図80の



第144図 第6遺構面土塊-24・25平面・断面実測図

他、少量の土器片が出土している。

土壌-18〔付図-13(1)、第143・154図、図版162上〕

d-2の1区にある。平面は不整形な方形(第143図)で、規模はおおよそ長さ3.3m、幅1.3~2.4m、深さ0.6mである。埋土は植物遺体を多く含む青灰色・黒色の粘土層である。出土遺物は、完形品の壺と土器片(第154図84~88)、獣骨片、種子等である。

落込-1上層(土壌-19)〔付図-13(1)、第155・167図〕

d-3の2区にある。本土壌は、落込-1上層の青灰色粘土層から若干の土器片(第155図-90)が出土した。上層の規模は、長さ、幅とも1.5m以上、深さ0.4m位の不明瞭な形状である。

土壌-20〔付図-13(1)、第143・167図〕

d-2の2区にあり、周囲より少し高い場所にある。不規則な平面形のこの土壌(第143図)の規模は、長さ1.6m以上、幅1.4m、深さ0.3m位で、土壌内は黒色がかかった粘土層等が薄く堆積し、その上の青灰色粘土層との境目から第167図-15の土器1点が出土している。

土壌-21〔付図-13(1)、第143・155・131図、図版162下・187〕

d-2の4区にある平面形が小判形の土壌(第143図)である。規模は、長さ約1.8m、幅1m余、深さ0.3mの各計測値を示す。埋土は青灰色粘土層と軟らかい黒色粘土層である。墳内からは、若干の弥生土器の他、第155図91、92、図版187-91・92の高杯が北寄りから裏返しになった状態で出土した。これらはいずれも脚部を打ち欠く。92は外面に赤色顔料を塗布している。

土壌-22〔付図-13(1)・(3)、第127・166・167 図版150上・160上・165下〕

e-1の1区にある不整形な長方形の土壌(第127図)で、長さ2.9m、幅約1.3m、深さ30cm余の計測値を示す。埋土は大半が青灰色粘土層と黒色粘土層等で、遺物は墳底の20~30cmの青灰色粘土層から第166・167図-4、6、28が横倒しの状態で出土した。

土壌-23〔付図-13(1)、第143・155図、図版164上〕

e-2の2区にある円形の土壌(第143図)で、径は約2.5m、深さ0.6m余の楕円状の断面形状をしている。埋土は大半が青灰色と黒色等の粘土~粘土質土層で、出土遺物は第155図93~100が出土している。

土壌-24〔付図-13(1)、第144・155図、図版164下〕

e-2の4区にある方形に近い土壌(第144図)である。D-2トレンチの一部に拡がり、規模

は推定長約3m、幅約2.3m、深さ約0.5mで、断面は椀状を呈する。埋土は上層が青灰色・下層が黒色の粘土層等である。遺物は、上層から第155図101～105の他若干の土器片が出土している。

土壇-25〔付図-13(1)、第144・167図、図版159下・163下〕

e-1の2区にあり、D-1トレンチに続く不整形な土壇(第144図)である。規模は長さ約3.4m、幅約1.6m、深さ0.3m余を計る。埋土は図に示す通りである。遺物は流れ込んだ青灰色の砂・粘土層から第167図19、22、23、25等が出土している。

土壇-26〔付図-13(1)、第166図〕

f-1の1区(付図-13)にあり、長さ約1.7m、幅約0.9m、深さ約0.4mで、平面形は小判形、断面形状は椀状を呈する。土壇の埋土は青灰色と黒色の粘土層である。遺物は、上層の青灰色粘土層から第166図8が出土している。

落込-1、2〔付図-13(1)、第127・143・163・167図、図版165上〕

落込-1は、d-3の2、4区にまたがる長さ、幅が約2～3.5m以上、深さ約0.4mの平面形が不定形な落込(第143図)である。埋土は青灰色粘土層と黒色粘土層で、遺物は第127図64～74、第167図-10が出土している。落込-2(付図-13、第143図)はc-2の3、4、d-2の1、2区にあり、長さ、幅とも数m、深さ50cmの不定形な落込である。埋土は上層が青灰色、下層が黒色粘土層で、遺物はいづれも青灰色粘土から第154図75～79、第163図93が出土している。

次に、調査時に黒色粘土層上面に約16箇所の溝状遺構を確認している。その中の主要な溝は次のようなものである。

溝-50、51、61〔付図-13(1)・(2)、第166・167図〕

溝-50(方形落込)は、c-3の3、4区にあり、長さ約4.7m、幅約1.8m、深さ約10cmの方形のプランで断面は逆台形の浅い溝である。溝-51は長さ約3.8m、幅約1.4m、深さ10数cmで、プランはゆるく『く』の字形に折れる溝である。埋土は、いずれも青灰色粘土層である。遺物は溝-50から(第166図-7、第167図-9)が出土し、溝-51からは土器片が出土している。なお、d-1の2区の溝-61は、溝-51よりやや幅が広いが、深さ、埋土とも大変良く似ている。

溝-53上層〔付図-13(1)、第166図、図版166下〕

e-1の3、4区にある長さ約4.7m、幅約1.0m、深さ約30cm、断面は逆台形の溝である。土層断面の観察からは、下の第7遺構面の建物-4とはほぼ同時期のもので、建物と高台の整地、溝の埋没、掘り直し等の一連の作業がなされたのであろう。青灰色粘質土が最終の埋土である。遺物

は上層から第166図-1、3が出土している。

溝-62、63〔付図-13(1)〕

D-1トレンチ、d-10の1区にある。溝-63は、長さ約7.5m、幅約0.8m、深さ0.2m足らずのL字形をなし、断面はU字形をしている。溝-62は、長さ2m以上、幅約0.5m、深さ10cm余の狭小な溝で、断面はU字形になり、先端は溝-63に連結している。なお、溝の配置状況はコの字形になり、一見すると小規模な方形周溝墓のように見えるが、少し盛り上がった中央の方形区画内や周辺には土壇等の主体部と見られるものは検出されなかった。

溝の埋土は青灰色粘土層で、遺物は出土していない。

溝-52、54~56、57~60〔付図-13(1)、図版159下〕は、調査地区南半に散在する不定形な溝で、溝の埋土はいずれも青灰色粘土層である。

4. 第5遺構面〔付図-14、図版170〕

調査区全面から検出した水田遺構が第5遺構面(図版170)に該当する。そのうち調査区南端の河川周辺では水田畦畔が認められず、また北端では畦畔もかなり不明瞭になる。検出した水田の総数は56枚で、個々の水田の形状、面のわかるものは10枚である。次に主な水田、水口、土堤、水路について記す。

水田(ST1~ST56)〔付図-14(1)~(5)〕

水田は第3・4遺構面のベースになる砂層~砂質土層を30~60cm除去した灰オリーブ色砂質土~粘土層上面で検出される。水田の上面には細砂、粗砂が堆積していた。水田面のレベルは調査区南部でT.P.+5.00mを測り、北へ100mの地点の水田の標高はT.P.+4.65mを示し、南から北へゆるく傾斜している。56面の水田は、このわずかな北向きの緩斜面に作られたもので、これと共に検出した遺構は大小4条の水路と、その肩部に盛りられた小土堤である。個々の水田の形状は千差万別で、平坦地の水田はおおむね方形のプランを示すものが大半であるが、水路の両側や比高差のある地形の水田は、不整形で、面積も減少気味になり、畦畔の方向も多方向である。畦畔の規模〔付図-8(3)~(4)〕は小さく、幅約50cm、高さ5~10cmのものが多い。しかし、中には幅1m前後の畦畔もある。

水口〔付図-14(1)・(2)〕

畦畔の一部に見られる水口は、今回の調査では4ヶ所と極めて少なく、1ヶ所目は13と14の間、2ヶ所目は18と19の間、3ヶ所目は35と36の間、4ヶ所目は49と53の間にすぎず、すべての水田畦畔には施されていない。

土堤-1~4〔付図-14(2)・(5)、図版170下〕

水路肩部の盛土は、盛土の大きいものや規模の大きいものを土堤とし、周辺の土砂を粗く積み上げるという点では土堤-1~6と畦畔は類似し、差異はない〔付図-14(5)〕。土堤1、4、5は幅50cm前後、深さ20~30cm程度の小さな水路の両側に作られたもので、途中で途切れている。堤3は水路-1の南肩部に砂~粘土層で盛られたもので、幅約1m余り、高さ20cm余りの断面台形の低平な盛土で作り上げられている。水路-1の北肩部の東半には南側のものよりやや小さく、幅70cm、高さ10cm余り、長さ2.00mの堤が認められる。西半部には大きな堤は見られず、肩部に非常に小さい小畦畔状の盛土があるにすぎない。

土堤-5、6〔付図-14(1)〕

水路-4の両肩部に作られた土堤である。南肩部になされた盛土は、幅約1m足らず、高さ10数cm、長さ約5mで途切れ、北肩部の盛土は、幅60cm、高さ20数cm、長さ5m以上である。これら2本の堤は、溝の両肩部に土を少し盛り上げた簡単な作りで、堤としてより個々の水田に伴う畦畔としての役割の方が強いのかかもしれない。また、土手-5、6の延長部分は水田48、55の畦畔に相当するが、その箇所には盛土は見られず、水路に直接連なっており、なんらかの事情によって畦畔が取り払われたのか、あるいは必要性が少なかったのであろう。

その他、水田51、52、54の間隙に島状高まりとも呼べる小さな土地がある。この土地は畦畔より数cm低く、周囲の水田より5~10cm一段高い。一辺約1.50mの三角形状をし、水田とは判断しがたい箇所であり、その利用については不明な点が多い。

次に、水田と共に検出した水路〔付図-14(1)・(2)〕は5条ある。それぞれの水田への用排水路としての機能を果たしていたのであろう。

水路-1〔付図-14(2)・(5)〕は幅約2m、深さ約70cmで、幅、深さともに最も大きく、今回の調査における水路の中心的な存在であったと考えられる。水路の流れの方向は、底の標高がT.P.+6.20m前後で、両側の堤の高さを比較すると、北側の堤がやや高く、さらにそれぞれの堤の東部がわずかに高い等から、水路-1の水は東から西へ流下していたものと推測される。南端の自然河川との関連があるのかも知れない。

水路-2〔付図-14(2)・(5)、図版170下〕は水路-1の西土堤に沿って走り、トレンチ部東端で南に強く屈曲している。この水路は、北側を畦畔-3、南西側を水田6、13、14の畦畔によって、さらに南東側を土堤-2によって固定されている。

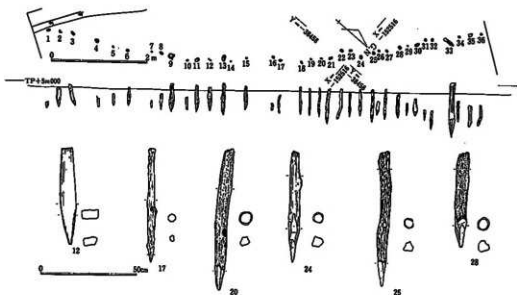
水路-3〔付図-14(2)〕は東、西を土堤-1、2によって固定され、水路-2の一部と平

行する。北東～南西方向の水路である。水路は幅数10ca、深さ10ca、両側の盛土高は10ca前後しかない。土堤-1の両端は途切れがちになり、水田-15と水路-3を区切る堤はなくなる。そして、この水路の北よりの1ヶ所に、水路部を土で小さく堰き止めた箇所がある。近くの土堤-2、3の一段低くなった結節部を通じて標高の低い水路-2に連絡している。水路-3へ導入された水は北東へ流下し、水位水量調整機能を有する水路途中の盛土に堰き止められ、水路-2へ分流していたのであろう。

水路-4〔付図-14(1)、図版170上〕南と北に土堤5、6を作り、水田49、53、55、56の間を流れる。幅1.00m、深さ30ca前後である。溝底は西の方がやや低い。次に、水田48、55は周囲の水田より10ca程低く、先述したように水路との境に堤(畦畔)は見られない。この2枚の水田の用水管理面から、畦畔の必要性が少かったとも考えられ、直接水路から用水の取水をしていたのかもしれない。

水路-5〔付図-14(2)〕はD-5トレンチから検出したもので、水田9～12と畦畔を横切って北東から南西に走る。幅1.20m～1.60m、深さ約30caを計るもので、北東の部分では著しく狭く、浅くなっている。なお、この水路の両側には盛土はなされていない。

水路、及び水田を覆う砂層からの出土遺物は第168図9～12、図版195-9・196-10～12のような土器で散発的に出土している。



第145図 D-7トレンチ第5遺構面河川-1枕列平面・見透し図、枕実測図

河川-1 [付図-14 (2)、第145・168・169図、図版173]

調査区南端とD-7、8トレンチで確認した河川で、河川北岸～東岸の一部を検出した。河川の北肩部は第4遺構面の水田を挟んでなされる。幅10m以上、深さ約1.5mを測る河底の平坦な川である。河の流れの方向は、本トレンチ南端から10m付近で北西に急激に向きを変えている。流れが向きを変えるコーナー付近は水勢が強く、水田の一部をえぐりとりたらし、河川の延長部分の水田が相当流出しているのが観察された。河川内の堆積は粗砂層がほとんどであるが、北岸付近は植物遺体をバンド状に含む土層が多く、南側の砂層堆積は径10～40cmの粘土ブロックを多く含む土層に分層でき、数回の大きな流れの変化を示している。この他、河川の砂層中には10～50cmの加工木・自然木を用いて川の流に平行する杭列(第145図)が検出されている。

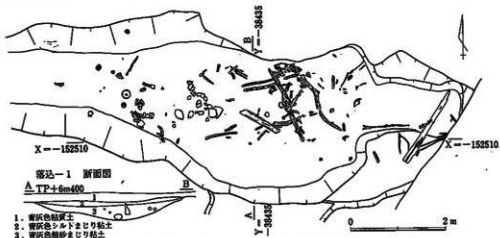
出土遺物(第168図1～9、第169図16、図版195-1・2・4・5・7～9・196-6・8)は河床底近くから散発的に7点の完形の土器を含め、若干の弥生土器が出土している。土器は破片になったものはよく磨滅しているが、完形品の7点は砂層内のローリングの被害も少なく、器表面の荒れも少ない。

5. 第4遺構面 [付図-15の(1)～(4)]

この遺構面は、粘土層上面に掘り込まれた小ピット等である。検出地区はD-4トレンチだけで、ピット内には柱根を残すものも認められた。この他、溝・溝状落込を3ヶ所で検出した。出土遺物は粘土層上面～砂層中から弥生時代後期の土器片が出土している。

この内、最も古い時期の遺構は第4面の(1)で、(2)、(3)と順次新しくなる。付図15- (1)(2)はD-4トレンチの径25～40cmのピット群[第4面(1)]である。

第4面(2)の遺構[付図15-(3)]は、溝-1で、幅1～1.5m、深さ20～30cm、長さ約28m以上、溝-2は幅40～60cm、長さ14m以上、深さ10～20cmで、シルト層に掘り込まれ、埋土は粗砂層である。



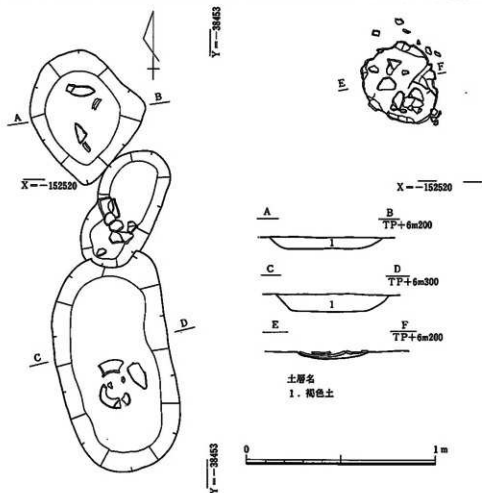
第146図 第3遺構面溝込-1平面・断面実測図

第4面の(3)〔付図15-(4)〕は溝である。この溝は幅40~50cm、長さ約3.5m、深さ10cmを計る。

6. 第3遺構面〔付図-16、図版175・176〕

第1遺構面となっている近世~近代の水田耕作土を除去すると、標高の低い北半部には第2層の茶色系の砂層、標高の高い南半部には第3層の褐色系の土層が同時に現れる。遺構は第3層の下から検出される。第3層は、北部では上面に水田面(第2遺構面)が広がり、中央部では数条の溝と住居跡があり、南部では幅の広い溝状落込とピット等の遺構が検出される。さらに、第2、第3遺構面にまで達している第1遺構面の多数の小溝、農耕用牛馬の足跡も調査地区全面に印されていた。

これらの複雑な遺構面の変化は、河内平野低湿地縁辺地域を西~北流する弥生時代後期の河川が作り上げたかなり大規模な自然堤防上や北斜面の標高の高い所は、近世・近代にいたるまで盛土・削平をくり返しくり返し受けたためであろう。調査地区南部~中央の弥生時代後期の遺構



第147図 第3遺構面土塊-1他土器出土土状態平面・断面実測図

(第3遺構面)は、高所で水はけの良い旧河川上、あるいは砂層の上に作られている。その一方、調査区の北部の粘土～シルト層は、水田になっているが、中央～南部の低所の砂層の箇所には認められない。元来、水田に適した土が堆積せず、水田に造成されなかったものと思われる。先の弥生時代後期の水田(第5遺構面)とピット群(第4遺構面)が埋没した後、本トレンチの南半部の微高地は再三にわたって人々の居住域に選定された形跡を残している。これらの遺構の時期は弥生～平安時代頃の長期間であるが、全域から検出した農耕関係の遺構の時期はさらに長く、近代～弥生時代後期と非常に幅の広い時期のものを混じえて第3遺構面として検出されている。多分、本地区の大規模な整地の行われた時期が近代に下る頃まで継続していたことを示しているであろう。

以下、主要な遺構について記しておく。

落込-1〔付図-16(2)、第146図、図版176上〕

b-5、6区からa-6～8区にあり、東西に延びる幅10m前後、深さ約60cmの不定形な落込(第146図)で、両肩部付近は極めて凹凸が激しい。落込埋土の上には、灰色細砂層、オリーブ黒色粘質土層、灰色粘質砂層、暗青灰色シルト層等が薄く堆積し、これらの土層からは糸切底の瓶子底部、須恵器鉢片が出土している。落込内堆積土は、(暗)緑灰色粘質微砂～砂層で、北側の溝状部分からは、打ち込まれた24本の杭と2本の大きな自然木、小さな割材と共に土器が若干出土している。土師器の底部外面には○印を墨書したものが数点あり、また、土師器内外面に墨、漆の付着したものもある。その他、D-7トレンチでは肩部に1本の自然木(ヤナギ)が自生していた。出土遺物のうち土師器は、平城宮跡第II期～第III期に該当する土師器杯AⅡ、杯BⅠ、高杯AⅡがあり、杯身内面に1段暗文、螺旋暗文を施し、口縁端部を内面に少し折り返している。また、須恵器杯身等が出土している。このように落込内からは奈良時代の遺物と、その上の堆積土からは平安時代～室町時代の遺物が出土している。

落込-2～6〔付図-16(1)〕

g、h-9・10区にあり、各落込は幅1～2m、長さ3.20～9.60m、深さ5～15cmの方形プランを呈し、断面は皿形になる。落込内には灰黄褐色シルト質土層が堆積していた。各落込の規模は溝状落込-2が、東西の長さ4.90m、幅1.80m、深さ5～10cmである。溝状落込-3は北東から南西の長さ7.70m、幅1.70～2m、深さ2～10cm、溝状落込-4は長さ3.30m、幅0.80～1.10m、深さ10～20cm、溝状落込-5は北東～南西の長さ9.70m、幅1.40～2.20m、深さ2～15cmで、中に径1.25～1.50m、深さ数cmの皿形の小さな円形の落込がある。この他、D-3トレンチで検出したほぼ方形の落込は、長さ1.70m、幅1.30m、深さ数cmの規模である。出土遺物は各落込とも極めて少なく、弥生時代後期の土器細片だけである。

落込-7〔付図-16(2)・(5)、図版177下〕

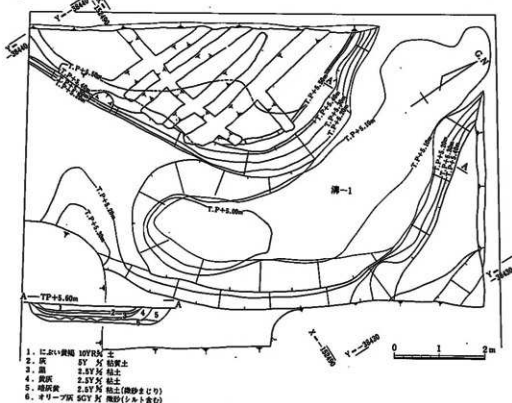
j-8の4区にあり、溝2に東側1/3を切り取られている。落込の径は約2.80m、深さ60cmで、底は大体平坦な円形の落込である。落込内の埋土は、粘土層が大半を占め、レンズ状に堆積している。遺物は極少量の弥生時代後期の土器片が出土している。

落込-8〔付図-16(2)・(4)〕

b、c-7区にあり、幅1m前後、長さ8m以上、深さ40cm前後の断面逆台形の落込である。落込内の埋土からは、土師器、須恵器片が出土している。落込の肩部付近には広範囲にわたって、不規則な傾斜、小さな凹部も数箇所認められたが、ピットと判定するにはいたらなかった。落込の堆積土の上の部分からは土師器片や須恵器が多く出土している。

ピット〔付図-16(2)・(3)、図版175下〕

溝状落込の南側で30数ヶ所のピットを検出した。ピットは方形で褐色土の埋土のものと、不定形で、褐色土に炭の混ざったもの、第1層の土と同一のもの3者に大別される。次に方形ピットはいずれも浅く、深さ数cm位しかないものが大半であり、深いものでも10cm程度しかない。ただし、D-7トレンチで検出した2ヶ所のピットは、深さが10cmを超え、柱根の痕跡を残すもの



第148図 D-5トレンチ第3遺構面1号溝・溝-1平面・断面実測図

である。この他、不定形なピットは、炭混じり褐色土層が埋土で、底はU字形をしている。深さは数ca～10ca未満のものばかりである。出土遺物は、分厚くもろい弥生時代後期後半の土器細片が多い。

小溝〔付図-16(2)、図版174上〕

調査地区の最南端部に多い。東西溝3条、南北溝2条は近世の水田土層と同一である。これらを除いた数条の小溝は方形ピット、不定形ピットより古いものが多いが、時期を決定できるようなものは出土していない。D-5トレンチの一角で検出した数条の小溝の埋土は近代の水田土層と同一の土層である。

土壇-1〔第147図、図版176下〕

c-6の2区から壺棺の可能性のある土器片が数点出土している。壺は、胴部下半の1ヶ所に外側から円形に穿孔し、そこを下にして据え置いたものである。調査時点には、土器から1m余り離れた3ヶ所の小土壇からも同じ土器の破片が数点ずつ出土している。

1号墳・溝-1〔付図-16(2)、第148図、図版182〕

D-5トレンチにある。幅3.6m前後、深さ30～50caで、コーナー部の底が一段深くなる平面形がL字形、断面形が皿形の溝(第148図)である。溝内の堆積土は大半が粘土層であるが、溝の掘り直しも行われている模様である。出土遺物は溝内中位の土層から土師器の小型丸底壺の細片と壺の口縁破片、弥生土器片が出土している。溝に囲まれた一段高い平坦な箇所には近世から近代にかけての小溝が多数検出される。平坦地上の土層は黄灰色細砂層で、その一部窪んだ場所に褐色土層が点在して認められるが、削平が著しい。溝の埋土状況、平面形から、この遺構は、古墳の周溝であろう。

溝-2〔付図-16(1)・(2)、図版177上〕

i、j、a-8区を東西に走る、幅2m、深さ約50ca、長さ22m以上の溝である。断面はにぶいV字形を呈し、調査地区北端で2方向に分岐する。溝底のレベルは南の方が少し高い。溝内には青灰色～黒色粘土層が中間に薄く互層に堆積している。出土遺物は若干の弥生土器片のみである。

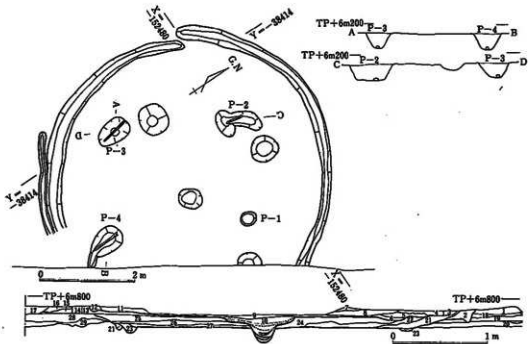
溝-3〔付図-16(1)・(2)〕

h～a-8・9区を南北に走る、幅0.50～1.50m、長さ30m以上、深さ20ca前後で、さほど幅の広くない溝である。溝のレベルは南の方がやや低くなっている。溝内出土の遺物は弥生土器の細片のみである。

住居跡-1〔付図-16(1)、第149・172図、図版178～180〕

h、i-9区にあり、住居跡の一部は調査区域外に延びており、全容は知りえない。検出した状況は、近世の耕作土層を除去する過程において、一段高くなった住居跡外周部分が現れ、その内側中央部は低く窪み、浅い皿状を呈していた。浅い皿状の住居跡内の堆積土は少量で、内には黒褐色粘質土層、灰色（炭混じり）粘質土層がレンズ状に10cm余堆積し、その下には灰黄褐色炭混じり砂質土層、灰オリーブシルト混じり砂質土層、暗灰黄色粘土ブロック混じり砂質土層、灰色中砂混じりシルト層等が認められた。遺物はこれらの土層中から細片で出土し、(第172図1~13、図版199-10・201-5~7・11~13)、完形品や大きな破片は見られず、また建築部材等はほとんど残っていないかった。この住居跡は土層断面の観察により、新・古の2時期が認められた。

住居跡の平面プランについては全形を知り得ないが、上層の住居跡は径約8m前後の東西にやや長い円形で、面積約28.3m²と推測される。壁溝は北側半周に幅の広い浅い溝をめぐらし、その溝は幅約40~60cm、深さ数cmである。床面の中央は、東西1.80×南北1.60m、深さ10cmの範囲で1段落ち込み、さらにその中央に50×60cm、深さ20cm程の円みをおびた窪みがある。中には厚さ



- | | | |
|--------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 1. 灰 7.5Y 粘 砂質土 | 11. 灰 5Y 粘 粘質土 | 21. 暗オリーブ 7.5Y 粘 砂質土(粘土まじり) |
| 2. 灰オリーブ 5Y 粘 * | 12. 灰 5Y 粘 砂質土 | 22. 灰オリーブ 7.5Y 粘 砂質土(シルトまじり) |
| 3. 灰 10Y 粘 粘質土 | 13. 灰 7.5Y 粘 粘質土 | 23. 暗オリーブ 7.5Y 粘 * (灰まじり) |
| 4. 灰オリーブ 5Y 粘 * | 14. 灰 10Y 粘 砂質土 | 24. 灰黄褐 10YR 粘 砂質土(灰多くまじり) |
| 5. 暗灰黄 2.5Y 粘 * | 15. 灰黄 2.5Y 粘 砂質土 | 25. 暗灰黄 2.5Y 粘 砂質土(粘土ブロックまじり) |
| 6. 黄灰 2.5Y 粘 * | 16. 暗灰黄 2.5Y 粘 砂質土 | 26. 暗灰黄 2.5Y 粘 砂質土 |
| 7. 黒褐 2.5Y 粘 * | 17. 黄灰 2.5Y 粘 * | 27. 灰 7.5Y 粘 シルト(中砂まじり) |
| 8. 黒褐 10YR 粘 * | 18. オリーブ褐 2.5Y 粘 細砂(粗砂まじり) | 28. オリーブ灰 2.5GY 粘 細砂(粗砂まじり) |
| 9. 黒褐 10YR 粘 * | 19. 暗灰黄 2.5Y 粘 * | 29. 黄褐 2.5Y 粘 粗中砂 |
| 10. 黒褐 10YR 粘 砂質土(炭化物多し) | 20. によい黄緑 10YR 粘 ブロック状粗砂 | |

第149図 第3遺構面住居跡-1下層平面・断面図

5 cmの灰層や炭の多い黒褐色砂質土層が充填していた。炉跡であろう。床面は灰黄色系の砂質土層の5ヶ所に炭が特に多く混じった柱穴がある。その内の4柱穴の柱間は東西に3 m、南北に2.20 mを各々計る。柱穴は、この他に北壁溝内に径40 cm、深さ10 cmのものが1個あり、西と南の柱穴までの距離は約2.00～2.20 mである。検出された5個の柱穴は埋土にもさほどの変化はない。それぞれに本住居跡の主要な柱穴と考えられる。主柱穴の数、配置についてのこれまでの多くの報告例から見ると4～5ヶ所であろう。柱根はいずれも残っていなかった。

さらに、上層の床面より約20 cm余り下に下層住居跡の床面がある。その間に粘土ブロックや炭混じりの砂質土層が堆積している。床面は灰黄色砂質土層上面で、検出した柱穴は7個ある。この内3個は上層の柱穴と同一のものである。若干の炭を混じえた新たな下層の住居跡の柱穴は、P-1、2、3、4の4ヶ所である。

柱穴1、2、3、4は底に径数cm、長さ30～60 cmの細い木を礎板がわりに使用している。さらに柱穴2、3の位置は上層の柱穴6、7の位置とさほど変化していないが、大きさは上層の柱穴より大きく、30～90 cm程の不整形なプランをもつが、深さは20 cm程しかない。柱間は柱穴1～2、3～4間が2.20 m、2～3、1～4間が2.60 m～2.80 mを計り、方位はN-28° 30' - Eを示している。柱根は残っておらず、抜きとられたのであろう。

下層住居跡の床面中央には径40～50 cmの炭、灰、焼土がレンズ状に堆積した深さ30～40 cmの不整形な円形の土塊がある。この土塊は下層で1ヶ所しか見られず、下層の住居跡の炉跡と考えられる。また、柱穴の1 m外側には、幅20 cm前後、深さ10 cm未満の壁溝が径5.6～6.0 mの円弧を描いて廻り、一部2重になっている。溝の時期関係は、外側の壁溝が新しく、内側の壁溝が古い。なお、本住居跡の外周部には上幅1～2 m、高さ10 cmで、断面が低平な台形をした土堤状の部分が方形に廻っている。この土堤状の部分は、南側が幅、高さ共に小さく、北側が南側に比して大きい。土堤の土層は、上の10 cm余が砂質土層を用いた盛土（第149図土層1～6・13～16）である。この土堤状の所からピットや溝等は検出されなかった。

7. 第2遺構面〔付図—15(6)・(7)、図版183下〕

近世の水田、畑の耕土を約20 cm位除去すると、調査地中央部～北部にかけて、にぶい黄褐色シルト層～砂層が0～30 cm余り堆積している。この砂層上位部分は、上層の近世、近代層からの牛馬、人間の踏み込んだ足跡が多く残され、一部は本土層の古墳時代水田面と土層にまで達している箇所が多くある。調査地北端部の層厚30 cm前後の砂層が認められる所は、幸い水田がかなり良好に保存されていた。しかし、数m離れた南側は砂層も極端に薄くなり、下の水田の保存は悪い。一方、調査地の中央と南端部では、近代水田に伴うと思われる足跡と共に多くの小溝が第2遺構面に残されていた。

畦畔〔付図—15(6)・(7)〕

調査地区北端から10数mの範囲で、小さな畦に区切られた9枚の水田を確認したが、全形の判る水田は皆無である。しかし、畦畔の検出状態から、個々の水田はおおよそ方形プランと考えられる。水田面の高さは、南端の水田面がT.P.+5.40mに対して、北西ではT.P.+3.35mと若干低い程度である。畦畔は、南北方向のものが、東西方向のものより、幅、高さともにやや大きく、幅70cm、高さ10cm程度あり、これに直交する畦畔は幅50cm、高さ数cmしか認められない。この水田面は、調査地北部の一部でしか検出できなかったが、南部へ徐々に高くなる自然地形であり土層も連続することから、調査地区北部から中央部の水田は後世の削平を受けたのであろう。水口はいずれの水田にもない。また、遺物は出土していない。

溝-1〔付図-15(5)〕

調査地区北端より30mの地点、e、f-1の2地区を南東～北西へ走る、幅約4m、深さ約1.40mの大きな溝である。埋土は(緑)灰色～暗緑灰色系の微砂層～粘土層が堆積しており、溝内からは、土師器片1点(調整は内面ヘラ削り、外面粗いタテハケ)と下層の弥生土器数点が出土している。

8. 第1遺構面〔付図-17、図版183上〕

盛土、及び現代の水田耕土層をそれぞれ約0.5m～0.3mずつ除去すると、T.P.+5.6～5.8m前後で東西方向の小さな畦畔、小溝が数条、f-10、g-9、10区と、a、b-5、6区の2ヶ所に認められた。畦畔盛土内とこの地区の東西から、近、現代の瓦類、磁器類が多く出土している。また、この遺構面の足跡、小溝等は第2、3遺構面にまで達している。

畦畔-1〔付図-17(1)〕

d、e、f、g-1区にあり、幅1.40m、高さ50cmの畦畔の両側に幅80～100cmの溝を設けている。盛土は黄灰色粘土層で、南北方向に走っている。枕列や矢板列等は見られなかったが、遺物は、畦畔内とその左右の小溝埋土中から多く出土している。畦畔内出土物は、近世の磁器類が多い中に、わずかに近代の磁器類も含まれている。

畦畔状遺構〔付図-17(1)〕

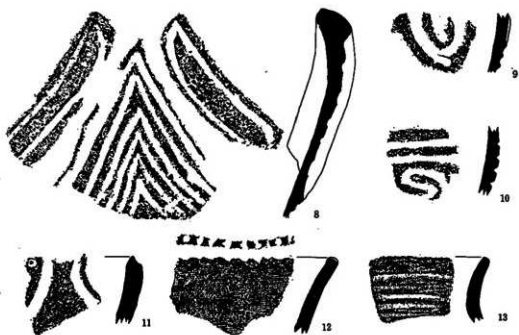
b-5～7区にあり、最大幅3.20m、高さ十数cmの、南北方向(N-2°30'-E)の低平な盛土(暗オリーブ灰色粘土)の遺構である。盛土内からは磁器細片の他、弥生土器、土師器、須恵器等の破片が出土している。

その他〔付図-17(1)・(2)〕

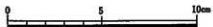
畦畔や畦畔状遺構の他に、浅い溝状落込や溝、小畦畔が数ヶ所に認められた。この他、矩形に一段高く取り残された箇所もあり、水田、畑の造成時に相当激しく土が動かされたことを示している。



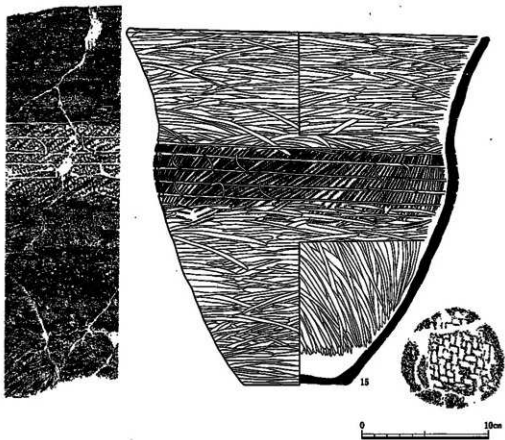
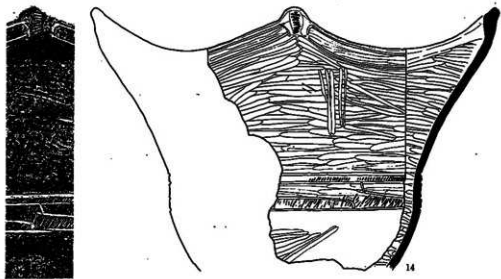
河川-1



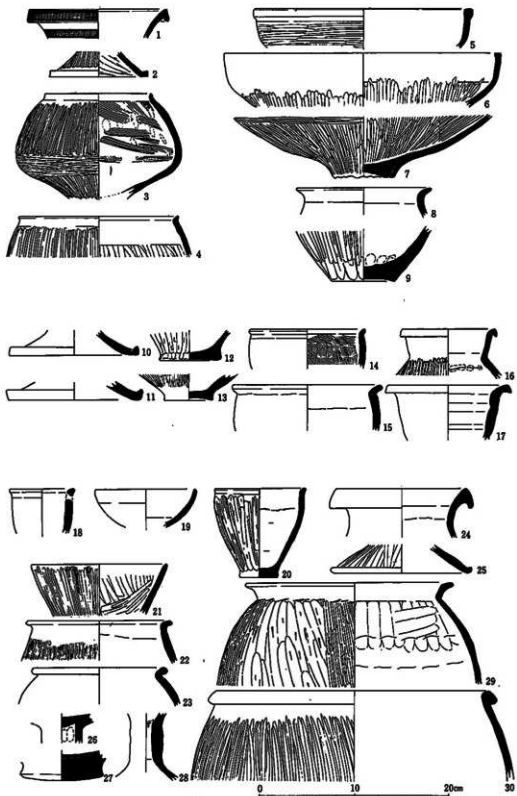
河川-2



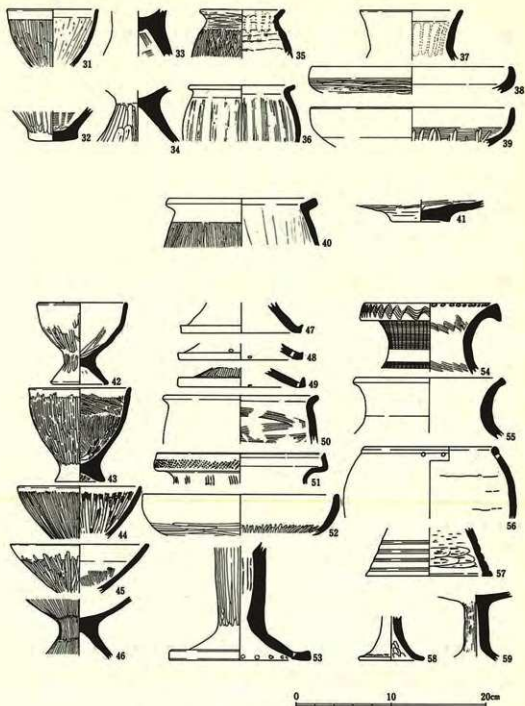
第150图 第9遺構面 河川-1・2出土土器実測图



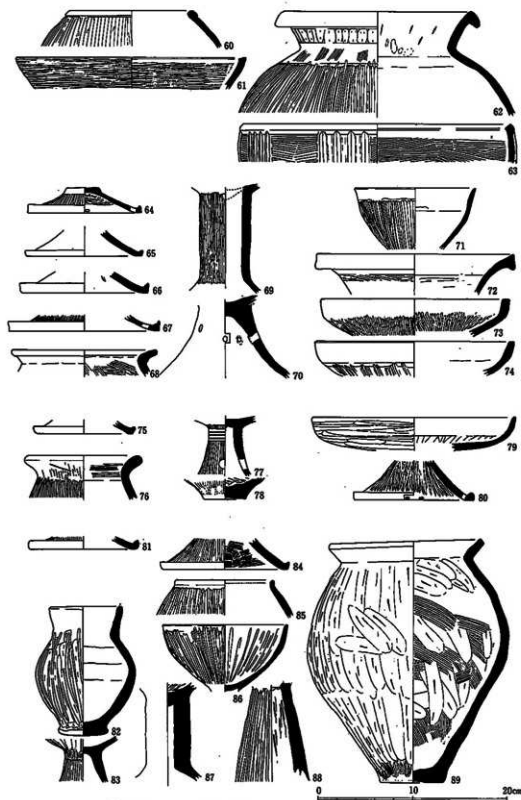
第151图 第10遺構面 河川-3 出土土器実測図



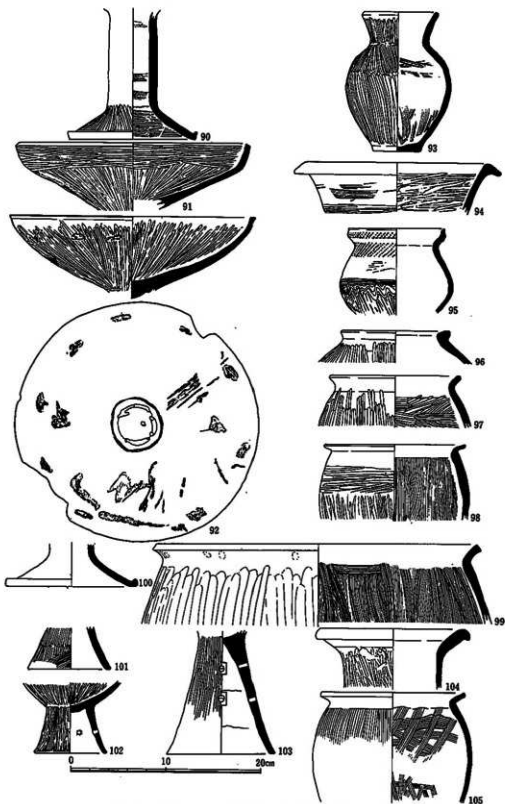
第152图 第7遺構面 高台1・2・3（建物-2）出土土器実測図



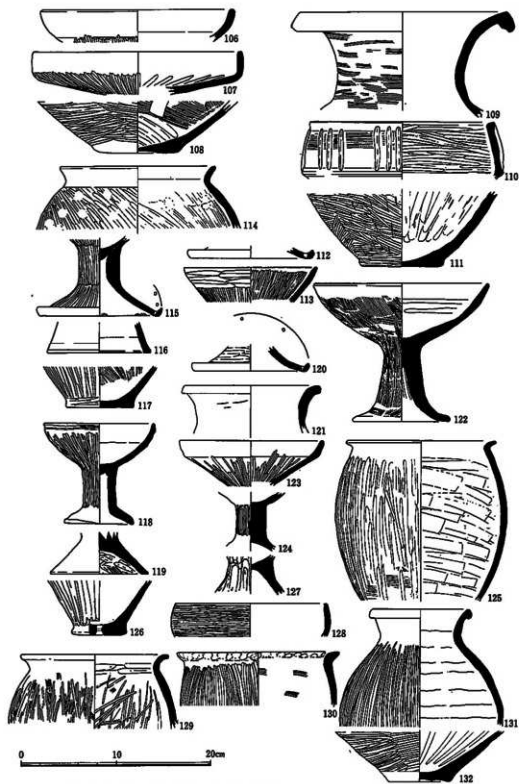
第153图 第7遺構面 高台4・5・6出土土器実測图



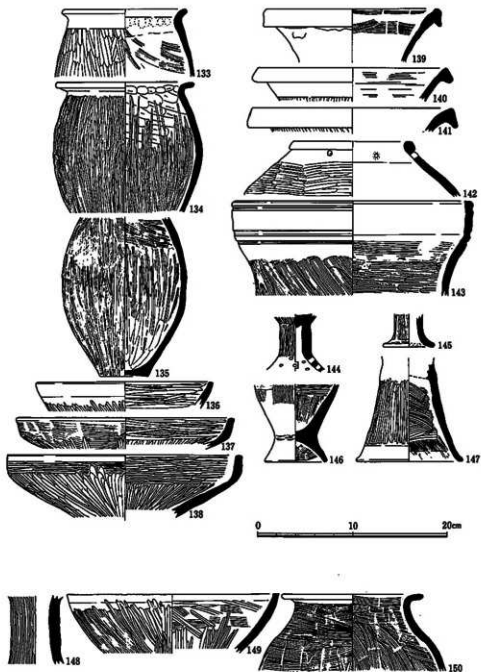
第154图 第6道桥面 落込一·2、土筑16·18出土土器実測图



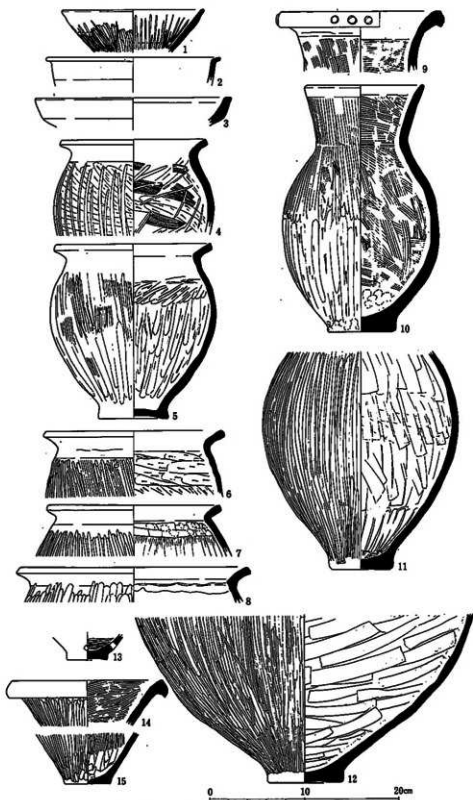
第155图 第6遺構面 土坑-19・21・23・24出土土器実測図



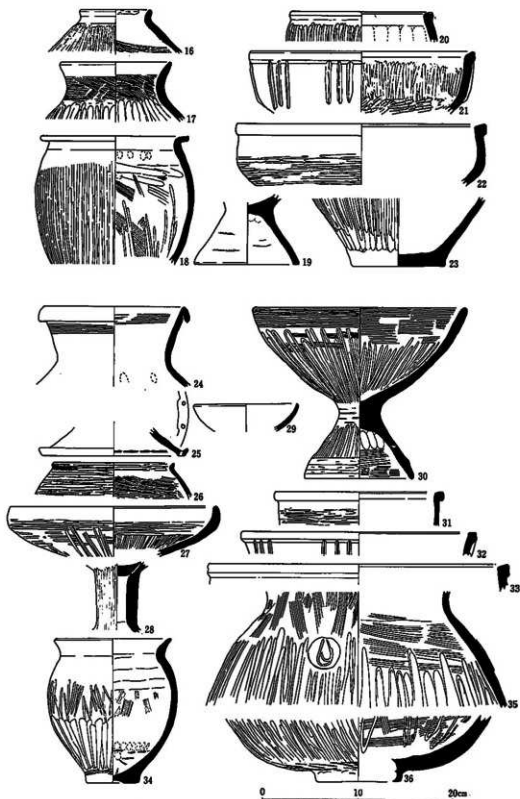
第156図 第8・7遺構面 土境-3、溝、サヌカイト集積ピット出土土器実測図



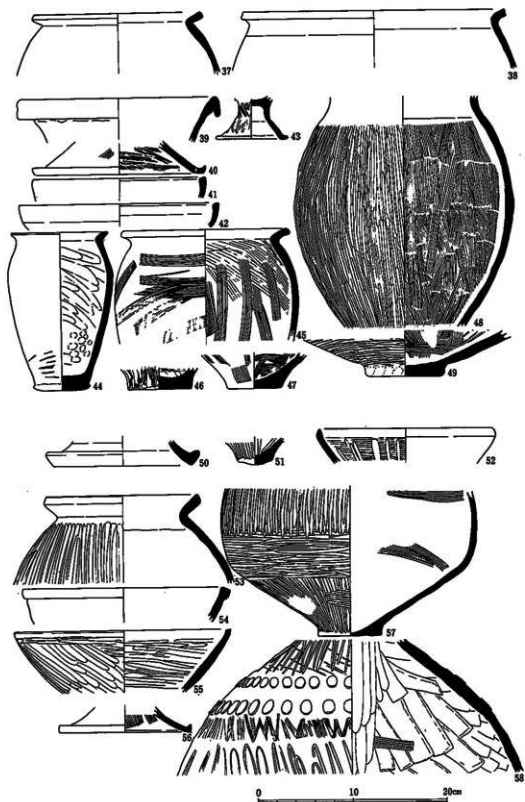
第157图 第8・6遺構面 井戸-1・2出土土器実測図



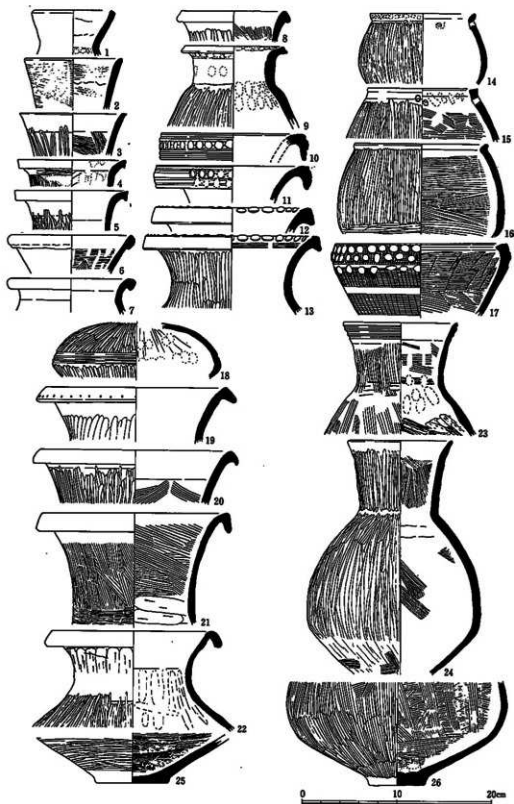
第158图 第7遺構面 土筑-27、他出土土器実測図



第159図 第7遺構面 高台-5 (建物-5)、土壇-15出土土器実測図



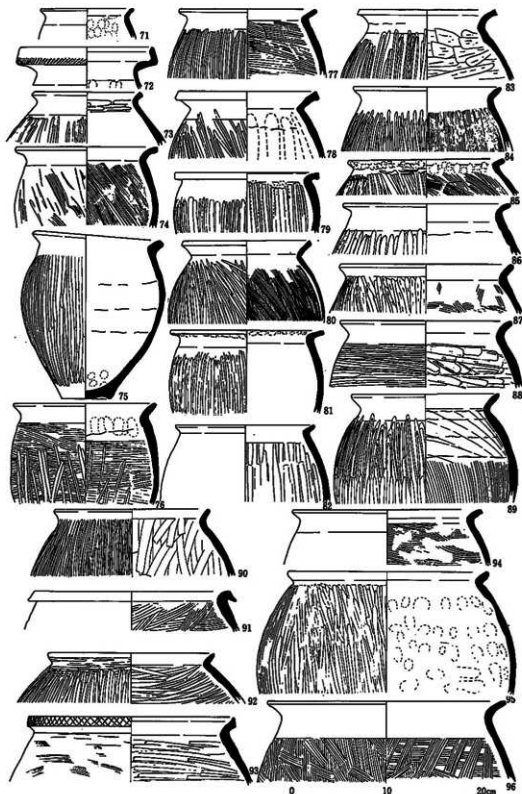
第160图 土城他出土土器实测图



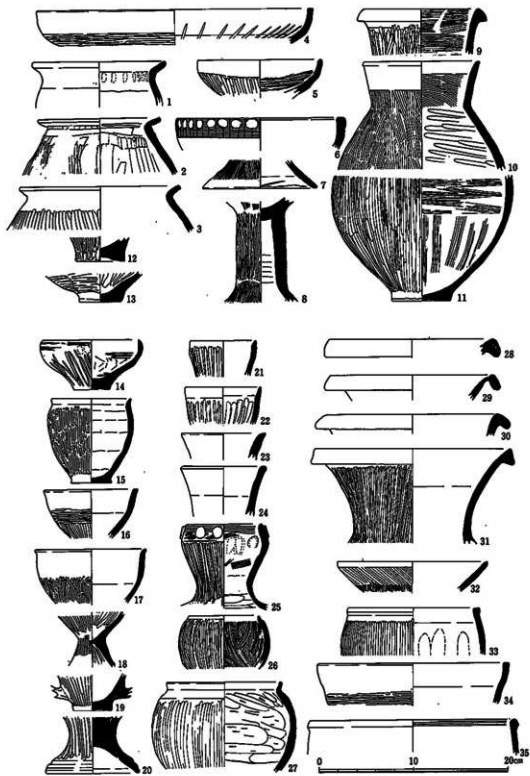
第161図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(1)



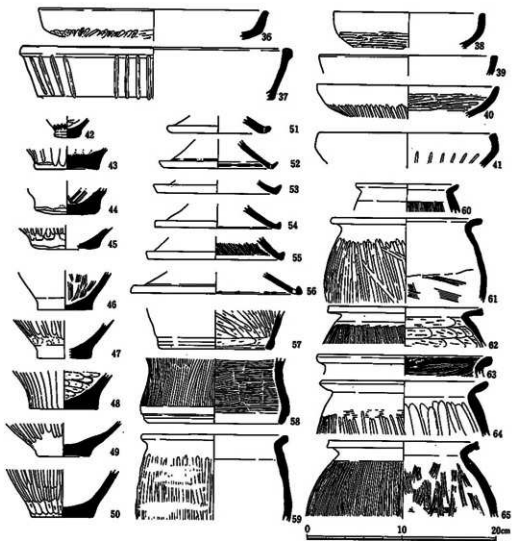
第162图 Dトレンチ包含層出土土器実測図(2)



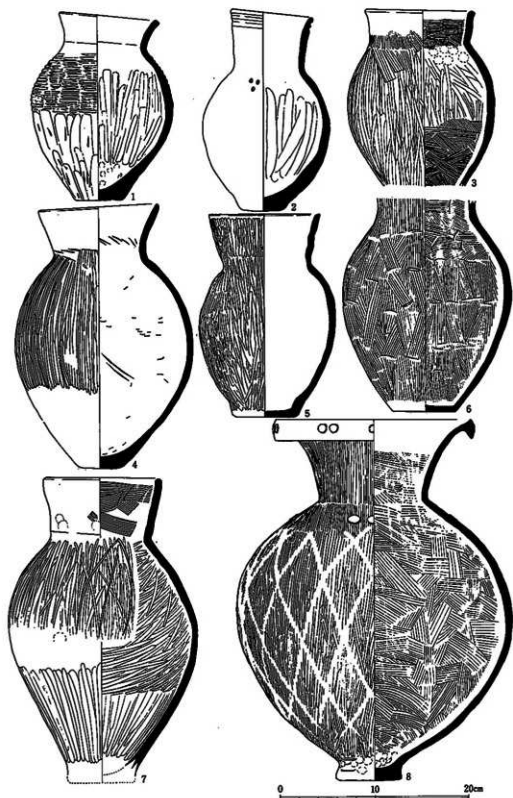
第163図 Dトレンチ包含層、第6遺構面 落込一2出土器実測図



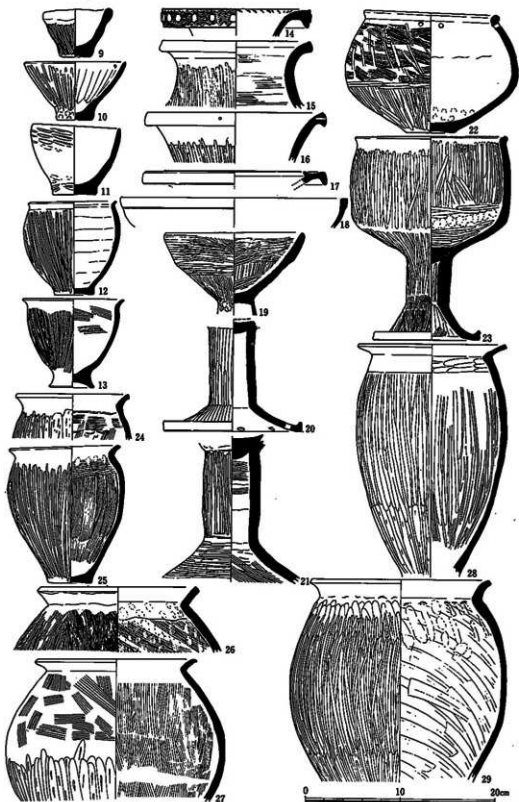
第164図 D-1・D-2 トレンチ包含層出土土器実測図



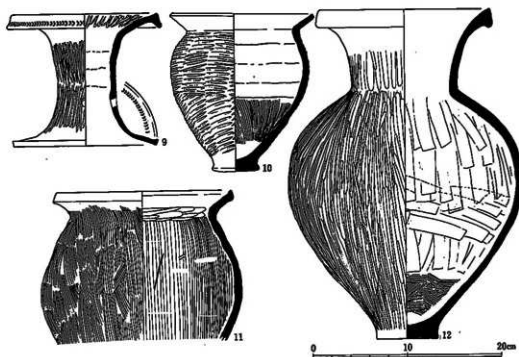
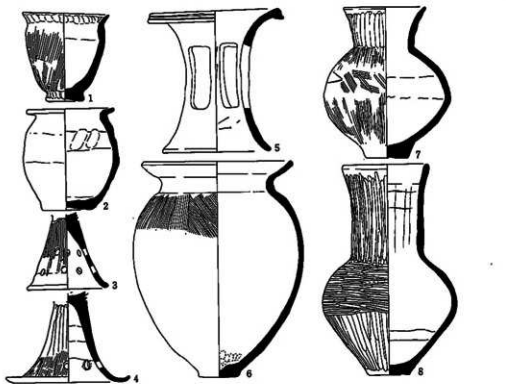
第165図 D-2 トレンチ包含層出土土器実測図



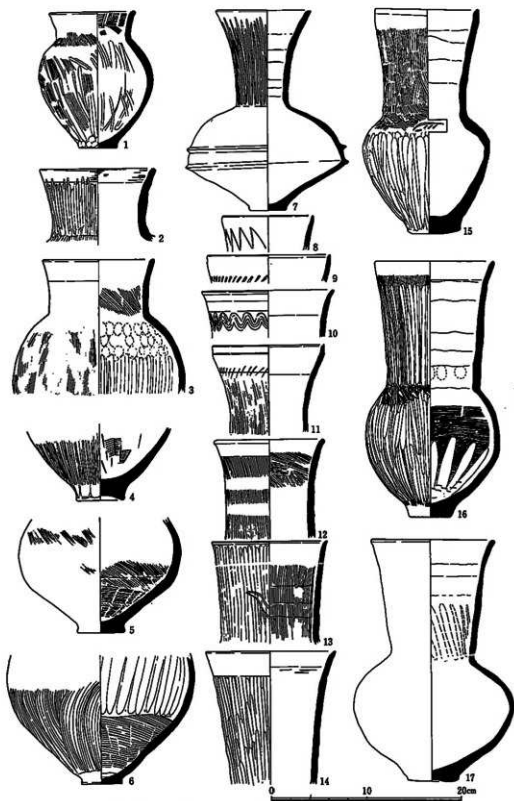
第166図 Dトレンチ包含層、第6遺構面 土坑—22・24・26、溝—50・53上層出土土器実測図



第167图 Dトレンチ青灰色粘土～黑色粘土層上面、第6遺構面 土填—25、落込—1、再—50出土土器実測図



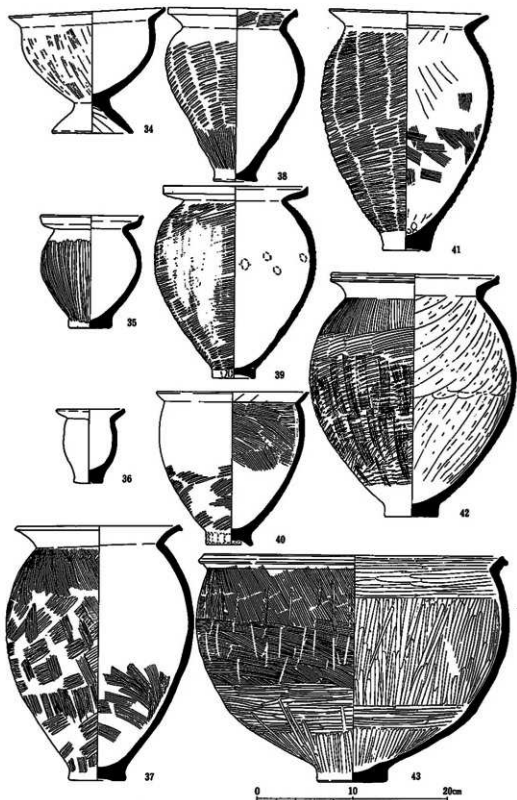
第168図 第5遺構面 河川-1・水田および水路出土土器実測図



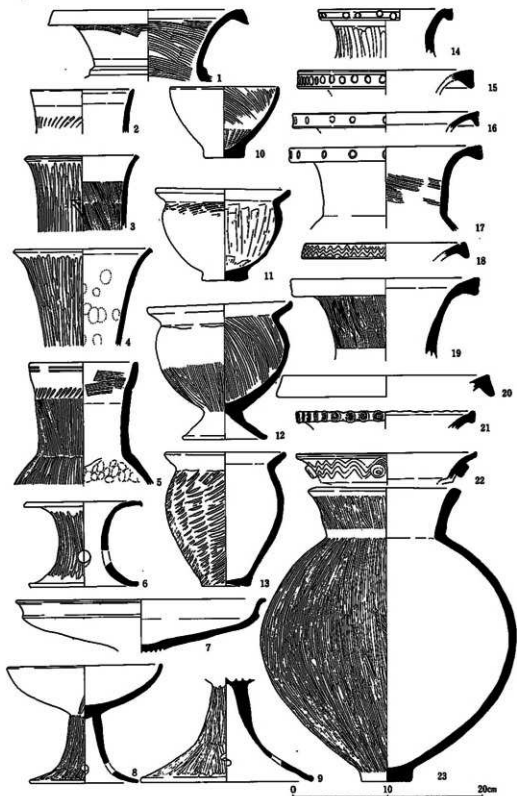
第169図 第5遺構面 河川-1及び包含層出土土器実測図(1)



第170図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(2)



第171図 Dトレンチ包含層出土土器実測図(3)



第172圖 第3遺構面 住居跡-1、溝、包含層出土土器実測圖

表8 D地区土器観察表(その1)

群	遺物	種別	器名	口徑	口径	体高	厚薄・寸法の特徴	色	土質	質	焼成	備考
1	高	1	202	吸	130		口縁部内外面と頸部内面丁寧なコナダ。頸部外面ハナメ。	7.5T5/2	灰, 1cm前後の砂粒少い。内面石を含む。	硬	不良	濃灰文
			2	蓋	104		口縁部外面コナダ。体部外面コナダのヘラミダキ。口縁部内面ナダ。体部裏面ハナメ(不連続)。	7.5T5/2	灰, 1cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	内面共にスス付。
高	3	無取	114		170		口縁部内外面コナダ。体部外面ヘラミダキ。体部内面上下ハナメ。下ナダ。体部上下面紅斑。底土紅斑も含む。	7.5T5/2	中砂。1.5cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	不良	体部に虫食。
			4	無取	100		口縁部内外面コナダ。体部外面ヘラミダキ内面紅斑。	10T5/3	灰, 1cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	
高	5	高杯	200				口縁部内外面コナダ体部外面丁寧ヘラミダキ。	2.5T5/6	灰, 0.5cm前後の砂粒を少し含む。	硬	不良	
			6	高杯	202		口縁部から体部上下コナダ。下部下外面ヘラミダキ外面ナダ。底面ヘラミダキ。	7.5T5/2	灰, 2cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	内面ともに薄くスス付。
高	7	高杯					杯部から頸部上下内面ヘラミダキ。	7.5T5/4	灰, 2cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	頸部を打つ火者2次灰付。
			8	蓋	140		口縁部から体部上下内面コナダ。体部ナダ?	7.5T5/1	灰, 1.5cm以下の砂粒。内面石を含む。	中	軟	内面全体にスス付。
高	9	底蓋					体部外面ヘラミダキ内面ナダ。底面外面ナダ(取次工具)内面赤オキエの痕ナダ。	2.5T5/4	灰, 5mm以下の砂粒を多く含む。	硬	良好	体部に虫食あり。
			10	脚部	130		口縁部内外面コナダ。体部外面丁寧ナダ。	10T5/3	灰, 1.0cm以下の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	表裏面共に紅斑あり。
高	11	高杯	141				口縁部外面コナダ。口縁部内面紅斑。体部内面ナダ。	5T5/6	灰, 0.2~2.0mmの砂粒を中々多く含む。	硬	良好	
			12	底蓋			体部外面ヘラミダキ。底面外面ヘラミダキ。口縁部へらミダキによる凹取り。体部。底面ともに内面ナダ。	10T5/1	灰, 0.5~1.5mmの砂粒。内面石を含む。	硬	良好	
高	13	高杯					体部外面ヘラミダキ。底面直上ナダ。底面ナダ。体部内面ヘラナダ。底面赤オキエ。	10T5/1	灰, 1~2mmの砂粒を少し含む。	硬		
			14	蓋	122		口縁部内外面および底面外面直下コナダ。体部外面ナダ。体部内面ハナメ。	7.5T5/2	灰, 0.2~3.0mmの砂粒。小粒を含む。	硬	良好	
高	15	高杯	154				口縁部および底面内面直下内面コナダ。体部外面ナダ。体部内面ナダ。体部内面に紅土類の痕跡。	7.5T5/4	灰, 0.5mm前後の砂粒。内面石を含む。	硬	良好	
			16	高杯	100		外面に縁部~口縁部直下コナダ。頸部~底面直下コナダ体部ヘラミダキ。内面に口縁部~底面コナダ。頸部紅斑ナダ。体部赤オキエ痕ナダ。体部内面に紅土類の痕跡。	10T5/3	中中砂。0.2~0.5mm砂粒。クマリ粒を含む。	中	軟	
高	17	高杯	134				口縁部内外面コナダ。頸部内面ナダ。底面外面直下コナダ。頸部内面に紅土類の痕跡。	5T5/6	灰, 0.1~0.4mmの砂粒を多く。3mmの砂粒を少し含む。	中	軟	
			18	高杯	88			口縁部内外面コナダ。体部外面ナダ。ヘラミダキ。体部内面ヘラナダ。	10T5/2	灰, 0.2~0.5mmの砂粒。内面石を含む。	硬	良好
高	19	高杯	106			口縁部内外面及び体部上下内面コナダ。体部外面。体部下内面ナダ。	5T5/6	灰, 砂粒を少し含む。	中	軟		

表8 D地区土器観察表(その2)

序 号	遺物 番号	図 番	種 類	出 土 層	口 径 高	体 高	厚 薄・形状の特長	色	質	土	質	焼 成	備 考
1 5 2	20	188	甕	92	94	口縁部内外両面コナダ。外部外面ヘラケズリ後製成なヘラミガキ。底部外面ナダ。内部及び底部内面ナダ。	暗褐色	硬	肌. 2.0-3.0 mmの砂粒。小塊 内戻石を含む	良	良		
	30			95									
1 5 3	21	189	鉢	143		口縁部内面コナダ。外部外面ハケ後製成なヘラミガキ。口縁部内面コナダ。内部内面ナダ。	5.572/2	肌. 0.5-1.5 mmの砂粒を 多く含む。	良	良	良		
	22	190	甕		130	口縁部へ縁部直下内面コナダ。外部外面ハケ。内部内面ナダ。	7.572/1	肌. 細い砂 粒。内戻石を 多く含む。	良	良	良	外面にスス付着	
2	23	191	甕		134	口縁部内外両面コナダ。外部外面製成のため不平等。内部内面ハケメ。	7.572/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒。内 戻石を含む。	良	良	良		
	24	192	甕		136	口縁部内外両面コナダ。底部内外両面ナダ。口縁部直下内面ナダ。製成時に粘土粒の散見。	5.572/2	肌. 0.5-1.5 mmの砂粒を 多く含む。	良	良	良	外面にスス付着	
3	25	193	甕		151	口縁部内外両面コナダ。外部外面ハケ。内部内面ナダ。	7.572/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒を少 し含む。	良	良	良	外面にスス付着。割裂	
	26	194	甕			口縁部内外両面ヘラミガキ。外部外面ナダ。内部内面磨き入。	5.726/2	肌. 0.1-1.5 mmの砂粒。 内戻石を含む	良	良	良		
4	27	195	甕			口縁部直上コナダ。外部外面ヘラナダ。	7.572/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒を中 や多く含む。	良	良	良		
	28	196	甕			外部外面ナダ。口縁部内面ナダ。割裂有り。	7.572/3	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒を中 や多く含む。	良	良	良	外面の約4割に 腐食。	
5	29	197	甕		210	口縁部内外両面コナダ。外部外面ヘラケズリ後ヘラミガキ。内部内面上部ナダ。底部ヘラナダ。内部内面に粘土粒の散見。	7.572/2 ~7/3	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒。内 戻石を含む。	中 良	中 良	中 良	製成後腐食。	
	30	198	甕		200	口縁部へ縁部直下内面コナダ。外部外面コナダ後ヘラミガキ。口縁部内面コナダ。内部内面ハケナダ。	5.726/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒。内 戻石を含む。	良	良	良	外面一部にスス 付着。	
6	31	199	鉢		96	口縁部内面コナダ。外部外面ヘラミガキ。口縁部内面コナダ。外部外面ヘラケズリ一部にナダ。	5.726/2	肌. 1.5-2.0 mmの砂粒。 内戻石を含む	中 良	中 良	中 良		
	32	200	甕			外部外面ヘラミガキ。ヘラナダ。底部直上内面コナダ。一部ヘラミガキ。外部外面製成後しく製成不平等。内部内面ハケメ。	10.72/2	肌. 0.1-1.5 mmの砂粒。 内戻石を多く含む。	中 良	中 良	中 良	150-170と同一群 体?	
7	33	201	甕			外面製成スス付着のため不平等。口縁部内面ナダ。内部内面ナダ一部ハケ。	5.726/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒。3.5 mmの砂粒を含む。	中 良	中 良	中 良	内外面にスス付 着。	
	34	202	甕			口縁部外面ヘラナダ。外部外面ヘラナダ。一部にヘラミガキ。口縁部内面及び外部外面に粘土粒の散見。口縁部内面ヘラミガキ。内部内面ナダ。	5.726/2	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒。 内戻石を多く含む。	中 良	中 良	中 良	内面に腐食。	
8	35	203	甕		90	口縁部内面。外部外面ハケ後ヘラミガキ。口縁部内面コナダ。口縁部へ縁部直下内面ナダ。内部内面ハケメ。	10.72/1	肌. 0.1-1.5 mmの砂粒を 多く含む。	中 良	中 良	中 良	製成後腐食。	
	36	204	甕		112	口縁部へ縁部直下内面コナダ。外部外面ナダ後製成なヘラケメ。	7.572/1	肌. 0.5-2.0 mmの砂粒を 多く含む。	中 良	中 良	中 良		
9	37	205	甕		110	口縁部内外両面コナダ。外部外面ハケメ。内部内面磨き入ナダ。	10.72/2	肌. 0.1-1.5 mmの砂粒。 内戻石を多く含む。	中 良	中 良	中 良	口縁部一部に 腐食。外面スス 付着。22と同一群?	
	38	206	高杯		214	口縁部内外両面コナダ。外部外面ヘラミガキ。	10.72/2	肌. 1-3mm の砂粒。小石 を多く含む。内戻石を含む	中 良	中 良	中 良		

表8・D地区土器観察表(その3)

群別 通石	遺物 番号	同類 番号	器名	口径 高さ	体高	厚縁・字法の特徴	色調	胎土	肌	口縁	底	備考
153	高台4	39	高杯	225		口縁部～杯部外面ヘラミゴキ。口縁部内面ココナダ。杯部内面ナダ後まばらなヘラミゴキ。	7.5YR/1 ～6/1	黄。0.2～0.5mmの砂粒、内凹石を含む。	黄	良好		内面にスス付着。
						口縁部～器底部以下外面ココナダ。杯部外面ヘラミゴキ。口縁部内面ココナダ。杯部内面ナダ。	7.5YR/3 ～6/4	黄。0.1～0.3mmの砂粒、内凹石を含む。	黄	良好	外面全体にススコケ付着。	
						杯部外面ヘラミゴキ。底部外面ココナダ(製鉄工具)、ナダ(製鉄工具)。杯部～底部内面ヘラナダ。	10YR/1 ～7/2	黄。0.2～1mmの砂粒を中々多く含む。内凹石を含む。	黄	良好		
						口縁部内外面ココナダ。杯部～器底部外面ヘラミゴキ。器底部外面ココナダ。杯部～底部内面ナダ。器底部内面にヘラの痕あり。	赤色	1～4mmの砂粒、内凹石を含む。	中々	中	全体に赤色顔料塗布(器底部内面を除く)。	
43	100	43	100	100	100	口縁部内外面ココナダ。杯部～底部外面ヘラミゴキ。器底部ナダ。杯部内面ハケメ。器底ヘラミゴキ。	7.5YR/2 ～7/3	黄。0.1～0.5mmの砂粒を多く含む。	黄	良好		
						口縁部内外面ココナダ。杯部内面ココナダのちヘラミゴキ。杯部内面ハケメ。	20B/6	黄。1mm以下の砂粒を少し含む。	黄	良好		
						口縁部内外面ココナダ。杯部外面ヘラミゴキ。杯部内面ハケ。	5YR/2	黄。0.1～1mmの砂粒を多く含む。	黄	良好		
45	146					杯部との境外面下なヘラミゴキ。器底部面やや粗粒なヘラミゴキ。杯部との境、器底部内面ナダ。	7.5YR/3	黄。0.5mmの砂粒を少し含む。砂っぽい。	黄			
						器底部内外面ナダ。器底部内面ココナダ。器底部内面割離のため不明。	2.5YR/6	黄。0.1～0.5mmの砂粒を多く含む。	中	中		
						口縁部～杯部外面ココナダ。口縁部割離。杯部内面ナダ。	10YR/2	黄。0.5mm前後の砂粒、内凹石を含む。	黄	良好	2+1層の穴孔。	
49	134					口縁部外面ココナダ。杯部外面やや粗粒なヘラミゴキ。器底部内面ナダ。	7.5YR/4	黄。0.1～0.5mmの砂粒を多く含む。	中	中		
						口縁部内外面ココナダ。杯部外面割離のため不明。口縁部～杯部内面粗粒なハケ。	2.5YR/4	黄。0.5～1.5mmの砂粒を中々多く含む。	中	中		
						口縁部内外面ココナダ。器底部外面まばらなハケメ。器底部内面ココナダ。	10YR/3	黄。砂粒を多く含む。	黄	良好	口縁部外面内点。近江系の土器。	
51	高杯	104				口縁部内外面不明。杯部内外面ヘラミゴキ。	7.5YR/2	黄。0.5～1.5mmの砂粒、内凹石を含む。	黄	良好		
						器底部外面ヘラミゴキ。器底部ココナダ。器底部内面脱り目。器底部内面ナダ。	赤褐色	黄。0.5mm以下の砂粒、内凹石を含む。	中	中	器底部に土質の穴孔。内面にスス付着。底(器底を逆に転写)。	
						口縁部～器底部外面ココナダ。口縁部～器底部内面ハケ後ナダ。	褐色	黄。1mm以下の砂粒、内凹石を含む。	中	中	器底文、器底文、器底文。	
55	154	54	154	154	154	口縁部～器底部外面ココナダ。器底部外面割離のため不明。口縁部～杯部内面表割離のため不明。	2.5YR/6	黄。0.2～0.5mmの砂粒を中々多く含む。	中	中		内外面共に土熱を受けている。
						内外面に表割離のため不明。杯部内面に粘土粒の粘着。	暗褐色	黄。0.5mmの砂粒を少し含む。砂っぽい。	黄	良好	2+1層の穴孔。	
						器底部外面ココナダ。器底部内面ヘラミゴキ。器底部ココナダ。	5YR/4	黄。1mm以下の砂粒を中々多く含む。	黄	良好	器底文。	

表 8 D地区土器観察表 (その4)

調査 番号	遺物 番号	調査 番号	出 土 位置	口部 形状	体 形	特徴・手法の特徴	色	土 質	肌 理	備 考	
158	58	脚瓶			厚底 70	脚瓶内面ヘラナダ。脚瓶外周コナダ。脚瓶内面ナダ。体形ナダ。	5.8T/7/3	肌。1.0~1.5 mの砂粒を含む。	硬	良好	
						研底面内面ナダ。脚瓶外周割離のため不明。脚瓶内面絞り目。コナダ。	7.5T/3/3	肌。0.5~1.4 mの砂粒を含む。	硬	良好	
154	60	高脚瓶	130			口縁部内外出雲割離のため不明。脚瓶外周ヘラミダキ。体形内面成割離のため不明。	10T/3/1	肌。0.5~2.5 mの砂粒。内うら石。タナリ層を多く含む。	硬	良好	
						口縁部内外出雲コナダ。体形内面ヘラミダキ。	7.5T/3/3	肌。0.5m程度の砂粒を多く含む。	硬	良好	内外面ともにスス付着。
50	62	瓶	216			口縁部内外出雲コナダ。瓶外周割離ナダ(瓶口工具)後コナダ。瓶口一部割離下内面コナダ。体形内面ヘラミダキ。瓶底上平。体形内面コナダ。瓶口上部に瓶口工具の当たった跡。体形内面に鳩土。	5T/3/4	肌。0.1~1.1 mの砂粒。タナリ層を含む。	やや軟	不良	一部割離。
						口縁部内外出雲コナダ。体形内面割離ナハケメ。	10T/3/2	肌。1 m以下の砂粒を少し含む。砂っぽい。	硬	良好	研削付文
50	64	瓶	120			口縁部外周コナダ。体形外周ヘラミダキ。瓶外周割離。口縁部割離。口縁部内面ナダ。体形一大部分内面割離ナハケ。	7.5T/3/2	肌。0.5~1.5 mの砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	内外面ともにスス付着。内孔2×1.1寸。
						瓶底面内面コナダ。体形外周割離のため不明。瓶底割離。体形内面ナダ。	7.5T/3/3	肌。0.5~2.5 mの砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	
50	66	瓶	132			瓶底面内面コナダ。体形内面ナダ。瓶底割離。体形内面ヘラミダキが出た跡あり。	5T/3/3	肌。0.5~1.5 mの砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	
						口縁部外周コナダ。体形外周ヘラミダキ。口縁部割離。体形内面ナダ。	5T/3/2	肌。0.1~2.5 mの砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	内孔1×1.1寸。
50	68	瓶	130			口縁部内外出。瓶底面下内面コナダ。瓶底面外周に粘土製の跡あり。体形内面ナダ後割離ナハケメ。	7.5T/3/2~4/3	肌。0.5~2.5 mの砂粒。内うら石。タナリ層を含む。	硬	良好	外周にスス付着。
						研底面ナダ。脚瓶外周ヘラミダキ。脚瓶内面ナダ。	5T/3/4	肌。2 m以下の砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	脚瓶下平に割離あり。
50	70	瓶				研底面外周粘土製の跡あり。脚瓶外周割離のため割離不明。研底面。脚瓶内面ナダ。	7.5T/3/4	肌。0.2~1.5 mの砂粒を多く含む。砂っぽい。	やや軟	不良	全体にスス付着二次焼成の跡あり。内孔少々。
						口縁部内外出雲コナダ。体形外周コナダ後丁寧なヘラミダキ。口縁部下内面コナダ。体形内面ナダ。口縁部下内面に粘土製の跡あり。	7.5T/3/3	肌。0.1~0.5 mの砂粒を多く含む。内うら石。タナリ層を含む。	硬	不良	全体に割離あり。
1	72	瓶	212			口縁部内面コナダ。口縁部下内面割離ナハケ。瓶底内面ヘラミダキ。口縁部下内面コナダ。瓶底内面ヘラミダキの跡あり。	7.5T/3/2~7/3	肌。0.1~1.1 mの砂粒。内うら石を含む。	硬	良好	
						口縁部外周割離のため不明。研底面ヘラミダキ。口縁部内面コナダ。研底面ヘラミダキ。	7.5T/3/2	肌。0.5~2.5 mの砂粒。小石を少し含む。砂っぽい。	硬	不良	
50	74	瓶	210			口縁部外周コナダ。研底面割離しがい。ヘラミダキ一部磨り。粘土製の跡あり。口縁部外周一帯内面コナダ。	7.5T/3/2	肌。0.1~2.0 mの砂粒を含む。	硬	良好	内・外周とも全面的にスス付着。
						瓶底面内面コナダ。瓶底面上面割離のため不明。瓶底面内面割離。口縁部内面ナダ。	7.5T/3/3	肌。0.2~1.5 mの砂粒を多く含む。一	やや軟	良好	内孔1.1寸。
50	76	瓶	124			口縁部内外出雲コナダ。口縁部コナダ。一部ヘラミダキ。口縁部にヘラミダキの跡あり。体形ヘラミダキ。内面口縁部一部割離下コナダ。体形内面ナダ(瓶口工具)。	5T/3/4~6/6	肌。0.2~1.5 mの砂粒を少し含む。	やや軟	不良	一向内孔を含む。

表8 D地区土器観察表(その6)

器名	通称	図号	出	口徑	底徑	器高	容量	形状・手法の特徴	色	胎土	質	焼成	備考
土	96	無取柄	112					外面:口縁部コナダ。体部コナダのヘラミダギ。	5TR 7/8	泥。1mm以下の砂粒を少し含む。タマリ殻を含む。	硬	不良	外面に縁部にスス付着。
								内面:口縁部一帯コナダ。					
								外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部ナダ。ヘラミダギ(底端部の凹みが深い)。					
土	97	取	138				外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部ナダ。ヘラミダギ(底端部の凹みが深い)。	2.5TR 7/8	泥。0.5mm以下の砂粒を多く含む。砂=多い	軟	良好		
							内面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部ヘラミダギ。						
							外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ナダのち縁部ヘラミダギ。体部下平ハケのち縁部ヘラミダギ。						
土	98	取	130				外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ナダのち縁部ヘラミダギ。体部下平ハケのち縁部ヘラミダギ。	7.5TR/3	泥。0.5~2.0mmの砂粒。小石をやや多く含む。	硬	良好		
							内面:口縁部コナダ。体部ハケメ。						
							外面:口縁部コナダ。底平なえ。体部ヘラミダギによるナダ。						
土	99	取	270				外面:口縁部コナダ。底平なえ。体部ヘラミダギによるナダ。	3TR 4/2	泥。0.5~4.0mmの砂粒。小石を多く含む。	中軟	良好		
							内面:口縁部コナダ。体部ハケ。						
							外面:取柄ナダ。取柄コナダ。						
土	100	取柄	130				外面:取柄ナダ。取柄コナダ。	7.5TR/3 ~5/3	泥。3mm以下の砂粒。小石を含む。タマリ殻を含む。	硬	良好	内面、外面部にスス付着。蓋に取用。	
							内面:取柄ナダ。取柄ナダ。スス、コダ付のため詳細不明。						
							外面:取柄ヘラミダギ。一部ハケあり。取柄コナダ。一部取柄部あり。						
土	101	取柄	130				外面:取柄ヘラミダギ。一部ハケあり。取柄コナダ。一部取柄部あり。	5TR 6/4	泥。0.5~2.0mmの砂粒をやや多く含む。タマリ殻、内凹石を含む。	硬	良好	取柄に凹み。	
							内面:取柄コナダ。一部取柄部ヘラミダギ。取柄部取柄。						
							外面:取柄ヘラミダギ。取柄ナダ。取柄コナダ。						
土	102	取柄	74				外面:取柄ヘラミダギ。取柄ナダ。取柄コナダ。	5TR 6/4	泥。0.5~2.0mmの砂粒をやや多く含む。タマリ殻を含む。	硬	不良	内凹石。	
							内面:取柄ヘラミダギ。取柄ナダ。取柄コナダ。						
							外面:取柄ヘラミダギ。取柄ナダ。取柄コナダ。						
土	103	取柄	66				外面:取柄ヘラミダギ。取柄コナダ。	5TR 6/4	泥。0.5~1.5mmの砂粒を含む。タマリ殻を含む。	硬	不良	内凹4方向に凹み。	
							内面:取柄ナダ(取土部の縁部)取柄コナダ。						
							外面:取柄ヘラミダギ。取柄ナダ。取柄コナダ。						
土	104	取	182				外面:口縁部コナダ。口縁部直下コナダ。取柄部取柄ヘラミダギ。	3.5TR/3	泥。0.5~2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	取柄部外凹取柄	
							内面:口縁部コナダ。取柄ナダ。						
							外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ハケメ。体部下平ハケのち底平。内面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ハケ(取土部の縁部)。体部下平ハケ(スス、コダのため不明)。						
土	105	取	150				外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ハケメ。体部下平ハケのち底平。内面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部上平ハケ(取土部の縁部)。体部下平ハケ(スス、コダのため不明)。	5TR/2 ~6/4	泥。3.5mm以下の砂粒。小石を少し含む。	硬	良好	外・内面にススコダ付着。	
							内面:口縁部コナダ。取柄ナダ。						
							外面:口縁部コナダ。体部ヘラミダギ。						
土	106	高杯	202				外面:口縁部コナダ。体部ヘラミダギ。	7.5TR/2	泥。砂粒を多く含む。	硬	不良		
							内面:口縁部一帯コナダ。						
							外面:口縁部コナダ。取柄ヘラミダギ。						
土	107	高杯	220				外面:口縁部コナダ。取柄ヘラミダギ。	5TR/3 ~6/4	泥。0.5~2.0mmの砂粒を含む。内凹石を含む。	硬	良好		
							内面:口縁部コナダ。取柄ナダのち取土部のヘラミダギ。						
							外面:体部ヘラミダギ。取柄ナダ。ヘラミダギあり。						
土	108	取柄	206				外面:口縁部コナダ。取柄上平ハケナダ。取柄下平ハケの取柄ナダ。取柄ナダのち取土部のヘラミダギ。	7.5TR/3	泥。0.1~0.5mmの砂粒を多く含む。	中軟	良好	一凹。4mm前後の小石を少し含む。砂=多い。	
							内面:口縁部一帯上平コナダ。取柄下平ナダ。						
							外面:口縁部一帯取柄部取柄コナダ。						
土	110	取	136				外面:口縁部一帯取柄部取柄コナダ。	10TR/3	泥。1mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	取柄部取柄。	
							内面:口縁部一帯取柄部取柄ヘラミダギ。						
							外面:体部ヘラミダギのちヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄ヘラミダギ。						
土	111	取柄	132				外面:体部ヘラミダギのちヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄ヘラミダギ。	5TR 7/4	泥。0.1~0.5mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	体部一帯取柄部	
							内面:体部ヘラミダギによるナダ。取柄部取柄ヘラミダギ。						
							外面:口縁部コナダ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。						
土	112	取柄	132				外面:口縁部コナダ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。	5TR 4/1	泥。0.5~2.0mmの砂粒を多く含む。内凹石を含む。	硬	良好	取柄部取柄。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。	
							内面:口縁部取柄部取柄。取柄部取柄ヘラミダギ。						
							外面:口縁部コナダ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。						
土	113	取	143				外面:口縁部コナダ。口縁部直下ヘラミダギ。体部ヘラミダギ。	10TR 6/3	泥。0.1~0.5mmの砂粒。内凹石を多く含む。	中軟	良好	一凹を含む。タマリ殻を含む。	
							内面:口縁部取柄部取柄ヘラミダギ。体部ヘラミダギ。						
							外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部取柄部取柄ヘラミダギ。						
土	114	取	166				外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部取柄部取柄ヘラミダギ。	2.5TR 7/2	泥。0.2~1.6mmの砂粒を少し含む。タマリ殻を含む。	硬	不良	内面にスス付着。内凹取柄。	
							内面:口縁部コナダ。体部ヘラミダギ。取柄部取柄ヘラミダギ。						
							外面:口縁部一帯直線直下コナダ。体部取柄部取柄ヘラミダギ。						

表8 D地区土器観察表(その7)

遺跡名	遺物番号	図号	種類	法	口徑	体高	厚壁・手取の特徴	色	胎土	質	焼成	備考
156	115	陶器				181	外面：片成形一帯部ヘラミギキ。底面直下コナナ。	5YR7/4-7/6	黄。0.3~0.5mm位の砂粒を少し含む。	硬	良好	内面全体に、開文。
							内面：片成形ヘラミギキ。胴部ナダ、コナナダ、胴部ナダ。					
3(西側)	116	陶器				110	外面：胴部ナダ。胴部ナダ。	5YR 5/6	黄。1~2mmの砂粒を含む。	硬	良好	
							内面：胴部ナダ。胴部ナダ。					
117	底面						外面：体部ヘラミギキ。底面直上ヘラズリ。底面直上ナダ。	10YR 6/7	黄。1~3mmの砂粒。小石をやや多く含む。	硬	良好	内面直上を含む。
							内面：体部ハケのちナダ。底面直上ナダ。					
118	106	台付鉢	118	134	107	104	外面：口縁部直線直下コナナ。体部一帯部直線直上ヘラミギキ。胴部ナダ。胴部コナナ。	褐色黒色	黄。1mm以下の砂粒を少し含む。	硬	良好	高台ピット。内面直上。胴部直上を含む。
							内面：口縁部一帯部上直線直下コナナ。体部下直下コナナ。					
119	陶器					100	外面：胴部ヘラズリナダ。	10YR 6/7	黄。0.5~2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	高台ピット。
							内面：胴部一帯部直上ヘラナダ。一部ハケメ。底面直上。					
120	陶器					118	外面：胴部直線直上ヘラ工具によるナダ。胴部コナナ。	10YR 6/7	黄。1mm位の砂粒を少なく含む。	硬	良好	内面直上を含む。
							内面：胴部ナダ。					
121	底					140	外面：口縁部一帯部コナナ。一部コナナ。胴部にヘラ先の色が残る。	2.5YR7/4	黄。2mm以下の砂粒。小石を含む。0.4mmの小石を含む。	硬	良好	内面全体に黒い点あり。
							内面：口縁部一帯部コナナ。一部コナナ。					
122	106	台付鉢	147	104		104	外面：口縁部コナナ。体部一帯部直線直上ヘラミギキ。胴部ナダ(底工具)。	7.5YR7/3	黄。0.1~0.3mm位の砂粒を少し含む。	中や軟	良好	外・内面とも全体のストロケ付。
							内面：口縁部コナナ。体部一帯部ヘラナダ。胴部ナダ(底工具)。					
123	台付鉢					102	外面：口縁部コナナ。体部ヘラミギキ。	10YR 6/7	黄。0.5~2.0mm以下の砂粒。タマリ根を含む。	硬	良好	内面全体に黒い点あり。
							内面：口縁部コナナ。体部コナナのちヘラミギキ。					
124	陶器						外面：片成形一帯部ヘラミギキ。胴部ナダ。	2.5YR7/6	黄。0.5~2.0mmの砂粒をやや多く含む。	硬	良好	胴部にストロケ付。
							内面：片成形ナダのちヘラミギキ。胴部直上。					
125	底					102	外面：口縁部一帯部直下直線直上ヘラミギキ。体部ヘラミギキ(底面直上ナダ)。一部ハケメ。内面：口縁部一帯部直下直線直上ヘラミギキ。体部ハケ工具によるナダ。	10YR 7/7	黄。0.1~0.4mmの砂粒。小石をやや多く含む。	中や軟	良好	胴部直線直上。
							内面：口縁部一帯部直下直線直上ヘラミギキ。体部ハケ工具によるナダ。					
126	底面						外面：体部ヘラ工具によるナダ。底面ナダ。	2.5YR6/8	黄。2mm以下の砂粒を少なく含む。	硬	良好	内面全体に黒い点。中央外・内面より穿孔。
							内面：体部一帯部直線のため不明。					
127	陶器						外面：胴部ヘラズリのちヘラ工具によるナダ。	10YR 6/7	黄。0.2~4mmの砂粒。小石をやや多く含む。	軟	良好	
							内面：片成形ヘラミギキ。胴上直線直上。胴部ナダ。					
128	底					108	外面：口縁部一帯部ヘラミギキ。	7.5YR7/3	黄。1mm以下の砂粒を少し含む。	硬	良好	内面直上を含む。
							内面：口縁部一帯部コナナ。					
129	底					157	外面：口縁部一帯部直下コナナ。体部ハケのちヘラミギキ。	7.5YR7/7	黄。0.1~0.3mm位の砂粒を少し含む。	中や軟	良好	内面直上を含む。
							内面：口縁部コナナ。底面直上ヘラ工具によるナダ。体部まばらヘラミギキ。一部ハケメ。					
130	底					170	外面：口縁部直線直上ナダ。体部コナナのちヘラミギキ。	5B 4/1	黄。2mm以下の砂粒を含む。	硬	良好	内面直上を含む。
							内面：口縁部コナナ。底面直上ヘラ工具によるナダ。体部まばらヘラミギキ。一部ハケメ。					
131	底					100	外面：口縁部一帯部コナナ。体部ナダのちヘラミギキ。	褐色色	黄。砂粒をほとんど含まない。	硬	不良	体部に黒い点。内面直上を含む。
							内面：口縁部一帯部コナナ。体部ナダ。胴部一帯部直上土粒の粒状。					
132	底面						外面：体部直線直上ヘラミギキ。底面ヘラ工具によるナダ。	7.5YR6/4	黄。砂粒を少なく含む。	硬	良好	0.5~2mmのタマリ根を多く含む。
							内面：体部一帯部ヘラ工具によるナダ。					
133	底					132	外面：口縁部一帯部直下コナナ。体部ヘラミギキ。	5YR 4/2	黄。0.5~2mmの小石。砂粒を少し含む。	硬	良好	
							内面：口縁部コナナ。底面直線直上。体部まばらハケメ。胴部に黒土粒の粒状。					

表8 D地区土器観察表(その8)

群	遺物	数量	形状	口徑	底徑	特徴・手触の特徴	色	陶	胎	土	質	焼成	備考	
157	134	1	罎	140	150	外面：口縁部コナダ。肩部コナダ。底部ヘラミダギ 内面：口縁部コナダ。肩部部押瓦ミダギ。底部ヘラミダギのちヘラミダギ。底部上半まばらなヘラミダギ。	51R 4/2	中	0.6m	以下	の砂粒を多く含む。	中	良	丹波全体にスズ付。プレバート。
	135	180	罎	130	130	外面：底部ヘラミダギのちヘラミダギ。肩部上半ヘラミダギ及び。底部中央まばらなヘラミダギ。内面：肩部上半ヘラミダギ。底部中央一部ヘラミダギのちヘラミダギ。	101R 7/2 ~7/3	中	0.5~2.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	136	1	罎	130	130	外面：口縁部コナダ。口縁部コナダ。底部中央まばらなヘラミダギ。 内面：口縁部ヘラミダギ。肩部細線ヘラミダギ。	101R 5/1	中	0.2~2.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
137	137	1	高杯	230	230	外面：口縁部コナダ。底部ヘラミダギのちまばらなヘラミダギ。 内面：口縁部コナダ。底部上半ヘラミダギのちまばらなヘラミダギ。	101R 5/1 ~5/2	中	0.2~0.5m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	138	1	高杯	240	240	外面：口縁部コナダのちヘラミダギ。口縁部以下ヘラミダギのち一部ヘラミダギ。底部ヘラミダギ。 内面：口縁部一部コナダのちヘラミダギ。	51R 7/5	中	1~2.5m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	139	1	罎	180	180	外面：口縁部コナダ。肩部コナダが平。口縁部以下に粒土の盛り上がりがある。 内面：口縁部一部コナダ。	101R 5/2	中	0.1~1.2m	位の砂粒を多く含む。	中	良	内面を多く含む。	
140	140	1	罎	210	210	外面：口縁部へ口縁部以下コナダ。ハケ一部に換る。肩部ヘラミダギ。 内面：口縁部一部コナダ。ハケ一部に換る。	101R 7/3 ~7/2	中	0.1~1.8m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	141	1	罎	200	200	外面：口縁部コナダ。肩部ヘラミダギ。 内面：口縁部一部コナダ。	101R 7/3 ~7/4	中	0.3~1.5m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	142	1	無蓋罎	134	134	外面：口縁部へ口縁部以下コナダ。底部ヘラミダギ。底部中央まばらなヘラミダギ。 内面：口縁部へ口縁部以下コナダ。底部コナダ。	5.17 5/2	中	0.5~1.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良	土層切出しと照合。照合あり。	
143	143	200	罎	205	205	外面：口縁部コナダ。肩部細線ヘラミダギ。 内面：口縁部コナダ。肩部上半細線ヘラミダギ。底部下半ヘラミダギ。	7.51R 7/4	中	0.5m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	144	1	罎	144	144	外面：杯底部へ脚部ヘラミダギ。肩部コナダ。 内面：杯底部ヘラミダギ。	101R 4/1	中	0.2~1.2m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	145	1	罎	135	135	外面：脚部ヘラミダギ。肩部コナダ。底部ヘラミダギ。 内面：脚部足首換。肩部部押瓦ミダギ。底部部押瓦。	101R 5/2	中	0.2~1.2m	位の砂粒を多く含む。	中	良	一部へい。	
146	146	130	罎	146	146	外面：底部コナダ。杯底部丁字コナダ。脚部コナダ。底部以下へラ先の当たった跡あり。底部部押瓦。 内面：底部一部コナダ。脚部下部細線ヘラミダギ(製瓦工具)。	101R 5/1	中	1m	以下の砂粒を多く含む。	中	良		
	147	1	罎	114	114	外面：脚部上半コナダ。脚部中央へ下半ヘラミダギ。肩部コナダ。 内面：脚部ヘラミダギ。肩部コナダ。	51R 5/5	中	0.5~1.2m	位の砂粒を多く含む。	中	良	プレバート27	
	148	1	罎	148	148	外面：脚部ヘラミダギ。 内面：脚部コナダ。	51R 5/4	中	0.5~1.2m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
149	149	1	罎	204	204	外面：口縁部コナダ。口縁部以下コナダ。底部ヘラミダギ。 内面：口縁部コナダ。口縁部以下コナダのちまばらなヘラミダギ。底部ヘラミダギ。コナダのちヘラミダギ。	51R 7/4	中	0.2~0.5m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	150	1	罎	148	148	外面：口縁部コナダ。肩部一部ヘラミダギ。底部に換るまばらなヘラミダギ。 内面：口縁部一部コナダ。底部コナダ。ヘラミダギ。	7.51R 6/2	中	0.5~2.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良	丹波全体にスズ付。	
	151	1	罎	150	150	外面：口縁部コナダ。底部ヘラミダギ。 内面：口縁部コナダ。底部まばらなヘラミダギ。	7.51R 7/1	中	0.1~0.4m	位の砂粒を多く含む。	中	良	内面を多く含む。	
152	152	1	罎	180	180	外面：口縁部一部コナダ。肩部コナダ。 内面：口縁部一部コナダ。	51R 5/2	中	0.5~2.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良		
	153	1	罎	180	180	外面：口縁部一部コナダ。肩部コナダ。 内面：口縁部一部コナダ。	51R 5/2	中	0.5~2.0m	位の砂粒を多く含む。	中	良		

表8 D地区土器調査表(その12)

群	遺物	数量	形状	口徑	体高	厚	特徴	色	胎土	質	試	備
名	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号	番号
D	161	2	碗	100			外底:口縁部一部割ココナダ。 内底:口縁部一部割ココナダ。頸部に粘土粒の散見。	10T2 6/1	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石を多く含む。	硬	良好	兵部段?
		3	反胴型	110			外底:口縁部ココナダ。頸部ハケのもまばらなヘラミダキ。 内底:口縁部ココナダ。頸部ハケ。	3T2 7/4	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石をやや多く含む。	硬	良好	
		4	碗	114			外底:口縁部ココナダ。頸部粗粒なヘラミダキ。 内底:口縁部磨研されたものココナダ。頸部磨研されたものナダ(現状工具)。	2.5T20/6	肌. 0.1 ~ 0.5mmの砂粒を含む。	中 軟	良好	
		5	碗	130			外底:口縁部ココナダ。頸部ヘラミダキ。 内底:口縁部一部磨研されたものココナダ。	10T2 6/6	肌. 0.1 ~ 0.5mmの砂粒を多く含む。一軟	中 軟	良好	頸部に砥部。 →ナマリ跡を含む。
E	6	碗	127				外底:口縁部ココナダ。頸部ナダ。 内底:口縁部ココナダ。頸部ナダ。	10T2 7/1	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石を多く含む。	硬	良好	
		7	碗	134			外底:口縁部ココナダ。頸部ナダ。 内底:口縁部ココナダ。頸部ナダ。	7.5T20/1	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石を多く含む。内底石を含む。	硬	良好	
		8	碗	139			外底:口縁部ココナダ。頸部ヘラミダキ。 内底:口縁部一部割ココナダ。	2.5T20/6	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石を少し含む。	中 軟	良好	外底スズ付跡。
		9 10 9	碗	102			外底:口縁部ココナダ。頸部ナダ。体部粗粒なヘラミダキ。口縁部、頸部に磨研されたものあり。 内底:口縁部ココナダ。頸部一部ナダ。、体部に磨研されたものあり	5T20/2- 5/4	肌. 0.5 ~ 0.5mmの砂粒。小石をやや多く、5mmの小石を含む。	硬	良好	頸部砥部磨研
F	203 30	碗	150			外底:口縁部ココナダ。 内底:口縁部ココナダ。	10T2 5/2	肌. 0.5 ~ 1.0mm前後の砂粒を多く含む	硬	不良	凹底土十四形厚文。	
		碗	167			外底:口縁部一部割ココナダ。 内底:口縁部一部割ココナダ。頸部に粘土粒の散見。	2.5T 4/2	肌. 1 ~ 2mmの砂粒を多量に含む。	中 軟	不良	凹底土十四形厚文。	
		碗	172			外底:口縁部ナダ。ココナダ。 内底:口縁部一部割ココナダ。	10T2 5/2	肌. 2 ~ 3mmの砂粒。小石を中々多く含む。内底石を含む。	硬	不良	凹底厚文。	
		碗	189			外底:口縁部ココナダ。頸部ヘラミダキ。 内底:口縁部ココナダ。口縁部以下ハケ。頸部ココナダ。	10T2 4/3	肌. 2mm以下 の砂粒。小石を含む。内底石を多く含む	硬	良好	外、内面にスズ付跡。	
G	無蓋型	112	136			外底:口縁部ココナダ。体部ヘラミダキ。 内底:口縁部ココナダ。体部ナダ。	5T 5/1	中軟。0.3mm以下の砂粒を含む。一軟	中 軟	不良	凹底土11型で2ホ。 →内底石を含む	
		116			外底:口縁部ココナダ。体部ヘラミダキ。 内底:口縁部ココナダ。口縁部以下磨研されたものナダ。体部ハケナダ。	10T2 4/3	肌. 0.5mm以下の砂粒を多く含む。一軟	中 軟	良好	凹底土11型。頸部砥部磨研→内底石を含む		
		126	188			外底:口縁部ナダ。くびれ部に粘土粒の散見。体部ヘラミダキ。 内底:口縁部ナダ。体部ハケ。	7.5T20/3	肌. 2mm以下の砂粒を含めて多く含む。内底石を含む。	硬	良好	内底口縁部一部部に付てスズ付跡。	
		203 6	無蓋型	380			外底:口縁部一部割ナダ。 内底:口縁部ココナダ。頸部磨研されたもの(ヘラミダキ)。	10T2 5/2	肌. 磨研粒をやや多く含む内底石を含む	硬	不良	凹底土十四形厚文。現状土十四形厚文。
H	無蓋型	178			外底:体部上平ヘラミダキ。体部中央ナダ。体部下ナダのもの磨研されたヘラミダキ。 内底:体部ナダのもの磨研されたもの。	10T2 6/1	肌. 1mm以下の砂粒を少し含む。内底石を含む。	硬	良好			
		210			外底:口縁部一部割(下)ココナダ。頸部ナダ(現状工具)。 内底:口縁部一部割ココナダ。	10T2 5/1	肌. 磨研粒を多く含む。	硬	良好	新発見。 高台-6		
		218			外底:口縁部ココナダ。頸部ヘラミダキ。 内底:口縁部一部割ココナダ。頸部ナダ。ハケ。	7.5T20/4	肌. 0.1 ~ 0.5mmの砂粒を多く含む。内底石を含む	硬	不良	高台-7		

表8 D地区土器観察表(その13)

器 名 番 号	遺物 番号	器 種	出 土 層	口 徑 高	体 高	厚薄・形状の特徴	色	土	質	焼 成	備 考
1 6 1	21	壺	208			外面:口縁部へ口縁部直下ヨコナズ。頸部ナズ。ハケ。 内面:口縁部ヨコナズ。頸部上ナズ。頸部下へラナズリ。	10YR 8/3 ~8/4	肌。0.5~1. 5mm位の砂粒 内面砂粒多	中	良好	→く含む。
22	壺	186				外面:口縁部ヨコナズ。頸部上半部まで強いナズ(板状工入)。頸部 下ヨコナズ。底部へラミガキ。 内面:口縁部一部厚上ヨコナズ。頸部下へ一部厚削りさえのものナズ	7.5YR5/3	中肌。1mm 以上の砂粒を 含。花斑斑→	中	良好	内面上半部はス ス仕立。→の小 石。内面石を合
23	短頸瓶	132				外面:口縁部ヨコナズ。頸部ハケ。体部粗雑なハケ。 内面:口縁部ヨコナズ。頸部ハケ。体部粗雑なハケ。 一部厚削りさえのものナズ	7.5YR6/4	肌。0.5~1. 0mm位の砂粒 を多く含む。	中	良好	凹破文。
24	短頸瓶	100	184			外面:口縁部ヨコナズ。頸部へラミガキ。くびれ部ヨコナズ。体部上 半へラミガキ。一部へラナズ。体部下半部粗雑なへラミガキ(ハケノ 痕)。内面:口縁部ヨコナズ。頸部へラナズのものナズ。頸部直下太 厚削り。器土層の粗雑。体部ナズ。一部ハケ。	10YR 7/1 ~7/2	肌。0.5~1. 0mm位の砂粒 を多く含む。	中	良好	高台→
25	底皿					外面:体部へラミガキ。底部直上ヨコナズ。底部ナズ。 内面:体部→底部ナズ。	10YR 7/2	肌。1.0~1. 5mmの砂粒を 多く含む。	中	良好	
26	底皿		232			外面:体部へラミガキ。底部直上ヨコナズ。底部へラミガキ。 内面:体部ハケ。底部削りさえ。	2.5Y 7/1	肌。1~3mm の砂粒。小石 を含む。内面石を 含む。	中	良好	
1 6 2	蓋	88				外面:口縁部ヨコナズ。体部へラミガキ。 内面:口縁部割縁のため不明。体部ナズ。	2.5Y 6/1	肌。0.5mm以 下の砂粒を少 なく含む。内面石を 含む。	中	良好	4本所に片孔。 内面の大部分に スス仕立。
28	蓋	104				外面:口縁部ヨコナズ。体部は割縁のため不明。 内面:口縁部ヨコナズ。体部は割縁のため不明。	5YR 7/5	肌。2mm以 下の砂粒を 多く含む。	中	良好	片孔あり。数は 不明。
29	脚部	119				外面:口縁部ヨコナズ。体部へラミガキ。 内面:口縁部ヨコナズ。体部粗雑なナズ。	10YR 6/3	肌。0.5~1. 0mmの砂粒を 少し含む。内面石を 含む。	中	良好	1本所に片孔。
30	脚部	128				外面:口縁部ヨコナズ。体部へラミガキ。 内面:口縁部ヨコナズ。体部ハケ。	5YR 6/3	肌。0.5~2. 0mmの砂粒を 多く含む。	中	良好	口縁部にスス仕 立。
31	脚部	136				外面:口縁部ヨコナズ。体部割縁のため不明。 内面:口縁部→体部ナズ。口縁部割縁。	7.5YR7/2	肌。0.5~1. 0mmの砂粒を 多く含む。全体に砂→含む。	中	良好	
32	脚部	142				外面:口縁部ヨコナズ。体部表面割縁のため不明。一部へラミガキ 痕。 内面:口縁部ヨコナズ。体部ナズ。	5YR 6/1	肌。0.5~1. 5mmの砂粒を 多く含む。	中	良好	内面全体にス ス。コゲ付着。脚 底のみ?
33	脚部	156				外面:口縁部ナズ。体部表面割縁のため不明。 内面:口縁部ナズ。体部表面割縁→体部ナズ。	5YR 4/1	肌。3mm以 下の砂粒→50 μの小石含。内面石を 含む。	中	良好	1本所に片孔。
34	脚部	154				外面:口縁部ヨコナズ。体部ハケのへラミガキ。 内面:口縁部ヨコナズ。口縁部割縁。体部ナズ。	10YR 7/2	肌。0.1~0. 5mmの砂粒を 多く含む。	中	良好	
35	脚部	152				外面:口縁部ヨコナズ。体部ナズ。 内面:口縁部割縁不明。体部ナズ。	10YR 4/2	肌。0.5mm以 下の砂粒を 含む。内面石を 含む。	中	良好	器口14~17本所 に片孔。
36	片 14	136				外面:口縁部粗雑なナズ。 内面:口縁部粗雑なナズ。体部ナズのものまじり厚削りさえのへラミガキ。	10YR 6/3	肌。1~3mm の小石。砂粒 を中々多く含む。	中	良好	体部表面割縁 文。
37	蓋	220				外面:口縁部ヨコナズ。体部へラミガキ。 内面:口縁部→口縁部直下ヨコナズのもの粗雑なへラミガキ。体部ナズ のもの粗雑なへラミガキ。	5YR 7/6	肌。1~3mm の小石。砂粒 を少し含む。内面石を 含む。	中	良好	
38	1 304 7	短頸瓶	190			外面:口縁部ヨコナズ。体部全体に表面割縁のため不明。 内面:口縁部→体部ヨコナズ。	10YR 6/3	肌。1mm以 下の砂粒を 含む。砂→含む。	中	良好	内面文。板状文 十種状付文。
39	片	90				外面:口縁部ヨコナズ。体部ヨコナズのものまじり厚削りさえのへラミガキ 内面:口縁部ヨコナズ。体部削りさえのものナズ。	7.5YR7/6	肌。0.1~2. 5mmの小石。 砂粒を中々多く含む。	中	良好	口縁部に粗雑あり。

表8 D地区土器観察表(その15)

調査 所 名	遺物 番号	陶器 番号	器 種	口 径	体 高	形製・手法の特徴	色 質	胎 土	目 肌	備 考							
											口 高	体 径					
1 6 3	59	194	短頸瓶		127	外面：胴部ヘラミゴキ。胴部ナツ。胴部ヨコナツ。 内面：胴部ヨコナツ。一部捺指さえ。胴部ヨコナツ。	STR 7/4	肌。1~3mm の砂粒。小石 を多く含む。ナマリ層を極めて多く含む。	肌 良好	胴部に黒点あり							
		60	鉢								外面：口縁部ヨコナツ。体部ナツ。 内面：口縁部ヨコナツ。体部ヘラミ。	STR 7/1	肌。0.5~2. 0mmの砂粒を 含む。	肌 良好	胴部?		
		61	高杯													外面：口縁部ヨコナツ。杯部ヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。杯部ナツ。	STR 7/6
D	62	高杯	190	外面：口縁部ヨコナツ。杯部まばらで粗雑なヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。杯部ヨコナツのち放射線状文風のヘラ ミゴキ。杯部へラ先の凹んだ跡あり。	10TR 6/2	肌。2mm以下 の砂粒を少し 含む。砂っぽい。	中 肌 良好	外、内面にスス 付着。	プレバナー14								
										63	高杯	210	外面：口縁部ヨコナツ。口縁部~杯部ヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。口縁部~杯部ヘラミゴキ。	7.5TR/2	肌。0.5~2. 0mmの砂粒を 多く含む。	肌 良好	
65	高杯	204	外面：口縁部ヨコナツ。杯部ナツ。 内面：口縁部ヨコナツ。杯部ナツ。	7.5TR/3	肌。0.5~3. 5mmの小石。 砂粒を中や多 く含む。内面石を含む。	肌 不良											
								E	66	高杯	216	外面：口縁部ヨコナツ。各部粗雑なヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。各部まばらで粗雑なヘラミゴキ。	2.5TR/4	肌。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。	中 肌 良好		
67	高杯	213	外面：口縁部ヨコナツ。ヘラミゴキ。口縁部~杯部ヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。口縁部~杯部ヘラミゴキ。杯部中央ヘラミ ゴキ。	2.5Y 6/1	肌。2mm以下 の砂粒を含む 含む。内面石を多く含む。	外、内面にスス 付着。											
																	68
F	69	高杯	248	外面：口縁部ヨコナツ。口縁部~杯部ヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。杯部ヘラミゴキ。	STR 5/4	肌。0.3~0. 8mmの砂粒を 含む。内面石を含む。	肌 不良	捺指の刻線遺し い。プレバナー14									
									70	高杯	204	外面：口縁部ヨコナツ。口縁部~杯部ヨコナツのちヘラミゴキ。 内面：口縁部ヨコナツ。杯部ヨコナツのちヘラミゴキ。	7.5TR 1/ 7/1	肌。0.2~0. 4mmの砂粒を 多く含む。内面石を含む	肌 良好	胴部に西点文 足江系	
																	1 6 3
72	甕	138	外面：口縁部~体部ヨコナツ。 内面：口縁部~肩曲線直下ヨコナツ。捺指捺さえ。	STR 7/4	肌。0.5~2. 0mmの砂粒を 中や多く含む	中 肌 良好											
								73	甕	110	外面：口縁部~肩曲線直下ヨコナツ。各部まばらなヘラミゴキ。 内面：口縁部~肩曲線直下ヘラナツ。体部ナツ。	2.5TR/6	肌。0.5~2. 5mmの小石。 砂粒を少し含む。	肌 良好			
74	甕	100	外面：口縁部~肩曲線直下までヨコナツ。体部上半へク状工具による ナツ。体部下半へクハケのものナツ。内面：口縁部ヨコナツ肩曲線直上 ヨコナツ。体部ヘラミ。体部中央に捺指印あり	7.5TR/3 ~5/2	肌。0.5mm位 の砂粒を少し 含む。ナマリ層を含む。	肌 良好											

表8 D地区土器観察表(その16)

調査 地区	遺物 番号	調査 区画 番号	出 土 高	出土 位置	形状・平面的特徴	色	質	土	厚	底	脚	備	考
1 6 8	76	100	140	102	外周:口縁部ココナダ。屈曲部直下を調整。外部ヘラミダキ。底部直上ハケム。底面ココナダ。内周:口縁部ココナダ。外部ナダ。外部に粘土風の跡残る。底部を研ぎ足す。	7.5YR/4	黄	中	約	0.5	~1.0mmの砂粒を多く含む。	良好	外周にスス、コゲ付着。土塊一割
9	76	100	152	108	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部上平ナダ。外部下平ナダのヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ屈曲部直下平ナダ。粘土風の跡残る。外部ナダのまばらなヘラミダキ。	7.5YR/2-3/3	黄	中	約	0.5	~2.0mmの砂粒を多く含む。	良好	ブルーワート10
9	77	100	143	109	外周:口縁部一屈曲部ココナダ。外部ヘラミダキ。内周:口縁部ハケム。外部ヘラツズリのみハケム。	5YR 3/1	黄	中	約	1mm以下の砂粒を含む。内周石を含む。	良好	全体的にスス付着。	
													144
9	78	100	130	110	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ナダのまばらなヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。屈曲部直下ココナダ。外部を研ぎ足すのみナダ。外部に粘土風の跡残る。	7.5YR/2-3/2	黄	中	約	2mm以下の砂粒を多く含む。内周石を多く含む。	良好	屈曲部直下調整口縁部にスス、コゲ付着。	
													131
9	79	100	154	114	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ヘラナダのまばらなヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。外部調整足すのみナダ(飯炊工具)、ハケ。	10YR 5/1	黄	中	約	0.5	~3.5mmの小石、砂粒を中々多く含む。	良好	外周全体にスス付着。
9	80	100	136	104	外周:口縁部調整足すのみココナダ。外部ヘラミダキ。内周:口縁部調整足すのみココナダ。外部ハケ。	7.5YR/1	黄	中	約	0.5	~0.5mmの砂粒、小石を含む。内周石を含む。	良好	外周全体にスス付着。
9	81	100	158	102	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ヘラミダキ。内周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ナダ。	8/4	黄	中	約	3.5mm以下の砂粒小石内周石を含む。	良好	外周全体的にスス付着。	
													159
D 地	82	100	147	119	外周:口縁部ココナダ。外部ナダ。内周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ナダ(飯炊工具)。	2.5YR/8	黄	中	約	0.5	~1.0mmの砂粒を多く含む。	良好	外周全体にスス、コゲ付着。
D 区	83	100	141	121	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。屈曲部に粘土風の跡残る。外部ココナダのまばらなヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。屈曲部直上ナダ。外部ヘラツズリ。	5YR 7/3	黄	中	約	0.5	~1.0mmの砂粒を少し含む。	良好	
D 包	84	100	150	120	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ナダのヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。屈曲部ヘラナダ。外部ハケム。	5YR 5/4	黄	中	約	0.5	~2.0mmの砂粒を中々多く含む。内周石を含む。	良好	
D 舎	85	100	143	122	外周:口縁部一屈曲部直下調整足すのみ一部ココナダ。外部ヘラツズリのみ調整なヘラミダキ。内周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。屈曲部直下に調整口の跡あり。外部調整ナダ。外部に粘土風の跡残る。	2.5YR/8	黄	中	約	2mm以下の砂粒を少し含む。内周石を含む。	良好	屈曲部直下調整	
													144
9	86	100	213	123	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ハケのヘラナダ。内周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ナダ。外部に粘土風の跡残る。	7.5YR/4	黄	中	約	0.5	~0.5mmの砂粒を少し含む。内周石を含む。	良好	
9	87	100	134	124	外周:口縁部調整足すのみココナダ。外部ヘラツズリのみヘラナダ。内周:口縁部調整足すのみココナダ。外部ナダ。一部ハケ。	7.5YR/8	黄	中	約	0.5	~3.0mmの小石、砂粒を多く含む。	良好	へて多く含む。タマリ標を含む。
9	88	100	132	125	外周:口縁部一屈曲部直下ココナダ。外部ヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。外部ナダ(飯炊工具)。外部に粘土風の跡残る。	7.5YR/7	黄	中	約	0.5	~1.0mmの砂粒を含む。砂っぽい。	不良	ブルーワート10
9	89	100	136	135	外周:口縁部一屈曲部ココナダ。外部上平調整なヘラミダキ。外部下平や中調整なヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。外部上平ナダ(飯炊工具)。外部上平に粘土風の跡残る。外部下平ハケム。	7.5YR/1	黄	中	約	0.5mm以下の砂粒を多く含む。砂っぽい。	不良		
													137
9	90	100	130	136	外周:口縁部ココナダ。外部ヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。外部ナダ(飯炊工具)。外部に調整口縁あり粘土風の跡残る。	10YR 7/3	黄	中	約	2.0	~3.0mmの砂粒、小石を中々多く含む。	不良	
9	91	100	200	138	外周:口縁部ココナダ。屈曲部直上調整足す。屈曲部直下ココナダ外部不調。内周:口縁部ココナダ。屈曲部一部調整。外部ハケム。	10YR 6/2	黄	中	約	0.5	~0.5mmの砂粒を多く含む。	不良	内周石を含む。
9	92	100	174	139	外周:口縁部ココナダ。屈曲部直上調整なヘラナダ。外部調整なヘラミダキ。内周:口縁部ココナダ。外部ヘラミダキ。	7.5YR/2	黄	中	約	0.5	~3.0mmの小石、砂粒を含む。内周石を含む。	良好	外周全体にスス付着。
D 土	202 204 8	100	200	140	外周:口縁部ココナダ。外部一部ココナダ。内周:口縁部ココナダ。屈曲部直下調整足す。外部ココナダ小さい屈曲部ハケ。	10YR 4/3	黄	中	約	0.5	砂粒を多く含む。	不良	ヘラ標。調整文字調整なし調整。標ちみこ2

表8 D地区土層観察表(その17)

探 検 所 名	地 層 名	探 検 深 度 [m]	探 検 日	口 径 [cm]	体 積 [m ³]	形像・手触の特徴	色	調	粒 止	貫 入 性	貫 入 試 験	備 考
163	B	84	探	201		外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部ナダ。 内層：口縁部ココナダ。体部粗粒なハナメ。屈曲部に粘土粒の散在。	2.5Y 7/1	灰	0.5～2.0mmの小石。砂粒をかなり多く含む。内層を含む。	硬	良好	断面スス付着。
						外層：口縁部ココナダ。凹凸激しい。体部ヘラナズリのもへラミガキ 内層：口縁部ココナダ。凹凸激しい。体部粗粒なハナメ、ナダ、凹凸が激しい。	5R 3/1	灰	0.5～2.0mmの小石。砂粒を含む。内層を含む。	硬	良好	断面全体にスス付着。
						外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部ハナメ。 内層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部ハナメ。	5T 6/1	灰	1～3mmの小石。砂粒多くを含む。	硬	良好	断面スス付着。
164	D1	1	探	140		外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部スス付着のため不明。 内層：口縁部ココナダ。体部ナダ。屈曲部直下ヘラの当たった跡あり。体部に粘土粒の散在。	10Y 4/1	灰	1.0～3.5mmの小石。砂粒を含む。内層を含む。	硬	良好	断面全体にスス付着。
						外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。屈曲部移行なヒ。屈曲部直下ナダ(取込工具)。体部ナダ(取込工具)のもちばらで粗粒なヘラミガキ。内層：口縁部ココナダ。屈曲部ヘラナダ。体部ナダ(取込工具)。	7.5YR 2/1	中	2mmの砂粒を多く含む。	中	軟	断面全体にスス付着。
						外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部ココナダ。体部は表面剥離のため不明。	6R 6/4	中	0.1～0.8mmの砂粒を極めて多く含む。	軟	良好	断面全体にスス付着。
165	E	4	高杯	202		外層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部～体部ココナダ。体部一部ヘラミガキ。	10Y 5/2	中	0.1～0.5mmの砂粒を含む。内層を含む。	中	軟	口縁部に泥質。
						外層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部ココナダ。体部ハナメのもへラミガキ。	2.5Y 6/2	灰	0.1～0.5mmの砂粒を少し含む。	硬	不良	
						外層：口縁部～体部ココナダ。 内層：口縁部～体部ココナダ。	2.5Y 4/2	硬	1mm位の砂粒をやや少し含む。内層を含む。	硬	良好	断面欠片付着。
166	F	7	脚部	118	製成 土	外層：脚部ハナメのナダ。屈曲部ココナダ。 内層：脚部ヘラナダ。屈曲部にヘラの当たった跡あり(取込工具)。	10R 6/4	灰	0.5～1.0mmの砂粒を多く含む。内層を含む。	硬	良好	
						外層：砂部ナダ、一部ハナメ。脚部ヘラミガキ、ナダ。製成ハナメ。 内層：脚部ヘラナダ。製成ハナメ。	2.5Y 6/1	灰	0.2～4.0mmの小石。砂粒を少し含む。内層を含む。	硬	良好	断面剥離状。
						外層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部～体部ハナメ。	10Y 6/3	灰	0.5～4.0mmの小石。砂粒を少し含む。内層を含む。	硬	良好	
167	G	10	製成 土	105	製成 土	外層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。体部ヘラミガキによるナダ。	10YR 2/2	中	0.5～1.0mm位の砂粒を多く含む。	中	軟	プレバラー→22
						外層：体部ハナメのも粗粒なヘラミガキ。体部直上ナダのもへラミガキ 体部ナダ。内層：体部中央ココナダ。体部に粘土粒の散在。体部 下層～底層ナダ。	5R 6/4	灰	0.5～2.0mmの砂粒。小石を多く含む。	硬	不良	断面にモミゴツの跡。
						外層：体部ヘラミガキ。底層ヘラナダ、ナダ。 内層：体部～底層粗粒なヘラナダ。	7.5YR 2/2	中	0.2～4.0mmの砂粒。小石を多く含む。	硬	良好	
168	H	13	底層			外層：体部ヘラミガキ。底層ナダ。 内層：体部～底層ヘラナダ。	5R 7/3	中	0.5～2.0mmの砂粒を多く含む。	中	軟	
						外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。口縁部直下に泥質を混入し一部粘付。体部ナダのもちばらで粗粒なヘラミガキ。底層ナダ。内層：口縁部ココナダ 口縁部直下ヘラナダ。体部～底層粗粒なヘラナダ。	10YR 2/2	中	1mm以下の砂粒を含む。ナダリ質を含む。	硬	不良	断面剥離状。
						外層：口縁部～屈曲部直下ココナダ。体部ヘラミガキ。底層ナダ。 内層：口縁部ココナダ。体部～底層ナダ。体部に粘土粒の散在。	5YR 4/6	灰	1.0～1.5mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	断面、内面ともにスス付着。
169	I	15	探	84	90	外層：口縁部ココナダ。体部ヘラミガキ。 内層：口縁部ココナダ。体部ナダ(ヘラミガキ)。	7.5Y 7/2	中	0.5mmの砂粒を多く含む。	中	軟	

表 8 D地区土器観察表 (その18)

調査 年次	遺物 番号	所属 番号	種 類	口 径	体 高	形状・平皿の特徴	色	土	質	焼成	備 考
1 6 3	17	鉢		136		外周：口縁部コナダ。体部ヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。体部ナダ。	3D18 6/1	黒。0.3～0.5mmの砂粒を少し含む。内周石を含む。	良	良好	
	18	脚盤				外周：体部ハケのちぎれなヘラミガキ。胴部ハケメ。胴部コナダ。 内周：体部～体部下半ヘラミガキ。胴部ナダ。	3D18 7/3	黒。0.5mm以下の砂粒を無く少し含む。	良	不良	
	19	灰器手 鉢				外周：体部ヘラミガキ。底面コナダ。 内周：体部～底面やや粗粒なハケメ。	3D18 4/3	黒。0.5～1.0mmの砂粒を多く含む。内周石を多く含む。	良	良好	
	20	脚盤		胴部 径 100		外周：体部ヘラナダ(一部ヘラミガキ)。胴部コナダ。 内周：胴部粗粒なナダ。胴部コナダ。	1.5D22/3	黒。1～2mmの小石。砂粒を多く含む。タナリ硬を含む。	良	良好	内底に灰粒。胴部に灰粒。
	21	鉢		48		外周：口縁部コナダ。胴部ヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。胴部ヘラナダ。		黒。0.5～1.0mmの砂粒を中々多く含む。	中 良	中 良	胴部に灰粒。→。内周石を含む。
	22	鉢		87		外周：口縁部コナダ。 内周：口縁部コナダ。	7.5D26/3	黒。0.5～2.0mmの砂粒を中々多く含む。	中 良	中 良	
	23	鉢		90		外周：口縁部コナダ。胴部コナダ。ナダ。 内周：口縁部コナダ。胴部コナダ。ナダ。	3D18 7/3	黒。1～2mmの砂粒を多く含む。	良	良好	
	24	煎餅敷		53		外周：口縁部ハケのちぎれコナダ。胴部～体部ヘラミガキ。 内周：口縁部ハケのちぎれコナダ。胴部上半粗粒なハケメ。胴部下半コナダのちぎれハケメ。体部ヘラナダ。	10D27/2	黒。1.0mm以下の砂粒を中々少し含む。	中 良	中 良	内底に文2ケ1組が4カ所。
	25	煎餅敷		50	胴部 径 50	外周：口縁部コナダ。胴部粗粒なヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。胴部ヘラナダ。	3D18 6/1	黒。小石。砂粒を少し含む。	中 良	中 良	
	26	煎餅敷		74	96	外周：口縁部コナダ。体部ヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。体部ハケメ。	2.5D16/5	黒。0.5～1.0mmの砂粒を無く少し含む。	中 良	中 良	
	27	煎餅敷		130	150	外周：口縁部～胴部直下コナダ。体部粗粒なヘラミガキ。体部上半に薄くハケメあり。内周：口縁部コナダ。体部粗粒なヘラミガキ。体部に地上部の粘着も。	3D18 6/2	黒。0.5～1.0mmの小石。砂粒を多く含む。	良	良好	外周全体にスス付。ズレバート17
	28	鉢		175		外周：口縁部コナダ。 内周：口縁部コナダ。	3D18 4/2	黒。0.5～0.8mmの小石。砂粒を少し含む。	良	良好	内周にスス付
	29	鉢		173		外周：口縁部コナダ。口縁部粗粒なヘラミガキ。胴部コナダ。 内周：口縁部～胴部コナダ。	7.5D24/4	黒。1.0～6.5mmの砂粒。小石を中々多く含む。内周石を含む。	良	良好	
	30	鉢		175		外周：口縁部コナダ。 内周：口縁部コナダ。	10D18 6/5	黒。1.5mm以下の砂粒。タナリ硬を無く少し含む。内周石を多く含む。	良	良好	
	31	鉢		210		外周：口縁部コナダ。胴部ヘラナダ。 内周：口縁部～胴部上半コナダ。胴部下ナダ。	2.5D 4/3	黒。0.5～1.0mmの砂粒。小石を中々多く含む。内周石を含む。	良	良好	
	32	鉢		158	胴部 径 136	外周：口縁部コナダ。体部ハケメ。体部上半ハケのちぎれコナダ。 内周：口縁部～体部コナダ。	10D18 4/1	黒。0.5～1.0mmの砂粒を極めて少し含む。	良	良好	外周全体にスス付。
	33	煎餅敷 ?		136	153	外周：口縁部コナダ。体部ヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。体部ハケのちぎれヘラミガキ。	7.5D26/4	黒。0.5～0.8mmの砂粒。小石を無く少し含む。	良	良好	口縁部に灰粒付
	34	鉢		203		外周：口縁部コナダ。体部ヘラミガキ。 内周：口縁部コナダ。体部ナダ。	10D18 6/1	黒。0.5～1.0mmの砂粒を多く含む。内周石を含む。	良	良好	
	35	鉢		213		外周：口縁部コナダ。体部粗粒のため不明。 内周：口縁部コナダ。口縁部ハケメ。体部粗粒のため不明。	10D18 7/1	黒。0.5～2.0mmの砂粒を多く含む。→	良	良好	→タナリ硬を無く少し含む。

表8 D地区土器観察表(その19)

探検地 名	遺物 番号	陶器 番号	陶器 種類	口徑 高さ	体 高	形質・手法の特徴	色 澤	土 質	質	焼成	備 考
1 6 5	26		高杯	244		外面：口縁部コナダ。底部ヘラズリのもへラミガキ。 内面：口縁部へ底面コナダ。	10YR 8/1 ~5/2	肌, 1mmの砂粒を多く含む	硬	良好	
27			杯	202		外面：口縁部コナダ。 内面：口縁部コナダ。	5YR 5/6	肌, 1~2mmの砂粒を含む	硬	良好	胎面凸出、磨砕研文。
28			高杯	180		外面：口縁部コナダ。杯部ヘラミガキ。 内面：口縁部へ底面コナダ。	10YR 8/2	肌, 4mm以下の砂粒、小石を多く含む。内面石を含む	硬	良好	内面全体にスス付着。
29			高杯	188		外面：口縁部コナダ。 内面：口縁部コナダ。	2.5YR/6	肌, 0.5~1.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
40			高杯	192		外面：口縁部コナダ。底部ヘラミガキ。 内面：口縁部コナダ。底部ヘラミガキ。	7.5Y 6/1	肌, 1.5~4mmの砂粒、小石を含む。内面石を含む	硬	良好	外、内面にスス付着。
41			高杯	188	180	外面：口縁部コナダ。底部不明。 内面：口縁部コナダ。底部コナダのみ最狭縁状のヘラミガキ。	10YR 7/2 ~7/3	肌, 0.3mm以下の砂粒をかなり多く含む	中 軟	良好	
42			底面			外面：底部ナダ。底面直上磨研さへ。底面ナダ。 内面：底部へ底面ナダ(縦状研文)。	7.5Y 2/1	肌, 1mm以下の砂粒を無く少し含む。	硬	不良	縦状文。
43			底面			外面：底部ヘラズリ。底面ナダ。 内面：底面ナダ。	2.5YR/6	肌, 0.1~2.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
44			底面			外面：底部へ底面ナダ(底面直上一部へラ状工具の当たった跡あり) 内面：底部へ底面ナダ。	10R 6/8	肌, 0.2~3.0mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	
45			底面			外面：底部ヘラズリ。底面直上ヘラズリ。底面ナダ。 内面：底部へ底面ナダか。	5YR 7/4	肌, 0.2~0.5mmの砂粒、小石を無く少し含む	硬	良好	外、内面にスス付着。
46			底面			外面：底部ナダ。底面直上コナダ。底面ナダ。 内面：底部へ底面ナダ。	2.5YR/4	肌, 0.5~3.0mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	
47			底面			外面：底部磨研さへラミガキ。底面直上磨研さへ。コナダ。底面ナダ。 内面：底部に粘土質の磨研さへ。 内面：底部へ底面ナダ。	7.5YR/1	肌, 0.2~0.5mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	良好	外面にスス付着。
48			底面			外面：底部ヘラナダ。底面ナダ。 内面：底部へ底面ナダ。	7.5YR/1	肌, 4.5mm以下の砂粒小石を多く含む。ナマリ粒を含む	硬	良好	内面全体にスス付着。
49			底面			外面：底部ヘラナダ。底面ナダ(磨研あり)。 内面：底部へ底面ナダ。	5YR 7/5 ~7/4	肌, 1~3mmの砂粒、小石をやや多く含む。	硬	不良	外面全体にスス付着。
50			底面			外面：底部ヘラミガキ。底面直上磨研さへのもへラナダ。底面ヘラナダ(ヘラズリ跡)。 内面：底部へ底面ナダ。	5YR 6/3 ~6/4	肌, 0.5~1.5mmの砂粒を無く少し含む	中 軟	良好	内面全体にスス付着。
51			脚部	110		外面：口縁部コナダ。底部コナダ。 内面：口縁部コナダ。底部ナダ。	10YR 6/2	肌, 0.1~0.5mmの砂粒を無く少し含む	硬	良好	穿孔
52			脚部	114		外面：口縁部コナダ。底部ナダ。 内面：口縁部コナダ。底部ナダ。	10YR 6/1	肌, 0.5~1.5mmの砂粒を少し含む。内面石を含む	硬	良好	外、内面に口縁部直上に磨研さへ粘土質の磨研さへ。穿孔1箇所。
53			脚部	126		外面：口縁部コナダ。底部不明のため不明。 内面：口縁部コナダ。底部不明。	2.5YR/6	肌, 1~3mmの砂粒、小石をやや多く含む	中 軟	良好	
54			脚部	132		外面：口縁部コナダ。底部ナダ。 内面：口縁部コナダ。底部ナダ。	5YR 7/3 ~7/4	肌, 1~4mmの砂粒、小石を含む。	中 軟	良好	外、内面に口縁部直上にスス付着。

表8 D地区土器観察表(その20)

調査 地区 番号	遺物 番号	種類	出 土 位置	口徑 高さ	体高	形態・平法の特徴	色	胎土	質	焼成	備考
1 6 5	55	脚部	140			外面:口縁部~体部コナダ。 内面:口縁部コナダ。体部ハケメ。	3YR 7/4	肌。0.5~1.0mmの砂粒を少し含む。	硬	良好	
	56	脚部	180			外面:口縁部コナダ。体部ナダ。 内面:口縁部コナダ。体部ナダ。	7.5YR/3	肌。0.5~2.0mmの砂粒を少し含む。内凹石を含む。	硬	良好	内凹石1個で8ヶ所。内凹全体にスナダ。
	57	脚部	84			外面:口縁部コナダ。体部割線が不明。 内面:口縁部ヘラズリ。体部ヘラミダキ。	7.5YR/6	肌。0.5~4.0mmの砂粒、小石を多く含む。	中 軟	良好	一で多く含む。
2	58	短頸型	新器 140			外面:脚部ハケメ。頸部コナダ。 内面:脚部ハケメ。頸部コナダ。	7.5YR/2	肌。2mm以下の砂粒。中凹石。5mmの小石、内凹石を含む。	硬	良好	割線文。内凹全体にスナダ。
	59	腹	151	164		外面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ヘラミダキのちコナダ。 内面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ナダ。	7Y	肌。0.3~4.0mmの砂粒、小石、内凹石を含む。	硬	良好	内凹全体にスナダ。
	60	腹	108			外面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部不明。 内面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ナダ。	5YR 6/4	肌。1~4.0mmの砂粒、小石を少し含む。	硬	良好	内凹全体にスナダ。
3	61	腹	107	172		外面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ヘラミダキのち肩曲部ヘラミダキ。 内面:口縁部コナダ。体部上半実面の尻穴置しい。体部下半ハケメ。体部に黒土の粘着。	2.5YR/4	肌。0.5~6.0mmの砂粒、小石を多く含む。	中 軟	良好	内凹全体にスナダ。
	62	腹	102			外面:口縁部コナダ。肩部ナダ。体部ハケメ。 内面:口縁部コナダ。体部ヘラズリ。	5YR 4/3	肌。0.5~1.0mmの砂粒を少し含む。内凹石を含む。	硬	良好	内凹スナダ。
	63	腹	162			外面:口縁部コナダ。 内面:口縁部ハケメ。	10YR 4/1	肌。1~3mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好	内凹全体にスナダ。
4	64	腹	172			外面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ハケメのちまばねヘラミダキ。 内面:口縁部割線のため不明。体部ナダのちヘラミダキ。	10YR 7/5	0.5~6.0mmの砂粒、小石を多く含む。	硬	良好	
	65	腹	158			外面:口縁部~肩曲部直下コナダ。体部ハケメ。 内面:口縁部コナダ。体部ナダ、ハケ。体部に黒土の粘着あり。	10YR 5/1	肌。1~3.0mmの砂粒を少し含む。内凹石を含む。	硬	良好	内凹全体にスナダ。
	1 6 6	1 1	短頸型 186	140		外面:口縁部~頸部直下コナダ。体部上半ナダ。体部下半肩曲部ヘラズリ。底面割線が丸のちナダ。内面:口縁部~頸部コナダ。頸部直下ナダ。体部ヘラナダ。底面割線が丸。	10YR 8/3	肌。1~2mmの砂粒を多く含む。タマリ草を含む。	中 軟	不良	内凹にスナダ。コナダ。
5	2	181	良型	84	107	外面:口縁部割線コナダ。頸部コナダ。体部ナダ。 内面:口縁部~頸部コナダ。体部~底面ナダ。	褐色	肌。砂粒を多く含む。	中 軟	不良	外周割線に灰り文(竹管)。高台-8
	3	182	短頸型	111	136	外面:口縁部コナダ。頸部~体部ハケメ。体部ヘラミダキ。 内面:口縁部~体部ハケメ。頸部直下割線が丸。体部上半ヘラナダ。体部下半ハケメ。	10YR 7/1 ~7/2	肌。0.5mm以下の砂粒を少し含む。	硬	良好	内凹にコナダ。外、内凹にスナダ。
	4	183	短頸型	136	209	外面:口縁部コナダのちナダ。体部上半ヘラミダキ。体部下半ナダ割線に丸のちナダ。内面:口縁部コナダのちナダ。体部割線が丸のちナダ。頸部。体部にヘラミダキのちナダ。体部に多数のタマリ草を含む。	10YR 7/3 ~7/4	肌。2mm以下の砂粒を多く含む。	中 軟	良好	一線あり。
6	5	184	直口型	217	144	外面:口縁部割線のため不明。頸部~体部割線が丸のちナダ。底面ナダ。 内面:口縁部割線のため不明。頸部~底面ヘラナダ。	10YR 7/5	肌。2mm以下の砂粒、中凹石、内凹石、タマリ草を含む。	硬	良好	プレバート47 高台-6
	6	185	体部	180	180	外面:頸部~体部上半割線が丸。体部下半ハケメまたはナダ(灰状工具)。底面ヘラナダ。体部ナダ。 内面:頸部~体部ハケメ。底面ナダ。	10YR 8/2 ~8/3	肌。0.5~1.0mmの砂粒を多く含む。	中 軟	良好	内凹上部にコナダ。肩曲部あり。
	7	186	短頸型	219	201	外面:口縁部コナダ。体部上半ヘラミダキ。体部中央ナダ。体部下半ヘラナダ。 内面:口縁部ハケのちコナダ。体部ヘラナダ。底面割線が丸。	10YR 7/1 ~7/1	肌。0.5~1.0mmの砂粒を少し含む。	中 軟	良好	内凹割線に灰り文(ヘラ)。
7 土 器 出	8	187	腹	200	200	外面:口縁部コナダ。頸部~肩曲部ハケメ。体部ヘラミダキ。底面割線が丸。 内面:口縁部コナダ。頸部~体部ハケメ。底面割線が丸。	10YR 7/4 ~7/6	肌。0.5~1.0mmの砂粒を多く含む。	中 軟	良好	内凹割線にタマリ草が粘着。内凹に5ヶ所。体部に黒土の粘着。

表8 D地区土器観察表(その21)

調査 時期	遺物 番号	採取 番号	器 種	出 土 高	位置 高さ	形態・土質の特徴	色 調	胎 土	質 地	備 考
1 6 7	9	104	鉢 ミニブ ニア	99	92	外底:口縁部ナツ。底部ヘラミギキ。 内底:口縁部一底部ナツ。	灰褐色	肌。1cm位の 砂粒を多く含 む。	良好	外底平面に褐色 物質付着し、茶 色あり。
10	104	鉢	107	92	外底:口縁部コナツ。底部ヘラミギキ。底面磨削片。ヘラナツ。 内底:口縁部コナツ。底部ヘラナツ。底面磨削片。	10/10 7/4	肌。1~2mm 位の小石、砂 粒をかなり多く含 む。ナマリ粒を少し含む。	中や軟	良好	
11	104	鉢	95	96	外底:口縁部コナツ。底部上平ナツキ。底部下平ナツキのみハケキ。 底面磨削片。 内底:口縁部コナツ。底部一底部ナツ。	緑褐色	肌。砂粒を極 く少量含む。	硬	良好	高台-3
12	104	鉢	96	100	外底:口縁部コナツ。底部ヘラナツ。ヘラナツの直線部ヘラミ ギキ。底面ナツ(ヘラナツ?)。内底:口縁部一底面直下コナツ 底部一底部ナツ。底部に粘土質の磨削片。	2.5Y 5/1 ~4/1	肌。1~2mm 位の砂粒を中 多く0.5mm位の肉目を含む。	中や軟	良好	高台-1
13	104	鉢	105	94	外底:口縁部一底面直下コナツ。底部まばらなハケキ。底面磨削 片。ナツ。 内底:口縁部コナツ。底面直下一部ハケキ。底部一底部ナツ。	2.5Y 4/2	肌。3mm以下 の砂粒を少し 含む。	軟	不良	外底全体にスス 付着。 ナマリ粒
14	200	甕	138	139	外底:口縁部一底面コナツ(狭いハケ)。 内底:口縁部一底面コナツ(狭いハケ)。	5T 6/1	肌。0.5~1. 0mmの砂粒を 多く含む。	硬	不良	縁状文字の磨削 片。 大溝
15	204	甕	140	140	外底:口縁部コナツ。底部磨削片ヘラミギキ。 内底:口縁部コナツ。底部磨削片のため不明。	10YR 6/2 ~4/2	肌。0.5mm以 下の砂粒を少 く含む。ナマ リ粒を少し含む。	中 や 軟	良好	プレバート13 高台-5 ナマリ粒を含む
16	200	甕	96	140	外底:口縁部コナツ。底部磨削片ヘラミギキ。 内底:口縁部コナツ。底部磨削片のため不明。	7.5Y 10/2 ~7/3	肌。2mm以下の砂 粒。小石を多く 含む。ナマリ粒 を少し含む。	中 や 軟	良好	底面部の磨削片 あり。高台-3 プレバート14
17	高杯	136	136	外底:口縁部一底面コナツ。底部コナツナツ? 内底:口縁部一底面コナツ。	10YR 4/2	肌。0.5mm以 下の砂粒を少 く含む。	硬	良好		
18	高杯	140	140	外底:口縁部一底面コナツ。 内底:口縁部一底面コナツ。	5YR 5/2	肌。1~2mm 位の小石、砂 粒を多く含む。 肉目石を多く含む。	硬	良好		
土 器 品	10	104	合付鉢	147	外底:口縁部ナツ。底部一磨削ヘラミギキ。 内底:口縁部ナツ。底部一底面ヘラミギキ。磨削ナツ。	5YR 4/4	肌。0.5~1. 0mmの砂粒を 多く含む。肉目石 を多く含む。	硬	良好	
土 器 品	20	104	脚部	145	外底:脚部丁字状ヘラミギキ。脚部コナツ。 内底:脚部ナツ。	2.5YR 7/1 底面10/2 2/4	肌。1~2 mmの砂粒を 含む。肉目石を 多く含む。	硬	良好	脚部縁部を強く外底全体 に赤色顔料塗布。脚部内 面にスス付着。D=2r
土 器 品	21	104	脚部	21	外底:杯縁部にヘラ先の当たった跡あり。脚部ヘラミギキ(凹凸しい)。 底面にまばらなヘラミギキ。内底:杯縁部ヘラミギキナツ?脚部 ハケ。脚部に粘土質の磨削片。底面にヘラ先の当たった跡あり	10YR 7/1,2	肌。1cm以 下の砂粒を 含む。肉目石 を含む。	硬	良好	内底に乳状。脚 部外側に一部ス ス、コゲ付着。
土 器 品	22	100	無脚甕	146	外底:口縁部コナツ。底部上平磨削片ハケのみ底面にヘラミギキ。 底面ナツ。内底:口縁部コナツ。底部ナツ。底部に粘土質の磨削片 底面磨削片。	10/10 3/3 ~2/4	肌。0.5~2. 0mmの砂粒を 多く含む。ナ マリ粒を少し含む。	中 や 軟	良好	底面直線部磨削 片あり ナマリ粒を含む
土 器 品	23	100	合付加 取甕	147	外底:口縁部コナツ。底部一磨削ヘラミギキ。一部ハケキあり。底 面ハケキ。底面コナツ。内底:口縁部コナツ。底部一底面ヘラミ ギキ。底面直下一部ハケキ。底部中央に底面直線跡あり。脚部ヘ ラミギキ。	10YR 7/2 ~7/4	肌。0.5~1. 0mm位の砂粒 。ナマリ粒を 多く含む。	軟	良好	ヘラミギキナツ? 脚部ハケのみヘ ラミギキ。底面 コナツ。
土 器 品	24	100	甕	147	外底:口縁部コナツ。底部磨削片ヘラミギキ。一部ヘラナツ。 内底:口縁部一底面直下コナツ。底部ナツ。ハケキ。底部に粘土 質の磨削片。	10YR 7/2 ~7/3	肌。0.5~1. 0mmの砂粒を 少し含む。	中 や 軟	良好	
土 器 品	25	100	甕	144	外底:口縁部コナツ。底部ヘラミギキ。底面ヘラナツ。 内底:口縁部ナツ。底面磨削片付着。くびれ部直下ナツのみハケキ。底 面ハケキ。底面磨削片。	5YR 7/2 ~7/3	肌。1mm以 下の砂粒を極 く少量含む。	中 や 軟	良好	丁字状磨削片。 外底全体にスス 付着。D=1.5r
土 器 品	26	100	甕	144	外底:口縁部一底面直下コナツ。底部ヘラミギキ。底部ハケキ。底部に 粘土質の磨削片。	10YR 7/2	肌。0.5~4. 0mmの小石、 砂粒を多く含 む。	中 や 軟	不良	外底に乳状。 プレバート15
土 器 品	27	100	甕	144	外底:口縁部一底面直下コナツ。底部上平ナツ(磨削工具)。ま ばらなハケキ。底部下平ヘラナツ。内底:口縁部一底面直下コナ ツ。底部ハケキ。底部中央一部ハケキなし。	10YR 7/1 ~7/2	肌。0.1~0. 5mm位の砂粒 を含む。	中 や 軟	良好	プレバート16

表8 D地区土器観察表(その23)

母体 地層	遺物 番号	調査 番号	調査 年度	出土 位置	体積 高さ	器種・形状の特徴	色	胎土	質	焼成	備考
1 6 9	6		昭和			外面: 体部中央ナツ。体部下半ハケム。底部ナツ。 内面: 体部中央ナツ。体部下半ハケム。底部に粘土層の跡残る。	乳白色	1m位の砂粒を含む。	軟		
7	197 7		昭和	96 211	173	外面: 口縁部ココナツ。頸部ヘラミギキ。体部下半ナツ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部一部ナツ。頸部に粘土層の跡残る。	乳白色	皿。3m大の 小石を含む。 タマリ殻を含む。	軟	不良	胎土色部と 体部中央に 底面
8	9		昭和	96		外面: 口縁部一底面丁寧なココナツ。 内面: 口縁部一底面丁寧なココナツ。	ST 5/1	皿。底面砂粒を含む。	軟	不良	頸部外側に 底面
9	10		昭和	130		外面: 口縁部ココナツ。 内面: 口縁部ココナツ。	10TR 6/3	皿。1~2m の砂粒を多く 含む。	中 軟	良好	底面(ヘウ)。
10	11		昭和	136		外面: 口縁部ココナツ。頸部ココナツ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部底面ナツ。	2.5T 6/2	皿。1~2m の砂粒を少し 含む。砂→泥。	軟	良好	底面ナツ。
11	12		昭和	118		外面: 口縁部ココナツ。頸部底面ハケのちヘラナツ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部底面ナツ。	6.5T 2/1	皿。0.5 m前後 の砂粒を中 や少なく含む	軟	不良	頸部外側に 底面
12	13		昭和	112		外面: 口縁部ココナツ。頸部ハケム。 内面: 口縁部ココナツ。頸部上半ナツ。頸部下半ナツ。	7.5TR 4/4	皿。0.5~1. 0 mの砂粒を かなり多く一 含む。	中 軟	良好	一含む。砂→泥
13	14		昭和	132		外面: 口縁部ココナツ。頸部ヘラミギキ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部底面ナツ。頸部に粘土層の跡残る。	10TR 2/1	皿。1~2m の砂粒を中 や多く含む。砂→泥。	軟	良好	頸部外側に 底面
14	15		昭和	136		外面: 口縁部ココナツ。頸部ヘラミギキ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部底面ナツのため不明。口縁部直下にヘラ 先の当たった跡あり。	10TR 7/4 ~7/8	皿。0.5~2. 0 m位の砂粒 小石を多く一 含む。	中 軟	良好	外周に一部コゴ りを含む。タマリ殻を含む
15	16		昭和	110 235	135	外面: 口縁部ココナツ。頸部一底面上半ナツ。体部下半一底面ヘラナツ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部一底面ナツ。頸部に粘土層の跡残る。	10TR 8/2	皿。0.5~3 mの砂粒を中 や多く含む。小 石を含む。砂→泥。	軟	良好	頸部外側に 底面
16	17		昭和	135 270	143	外面: 口縁部ココナツ。頸部一底面ハケのちヘラミギキ。底面ナツ。 内面: 口縁部ココナツ。頸部一底面上半ナツ。頸部に粘土層の跡残る 体部中央ハケム。体部下半一底面ハケのちヘラナツ。	10TR 6/3	皿。4m以下 の砂粒、小石 を含む。砂→泥。	中 軟	良好	乳点。体部に 底面
17	18		昭和	137 257	130	外面: 口縁部ココナツが。頸部一底面底面跡のため不明。底面中 層白化。内面: 口縁部ココナツが。頸部上半に粘土層の跡残る。頸部 下半ナツ。体部一底面不明。	灰白色	皿。1m以下 の砂粒を多く 含む。	中 軟		上部に底面あり。
18	19		昭和	88 48		外面: 口縁部一底面ナツ。 内面: 底面跡のため不明。	灰白色	皿。底面砂 粒を含む。	軟		
19	20		昭和	112 70		外面: 口縁部一底面上半ナツ。体部下半ヘラで取残り。底面直上層跡 見え。ヘラナツ。底面ヘラナツ。 内面: 口縁部一底面不明。	10TR 8/2	皿。0.5 m以 下の砂粒を少 し含む。砂→泥。	軟	良好	
20	21		昭和	150 76		外面: 口縁部一底面上半ナツ。体部下半ナツ。 内面: 口縁部跡のため不明。体部ナツ。底面ヘラナツ。	7.5TR 7/2 ~7/4	皿。0.5~1. 5 mの砂粒を 少し含む。砂→泥。	軟	良好	口縁部は底面さ えに上り物部 跡あり。
21	22		昭和	119 135		外面: 口縁部一底面底面ナツ。体部一底面に粘土層の跡残る。 内面: 口縁部一底面ナツ。口縁部に少しハケムあり。	灰白色	皿。3m大の 砂粒を多く含 む。	軟	不良	
22	23		昭和	174 80		外面: 口縁部一底面丁寧なナツ。 内面: 口縁部一底面丁寧なナツ(板状工具少)。	10TR 7/3	中や皿。0.1 ~0.3 mの砂 粒を少し含む	軟	良好	口縁部一底面に 底面
23	24		昭和	117 97		外面: 口縁部ココナツ。体部ナツ。底面直上層跡見え。底面跡。 内面: 口縁部一底面ハケム。	2.5T 7/3	皿。3m以下 の砂粒、小石 を多く含む。	軟	良好	
24	25		昭和	72 97	94	外面: 口縁部ナツ。体部ハケム。底面未調査。底面に粘土層の跡残る 内面: 口縁部一底面底面ナツ。	5TR 7/2	皿。1~3m の砂粒、小石 を多く含む。	軟	良好	

表8 D地区土器観察表(その24)

探検 期 年	遺物 番号	探検 期	土器 名	口徑 高さ	容積 高さ	砂眼・平鉢の特徴	色	土	質	形状	備考
170	25	198	合付鉢	141		外面：口縁部コナダ。体部上半ナダ。体部下半一部ヘラミダキ。 内面：口縁部コナダ。体部一部実面割縁のため不明。	褐色乳色 乳灰色	肌。1m以下の砂粒を少し含む。	硬	良好	内面光面。
				25							
170	26	198	高杯	176		外面：口縁部コナダ。口縁部に一部粘土のはみ出し。杯部一部ヘラミダキ。 内面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。	2.5割2	肌。0.5~1.0mの砂粒を少し含む。砂っぽい。	硬	良好	
				27							
170	27	198	高杯	200		外面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。 内面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。脚部上半較目。脚部下半ヘラミダキ。	1.5割2/2 ~7/2	肌。0.2~0.4m位の砂粒を多く含む。	中 軟	良好	杯部内面にスス付着。
				27							
170	28	198	高杯	186	縦割 130	外面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。脚部コナダのちヘラミダキ。内面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。脚部上半較目。脚部下半ナダ。	5割2/2 ~7/2	肌。0.2~0.8m位の砂粒をかなり多く含む。	中 軟	良好	内孔4方向に穿孔。一く含む。
				232	130						
170	29	198	高杯	220		外面：口縁部コナダ。杯部一部実面割縁のため不明。 内面：口縁部コナダ。杯部一部実面割縁のため不明。脚部ナダ。	灰白色	肌。1m以上の砂粒を多く含む。	硬	良好	
				29							
170	30	198	高杯	218	縦割 133	外面：口縁部コナダ。杯部ヘラミダキ。脚部ハケム。脚部コナダ 内面：口縁部コナダ。杯部割縁しく不明(ヘラミダキか)。脚部ナダ。脚部コナダ。	乳灰色	肌。	硬	良好	杯部脚部に縦割
				219	133						
170	31	198	高杯	202		外面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。 内面：口縁部コナダ。杯部一部ヘラミダキ。脚部較目。	5割1/1 ~2/2	肌。0.1~0.5mの砂粒を含む。砂っぽい。	硬	良好	内孔4方向に穿孔。口縁部に縦割。
				31							
170	32	198	高杯	224	縦割 130	外面：口縁部コナダ。杯部一部ハケム。脚部ヘラミダキ。脚部コナダ。内面：口縁部コナダ。杯部一部ハケムのちナダ。脚部上半較目。脚部下半コナダ。	灰白色	1~2mの砂粒を含む。	硬	良好	内孔4方向。
				225	130						
171	33	198	高杯	230	縦割 171	外面：口縁部コナダのち較目のヘラミダキ。杯部一部ヘラミダキ 脚部コナダ。内面：口縁部コナダ。杯部一部実面割縁のため不明。脚部ナダ。脚部コナダ。	乳灰色	0.5~8mの砂粒。小石を含む。	硬	不良	内面光面。内孔5方向。口縁部縦割。
				231	171						
171	34	200	合付鉢	264		外面：口縁部コナダ。体部一部実面ハケム。脚部ナダ。 内面：口縁部一部ナダ。脚部ヘラナダ。	1.5割2/2	1~2mの砂粒を多く含む。	硬	良好	内面にスス付着
				264	120						
171	35	200	皿	197		外面：口縁部コナダ。体部ヘラミダキ。底部ヘラミダキ。 内面：口縁部コナダ。体部ナダ。	100	乳灰色	肌。1m以下の砂粒を少し含む。	硬	
				99							
171	36	200	皿	99		外面：口縁部コナダ。体部一部ナダ。 内面：口縁部コナダ。体部一部ナダ。	96	灰白色	肌。1m以下の砂粒を多く含む。	硬	
				79							
171	37	200	鉢	180		外面：口縁部コナダ。体部タキキのちハケム。体部下半にまばらなタキキ。ハケム。ナダ。底面ナダ。内面：口縁部コナダ。体部上半ナダ。体部下半ハケム。底面ナダ。中や粗雑な調整。	1.5割2/2 ~7/2	肌。砂粒を多く含む。	中 軟	良好	杯部全体と内面体部下半にススコが付着。
				217							
171	38	200	皿	134		外面：口縁部一部底コナダ。体部上半タキキのちナダ。体部下半ハケム。 内面：口縁部ハケム。体部一部ナダ。	147	乳灰色	肌。	中 軟	底面が若干輪白。
				183							
171	39	200	鉢	254		外面：口縁部コナダ。体部タキキ。底面割縁ナダ。 内面：口縁部コナダ。底面一部ナダ。体部中央に粗面調整の跡あり。	10割2/2 ~8/2	肌。0.5~2.0mの砂粒を多く含む。	中 軟	良好	一ナダサリ跡を含む。
				204							
171	40	200	皿	199		外面：口縁部一部上半に実面割縁しく不明。体部下半タキキ。底面割縁ナダ。内面：口縁部ナダ(板状加工)。体部上半ハケム。体部下半一部実面割縁しく不明。	2.5割2/2	肌。0.5~1.0mの砂粒をかなり多く含む。	硬	良好	外、内面とも体部下半にスス付着。
				202							
171	41	200	皿	200		外面：口縁部コナダ。体部タキキ。底面割縁ナダ。底面ヘラナダ。内面：口縁部コナダ。体部上半ハケム。底面ナダ。底面ナダ。底面にヘラミダキの跡あり。	5割2/2 ~6/2	肌。0.5m以下の砂粒。1.5~3m位の砂粒を少し含む。	中 軟	良好	外面体部下半にススコが付着。一の砂粒。小石を含む。
				203							
171	42	200	皿	176	228	外面：口縁部コナダ。体部タキキのち粗雑なハケム(体部下半にまばらなハケム)。 内面：口縁部コナダ。体部ヘラミダキ。	灰白色	肌。8m以下の砂粒。小石を含む。ナダサリ跡を含む。	中 軟	良好	外、内面にススコが付着。
				43	200						
171	43	200	鉢	200		外面：口縁部コナダ。体部上半ハケムのち粗雑なヘラミダキ。体部下半ヘラミダキ。底面割縁ナダ(ハケム)。底面一部ヘラミダキ。底面ナダ。内面：口縁部コナダ。体部一部ヘラミダキ。底面割縁しい。	10割1/1 ~8/2	肌。0.2~1.0m位の砂粒を含む。	中 軟	良好	外、内面脚部にコガ付着。
				43	200						

表8 D地区土器観察表(その25)

調査 地点	遺物 番号	陶器 番号	器 種	法 口徑	体 高	形状・手段の特徴	色	土	質	施 装	備 考
1 7 2	1	1	甕	212		外面：口縁部-頸部ココナダ。口縁下にハケムあり。 内面：口縁部ココナダ。頸部ハケム。	7.5YR/3	0.5~2.0 mの砂粒をかなり多く含む。内面同含む。	硬	良好	
1	2	1	甕	109		外面：口縁部-頸部ココナダ。 内面：口縁部ココナダ。頸部ナダ。	2.5YR/3	黒。約1mmの砂粒を多く含む。	中 軟	不良	ヘラ状工具による施文。
1	3	1	長頸甕	130		外面：口縁部ココナダ。頸部端らで頸部ハケムとギキ。 内面：口縁部-頸上縁ココナダ。頸下縁ハケム状ナダ。	10YR/1	黒。0.5~1.0 mの砂粒を中々多く含む。	硬	不良	線刻施文。
1	4	1	長頸甕	140		外面：口縁部ココナダ。頸部ハケムとギキ。 内面：口縁部ココナダ。頸部ナダ(磨研さえ多くあり)。	2.5YR/2	黒。0.5~2.0 mの砂粒を中々多く含む。	硬	良好	丹塗にて磨くスズ紋。
1	5	201 5	長頸甕	115		外面：口縁部-頸上縁ハケムのちココナダ。頸下部ハケム。体部ヘラミギキ。 内面：口縁部-頸上縁ハケムのちココナダ。頸下部ナダ。体部に磨研さえ多くあり。頸部に土上縁の跡あり。	7.5YR/2	中中黒。0.2 ~0.5 mの砂粒かなり多く含む。	硬	良好	丹塗文。
1	6	201 6	壺台	121 140	新製 供 112	外面：口縁部。頸部ココナダ。頸部ヘラミギキ。 内面：口縁部。頸部ココナダ。頸部ナダ。	2.5YR/2	黒。1~2 mの砂粒を中々多く含む。	中 軟	良好	スカシ3方向より磨く。
1	7	1	高杯	201		外面：口縁部ココナダ。体部は表面磨研のため不明。 内面：口縁部ココナダ。体部ナダ。	灰褐色	黒。2 m次の小石を含む。	中 軟	良好	
1	8	1	高杯	100 130	新製 供 111	外面：口縁部ココナダ。杯部ミギキのち丁寧ナダ。頸部は細かいヘラミギキ。頸部ココナダ。内面：口縁部ココナダ。体部ナダ。頸部ヘラミギキ。杯部は研状工具によるココナダ。	灰白色	黒。	硬	良好	スカシ4方向より磨く。
1	9	1	高杯		新製 供 101	外面：頸部ヘラミギキ。頸部ココナダ。 内面：頸部ナダ。頸下縁-頸部ココナダ。	灰白色	黒。1~2 mの砂粒。小石を多く含む。	硬	良好	スカシ4方向より磨く。頸部に施文あり。
1	10	10	鉢	123 75	114	外面：口縁部-体部は表面磨研のため不明。施文ナダ。 内面：口縁部-体部上平ハケム。体部下平-底部はクモの星状のハケム。	明褐色	黒。1 m以下の砂粒を含む。タマリ殻を含む。	軟	良好	
1	11	201 11	鉢	141 80	107	外面：口縁部ココナダ。体部タタキのちナダ。底平ナダ。 内面：口縁部ココナダ。体部-底平ヘラミギキ。	乳褐色	黒。砂粒を多く含む。タマリ殻を含む。	軟	良好	
1	12	201 12	合付鉢	121 145	141	外面：口縁部ココナダ。底面直下に粘土の被り層あり。体部はタタキのち丁寧ハケム。体部上平に近くなダ。胴上部に不明な施文と磨研全体にナダ。内面：口縁部ココナダ。体部ハケム。頸部ナダ。	灰褐色	黒。1 m大の内ばった砂粒を多く含む。	中 軟	良好	
1	13	201 13	甕	124 143	103	外面：口縁部ココナダ。体部タタキ。底平ナダ。 内面：口縁部ココナダ。体部は表面磨研のため不明。底面磨研さえ。	灰褐色	黒。	軟	良好	
1	14	1	甕	142		外面：口縁部ココナダ。頸部ヘラナダ。 内面：口縁部ココナダ。頸部は磨研さえのちナダ。	7.5YR/3	黒。0.2~4.0 mの砂粒。小石を多く含む。	硬	良好	丹塗研文2+1 面でタマリ殻にあり。
1	15	1	甕	156		外面：口縁部ココナダ(粗いハケ)。 内面：口縁部ココナダ(粗いハケ)。	10YR/2	黒。灰く少量の砂粒を含む。	硬	良好	竹管文。
1	16	1	甕	196		外面：全体に磨研のため不明。 内面：全体に磨研のため不明。	7.5YR/4	黒。0.5 mの砂粒を多く含む。少量のタマリ殻を含む。	中 軟	良好	竹管文。 一毛を多く含む。
1	17	1	甕	155		外面：口縁部ココナダ。頸部-体部は表面磨研のため不明。 内面：口縁部ココナダ。頸部-体部ハケムのちナダ。	灰褐色	黒。0.5 m次の砂粒を含む。タマリ殻を含む。	硬	良好	竹管文。
1	18	1	甕	176		外面：口縁部ココナダ。 内面：口縁部ココナダ。	2.5YR/2	黒。1~3 mの砂粒。小石を多く含む。内面同含む。	硬	良好	波状文。
1	19	1	甕	196		外面：口縁部磨研さえのちハケのちココナダ。頸部ハケム。頸部下平ココナダ。 内面：口縁部ココナダ。底面は磨研のため不明。	10YR/2	黒。0.2~3.5 mの砂粒。小石を含む。	中 軟	良好	→4 mの小石を少量含む。

表8 D地区土器観察表(その26)

発掘 地	遺物 番号	所属 番号	器 種	法 式	口径 高さ	体 積	形態・手法の特徴	色 調	胎 土	質 地	装 飾	備 考
175	30		甕		220		外面：口縁部凹み入りのヨコナダ。胎土粗の粘板。内面：口縁部ヨコナダ。	070/4	胎。0.2~3mmの砂粒、小石を多く含む。	やや軟		一心。タヤリ態を含む。
+	31		甕		190		外面：口縁部ヨコナダ。内面：口縁部ヨコナダ。	2.5/5/3	胎。砂粒を中々多く含む。	硬	不貞	内面浮文上に竹管文。
+	32		甕		190		外面：口縁部ヨコナダ。内面：口縁部ヨコナダ。	2.5/5/3	砂粒を含む。			縁部十門浮文上に竹管文。
+	33	301 33	短頸甕		364 313	272	外面：口縁部および胴部下唇ヨコナダ。胴部および唇部ヘラミダキ。底面直上~底面ナダ。内面：口縁部~胴部ヨコナダ。唇部~底面ナダ。	7.5/22/2 ~7/3	胎。0.5~2mmを多く含む。	やや軟	高野	ズンバワート13 →タヤリ態を含む。

第3節 まとめ

<A地区>

A地区の調査によって検出した主な遺構・遺物のうち、注意しなければならぬ幾つかの点が判明した。そのうち、重要な点を時代別に記すと次のようになる。

1. 縄文時代の原野と人間・鹿の足跡

縄文時代の明確な人工的な遺構は検出されていないが、河川-1~3の岸辺に残された多数の人間や鹿の足跡から、これらの河川を中心に数多くの人間、鹿が活動できる原野が広がっていたことが推定できる。河川の流れ込む前のこの付近は、径1cm前後の均一な小ブロックの粘土、砂質土が1m以上堆積しており、これらの堆積作用後に始まった河川の流入に伴って上記の動物等が低湿地や河川の水辺に進出してきたものと考えられる。これらの足跡、河川の時期は、河川-3の出土遺物から縄文時代後期にまでさかのぼるものがあることが窺える。晩期の頃にもこのような河川の働きが大きかったものと思われるが、晩期末には河川の堆積もほぼ終息しつつあったことが、河川-1から窺える。河川-3から河川-1の堆積が終るまでに、T.P.+1.5m前後から+4.5m近辺まで最大3mの土砂が堆積している。

2. 弥生時代

河川の堆積作用で微高地と後背湿地が各所に作られたなかで、本調査地にも小規模ながらこのような微地形が見られる。その最高所と最低所の高差は1m近い。この差を利用して高所にはピット、土壇、溝が見られるのに対して、低い所には溝、小土堤等の遺構が見られる。このような遺構の差が居住地区と農耕地区との差を示しているのかもしれない。出土遺物は、前期らしい土器底部片1点の他はすべて中期の土器である。前期から中期末までの間に堆積した土砂は、微地形の高差に応じて大体均一に堆積し、その厚さは約40~80cmと少なく、比較的安定した環境であった様子が窺える。後期の遺構は検出できなかったが、土器片や加工木片が少ないながら若干出土している。本調査地区の南約150mのDトレンチでは住居跡や水田跡が検出されており、本調査地点付近からも遺構が検出される可能性が考えられる。

3. 古墳時代

この時代の遺構は、弥生時代後期~古墳時代中頃にかけて、本調査地区に激しく砂~粘土が互層に堆積している中に、散発的に溝等の遺構があり、古墳時代後期の遺構は、激しい土砂の堆積が一段落した後のものが見受けられる。遺物は、土師器、須恵器、いわゆる韓式土器等が多く出土している。しかし、遺構の残存状態はあまり良好ではなく、近世の商品作物の植え付けとそれに伴う農地の改良によって大きく削平されている。

出土遺物は、大半が土師器と須恵器、韓式土器で占められている。いわゆる韓式土器は、甌、杯、長胴の甕、高杯、短頸壺、鉢等に見られるが、判別の難しいものもある。特に、一般の土師器より高温で、酸化焰焼成されたと思われる土師器の杯、高杯等は、容易に普通の土師器と区別

できる特色を持つものが散見できる。ほかには製作時の手法も須恵器によく見られるカキ目が壺の胴部下半部や高杯の杯外面にあるものや、脚部と杯部の接合個所に付けられるヘラの刻み目・回転をよく利用したヨコナデ等の特色が窺える。この他、焼成、技法、形態等から土師器との区分がまぎらわしいものがある。

つぎに、須恵器に見られる特色は、概して土師器の器形を模したものより、個々の器形・文様に変化あるものが注目される。この他の土器では2点の須恵質～瓦質系の土器が注目される。1点は胴部の破片で、外面に3条の凹線と列点文らしい文様がつき、その下方には細筋のタタキがついた砂粒を多く含む灰色の多孔質の胎土の土器である。もう1点は、杯蓋になるかと思われるもので、黄褐色の柔らかい胎土は非常にきめ細かく、外面にカーボン層が薄く付き、内面には付かない。外面にかすかに残る調整は、細い単位のナデかミガキと見られる。この2点はいずれも報告例を見ないものであり、本書ではとりあえず古墳時代の遺物として報告し、詳細は後日に譲りたい。

4. その他

古墳時代の遺構面は、近世、近代の跡溝等を主とした遺構面とも重複している。立地や周辺条件から見れば、奈良時代以降の遺構、遺物の検出が予想されたが、特筆すべきものは検出されなかった。このことは、本地区を古墳時代以降の人々が利用しなかったとは見れない。本地区より立地条件の一部劣るB、C、D地区では古代、中世の遺構、遺物が検出されており、また、B地区では掘立柱建物が近世の溝に削平されている割合が多く見られた。これらの状況からしてみれば、A地区で奈良時代以降の遺構、遺物が見られない原因は、近世の時期に大きく削平を受けたためと考えられる。

<D地区>

本調査区検出の遺構、遺物は、縄文時代以降近・現代にまで続く。そのうち主要なものは11面の遺構面のうち6面である。

1. 縄文時代(第11～9遺構面)

縄文時代後・晩期の人間と鹿の足跡と自然河川が検出されている。自然河川と鹿の足跡は良く残っており、人間の足跡はごく限られた川岸に残っていた。人間の足跡の方向は、川に対して斜行しているものが多く、直交するもの、平行するものは見られなかった。川岸は垂直に切り立っており、特に河川-1、2は川岸の高さだけでも1.5～2.5mもある。

出土遺物は、縄文時代中～晩期の4時期のものが出土している。この中で特色ある遺物は、河川-1出土の晩期の土器(第150図-7)、河川-3出土の後期の土器(第151図-14・15)である。7の土器は、河川-1の最終埋没時期が晩期末以降であることを示している。14・15の土器は、ローリングをまったく受けず、外面にススが附着し、文様も良く保存されている。特に15の土器は、胎土中に緑色片岩の小円礫を含み、紀の川流域産の土器の移動を示す好例である。

次に、縄文時代の住居跡、ピット、溝等は、検出できなかったが、当時自然河川が著しく発達

し、河内平野に三角州ができ、鹿等の多くの野性動物が生息する湿地の多い原野であった地域が、徐々に生活、農耕のできる地域に変化しつつあったことを土層の堆積状況から窺わせる。

2. 弥生時代（第8～6遺構面）

本地区の北部から北方向へ延びる縄文時代の河川-1の旧流路を中心にして形成された遺構面である。弥生時代前期の遺物は、ごく少量ながら出土しており、人々がこの前後の時期には居住を開始し、中期中頃から後半にかけて定着したことが検出遺構、出土遺物から判断される。

主要な遺構は、方形に盛土された低平な基壇状の高台部とその上に建てられた掘立柱建物である。高台-2と建物-2、高台-4と建物-3、高台-6と建物-4、高台-14と建物-5、高台-12等の共通点は、5～20cmの低平な盛土で断面カムボコ型の高台を作り、最上層には粗砂を薄く敷き均らし、周囲に浅い溝をめぐるし、周囲にゴミ棄場と見られる土壌が1～数ヶ所ある。高台上の柱根は、径10cm前後の広葉樹の若木を使用している。土壌からは、切断された鹿の骨、大量の木の实、土器片、草木片、あるいは銅利器片や籾穂が出土している。その他、石器やサヌカイトの小集積個所が2ヶ所認められ、石籬やチップ、フレーク等の出土から、当遺跡でささやかながら石器を製作していたことが認められる。

また、特殊な遺構としては、小判型の平面形の墳内に、2点の高杯の杯身を納めた土墳-21がある。

3. 弥生時代（第5遺構面）

第6遺構面の約0.3～1.0m上に堆積した粘土～シルトを利用した弥生時代後期の水田面である。調査地区の南端部を自然河川が流れるため、南の水田の一部は流出しているものの、河川から遠ざかる水田畦畔や水路は良く残っていた。水田面のレベルは、南より北のほうが高く、水田に導水する際には北の方から導水していたと考えられる。そして、この水田面の広がり、Dトレンチ北端付近位までの約100mしか確認できなかったが、もっと広大な地区に広がることを予想させる。また、普段報告例の多い水口や水田面上の足跡は検出されなかった。その他、自然河川内からは枕列を若干検出している。

4. 弥生時代（第4遺構面）

水田面の20～30cm上に堆積した粘土層、シルト層面に掘り込まれたピットや小溝である。出土遺物がなく、ピット以外的小溝も不明瞭なものが多く、判断しがたい性格の遺構面である。弥生時代後期の遺構面である。

5. 第3遺構面

シルト層から粗砂層の上面で検出した遺構面で、弥生時代後期から奈良・平安時代までの長期間の遺構が認められる。また落込内上部や踏み込みの足跡、土層の沈下部からは、中・近世、近代の遺物が出土している。弥生時代後期の遺構は、竪穴式住居と溝、土墳等である。古墳時代の遺構は、L字型の溝やピットである。奈良時代の遺構は、溝、ピット、落込等である。遺物は、竪穴式住居跡の周囲と奈良時代の落込内から完形品の土器が若干出土している。弥生・古墳時代

の遺構はトレンチ南部から中央まで分布するが、奈良時代の遺構分布は落込-1を境にそれより北側では急減し、試掘トレンチの周囲やD-7トレンチに若干認められるのみである。

弥生時代～古墳時代の遺構のうち、基は北のB・Cトレンチの第3遺構面や南のE・Fトレンチで多くの方形周溝墓が検出されたが、本地区ではD-5トレンチの1基が可能性のあるものとして考えられる。

以上のように、本遺構面は各時代のものが重複し、特に南半部は近代に至るまで幾度となく削平、整地を繰り返されているようである。トレンチ北部で検出した第2遺構面の水田面は、トレンチ中央部にも拡大し、本遺構面のいずれかの時代のものに対比しうるのであろうが、近世～近代の水田耕土に削平され、かの、著しく踏み込み、鋤込まれているため、時代の比定はかなり難しい。

主な出土遺物は、弥生時代後期と奈良時代のものであるが、数量は多くない。

6. 第2遺構面

調査地区北半部で検出した10数面の水田跡と、幅4mの溝である。出土遺物は、溝内より出土した1点の土師器片のみである。あえて時代を求めれば古墳時代の中頃～後半のものとも考えられる。

7. 第1遺構面

近世～近代の水田、畑の遺構である。本遺構面の多くは、第2、第3遺構面にまで達している。これらの遺構は、近世以降、水田に造成され、通称「島畑」は姿を消したようである。

付 章

第1節 久宝寺南地区第1調査区出土動・植物遺体の同定について

(財)大阪文化財センター 山口 誠治

1. はじめに

今回の発掘調査で縄文時代及び弥生時代中期末に位置する土層と同時期に形成された礫や土壌から検出された動・植物遺体を同定したので報告する。これらの遺体は、遺跡の微小地域の植生を示すものとして重要である。

なお、同定方法としては、現在の動・植物の標本との比較により分類形態的生態的性質に一致することにより行った。

2. 同定結果

同定結果は、動・植物別にまとめて、表1、2に掲げた。同定したのは、次の12科15属16種である。

[動物遺体]

イノシシ科	Suidae	イノシシ属	<i>Sus</i>
シカ科	Cervidae	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>

[植物遺体]

菌類

サルノコシカケ科	Polyporaceae	ミダレタケ?	<i>Trametes Kusanoana</i>
----------	--------------	--------	---------------------------

被子植物 (単子葉植物)

イネ科	Gramineae	イネ	<i>Oryza sativa</i>
カヤツリグサ科	Cyperaceae	スゲ属	<i>Carex</i> sp.

被子植物 (双子葉植物)

クルミ科	Juglandaceae	クルミ属	<i>Juglans</i> Linn.
クワ科	Moraceae	カナムグラ	<i>Humulus scandens</i>
タデ科	Polygonaceae	タデ属	<i>Polygonum</i> sp.

バラ科	Rosaceae	ミノソバ	<i>Polygonum thunbergii</i>
		ウメ	<i>Prunus mume</i>
		モモ	<i>Prunus persica</i>
トチノキ科	Hippocastanaceae	トチノキ	<i>Aesculus turbinata</i>
ブドウ科	Vitidaceae	ブドウ属	<i>Vitis</i> sp.
		ノブドウ属	<i>Ampelopsis</i> sp.
ウリ科	Cucurbitaceae	マクワウリの仲間	<i>Cucumis melo</i>
		ヒョウタンの仲間	<i>Lagenaria</i> sp.

表1 動物遺体同定結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	同定結果
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片1個
D	0-2		黒色粘板状土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの骨片2個 左上側骨片1個
D	f-1021	高台7	黒色粘土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片1個
D	e-2 04		黒色土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの骨1個
D	e104	高台6西	黒色土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片1個
D	D V11923		黒色粘土層	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片1個
D	c304	溝1	黒色土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片1個
D	0-2 04	高台2西隣	黒色粘板土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片1個
D	0-03	高台3上	黒色粘板土	弥生前期中葉末	イノシシの左手骨片1個
D	0-03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片1個
D	D W110	高台6南隣土層	黒色粘板状土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの骨片1個 左上側骨片1個
D	c-8 03	溝△	黒色土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片1個 左上側骨片1個
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右上側骨片
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片 (P, P, P, M, M, M, 高台)
D	0-2 03	高台3		弥生前期中葉末	ニホンツカカの右下側骨片
D	f10 04	高台7	黒色粘土層	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片
D	D W 02	高台4北側	黒色粘板土	弥生前期中葉末	ニホンツカカの左上側骨片
D		高台3 土層内		弥生前期中葉末	ニホンツカカの骨片

表2 植物遺存物鑑定結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	同定結果
B			縄文前期ベース	縄文時代	タテノコ
B			縄文期土	縄文時代	タテノコ 30層
D	c3-4	高台1 P17		弥生時代中期末	モモ株1個
D		SE1内		弥生時代中期末	モモ株2個
D	D Vse101	SD3	淡褐色細砂	弥生時代中期末	半分に割れたモモ株2個
D	e-1 03	高台5南側	黒色シルト質土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株2個
D	D Vse202		黒色砂粘り質土	弥生時代中期末	モモ株2個
D	D Vse2		黒色砂粘り質土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ株1個
D	e-1 03、4	高台6 下辺溝		弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株2個
D	D Vse-2 04	SE2、SK7の南側	黒色砂粘り質土、焼土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株1個
D	D Vse101		黒色砂粘り粘質土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	T10 01		黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	D V1902・4		青灰色粘土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	D Vse-3 03	高台1 東側土壌(3M)	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	クルミ類2個 サルノコシカケ科ミダレタケ?1個 トチノキの果皮7個
D	e202	南込	黒色粘土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	D Vse204	高台1南側 高台2東側	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	e103	高台6	赤黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ株2個
D	D Vse-1003	高台7西側	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	半分に割れたモモ株1個
D	e-2 02	円形溝込SK7西側	黒色土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	D Vse104		黒色土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株1個
D	I-8 02		青灰色粘り土	弥生時代中期末	モモ株半分
D	D Vse-2 02		黒色砂粘り土	弥生時代中期末	クルミ類半分に割れたもの1個
D	D Vse10 03	高台西側	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株1個
D	e-4、I-8、10	河川13	淡灰色細砂	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株1個
D	D Vse202	SE2	黒色砂粘り土、焼土	弥生時代中期末	クルミ類半分に割れたもの1個
D	全区		黒色粘土(第7面取上層)	弥生時代中期末	モモ株2個 半分に割れたモモ株6個
D	e-2 02		黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株2個
D	c202	高台6	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株3個 半分に割れたモモ株1個
D		高台6南側	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株1個
D	e103	高台6	赤黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	e104	高台6	赤黒色粘質土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	D Vse104	高台6上	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個
D	e-2	SE2	黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株1個 半分に割れたモモ株2個
D	e2-2		黒色砂粘り土	弥生時代中期末	モモ株10個 半分に割れたモモ株3個

表2 植物遺体同定結果一覧表

トレンチ名	地区名	遺構名	層名	時期	調査結果
D	D Vb2		黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核13個 半分に割れたモモ核2個
D	e-1 0A	高台6西側	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D	e0A	溝1	黒色土層	弥生時代中葉末	モモ核1個 半分に割れたモモ核1個
D	e10A	高台6	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	半分に割れたモモ核1個
D	e-1 01	SE1	黒色有機質粘土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D	D Vb2001	SD2 (高台2西側)	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D	D Vb2004	高台1上	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	半分に割れたモモ核1個
D	e0-4	SE2内	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核2個 半分に割れたモモ核4個
D	e101	SD3	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核2個
D	D Vb2 e02		黒色粘り質土	弥生時代中葉末	ウメの核1個 半分に割れたモモ核1個
D-1		竪穴1	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	炭化米7個 プドウ類6個 ノブドウ果7個 ミソバ4個 カナムタラ12個 マワウク リの仲間 110個 ヒョウタン7個
D-1	d-1	ササカイト留り	黒色粘土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D-1		第9層 ササカイト留り		弥生時代中葉末	モモ核1個
D-1	e-1	高台城上層	黒色粘土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D-1	d-10, d-1	第6面上層	黒色粘土 (第6層)	弥生時代中葉末	モモ核1個
D-2		第6面上層1		弥生時代中葉末	炭化米600個 タケノコ3個 プドウ類3個
D-2		第7面土層D	黒色土 (第2層)	弥生時代中葉末	炭化米 1633個
D-2	e-2	第7面土層D	黒色粘り質土	弥生時代中葉末	モモ核半片2個
D-2	f-2	第7面ピット内	黒色土	弥生時代中葉末	モモ核2個
D-2	e-2	土層内	第2層 ~ 3層	弥生時代中葉末	イネ283個
D-2	e-2	土層内	第2層	弥生時代中葉末	モモ核2個 半分に割れたモモ核2個
D-2		第7面土層D	黒色土 (第3層)	弥生時代中葉末	モモ核1個
D-2		土層1内		弥生時代中葉末	モモ核1個
D-2		土層1②		弥生時代中葉末	炭化米417個
D-2	e-2	第6面	黒色粘土	弥生時代中葉末	モモ核1個
D-2	e-3	第7面土層7	黒色粘土 (灰層)	弥生時代中葉末	ヒョウタンの仲間8個
D-2		第6面		弥生時代中葉末	モモ核1個
D-2	f-2	土層D	黒色粘土 (灰層)	弥生時代中葉末	モモ核2個
D-2	e-2	第6面	黒色粘土	弥生時代中葉末	モモ核2個
D-2	f-2	第6面	黒色粘土	弥生時代中葉末	半分に割れたモモ核1個
D-2	f-2	第6面	黒色粘土 (第6層)	弥生時代中葉末	半分に割れたモモ核1個
D-2		第7面土層D	黒色粘土	弥生時代中葉末	モモ核片1個

動物遺体に関しては保存状態が悪く、保存処理をしてやっと形状がわかった状態である。検出されたものの大半がニホンジカの骨格部位であった。又、植物遺体に関しては、現場で土壌から水洗選別されていたが保管が悪く、大半は乾燥標本としてポリエチレン製袋に入れてあった。

同定した植物遺体のうち木本は、クルミ属、ウメ、モモ、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ属である。草本は、イネ、スゲ属、カナムグラ、タデ属、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。なお、木本や草本の中で食用になる植物は、イネ、クルミ属、ウメ、モモ、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ属、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。栽培植物は、イネ、ウメ、モモ、マクワウリの仲間、ヒョウタンの仲間である。カナムグラは史前帰化植物の一つで、人里の雑草として知られる。水生植物及び好湿性植物はイネ、スゲ属、タデ属である。

3. まとめ

以上の同定結果から大半が栽培植物であることがわかった。これにより、人間活動が盛んに行われていたことがわかる。特に炭化米が 18494個と非常に大量に検出されたことは、稲作が盛んに行われていたことを実証している。また、人里植物の種子の存在は近くに住居が存在しているであろうことを物語っている。又、炭化米については、佐藤敏也氏の古代米の計測結果を参考として出土米のうち100個を取り出して計測した結果、炭化米の長さ平均4.9mm、幅2.7mm、比率(長/幅) 1.81であった。この平均から出土米に現れるパターンは、佐藤敏也氏の分類の I B パターン(粒長3.7~5.3mm未満、粒幅2.1~2.8mm未満)に位置し、いわゆる栽培稲 (*Oryza sativa* L.) の一亜種の日本型 (*Oryza sativa japonica* KATO) に分類される。それから、栽培植物として知られるモモ核も形態変化について小清水卓二氏によって調査され、出土するモモを4変種、栽培モモ、ノモモ、コダイモモ、スパイモモに分類し、それぞれの形態の長さ、幅、厚さを測定している。その測定結果によると栽培モモが長さ2.9cm、幅2.1cm、厚さ1.6cm、ノモモが長さ2.1cm、幅1.9cm、厚さ1.5cm、コダイモモが長さ1.9cm、幅1.5cm、厚さ1.3cm、スパイモモが長さ2.6cm、幅1.8cm、厚さ1.4cmとなっている。そこで今回出土したモモ核で完全な形態で残存していた80個体について計測をした結果、その平均値が長さ2.3cm、幅1.9cm、厚さ1.5cmと中型でやや丸いノモモ (*Prunus persica* ver. *subspontanea* Makino) に分類できた。

以上のように形態の特徴から分類が可能と考えられるが、個体差が大きいですなりと種名を決定するのは危険である。ここでは今後の検討課題として可能性が大きいたしておきたい。

さて、動物遺体のニホンジカとイノシシに関しては、食用とされたものの残りが少であろう。又、これらの遺体の特徴は、生産活動の中ではかなり補助的なものであったと考えられる。

〔参考文献〕

- | | | | |
|------------|------|---|-------|
| (1) 大井次三郎著 | 1983 | 「新日本植物誌 顔花篇」 | 至文堂 |
| (2) 牧野富太郎著 | 1982 | 「牧野 新日本植物図鑑」 | 北隆館 |
| (3) 小清水卓二 | 1963 | 「古代日本の住居跡から出土する桃核について」 P.559～568
『近畿古文化論攷』 榎原考古学研究所編 | 吉川弘文館 |
| (4) 佐藤敏也著 | 1971 | 「日本の古代米」 | 雄山閣 |
| (5) 内田亨著 | 1983 | 「増補 動物系統分類の基礎」 | 北隆館 |



図1 D-2トレンチ第7遺構面土塊-15出土 籬籠



図2 籬籠の拡大 (×1.5)

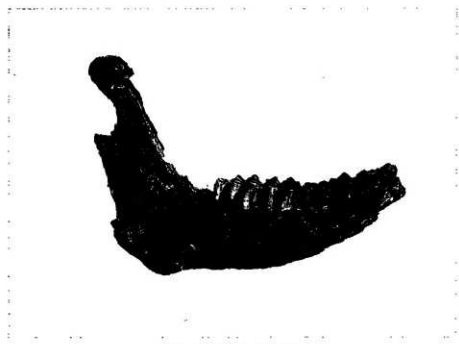


図4 ニホンジカの右下顎骨



図3 種束の一部分 (×1.5)



図5 ニホンジカの左大腿骨片

第2節 久宝寺遺跡南地区第1調査区出土の石器

京都大学大学院 森本 晋

1. B、Cトレンチ

Bトレンチから出土した石器は石鏃2点、石槍1点、石剣1点、石小刀2点、石核1点、剥片1点の計8点で、いずれもサヌカイト製である。

S1は、平基式石鏃であり、B-1弥生第3遺構面上面の出土。長さ26mm、幅14mmで、最大幅位置がかなり上の方にあり、その長さに対する割合は先端から71%である。厚さは、2.7mmで、幅厚比(幅/厚さ)は5.3となり、かなり薄手である。先行剥離面、主剥離面ともに残る。先行剥離面もポジ面である可能性がある。基縁の整形は極厚形細部調整を粗く施すのみなので、さらに長手の石鏃の基部欠損品であるかもしれない。自然面はない。

S2は、凹基式石鏃で、e-10の2高まり部出土。著しく水磨を受けており、剥離痕間の稜線も不明瞭となっている。磨滅の度合からみてかなり流されてきたものと思われる。

S3は、石槍でB-2の溝より出土。長さ86mm、幅32mm、厚さ11.6mm。最大幅位置の長さに対する割合は先端から69%である。表面の中央から右斜面にかけて縦に長く先行剥離面が残る。また、裏面には同じく縦に長く丸みを帯びた主剥離面が残る。左縁は、中・下部に平形深形表面細部調整と薄形深形裏面細部調整、やや浅い薄形深形裏面細部調整を施し、先端部には、薄形深形表面細部調整とやや浅い薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は、平形深形階段状表面細部調整と平形侵形表面細部調整、薄形深形階段状裏面細部調整を施す。基部は、平形深形表面細部調整、ごく浅い厚形深形階段状表面細部調整と薄形深形階段状裏面細部調整、厚形深形階段状裏面細部調整を施す。基部の最終段階の細部調整は裏面側が後であるが、左・右縁の最終段階の細部調整は優位の面がない。細部調整はやや雑な印象を与えるが、左右の縁辺の側面観は規則的になっている。基部の表面右の一部と裏面のごく一部に付着物が残る。

S4、S5は石小刀である。S4はB-4(拡)弥生時代前期-中期包含層出土。残存長67mm、幅19mm、厚さ6.3mm、幅厚比は3.0で薄形である。復原内湾度は10%。先端わずかに表面ヨコオレ、基端表面ヨコタキオレで、基部上端を少し傷損する。内湾する刃部の側に小突起を作り出しているが、突起の作り出しに角度の大きな細部調整を用いてはいない。突起と反対側の縁辺が凹むが、これは平形侵形細部調整の打点部が抉れたもので意図的な整形ではなさそうである。上縁は平形侵形両面細部調整の後に一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。下縁も平形侵形両面細部調整の後に一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。先行剥離面、主剥離面は残存しない。縁辺の潰れや磨滅は認められない。

S5はB-4弥生時代前期遺構面上層出土、先端は下側からのタテオレののち先から下縁へのタテオレ、基端は上縁からのタテオレで欠損している。残存長79mm、幅17mm、厚さ5.4mm、幅厚比は3.2で薄形である。現状での内湾度は5%である。上縁は平形侵形両面細部調整の後に、や

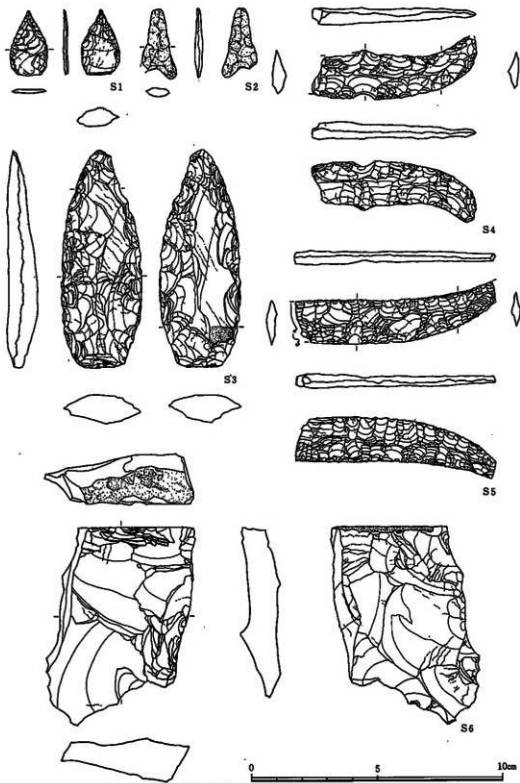


図1 Bトレンチ出土の石器(1)

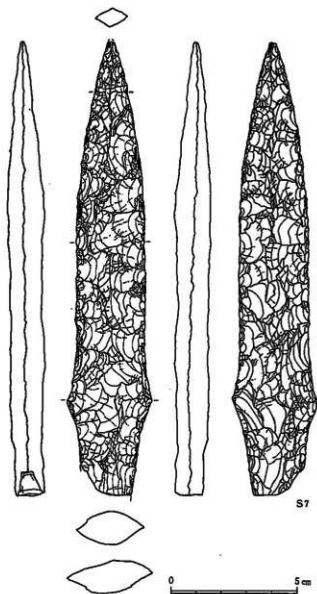


図2 Bトレンチ出土の石器(2)

に細部調整を集中して作りだしているものではない。長さは183mm、幅が34mm、厚さ14.4mmで、少し水磨を受けている。左縁は、薄形侵形両面細部調整の後に部分的に、薄形深形階段状表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁は薄形侵形両面細部調整の後に部分的に、薄形深形階段状表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状表面細部調整、ごく浅い薄形深形階段状表面細部調整を施している。側縁の磨り落としは認められない。

やや浅い平形深形表面細部調整、一部にやや浅い平形深形表面細部調整を施す。下縁は平形侵形両面細部調整の後に、部分的でやや浅い平形深形表面細部調整、部分的でやや浅い平形深形階段状表面細部調整を施す。基部近くの上・下縁を弱く磨り落として刃潰しを行っている。

S6は石核で、B-4弥生時代前期遺構面上層出土。剝離作業面が2面、表裏にある。薄形の石核で、打面数は3である。打面の内訳は自然面打面が1面：打面1(幅46mm×厚さ14mm)、折面状の剝離面打面が2面(幅62mm×厚さ18mm：打面2、幅57mm×厚さ11mm：打面3)。石核角は主な剝離痕で見ると打面1が70°、打面2が80°、打面3が70°と75°である。

S7は石剣で、CⅧb1の偽礫混じり暗褐色砂層出土、基端部を右タテオレで欠損するがほぼ完形である。刃部と柄部は左右の突起によって分けられている。刃部はゆるやかに内湾した後、ゆるやかに外湾して先端に至る。突起は特

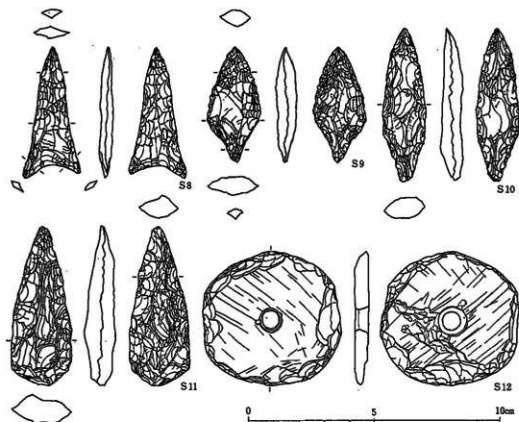


図3 Cトレンチ出土の石器

Cトレンチから出土した石器は石鏃3点、石槍1点、紡錘車1点の計5点である。

S8は、凹基式石鏃でc-4(拡)弥生時代第2遺構面掘り下げ時出土。長さ52mm、幅23mm、厚さ4.9mm。最大幅位置の割合は95%で、基部挟り度は21%である。

S9は、有基式石鏃で南西コーナー釜場の黒色砂混じり粘土層出土。長さ45mm、幅21mm、厚さ7.7mm、最大幅位置の割合は57%である。茎挟り度は左右の幾何平均で8%である。先行剥離面、主剥離面ともに残るが、自然面はない。

S10は、有基式石鏃で、DWa4の3第1号墓第2号主体部北方横出土。長さ61mm、幅17mm、厚さ8.9mmで最大幅位置の割合は57%である。ただ最大幅位置付近では幅の変化が少ない。先行剥離面、主剥離面ともに残さない。

S11は、石槍でC-4(拡)弥生時代第2遺構面Y^r-6号周溝墓東側周溝内土器堆積出土。長さ63mm、幅24mm、厚さ12.0mmで幅厚比が2.01とかなり厚く、ごろごろとした感じを与える。

S12は、2号方形周溝墓マウンド肩部出土の紡錘車で、緑色片岩製。56mm×54mmで厚さは5.4mm。石砲丁等の再加工品の可能性もあるが、再加工品であるという証拠はない。周縁に両面から細部調整を加えている。側面のごく一部に研磨した面を持つが、これは研磨後に細部調整を加えた可能性がある。穿孔は両面から行っているが、裏面からの割合が大きい。

2. Dトレンチ

Dトレンチから出土した石器は、未製品も含めて石鏃13点、石槍1点、石剣6点、石錐5点、石小刀1点、削器1点、ノッチ1点、ピエス・エスキエ3点、石彫丁2点、砥石4点である。他に細部調整のある剥片が7点、石核が3点、剥片が最大長3cm以上のもの108点、3cm未満のもの8710点あり、全体で8865点である。

S13はD-2 e-2 黒色土出土の有蓋式もしくは凸蓋式の石鏃で、長さ57mm、幅22mm、厚さ8.4mm。最大幅位置の割合は70%、茎の挟り度は左右の幾何平均で8.6%である。表面左下に先行剥離面が残り、裏面中央部に主剥離面が残る。自然面はない。左縁には薄形深形裏面細部調整を施し、上部に平形侵形表面細部調整とやや浅い薄形深形階段状表面細部調整、中・下部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁には平形侵形表面細部調整と薄形深形細部調整を施す。最終段階の細部調整は、左縁は裏面側から行っているが、右縁は面による優位がない。

S14は石鏃でD VI fの2 黒色土出土。長さ49mm、幅17mm、厚さ7.3mm。表面基部中央に平坦な自然面を有する。先行剥離面、主剥離面ともに残らない。左縁には平形侵形両面細部調整と一部にやや浅い薄形深形表面細部調整を施す。右縁には平形侵形両面細部調整を施す。基部にはさらに両面とも右縁に厚形深形細部調整とごく浅い極厚形深形階段状細部調整を加えている。この調整以外は最終段階の細部調整は両面とも左縁が後である。

S15はd2-1 黒色砂混じり土層出土の有蓋式石鏃で石錐として再利用している。形は左右対象ではない。長さ38mm、幅16mm、厚さ7.5mm。茎挟り度の左右幾何平均は16%である。裏面中央部に主剥離面が残る。自然面はない。先端部の両側縁に潰れがみられる。刃部左縁には一部階段状の薄形侵形表面細部調整と薄形深形両面細部調整、右縁には薄形侵形表面細部調整、一部階段状の厚形深形表面細部調整と薄形深形細部調整を施す。基部は左右縁とも薄形侵形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。

S16は有蓋式石鏃で、f-1の4 黒色粘土層出土。長さ55mm、幅14mm、厚さ7.2mm。長幅比が4.0とかなり細長い。茎は左右対称ではないが、挟り度の左右幾何平均は、12%である。先行剥離面、主剥離面ともに残らない。自然面はない。左右縁とも薄形侵形表面細部調整と部分的にごく浅い薄形深形階段状細部調整、平形から薄形の侵形裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左、右縁とも表面が後である。

S17はe 2の4 黒色砂混じり粘土層出土の有蓋式石鏃。長さ49mm、幅25mm、厚さ6.9mm。茎挟り度の左右幾何平均は、13%である。先行剥離面、主剥離面ともに残存せず、自然面もない。刃部左縁は一部階段状の平形侵形両面細部調整と部分的にやや浅い平形深形階段状細部調整を施す。刃部右縁は平形侵形両面細部調整とやや浅い平形深形階段状細部調整を施す。茎左縁は平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、ごく浅い薄形深形細部調整を施す。茎右縁は平形侵形両面細部調整、一部階段状のやや浅い薄形深形表面細部調整、ごく浅い薄形深形裏面細部調整を施す。刃部、基部ともに最終段階の細部調整は右縁が後である。茎側縁の磨り落としは認められない。

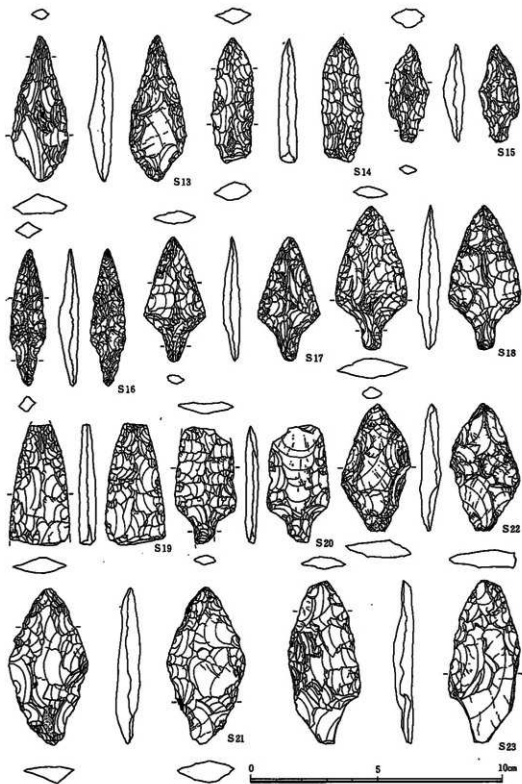


図4 Dトレンチ出土の石器(1)

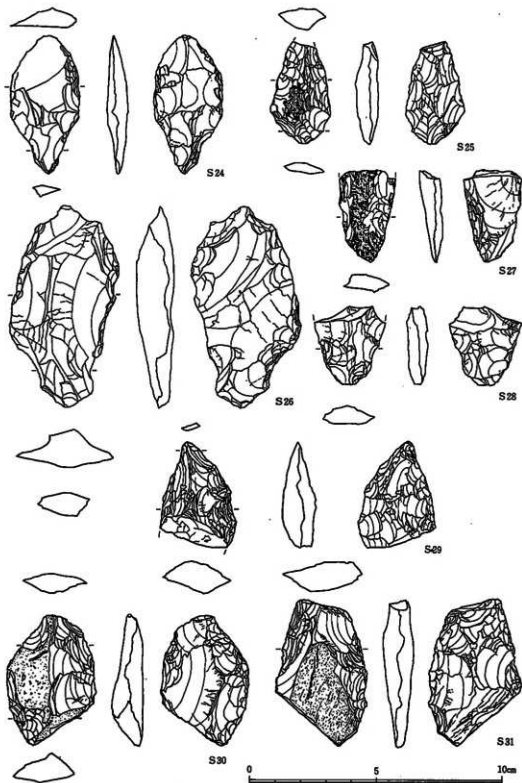


図5 Dトレンチ出土の石器(2)

S 18は有茎式石鏝で、D VII f1の2青灰色粘土層大溝最下部出土。長さ58mm、幅29mm、厚さ8.2mm。茎かり度の左右幾何平均は15%である。先行剝離面、主剝離面ともに残らない。自然面はない。刃部左縁は平行侵形両面細部調整、平行深形階段状表面細部調整、ごく浅い平行深形階段状細部調整を施す。刃部右縁は平行侵形両面細部調整、平行深形階段状表面細部調整、やや浅い平行深形階段状裏面細部調整を施す。茎左縁は薄形侵形表面細部調整と平行侵形裏面細部調整を施す。茎右縁は薄形侵形両面細部調整、ごく浅い薄形深形裏面細部調整を施す。ごくわずかであるが水磨している。

S 19はf-1の3・4黒色シルト質粘土層出土。石鏝もしくは石槍、石剣の先端部片で、残存長さ48mm、残存幅23mm、厚さ6.8mm、左縁は平行侵形表面細部調整、一部に平行深形階段状表面細部調整、一部にごく浅い裏面深形細部調整、ごく浅い裏面深形細部調整を施す。右縁は平行侵形表面細部調整、一部階段状の平行侵形裏面細部調整、ごく浅い薄形深形表面細部調整、一部にごく浅い平行深形階段状細部調整を施す。最終段階の細部調整は右縁が後である。

S 20はD-2出土の有茎式石鏝で先端部を欠失する。これは裏面中央へ先からはいる極めて長い平行侵形孤立細部調整によるもので、石鏝のもの厚さを残している部分はない。残存長46mm、幅24mm、残存厚4.8mm。茎かり度の左縁は17%である。茎は若干縁部を磨り落としているようである。

S 21はd-2の1土壌1黒色土層出土。尖基式もしくは有茎式石鏝の未製品で、長さ62mm、幅31mm、厚さ8.5mm。表面の基部よりに平坦な自然面が残る。左縁は平行侵形裏面細部調整を施し、右縁は薄形深形裏面細部調整と一部にやや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。また、左右縁ともに上半部に平行深形表面細部調整、下半部に厚形深形表面細部調整を施す。

S 22はe-1の3黒色土層出土。石鏝の未製品で、長さ50mm、幅26mm、厚さ8.0mm。主剝離面は残らない。表面基部の一番下に自然面が残る。左縁は平行侵形両面細部調整と平行深形表面細部調整を施し、右縁は薄形深形表面細部調整と平行侵形裏面細部調整を施す。

S 23はe-2の4円形落込南側黒色土層出土。石鏝の未製品で、長さ64mm、幅27mm、厚さ6.6mm。先端面と左側面に自然面が残る。左縁は平行侵形表面細部調整と一部に平行深形階段状表面細部調整を施し、上部に平行から薄形の深形裏面細部調整を施す。右縁は部分的に階段状の平行侵形表面細部調整を施し、上部、中部に平行侵形裏面細部調整を施す。

S 24はD VII c3の4高台1上、黒色粘質土層出土。有茎式石鏝の未製品で、長さ55mm、幅27mm、厚さ8.4mm。基端右側面に自然面が残る。平面形はかなり整っている。左縁の細部調整は表面側は下半部にしか施していない。表面は部分的に階段状の平行侵形細部調整と一部に薄形深形細部調整を施し、裏面は平行侵形細部調整を施した後、下半部に薄形深形階段状細部調整、一部にごく浅い薄形深形階段状細部調整を施す。

S 25はD VII d2の4高台4上、黒色粘質土層出土。尖基式石鏝の未製品。残存長さ40mm、幅24mm、厚さ8.8mm。表面中央に自然面を残す。左縁は平行侵形裏面細部調整、上部に薄形侵形表面細部

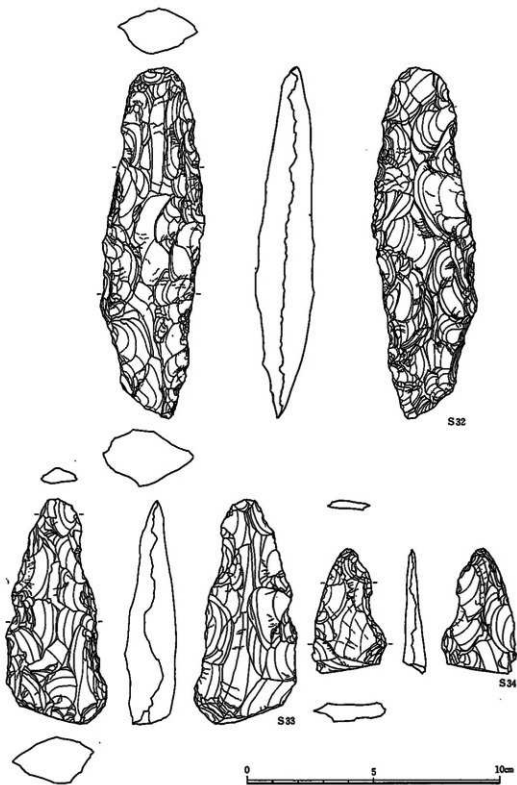


図6 Dトレンチ出土の石器(3)

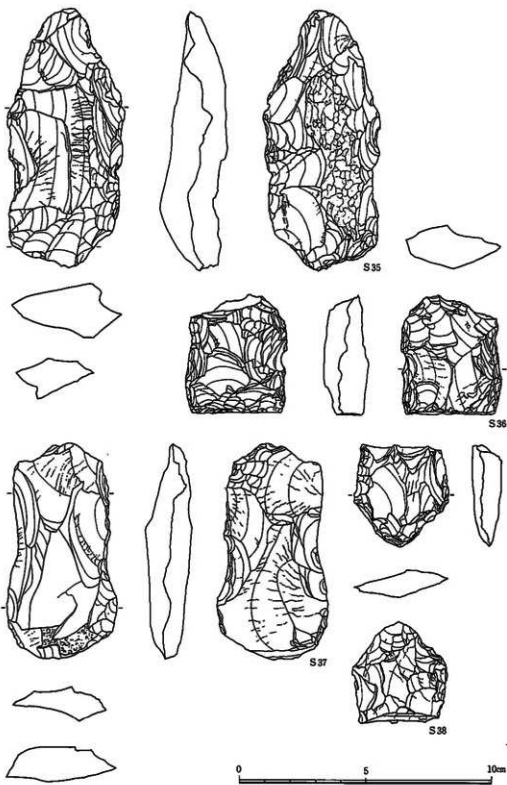


図7 Dトレンチ出土の石器(4)

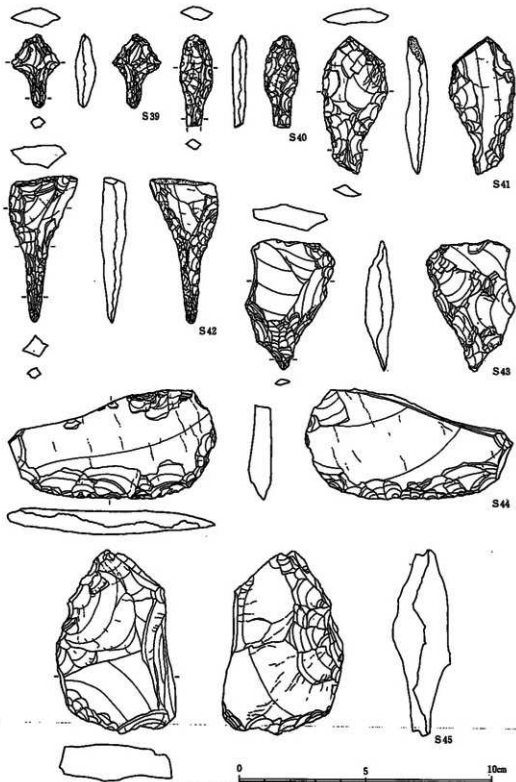


図8 Dトレンチ出土の石器(6)

調整を施す。右縁は平行侵形裏面細部調整、上部に一部階段状の薄形侵形表面細部調整、下部に薄形深形表面細部調整を施す。

S 26はDⅧc3の4高台1上、黒色粘質土層出土。有茎式石鏃の未製品。粗い細部調整を施すただが茎を作り出すものとも考えられる。長さ79mm、幅39mm、厚さ14.4mm。自然面はない。表面への細部調整は左右縁とも中央部のごく浅い厚形深形階段状細部調整ぐらいしかない。裏面細部調整は左縁上部に薄形深形からやや浅い厚形深形の細部調整、右縁上部に平行深形細部調整を施す。基部は裏面に左縁は薄形深形細部調整、ごく浅い薄形深形階段状細部調整を施し、右縁は厚形深形階段状細部調整を施す。基端部にやや浅い厚形深形裏面細部調整を施す。

S 27はe 1の1・2井戸1の東側黒色土層出土。石鏃か石槍の未製品の基部。残存長さ36mm、残存幅23mm、残存厚6.2mm。表面中央に自然面が残る。左縁に一部階段状の薄形深形表面細部調整を施し、右縁には平行侵形表面細部調整、やや浅い平行深形階段状裏面細部調整を施す。

S 28はDⅧc3の4高台1上、黒色粘質土層出土。石鏃か石槍の未製品の基部と思われる。残存長さ31mm、残存幅28mm、厚さ7.9mmで基端面に自然面が残る。左縁は平行深形表面細部調整、平行侵形裏面細部調整、基部よりに薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は平行侵形両面細部調整と一部にやや浅い薄形深形階段状細部調整を施す。細部調整は概ね左縁が後である。

S 29はDⅧe1の1SD-3淡黄色粗砂層出土。削器か。一端が折面となっている。最大長41mm、最大幅30mm、最大厚11.8mm。図上での左縁に薄形侵形表面細部調整、平行侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、一部にやや浅い平行深形階段状細部調整を施す。右縁は薄形侵形表面細部調整、平行深形裏面細部調整、薄形深形階段状表面細部調整を施す。

S 30はD-2全区第7面黒色粘土出土。石鏃の未製品か。長さ52mm、幅39mm、厚さ11.4mm。表面左斜面と基端右側面にかなり水磨した自然面を残す。左縁は平行深形裏面細部調整、上部に薄形深形表面孤立細部調整、下部に薄形深形表面細部調整を施す。右縁は平行侵形表面細部調整を施し、部分的に平行深形階段状表面細部調整と平行深形裏面細部調整を加える。

S 31はc 2-3、d 2-2落込出土。石鏃の未製品か復刃削器。最大長60mm、最大幅36mm、最大厚11.7mm。基端の左に自然面が残る。左縁には平行侵形裏面細部調整、上部に薄形深形階段状表面細部調整とやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁は下部ほど浅い平行侵形表面細部調整、平行侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。

S 32はDⅧd2の1、SD-2黒色砂混じり粘質土出土。石剣の未製品である。長さ138mm、幅39mm、厚さ22.4mm。ごろごろとした感じで、表面中央に先行剝離面が、裏面先端部に主剝離面が残る。右縁下部の中ほどの縁辺が潰れてなめらかになっている。左縁は薄形侵形両面細部調整と主に下半部にやや浅い厚形深形階段状裏面細部調整を施し、右縁は薄形両面細部調整と部分的な薄形深形階段状表面細部調整、薄形深形階段状裏面細部調整、部分的でやや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は面による優位はない。

S 33はD-1 d-10第6面黒色粘土層マウンド部内出土。石槍の未製品であると思われる。縁

辺は不規則なままである。長さ89mm、幅37mm、厚さ19.6mm。基端面に自然面を残す。左縁は薄形侵形両面細部調整、右縁は薄形侵形両面細部調整、薄形から厚形で一部階段状の深形表面細部調整、下半部にやや厚い厚形深形表面細部調整を施す。表面に下から平形深形細部調整を施している。最終段階の細部調整は面による優位がない。

S34はd-2の1粘質土層下高まり3-1区盛土内出土。尖頭器未製品の先端部。残存長49mm、残存幅29mm、残存厚8.8mm。左縁は平形深形両面細部調整、右縁は平形侵形両面細部調整を施す。細部調整は右縁が後である。

S35はD-1 d-1第6面黒色粘土層出土。尖頭器の未製品または石核。流水の影響を受けて磨滅した剥片を素材とし、先端部と基部の一部に細部調整を施している。ごく一部の面は特に磨滅が著しい。長さ103mm、幅47mm、厚さ21.1mm。表面の中央部と基端面の一部に自然面が残る。左縁は薄形侵形表面細部調整、厚形深形表面細部調整を施し、右縁は薄形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整を施す。端面へ裏面からやや浅い極厚形深形階段状細部調整を施している。細部調整は裏面が後である。

S36は12-2黒色砂質土層出土。石剣の未製品を再加工したものか。長さ47mm、幅39mm、厚さ16.8mm。自然面はない。裏面の右側に主刺離面が残る。上端は打点中央の表面ヨコタキオリであるが、裏面への細部調整によって切られている。左縁は平形侵形表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、一部階段状の薄形深形裏面細部調整、ごく浅い厚形深形階段状表面細部調整、やや浅い厚形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形両面細部調整、やや浅い極厚形深形階段状裏面細部調整、一部にやや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。基縁表面は、極厚形縁上に平形侵形細部調整、平形深形階段状細部調整、やや浅い平形深形階段状細部調整、ごく浅い平形深形階段状細部調整を施す。基縁裏面は平形深形階段状孤立細部調整で一部縁が潰れている。裏面に上から平形深形細部調整を施している。

S37はD-1 d-1第6面溝状遺構黒色粘土層出土。石剣の未製品の破損品か石核。表面の大半と裏面の一部が流水の影響を受けて磨滅している。表面で磨滅していないのは上部の面だけで、この面は折面の可能性がある。残存長65mm、幅44mm、厚さ17.5mm。細部調整はおおまかで、右縁は薄形から厚形の深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整を施し、右縁は平形侵形両面細部調整を施す。

S38はD-1全区黒色粘土上面出土。石剣の基部か。残存長41mm、幅38mm、厚さ11.4mm。左縁は一部階段状の平形侵形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、平形深形表面細部調整、平形深形階段状裏面細部調整を施す。右縁は薄形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、一部にやや浅い平形深形階段状裏面細部調整を施す。下縁には一部階段状の平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、一部階段状のごく浅い厚形深形表面細部調整、右側にごく浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。全体に丁寧に作りだしている。最終段階の細部調整は右縁が後である。

S39はD VII d2の2高台4上、黒色砂混じり粘土出土の石錐である。石錐とするには、石鏝と

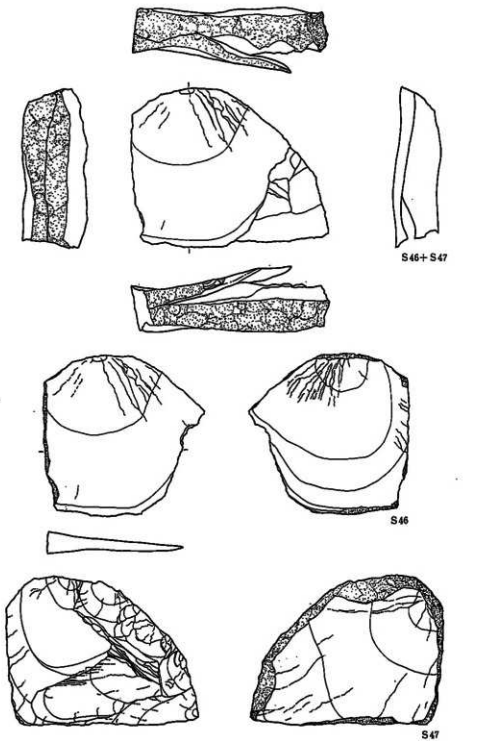


図9 Dトレンチ出土の石器(6)

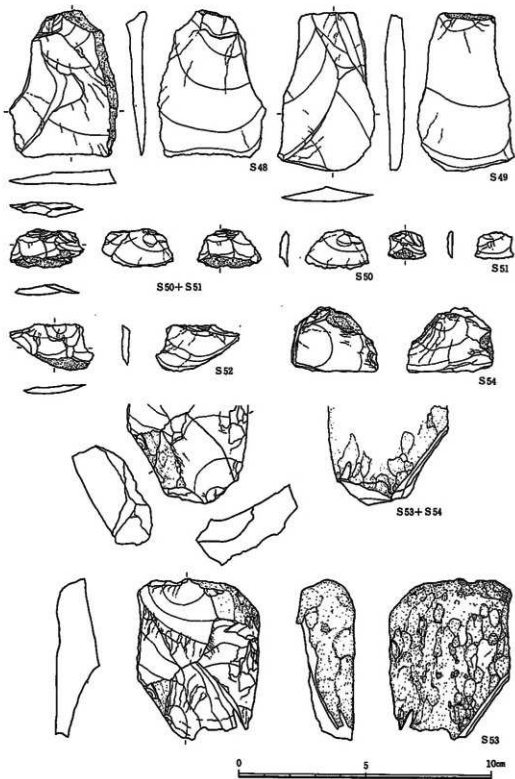


図10 Dトレンチ出土の石器(7)

したときに刃部にあたる部分の細部調整が急角度すぎる。長さ28mm、幅19mm、厚さ7.5mm。鋸部は幅6.2mm、厚さ5.7mmで磨滅痕はない。自然面はない。裏面頭部に主剝離面が残る。頭部は左縁に一部階段状の平形侵形表面細部調整とやや浅い厚形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整と部分的にごく浅い薄形深形裏面細部調整を施し、右縁に平形侵形表面細部調整とやや浅い極厚形深形表面細部調整、平形深形裏面細部調整とやや浅い厚形深形裏面細部調整を施す。鋸部には左縁に薄形侵形表面細部調整、一部にごく浅い厚形深形階段状表面細部調整、極厚形浅形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整を施す。右縁には薄形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、ごく浅い極厚形深形階段状裏面細部調整を施す。最終段階の細部調整は全体的に表面側からである。

S40は石鋸でD VIIの4高台6上、南落込黒色炭混じり有機質土層出土。主剝離面が頭部に小さく残る。頭部は上縁に平形侵形表面細部調整を施し、左縁に平形侵形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整、一部にごく浅い薄形深形階段状細部調整を施す。頭部右縁は厚形深形表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。鋸部は左縁に厚形深形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整を施し、右縁に薄形侵形表面細部調整、厚形深形裏面細部調整を施す。

S41はD-2 e-3 第7面土壌7黒色粘土層出土。石鋸の未製品か。長さ54mm、幅26mm、厚さ8.5mm。先行剝離面、主剝離面ともに残る。頭端面に平坦な自然面が残る。左縁は上部に平形深形表面細部調整、平形深形階段状裏面細部調整、中部にごく浅い平形深形裏面細部調整、下部に薄形侵形表面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整、平形深形裏面細部調整を施し、右縁は平形から薄形の深形表面細部調整、上部に薄形深形表面細部調整、中・下部に薄形侵形表面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左縁は面による優位がないが、右縁は表面が後である。

S42はD-1 第6面サマサイト溜り水洗捕集の石鋸。長さ57mm、幅25mm、厚さ9.7mm。頭部に先行剝離面、主剝離面ともに残る。頭端面に平坦な自然面が残る。頭部上縁の急角度の縁辺に薄い剝離が入り、現状では極厚形深形階段状表面細部調整になっている。頭部は左縁に薄形深形両面細部調整、右縁に厚形深形裏面細部調整を施す。鋸部は左・右縁とも厚形侵形両面細部調整を施す。

S43はD VIIの1黒色砂混じり粘土層出土。石鋸か。特に鋸部を厚く作り出しているという感じではない。長さ52mm、幅33mm、厚さ11.2mm。先行剝離面、主剝離面ともに残る。左縁は下半部に薄形深形表面細部調整、やや浅い厚形深形表面細部調整を施し、中・下部に平形侵形裏面細部調整を施す。右縁は平形侵形裏面細部調整、一部階段状の薄形深形裏面細部調整、上部に薄形深形表面細部調整、下部に一部階段状の薄形侵形表面細部調整を施す。微小な細部調整を除いて概ね裏面の細部調整が後である。鋸部の磨滅は認められない。

S44はD e-2の2土壌サンプル水洗選別。両面調整削器。少し水磨している。最大長82mm、最大幅42mm、最大厚3.3mm。先行剝離面、主剝離面ともに大きく残る。

S45はe-2の1青灰色粘土下黒色土層上面出土。石核か。表面の一部の面が水磨している。

最大長74mm、最大幅44mm、最大厚21.7mm。素材の打面の全体に自然面が残る。主剝離面は大きく残るが、クラックがあり2面に分かれている。石核であるとする、剝離作業面が2面でそれぞれから1枚ずつ剝離しているだけである。

図9に示したのは接合資料である。

S46、S47ともにDⅦd2-3高台3上3区黒色砂混じり粘質土出土。S46は裏面が主剝離面だけから構成されており、剝離作業面再生剥片であろう。剝離角は110°。最大長87mm、最大幅65mm、最大厚16.4mm。先行剝離面にはS47を剝離した剝離痕をはじめ6つの大きな剝離痕が残るが、そのいずれもが石核から剝離し得る最大長の方向に打撃したものではない。それに対しS46は取り得る最大長方向に打撃している。石核としての打面は剝離作業面側からみると、1/4円形で86×16mmあり、自然面である。石核角は、S47剝離痕から右廻りに60°、80°、70°、75°、75°である。剝離順はこの順ではない。打撃による力が途中で先行剝離面側にめけた剝離が3つ続きガタガタしてしまった剝離作業面を大きく取り去ったものと思われる。

S47は最大長67mm、最大幅59mm、最大厚9.0mm。打面は39×7mm。打面上に打撃痕が残る。バルブが発達しており、末端はヒンジフラクチャーぎみに終わる。打面、1側面、底面が自然面である。

S48、S49はS46、S47と同一母岩と考えられ、同じくDⅦd2の3高台3上3区黒色砂混じり粘質土出土の剥片である。S48は最大長60mm、最大幅44mm、最大厚8.1mm。打面は自然面打面で、14×4mm、剝離角は90°である。末端はフェザーで終わる。主剝離面は平坦に近い面である。

S49は最大幅64mm、最大幅38mm、最大厚7.8mm。打面は自然面打面で、22×5mm。剝離角は110°である。末端はヒンジフラクチャーで終わる。主剝離面はかなり平坦な面である。

S50～S52はDⅦe2の2黒色砂混じり粘質土出土の剥片で、いずれも細部調整時に生じた剥片であろう。S50とS51が接合する。

S50は最大長25mm、最大幅15mm、最大厚3.6mm。打面は剝離面打面で、6×2mm、剝離角は115°である。末端はフェザーで終わり、バルブが発達する。背面の1/4が自然面である。

S51は最大長15mm、最大幅11mm、最大厚2.3mm。打面は点状打面である。末端はフェザーで終わり、バルブは拡散する。背面の1/10ほどに自然面が残る。

S52は前2者と同一母岩と思われる。最大長35mm、最大幅19mm、最大厚3.7mm。打面は多面調整打面で25×4mm、末端はヒンジフラクチャーぎみのフェザーで終わり、バルブは拡散する。背面の1/5が自然面である。

S53、S54はD-2eの2、eの3第6面黒色土層上面T.P.+4.4m出土。

S53は薄形の石核で、最大長70mm、最大幅55mm、最大厚22.4mmである。素材は75×52×25mm程度の直方体に近い礫と考えられ、自然面は少し水磨し、突出部に小さな爪形がみられる。自然面は1端面、1側面、裏面全体、剝離作業面の一部に残存する。剝離作業面は1面で、打面は4つある。それらを図上、右まわりに上から順に打面1～打面4と呼ぶ。打面1はかなり凹凸のある

自然面打面で50×19mm。石核角80°。主な剝離は2回行っている。打面2は自然面打面で50×13mm、石核角70°だが良好な剝片は剝離できていない。打面3は剝離面打面で27×16mm、石核角65°。主な剝離は1回行っており、剝離度末端はステップで終わる。打面4は剝離面打面で36×15mm。S54が剝離されており、石核角は60°。打面使用順は打面1→打面1→打面3→打面2、打面4である。

S54は最大長38mm、最大幅27mm、最大厚15.5mm。末端はヒンジフラクチャーを呈する。厚くて短い剝片で、この剝離失敗で石核を放棄したものであろう。

S55・S56はいずれもD VIIelの1高台6上南落込黒色炭混じり有機質土層出土の剝片で、接合する。

S55は最大長38mm、最大幅23mm、最大厚3.1mm。剝離面打面で剝離角は130°。末端はフェザーで終わる。

S56は最大長38mm、最大幅14mm、最大厚2.3mm。剝離面打面であるが打面が小さく剝離角は不詳。末端はフェザーで終わる。

S57は石核でd-2の1高まり3-2区盛土内粘質土下出土。サヌカイト製であるがかなり風化しており、弥生時代の遺物でない可能性がある。最大長72mm、最大幅70mm、最大厚21mm。盤状剝片状の剝片の打面部を折り取り、うすい剝離4枚以上を石理方向に主剝離面に加え、素材側面側の面を剝離作業面にして3枚程度横に剝離する。側面を剝離作業面にしてネガ面を敲くのは郡家今城遺跡C地点のD23、G21に似る。ただし、これらでは1枚しか剝離していない。

S58はc-3の4黒色土層上面出土の石磨丁で緑色片岩製である。右側の破片である。紐孔あけは裏面からのほうが少し強い。線状痕はめだたず、敲打痕は残っていない。刃部には光沢があり、磨滅で少し凹む。

S59はD-1 d-1黒色粘土層出土の石磨丁で緑色片岩製である。紐孔はひとつ残存しており、紐ずれが観察できる。表面の紐孔の右と右下、裏面の中央部に敲打痕が残る。線状痕ははっきりしない。背潰れはかなり著しい。刃部も左の方が少し潰れる。潰れの凹部での距離は30.7mmである。左上の角も折面にかけて少し潰れている。

S60からS63は砥石である。

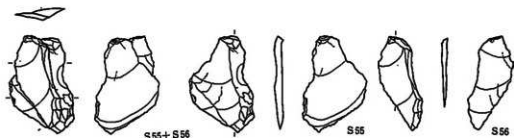
S60はDトレンチ0266出土。裏面は破断。4周を研磨しており、上面はきれいに磨滅している。全面に煤が付着。

S61はD1トレンチ1118出土。6面ともよく磨滅している。下面に煤が付着。砂岩製。

S62はDトレンチ0923出土。上・下面は破断。裏面は凹みがあり、裏面に煤が付着。砂岩製。

S63はDトレンチ0703出土。4周とも良く磨滅。表裏両面には打撃痕があり、全面に煤が付着。

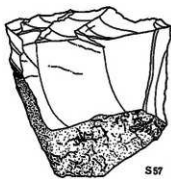
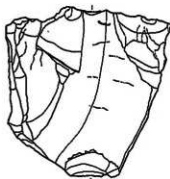
Dトレンチでは剝片等が詰まったピットが2ヶ所検出されたが、包含層中にも剝片が集中して出土した部分があった。そのためピット内や集中部分の土を全部採集し、5mm、1mmのフルイを使用して水洗いによって小型遺物の選別をした。これらの遺物を水洗捕集による遺物と呼ぶ。集



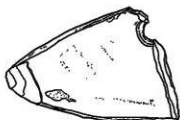
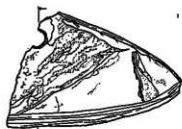
S55+S56

S55

S56



S57



S58



S59



図11 Dトレンチ出土の石器(8)

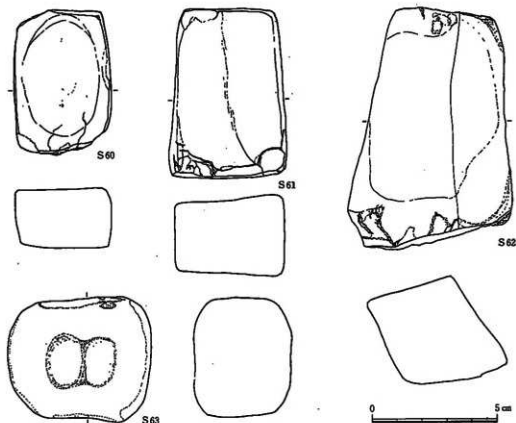


図12 Dトレンチ出土の石器(9)

中部分以外の包含層や他のピットについても対照資料としていくつかの部分の土を水洗したが、ごくわずかししか剥片を含まず、遺物相互の比較を可能にするほどの点数は得られなかった。

サヌカイト集積ピット1(以下ピット1と略す)は、DⅧf1の4区にあり($X=-2454.65$, $Y=-8396.84$)、上層と下層に分けて埋土が採集されている。サヌカイト集積ピット2(以下ピット2と略す)はDⅧf1の2区にあり($X=-2454.53$, $Y=-8397.65$)、ピット1から約82cm離れている。検出面はピット1よりも高い。ピット1、ピット2ともに内部は剥片等が詰まっている状態で、隙間を埋める程度にしか土を含んでいない。水洗捕集された遺物のうち石器以外のものには、小さな土器片、骨片、種子類があるが、種子類の量はピット1とピット2では異なり、検出面の差とあわせて、廃棄の時間差を示唆する。出土石器の内訳を表1に示す。ピット2からは石器ないし石器の未製品が出土しているのに対し、ピット1からは剥片しか出土していない。

図13にピット2出土の主な石器を示す。

S64は石鏃の未製品と思われる。長さ57mm、幅31mm、厚さ5.3mm。表面中央にやや内湾し、少し水磨した自然面が大きく残る。裏面には大きく主剝離面が残る。左縁は上部にやや浅い薄形深形表面細部調整、中部・下部にやや浅い平形深形表面細部調整を施し、上部から中部は打面部を切り取る平形深形裏面細部調整を施す。右縁は先端部に平形深形表面細部調整、上部から中部に

表1 サマカイト集積ビット出土遺物

	ビット1 上層	ビット1 下層	ビット1 計	ビット2	計
石鏃				1	1
石鏃未製品				2	2
石小刀未製品				1	1
15mm以上	6	7	13	74	87
刻片					
10~15mm	31	6	37	187	224
5~10mm	136	166	302	756	1058
5mm未満	750	962	1712	2910	4622
刻片計	923	1141	2064	3927	5991

表2 5mm以上の刻片の統計測定 (各欄とも左上:平均、左下:変異係数、右上:最大値、右下:最小値)

	最大長	最大幅	最大厚	長幅比	長厚比	幅厚比
ビット1上層	8.1mm 61mm	5.1mm 55mm	0.96mm 10.8mm	1.76 5.0	10.10 35.0	5.93 16.7
173点	63.4% 5mm	89.3% 2mm	96.4% 0.2mm	32.4% 1.0	44.2% 3.8	38.0% 1.7
ビット1下層	7.3mm 29mm	4.5mm 24mm	0.96mm 4.0mm	1.81 6.0	8.60 25.0	5.12 10.0
179点	45.0% 5mm	57.1% 1mm	50.2% 0.2mm	40.9% 1.0	41.2% 2.9	40.7% 0.9
ビット1計	7.7mm 61mm	4.8mm 55mm	0.96mm 10.8mm	1.78 6.0	9.34 35.0	5.52 16.7
352点	56.2% 5mm	76.9% 1mm	76.6% 0.2mm	37.1% 1.0	43.8% 2.9	40.0% 0.9
ビット2	8.7mm 56mm	5.5mm 55mm	1.07mm 15.9mm	1.69 6.0	9.38 30.0	5.81 20.0
1017点	61.2% 5mm	70.5% 1mm	84.6% 0.2mm	32.2% 1.0	43.4% 2.8	43.5% 1.2

表3 ビット1上層

最大長 (mm)	最大幅 (mm)										計		
	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45		50	55
60~65											1		1
55~60													
50~55													
45~50													
40~45													
35~40													
30~35													
25~30					1								1
20~25			1	1									2
15~20		2											2
10~15	6	23	2										31
5~10	88	48											136
計	94	73	3	1	1						1		173

表4 ビット1下層

最大幅 最大長 (m)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	計
60 ~ 60	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
55 ~ 60												
50 ~ 55												
45 ~ 50												
40 ~ 45												
35 ~ 40												
30 ~ 35												
25 ~ 30					1							1
20 ~ 25		1	1	2								4
15 ~ 20		1	1									2
10 ~ 15		6										6
5 ~ 10	111	55										166
計	111	63	2	2	1							179

表5 ビット1全体

最大幅 最大長 (m)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	計
60 ~ 65											1	1
55 ~ 60												
50 ~ 55												
45 ~ 50												
40 ~ 45												
35 ~ 40												
30 ~ 35												
25 ~ 30					2							2
20 ~ 25		1	2	3								6
15 ~ 20		3	1									4
10 ~ 15	6	29	2									37
5 ~ 10	199	108										302
計	205	136	5	3	2						1	352

表6 ビット2

最大幅 最大長 (m)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	計
60 ~ 65												
55 ~ 60								1				2
50 ~ 55							1	2				3
45 ~ 50						1		1				2
40 ~ 45												
35 ~ 40						1						1
30 ~ 35				1		1						2
25 ~ 30		1	1	1	3							6
20 ~ 25		2	11	7								20
15 ~ 20	1	13	23	1								38
10 ~ 15	14	157	16									187
5 ~ 10	468	298										766
計	483	461	51	10	3	3	1	4			1	1017

表7 ビット1上層

幅厚比 \ 長幅比	幅厚比																				計	
	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0		
6.0 ~ 7.0	1																				1	
5.0 ~ 6.0		1																				
4.0 ~ 5.0																						
3.0 ~ 4.0			2	1	3		1	1														10
2.0 ~ 3.0			2	7	13	8	9	2														44
1.0 ~ 2.0			2	11	22	25	21	11	15		2											118
計	1	8	19	38	53	51	34	15	2	11			1		1	1						173

表8 ビット1下層

幅厚比 \ 長幅比	幅厚比																					計
	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	
6.0 ~ 7.0	2																					2
5.0 ~ 6.0		1																				1
4.0 ~ 5.0																						1
3.0 ~ 4.0			3	4	1																	8
2.0 ~ 3.0		4	6	12	15	5	7	4	1													86
1.0 ~ 2.0			3	20	25	24	13	7	9	5												111
計	8	13	36	41	29	20	11	10	5													170

表9 ビット1計

幅厚比 \ 長幅比	幅厚比																				計	
	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0		
6.0 ~ 7.0	2																					2
5.0 ~ 6.0		2																				2
4.0 ~ 5.0																						1
3.0 ~ 4.0			5	5	4		1	1														18
2.0 ~ 3.0		4	8	19	28	13	16	6	1	3	1											100
1.0 ~ 2.0			5	31	47	47	34	18	24	5	8			1		1	1					229
計	9	18	55	79	62	51	25	25	7	11			1		1	1						352

表10 ビット2

幅厚比 \ 長幅比	幅厚比																				計	
	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0		
6.0 ~ 7.0	1																					1
5.0 ~ 6.0		2	1	1																		4
4.0 ~ 5.0																						
3.0 ~ 4.0			3	14	3	5	6	5	1													39
2.0 ~ 3.0			2	26	53	57	22	22	16	3	6	6										216
1.0 ~ 2.0			4	30	78	152	140	116	71	67	21	44	9	9	5	2	4	1				736
計	11	72	136	214	168	143	88	72	27	52	9	10	5	2	4	1					3	1017

表11 ビット1

打面 \ 背面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)
自然面	5					1		6	16.7
剝離面	4		1					5	13.9
2面調整	1							1	2.8
多面調整	3		1					4	11.1
点状	10		3					13	36.1
欠損	6	1						7	19.4
計	29	1	5	0	0	1	0	36	
割合(%)	80.6	2.8	13.9			2.8			100.0

表12 ビット2

打面 \ 背面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)	
自然面	5		4					2	11	5.1
剝離面	26	2	6	1	1			1	37	17.1
2面調整	6		1						7	3.2
多面調整	18	1	6					1	26	12.0
点状	59	2	8	1	1				71	32.7
欠損	37	3	11	4	7	1	2		65	30.0
計	151	8	36	6	9	1	6		217	
割合(%)	69.6	3.7	16.6	2.8	4.1	0.5	2.8		100.0	

表13 De-2の2土壌サンプル

打面 \ 背面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)
自然面	9		1					10	5.6
剝離面	15		4		1			20	11.1
2面調整	1		1					2	1.1
多面調整	38	1	7				2	48	26.7
点状	32		5				1	38	21.1
欠損	42	1	12	1	2		4	62	34.4
計	137	2	30	1	3	0	7	180	
割合(%)	76.1	1.1	16.7	0.6	1.7		3.9		100.0

表14 D-1第6面サマサイト割り

打面 \ 背面	1	2	3	4	5	6	7	計	割合(%)	
自然面	24	3	5	1	1			2	36	9.6
剝離面	25	1	11	1	1			1	40	10.7
2面調整	11								11	2.9
多面調整	47	2	12	2	1	1	4	69	18.4	
点状	58	1	14	3			1	1	78	20.8
欠損	82	6	29	5	9	4	6	6	141	37.6
計	247	13	71	12	12	6	14	376		
割合(%)	65.9	3.5	18.9	3.2	3.2	1.6	3.7		100.0	

表15 剝片の末端の形状

資料体 末端形状	ビット1	ビット1	ビット1	ビット2
	上層	下層	計	
フェザー	66.9%	69.6%	68.1%	64.4%
ステップ	30.8%	28.3%	29.6%	33.3%
ヒンジ	2.4%	2.2%	2.3%	2.3%

表16 剝片の残存部位別点数

		ビット1					ビット2		
凡例	打面	2	0	2	21	16	2	22	167
	表面	4	3	0	19		56	18	
左	右	9	2	3	90	14		8	23
末端		1	1	3	18		228		
		2	3	5	16				
		14	8	23	228				

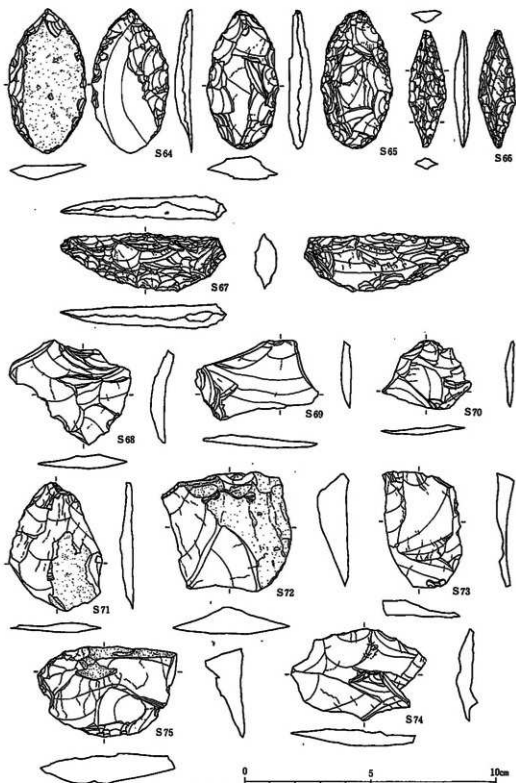


図13 サヌカイト集積ピット2出土の石器

平形深形両面非連続細部調整、下部にごく浅い薄形深形表面細部調整を施す。最終段階の細部調整は裏面が後である。素材の変形度は大きくないが、側面観はそれほど不規則ではない。

S 65は石鏝の未製品であろう。長さ54.7mm、幅28.4mm、厚さ8.3mm。頭端に小さく自然面が残る。先行剥離面、主剥離面ともに残る。左縁は平形深形階段状表面細部調整、薄形深形裏面細部調整を施す。右縁は薄形深形表面細部調整、平形深形階段状表面細部調整を施す。最終段階の細部調整は左縁は裏面が後が多いが、右縁は面による優位がない。側面観は不規則である。

S 66は有茎式石鏝である。長さ46mm、幅14mm、厚さ5.6mm。先行剥離面が残るが、主剥離面は残らない。刃部左縁は平形深形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁は平形深形表面細部調整、平形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状裏面細部調整を施す。基部左縁は平形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、やや浅い薄形深形階段状表面細部調整を施す。右縁は平形侵形表面細部調整、薄形侵形裏面細部調整、薄形浅形表面細部調整を施す。基部に磨り落としは認められない。最終段階の細部調整は刃部は右縁が後、基部は表面が後が主となっているようである。

S 67は石小刀の未製品と考えられる。長さ65.9mm、幅22.2mm、厚さ8.8mm。基端部に自然面が残る。先行剥離面が残存しているかどうかは決めたいが、主剥離面は残る。縁辺は不規則である。IV期に石小刀が存在することを証明する資料である。

S 68からS 75は剥片のうち最大長が3cmを越えるものを示した。

S 68は最大長47.8mm、最大幅38.0mm、最大厚5.8mm。打面は22×3mmの多面調整打面で、剥離角は115°。バルブが発達する。末端はフェザー。

S 69は最大長49.0mm、最大幅28.0mm、最大厚5.5mm。打面は41×4mmの2面調整打面で、剥離角は135°。バルブはあまり発達しない。末端はフェザー。

S 70は最大長35.6mm、最大幅27.0mm、最大厚3.6mm。打面は口唇状を呈する剥離面打面で、6×2mm、剥離角は155°。バルブは拡散する。末端はフェザー。

S 71は最大長51.0mm、最大幅35.6mm、最大厚5.3mm。背面の1/3に平坦な自然面を残す。打面は点状。末端はフェザー。

S 72は最大長56.6mm、最大幅54.2mm、最大厚12.1mm。背面の半分と打面全体に自然面が残る。打面は自然面打面で47×3mm、剥離角は125°。末端はフェザー。

S 73は最大長50.0mm、最大幅30.8mm、最大厚9.3mm。側面の残存部分全体に自然面が残る。打面は欠損する。

S 74は最大長54.0mm、最大幅35.9mm、最大厚6.6mm。自然面はない。打面は多面調整打面で、26×2mm、剥離角は105°。末端はステップ。

S 75は最大長56.0mm、最大幅36.7mm、最大厚15.5mm。打面は自然面打面で、37×16mm、剥離角は70°。末端はフェザー。

次いで剥片全体について検討する。剥片はピット1に2064点、ピット2に3927点ある。剥片の

大きさ別の割合をみるとピット1は上層より下層の方が小さな剥片が多くなっている。これは統計測度(表2)をみても明らかである。ピット1下層は大型の剥片が少なく、法量の最大値が上層と比べて小さくなっている。

長さとの相関表を表3～6に示す。形をみるために長幅比と幅厚比で相関表を作成する(表7～10)。ピット1の上層と下層では長幅比の差はないが、幅厚比にみるように上層の方が薄いものが多い。ピット1とピット2の間には差がみられない。

最大長10mm以上で判断が可能である剥片を、打面の種類と背面の構成で分類し計数する(表11、12)。ピット1を上層と下層に分けると資料数が充分ではないので、全体をひとつとしてピット2と比較する。打面の分類は、自然面打面、剝離面打面、2面調整打面、多面調整打面、点状打面、打面欠損の5種類に分類した。打面欠損率はピット1が19.4%、ピット2が30.0%で、ピット2の剥片の方が打面を欠損しているものが多い。背面構成は、大分県岩戸遺跡の報告に準じて主剝離の方向との関係から、7種類に分類した。ピット2の方が多様な背面構成をしている。

剥片の末端の形状はフェザー、ヒンジ、ステップの3分類を行った。末端の分類はかなり主観的なもので特に資料が小さいと判断が困難になる。判断が可能であったもののなかでの割合は、表15ようになる。ピット1の上層下層、ピット2で差は認められない。いずれもわずかのヒンジフラクチャーの剥片を含むが、残りは約3分の1がステップ、約3分の2がフェザーである。

自然面を持つ剥片の割合はピット1で9.9%、ピット2で13.2%である。微小な剥片が多く、観察が困難なことを考えると大差ないと判断すべきであろう。

最大長5mm以上の剥片の残存部位別の点数について表16に示す。完形のもの割合は、ピット1が47.4%、ピット2が56.0%である。打面側と判断した剥片が少ないのは、打面部の破片か、ステップエンドの剥片かの判断が難しく、多くをステップの剥片と認定したためである。認定上の誤差を評価するために剥片の左右について検討する。表面を手前、打面側を上にした時の左側の破片が104点、右側の破片が109点であり、左右に関しては認定はかなり正確であろう。

包含層の剥片集中部分については2群の資料が得られている。一方はDトレンチ井戸2上層の資料で焼土や土器片とともに剥片等が出土したものである。これを資料3と呼ぶ。今一方はD1トレンチで検出したもので、資料4と呼ぶ。資料3は842点、資料4は1648点である。資料3、資料4ともに石器を含む部分の土を確実に全量採集しているとはいえない。また水洗い後の遺物捕集を非熟練者が行ったために、ごく小さな遺物については捕集もれがあるようである。これは、最大長5mm未満の剥片がピット1では1712点、ピット2では2910点得られているのに対し、資料3では395点、資料4は226点しか得られていないところから推察される。打面と背面別の点数を表13、表14に示す。

ピット1、ピット2はいずれも細部調整によって生じた剥片等を捨てるために掘られたものと考えられる。ただし、ピット1には剥片だけが捨てられているのに対し、ピット2には、細部調整の対象となった素材剥片や未製品も捨てられているという差が認められる。ピット2の剥片の

背面構成が多様であるのは、ピット1と比べて大型の剥片を多く含んでいるためと考えられる。

〔参考文献〕

- | | | |
|-----------|------|--|
| 芹沢 長介編 | 1978 | 『岩戸』 |
| 富成哲也・大船孝弘 | 1978 | 『郡家今城遺跡発掘調査報告書—旧石器時代遺構の調査—』 |
| 森本 晋 | 1983 | 「喜志遺跡 80-3区の石器」(『喜志遺跡・東飯田遺跡発掘調査概要・VI』pp.31-46) |